

南相馬市 住民意向調査 報告書

平成26年3月

復興庁
福島県
南相馬市

南相馬市 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的.....	3
1-2 調査内容.....	3
1-3 調査設計.....	3
1-4 回収結果.....	3
1-5 報告書の見方.....	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性.....	7
III 調査結果	13
3-1 現在の状況.....	15
3-1-1 現在の避難先自治体.....	15
3-1-2 職業.....	18
3-1-3 住居形態.....	29
3-2 将来の意向.....	35
3-2-1 今後の職業についての意向.....	35
3-2-2 職場を選ぶ際に重要視すること.....	45
3-2-3 南相馬市への帰還意向.....	46
3-2-4 南相馬市への帰還を判断する上で必要と思う情報.....	51
3-2-5 帰還する場合の住居形態.....	55
3-2-6 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕.....	61
3-2-7 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由.....	64
3-2-8 帰還する場合に望む支援.....	67
3-2-9 現時点で戻らないと決めている理由.....	69
3-2-10 帰還しない場合に居住したい自治体.....	71
3-2-11 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態.....	76
3-2-12 帰還しない場合に今後の生活において求める支援.....	77
3-2-13 小学生・中学生の同居.....	78
3-2-14 小学生・中学生の通学地域の意向.....	80
3-2-15 小学生・中学生の通学地域の意向（理由）.....	82
3-2-16 将来の希望するまちづくり.....	85

3-3	全世帯員の意向	104
3-3-1	続柄	104
3-3-2	性別	105
3-3-3	年齢	106
3-3-4	職業	107
3-3-5	帰還意向	108
3-3-6	帰還時期	110
3-3-7	帰還を決められない理由	112
3-4	意見・要望	114
IV	参考資料	133
4-1	使用調査票	135

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	南相馬市 避難指示解除準備区域、居住制限区域及び帰還困難区域の全世帯
(2) 調査対象と標本数	上記の区域内の全世帯の代表者 5,677 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成 25 年 8 月 23 日（金）～平成 25 年 9 月 6 日（金）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、南相馬市
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 3,543 件（有効回収率 62.4%）

1-5 報告書の見方

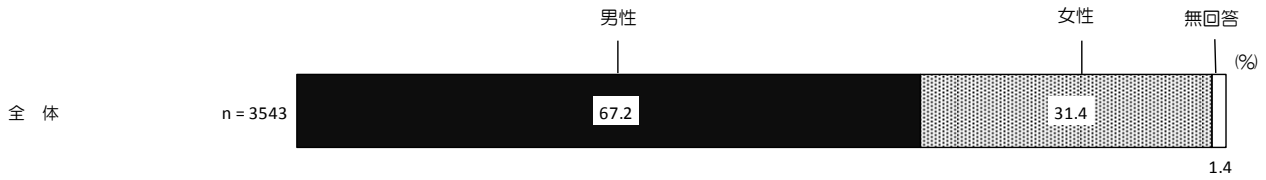
- ・調査数（n=Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- ・図表において、比率が少ない選択肢については、比率の表示を省略している場合がある。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（n 値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。

II 回答者の属性

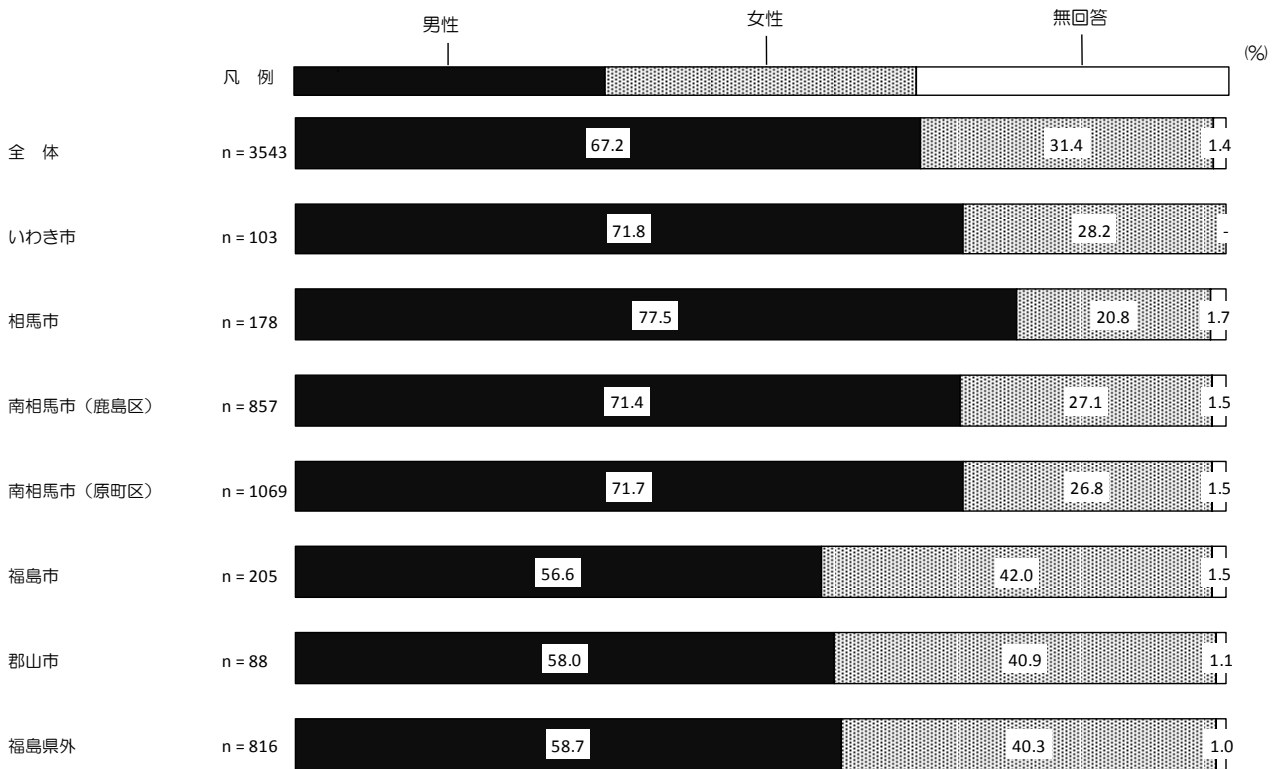
2-1 回答者の属性

(1) 性別

<図表2-1-1 性別>



<図表2-1-2 性別（避難先自治体別）>



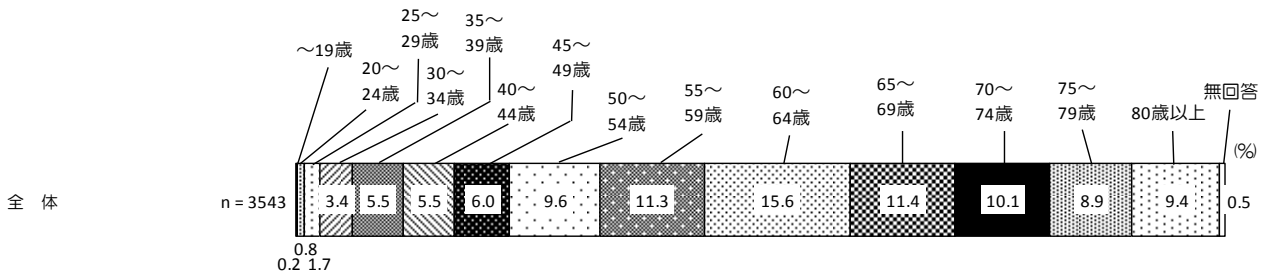
<図表2-1-3 世帯全員の性別>



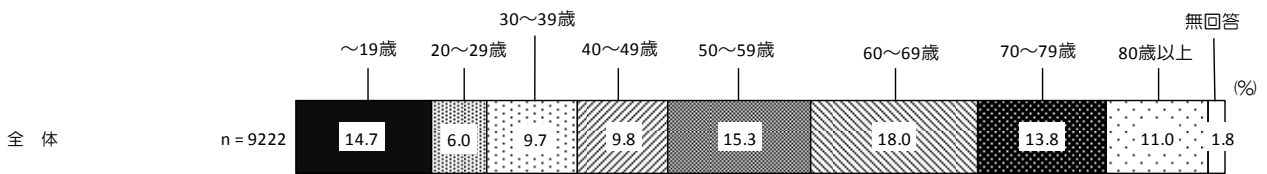
II 回答者の属性

(2) 年齢

<図表2-1-4 年齢>

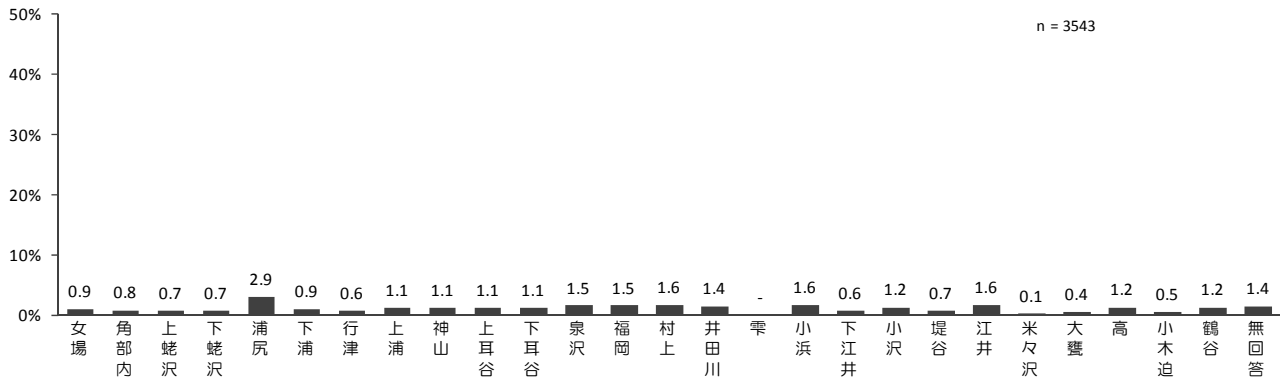
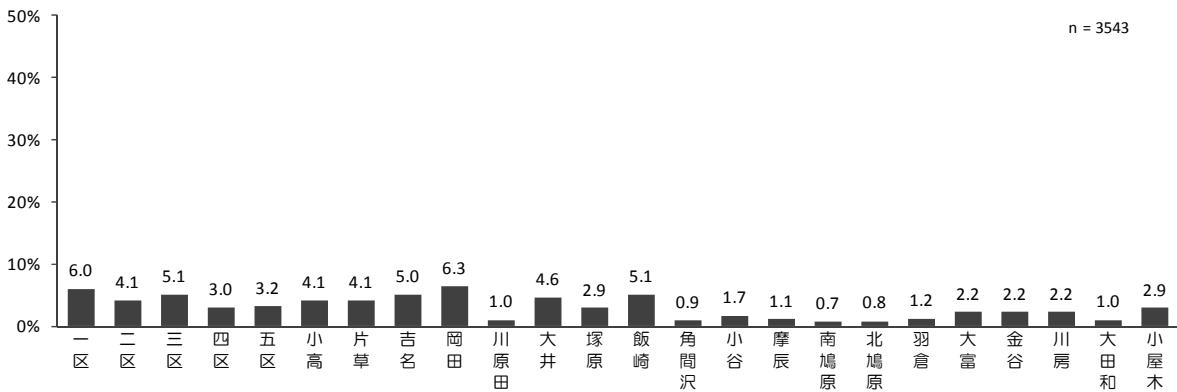


<図表2-1-5 世帯全員の年齢>



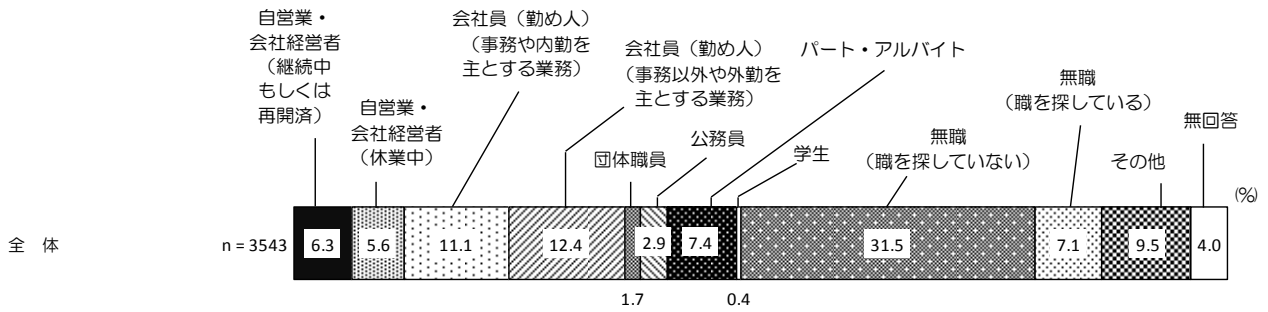
(3) 震災発生当時居住していた行政区

<図表2-1-6 震災発生当時居住していた行政区>

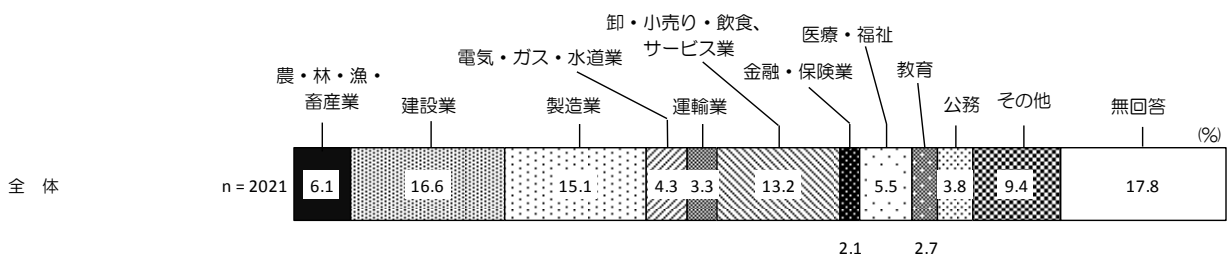


(4) 職業

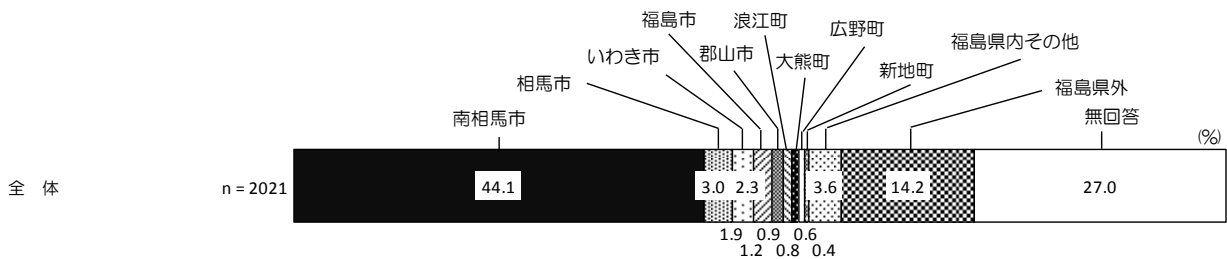
<図表2-1-7 現在の職業（就業形態）>



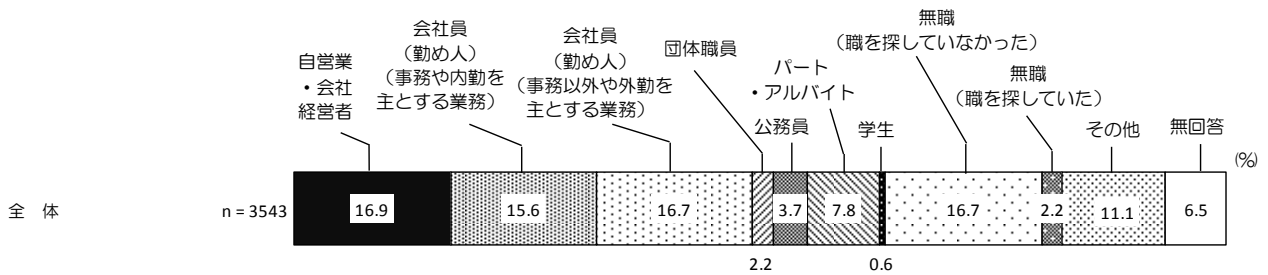
<図表2-1-8 現在の業種>



<図表2-1-9 現在の就業先>

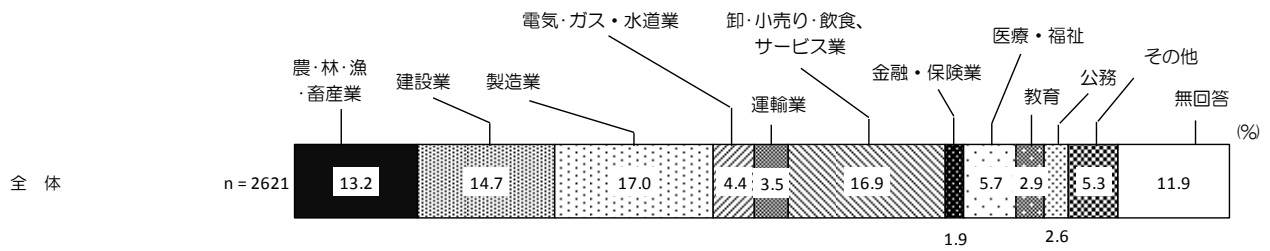


<図表2-1-10 震災発生当時の職業（就業形態）>

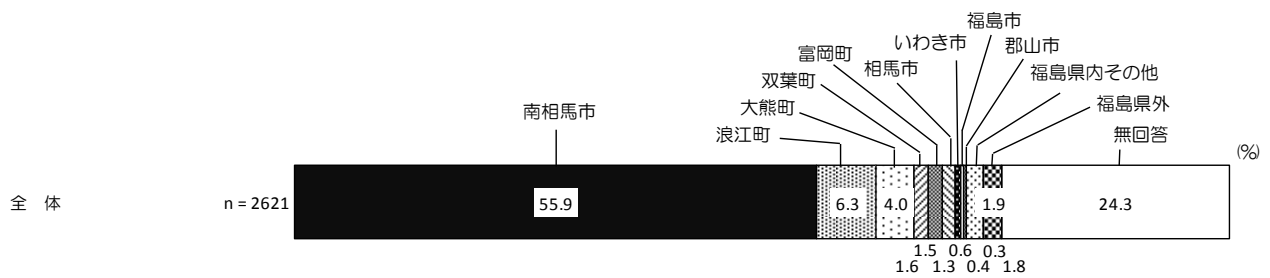


II 回答者の属性

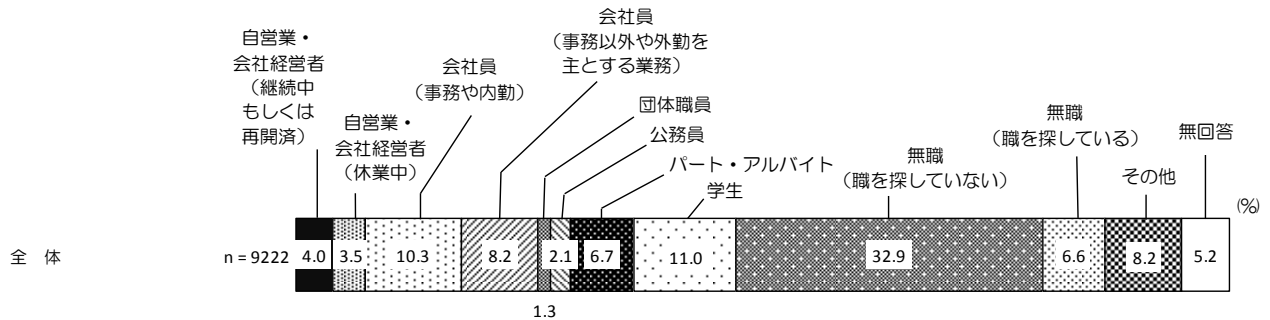
<図表2-1-11 震災発生当時の業種>



<図表2-1-12 震災発生当時の就業先>

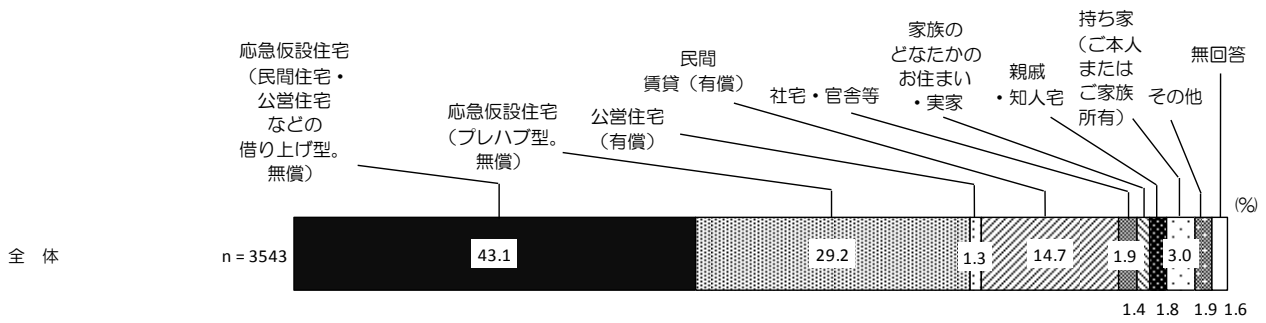


<図表2-1-13 世帯全員の現在の職業>

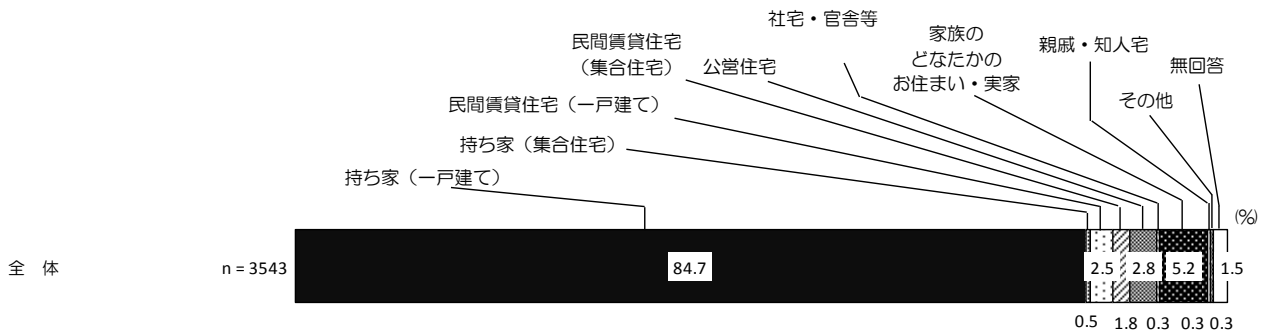


(5) 住居形態

<図表2-1-14 現在の住居形態>

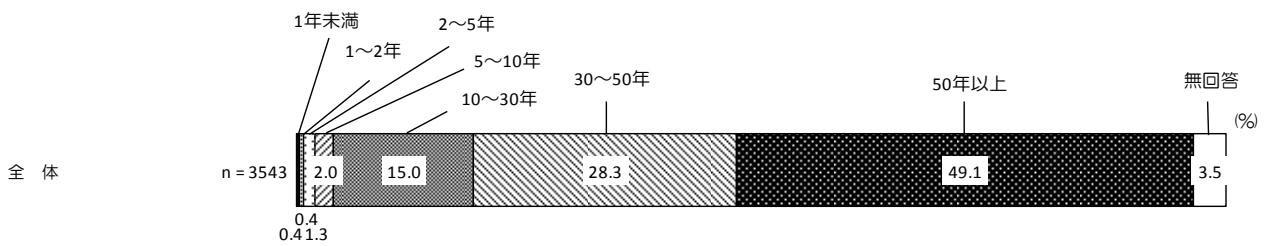


<図表2-1-15 震災発生当時の住居形態>



(6) 南相馬市への居住年数

<図表2-1-16 南相馬市への居住年数>



III 調査結果

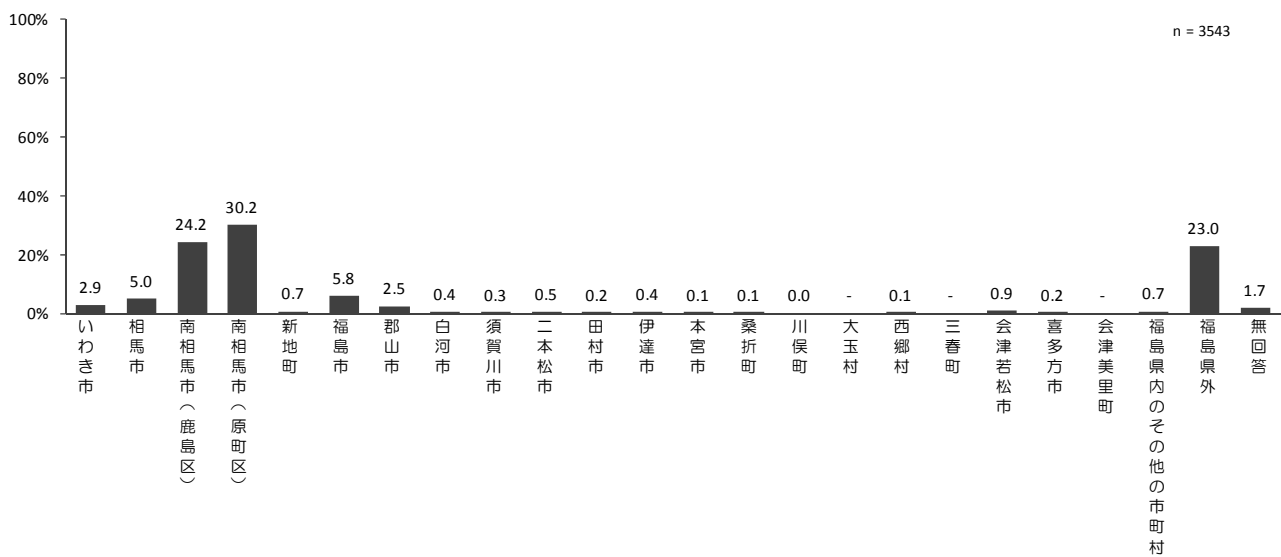
3-1 現在の状況

3-1-1 現在の避難先自治体

問8 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(〇は1つ)

避難先自治体について、「南相馬市(原町区)」(30.2%)が最も多く、次いで「南相馬市(鹿島区)」(24.2%)、「福島県外」(23.0%)となっている。

<図表3-1-1-1 現在の避難先自治体>



III 調査結果

行政区別では、小屋木、下耳谷、小沢、鶴谷では「南相馬市（原町区）」が4割を超え、他に比べて多くなっている。

<図表3-1-1-2 現在の避難先自治体（居住行政区別）>

小高区中部・西部

	n	いわき市	相馬市	南相馬市（鹿島区）	南相馬市（原町区）	新地町	福島市	郡山市	白河市	須賀川市	二本松市	田村市	伊達市	本宮市	桑折町	川俣町	大玉村	西郷村	三善町	会津若松市	喜多方市	会津美里町	福島県内のその他の市町村	福島県外	無回答
全体	3543	2.9	5.0	24.2	30.2	0.7	5.8	2.5	0.4	0.3	0.5	0.2	0.4	0.1	0.1	-	-	0.1	-	0.9	0.2	-	0.7	23.0	1.7
一区	212	2.8	5.2	18.4	28.8	-	8.0	3.8	-	-	0.5	-	0.5	0.5	-	-	-	-	-	1.4	-	-	-	27.4	2.8
二区	146	2.7	5.5	19.9	22.6	-	8.9	1.4	0.7	-	-	-	-	-	0.7	-	-	-	-	2.1	0.7	-	0.7	30.1	3.4
三区	179	2.8	4.5	12.8	31.3	-	6.1	4.5	-	0.6	0.6	-	0.6	-	-	-	-	0.6	-	1.1	0.6	-	0.6	30.7	2.8
四区	107	0.9	3.7	22.4	22.4	0.9	11.2	-	1.9	-	0.9	-	0.9	-	-	-	-	-	-	1.9	-	-	0.9	29.0	2.8
五区	113	-	5.3	17.7	29.2	-	7.1	4.4	-	-	-	0.9	0.9	0.9	-	-	-	-	-	1.8	-	-	-	29.2	2.7
小高	146	6.2	4.8	28.1	26.7	2.1	4.1	1.4	-	-	0.7	0.7	-	-	-	-	-	-	-	0.7	-	-	-	21.9	2.7
片草	144	4.9	3.5	23.6	34.7	-	4.9	1.4	-	0.7	0.7	-	-	1.4	-	-	-	-	-	1.4	-	-	0.7	21.5	0.7
吉名	178	4.5	2.8	25.3	27.0	1.7	3.9	2.2	1.1	-	1.1	0.6	0.6	-	0.6	-	-	0.6	-	0.6	-	-	0.6	23.0	3.9
岡田	222	2.7	5.0	18.0	29.7	0.5	7.2	4.1	-	-	1.4	-	-	-	-	-	-	-	-	0.5	-	-	1.4	27.9	1.8
川原田	35	-	5.7	37.1	22.9	-	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31.4	-
大井	164	5.5	7.9	26.2	31.1	0.6	4.9	3.0	0.6	0.6	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	0.6	0.6	-	0.6	16.5	0.6
塚原	103	1.0	4.9	33.0	31.1	-	8.7	1.9	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17.5	1.0
飯崎	180	2.2	7.8	22.8	26.7	0.6	7.2	2.2	1.1	-	-	-	0.6	-	-	-	-	-	-	1.7	0.6	-	-	26.1	0.6
角間沢	33	-	3.0	18.2	39.4	-	9.1	-	-	9.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15.2	6.1
小谷	62	1.6	3.2	22.6	25.8	-	4.8	6.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.6	33.9	-
摩辰	38	-	10.5	23.7	26.3	5.3	7.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.6	-	-	23.7	-
南鳩原	24	8.3	4.2	20.8	29.2	-	8.3	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-
北鳩原	27	3.7	3.7	37.0	25.9	-	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22.2	3.7
羽倉	43	2.3	2.3	39.5	30.2	-	2.3	2.3	-	-	-	-	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18.6	-
大宮	79	1.3	3.8	17.7	38.0	3.8	7.6	-	-	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8	21.5	1.3
金谷	79	1.3	3.8	34.2	21.5	1.3	7.6	7.6	-	-	-	1.3	-	-	-	-	-	-	-	2.5	-	-	-	17.7	1.3
川房	78	2.6	5.1	20.5	26.9	2.6	2.6	5.1	-	-	-	1.3	-	-	-	-	-	-	-	2.6	-	-	-	29.5	1.3
大田和	34	2.9	2.9	35.3	14.7	-	5.9	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32.4	2.9
小屋木	104	1.0	6.7	16.3	42.3	-	4.8	4.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.9	-	-	-	-	-	21.2	1.0

Ⅲ 調査結果

3-1-2 職業

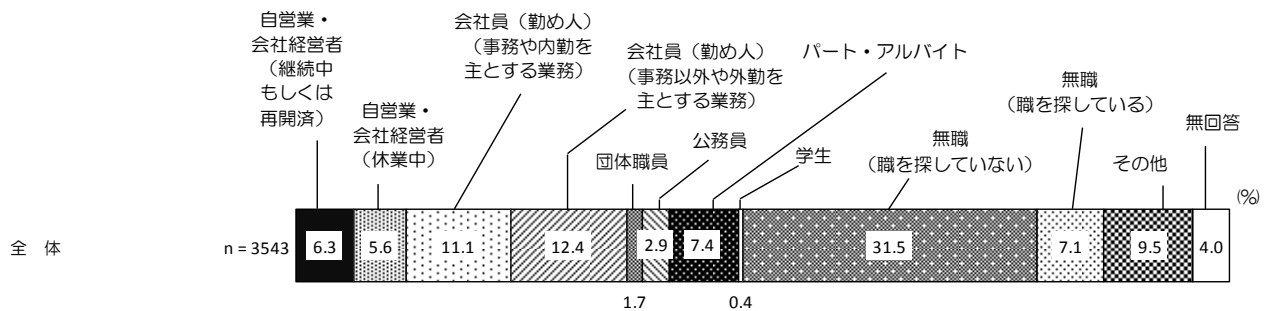
(1) 現在の職業（就業形態）

問3 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

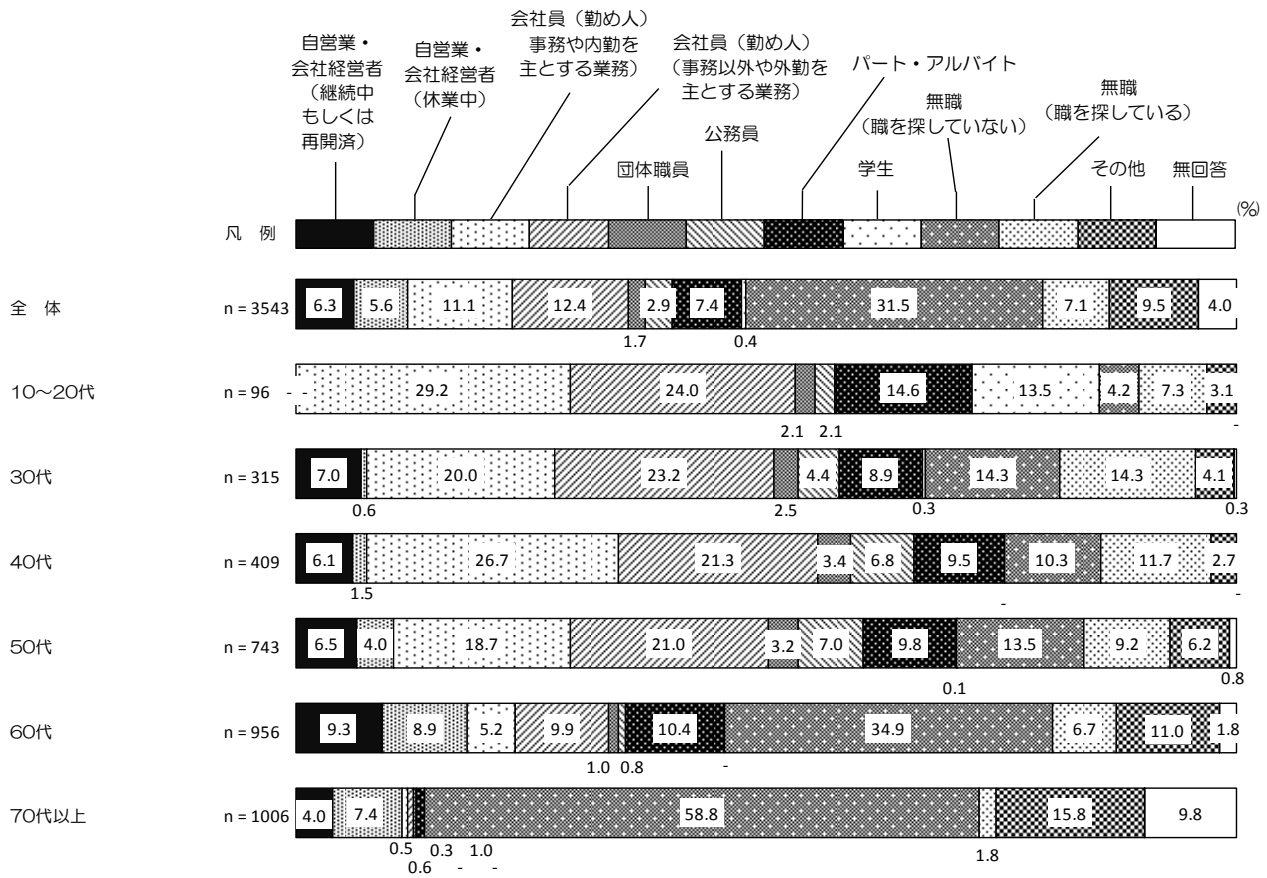
現在の職業について、「無職（職を探していない）」(31.5%)が最も多く、次いで「会社員（勤め人）（事務以外や外勤を主とする業務）」(12.4%)、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」(11.1%)となっている。

<図表3-1-2-1 現在の職業>



年齢別にみると、「無職（職を探していない）」方は、概ね高年齢層で割合が高くなっている。また、30～40代では「無職（職を探している）」が他の年齢層に比べ割合が高くなっている。

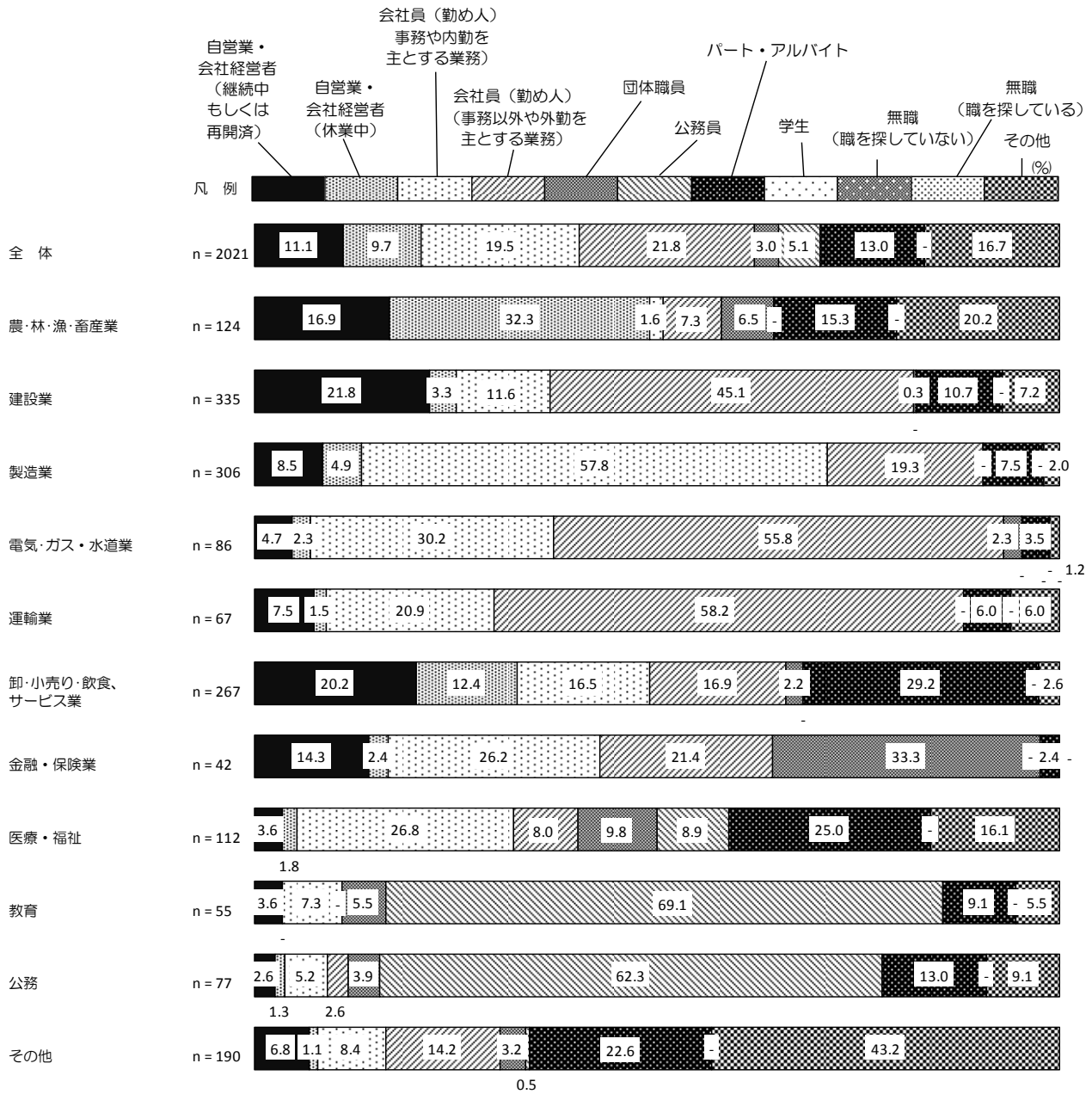
<図表3-1-2-2 現在の職業（世帯主の年齢別）>



Ⅲ 調査結果

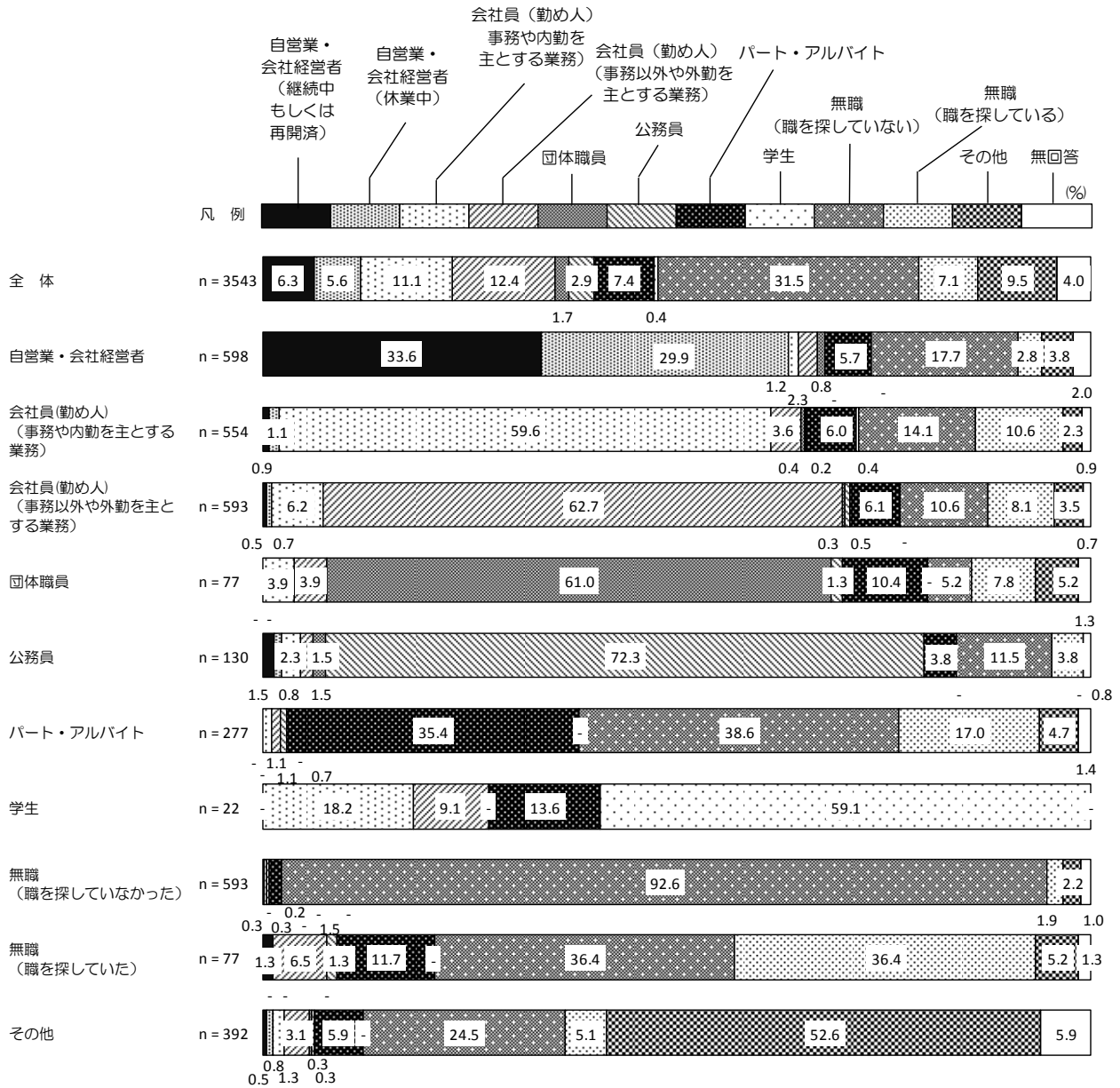
現在の業種別にみると、建設業、卸・小売り・飲食、サービス業では「自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）」が2割を超えている。一方、農・林・漁・畜産業では「自営業・会社経営者（休業中）」が3割を超えており、他の業種に比べ割合が高くなっている。

<図表3-1-2-3 現在の職業（現在の業種別）>



震災発生当時の職業別に見ると、概ね現在も同じ職業である割合が高く、当時会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）、会社員（勤め人）（事務以外や外勤を主とする業務）、団体職員では6割程度、公務員では7割強となっている。一方で、当時無職（職を探していた）でも4割弱が「無職（職を探していない）」（36.4%）に移行していることが分かる。

<図表3-1-2-4 現在の職業（震災発生当時の職業別）>



III 調査結果

(2) 現在の業種

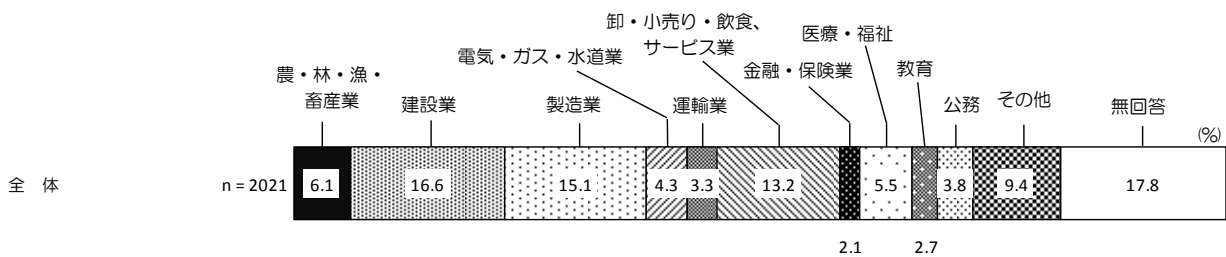
問3 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

【仕事に就いている方(問3(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

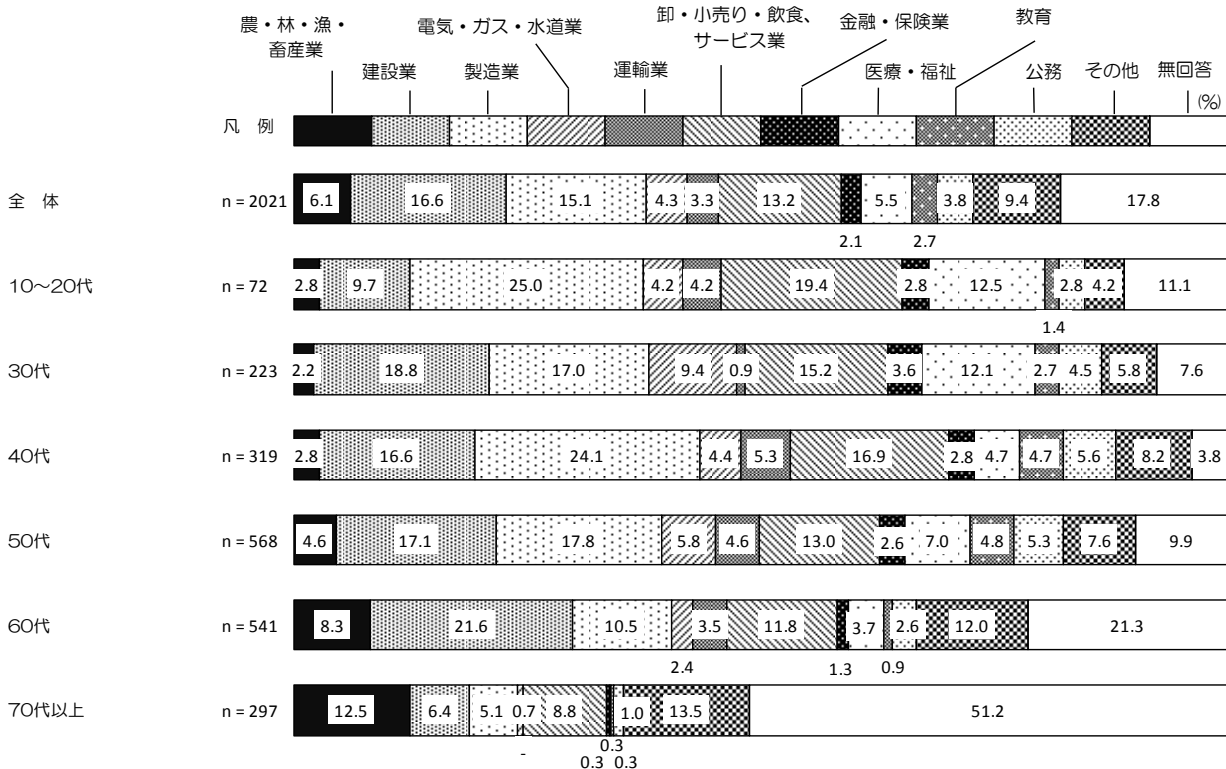
世帯主が就業しているとした世帯の業種については、「建設業」(16.6%)が最も多く、次いで「製造業」(15.1%)、「卸・小売り・飲食、サービス業」(13.2%)となっている。

<図表3-1-2-5 現在の業種>



世帯主の年齢別にみると、「農・林・漁・畜産業」は、概ね年齢が高くなるにつれて割合が高くなっており、「製造業」では10~20代(25.0%)、40代(24.1%)が他の年齢層に比べて多い。

<図表3-1-2-6 現在の業種(世帯主の年齢別)>



(3) 現在の就業先

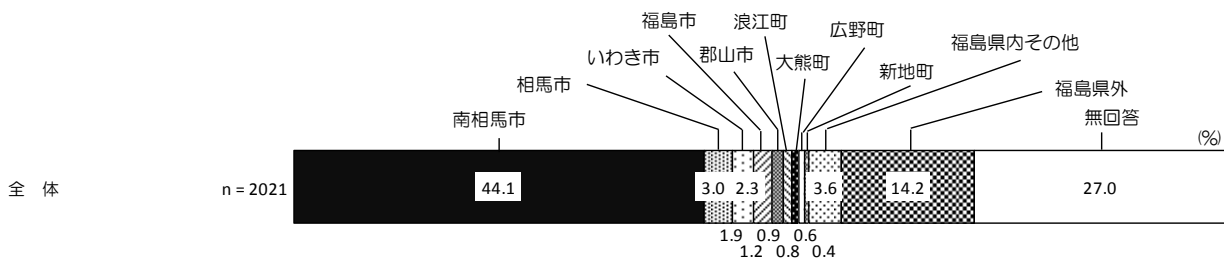
問3 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

【仕事に就いている方(問3(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

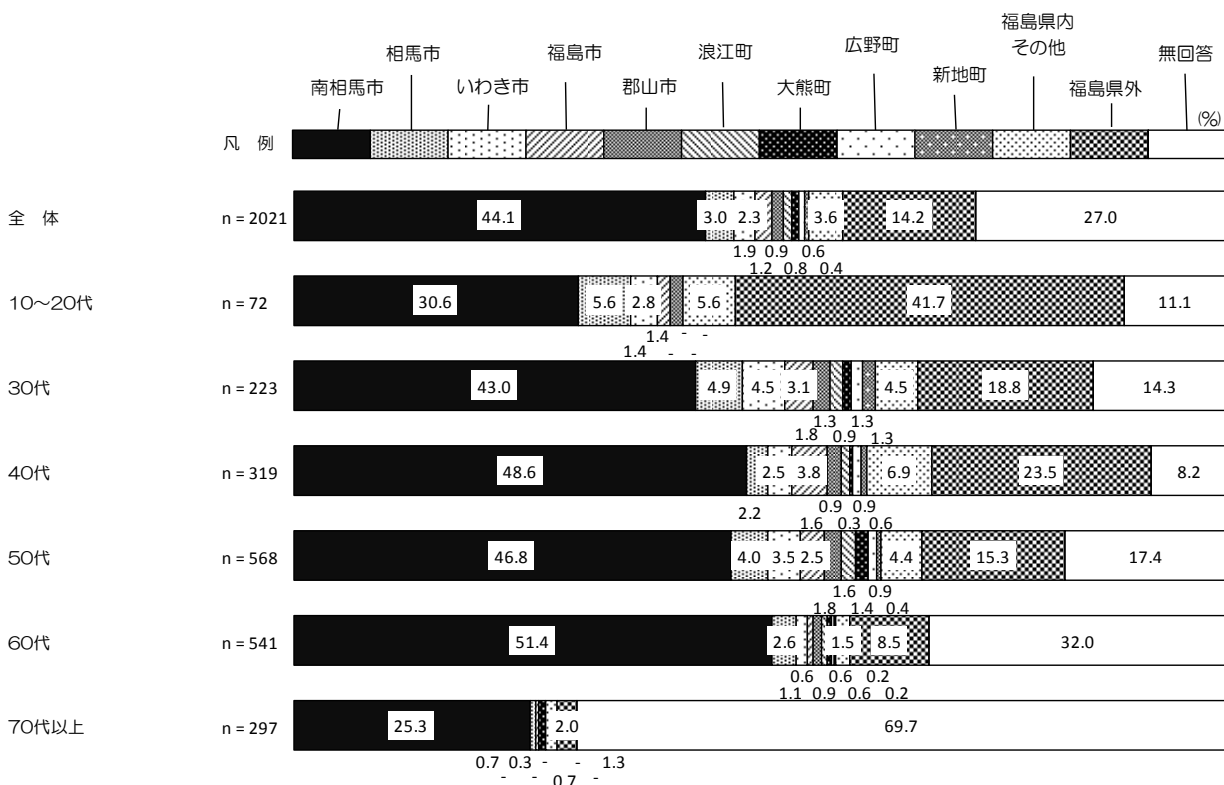
世帯主が就業しているとした世帯の就業先自治体については、「南相馬市」(44.1%)が最も多く、次いで「福島県外」(14.2%)、「福島県内その他」(3.6%)となっている。

<図表3-1-2-7 現在の就業先>



世帯主の年齢別にみると、30代以上では「南相馬市」がいずれの年齢層でも最も多くなっているが、10~20代では「福島県外」の割合が4割以上となっている。

<図表3-1-2-8 現在の就業先(世帯主の年齢別)>

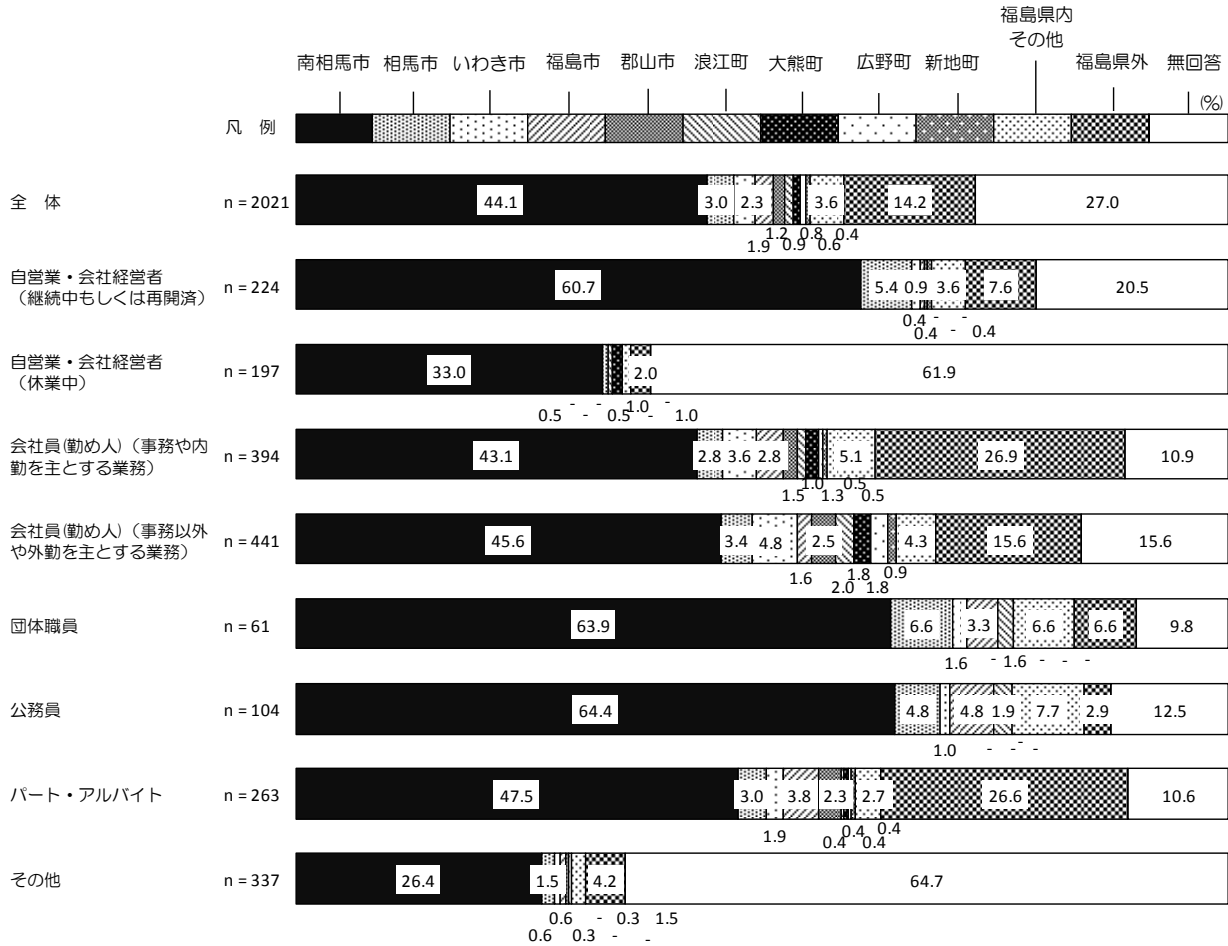


III 調査結果

世帯主が就業しているとした世帯について現在の職業別にみると、「南相馬市」がいずれの職業でも最も多く、団体職員や公務員、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）では6割以上となっている。

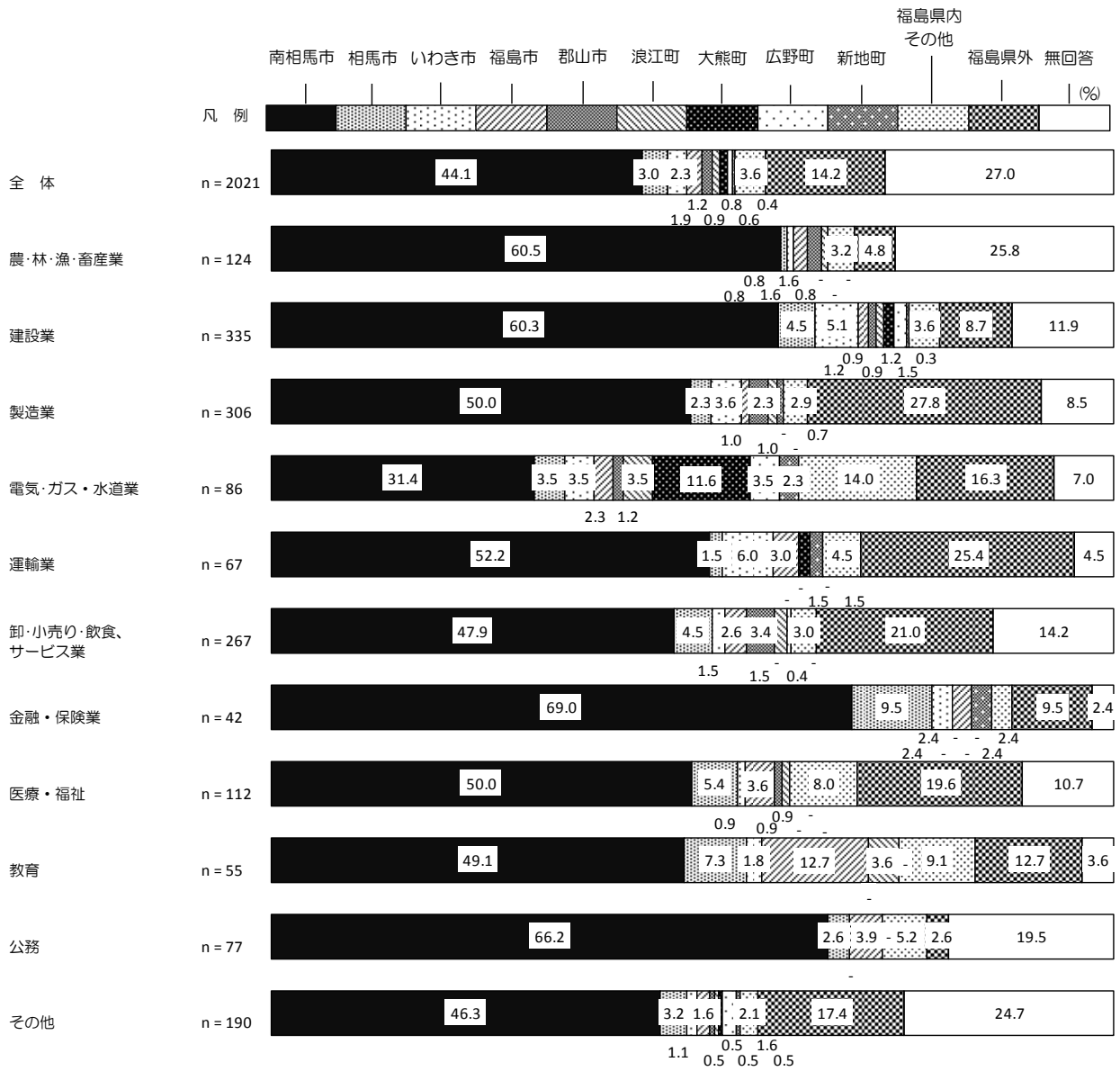
また、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）やパート・アルバイトは「福島県外」の割合も他の職業に比べて多い。

<図表3-1-2-9 現在の就業先（現在の職業別）>



世帯主が就業しているとした世帯について、現在の業種別にみると、「福島県外」は、製造業（27.8%）、運輸業（25.4%）、卸・小売り・飲食、サービス業（21.0%）で他の業種に比べて高くなっている。

<図表3-1-2-10 現在の就業先（現在の業種別）>



III 調査結果

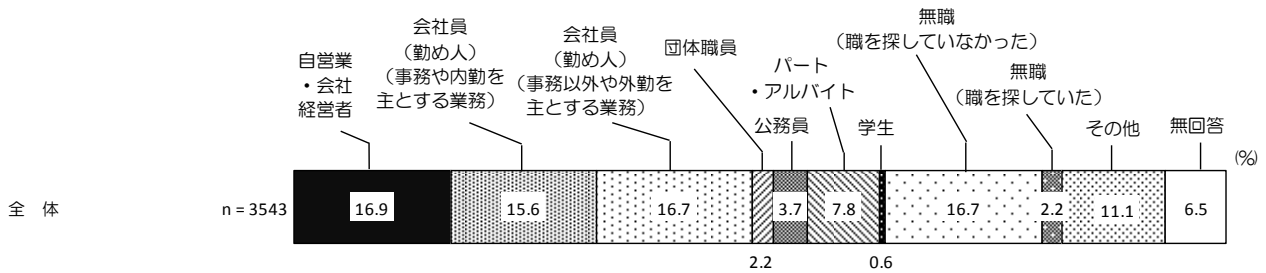
(4) 震災発生当時の職業（就業形態）

問 5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

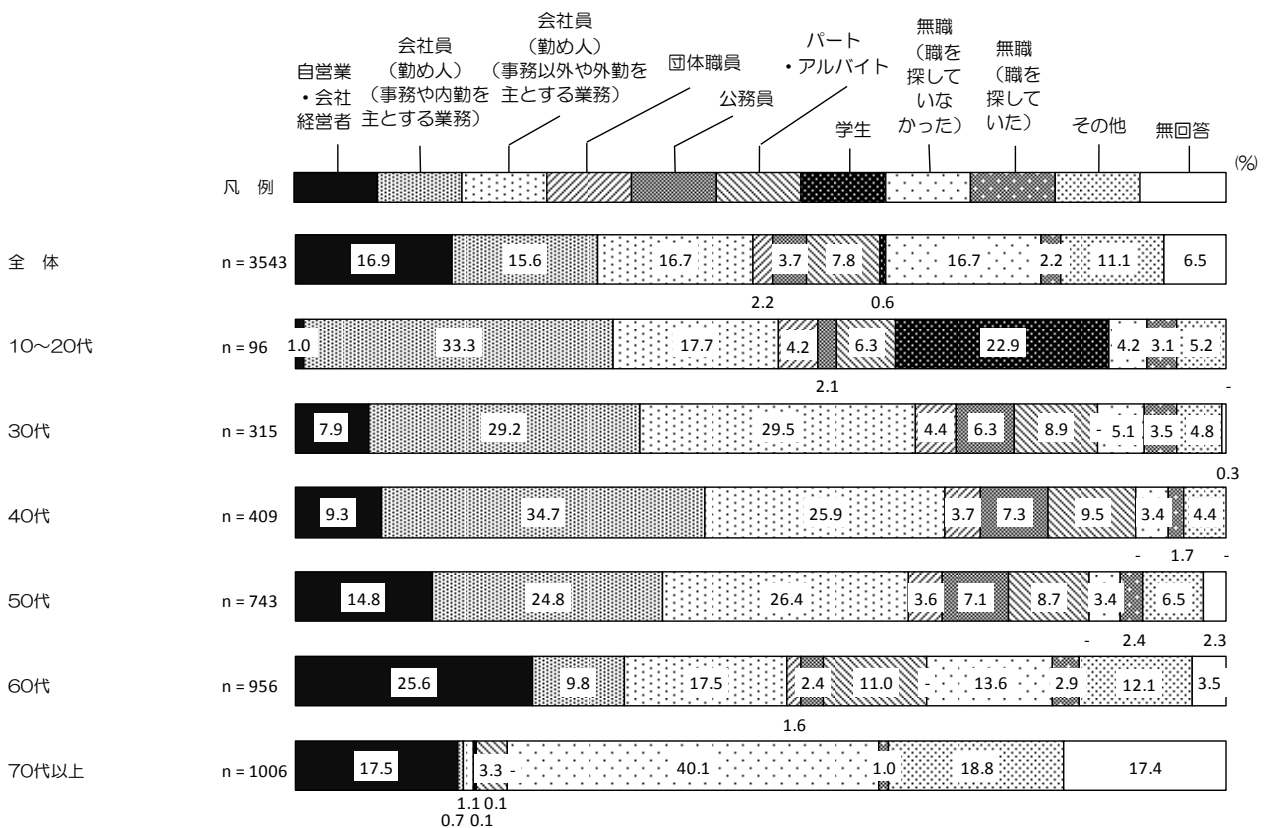
震災発生当時の職業について、「自営業・会社経営者」(16.9%)が最も多く、次いで「会社員（勤め人）（事務以外や外勤を主とする業務）」(16.7%)、「無職（職を探していなかった）」(16.7%)となっている。

<図表3-1-2-11 震災発生当時の職業>



世帯主の年齢別にみると、「自営業・会社経営者」は、概ね年齢が高くなるにつれて割合が高くなっており、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務+事務以外や外勤を主とする業務）」は10~50代で過半数となっている。

<図表3-1-2-12 震災発生当時の職業（世帯主の年齢別）>



(5) 震災発生当時の業種

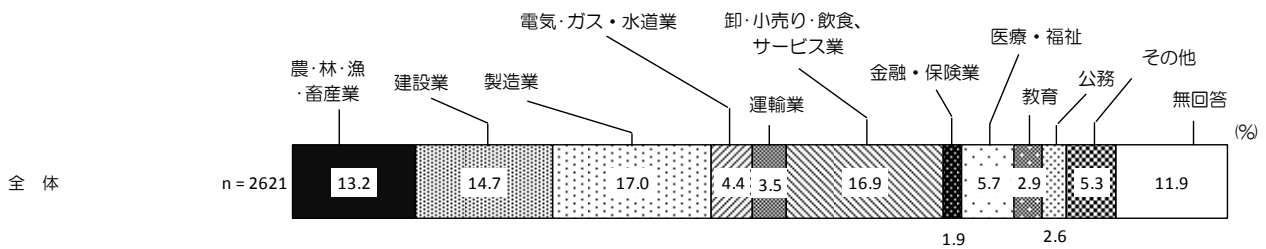
問 5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

【仕事に就いていた方(問5(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

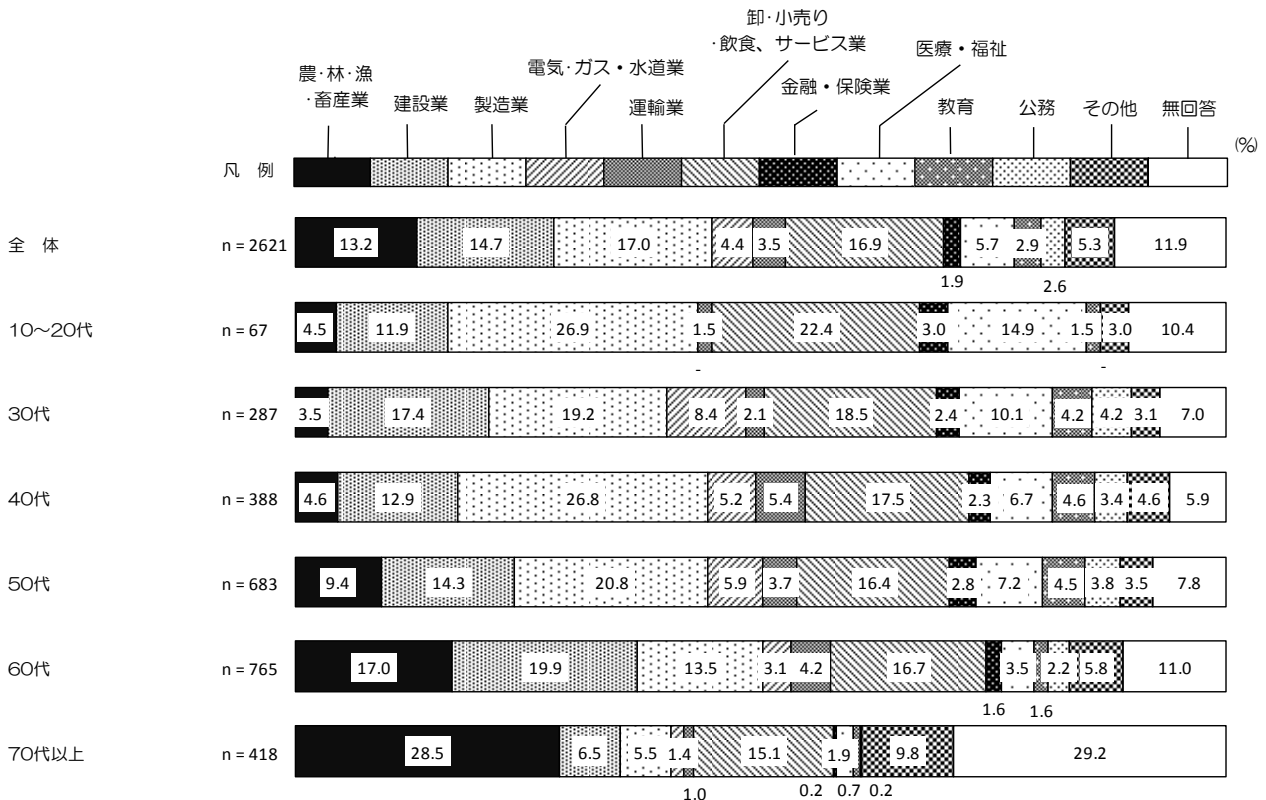
震災発生当時の業種について、「製造業」(17.0%)が最も多く、次いで「卸・小売り・飲食、サービス業」(16.9%)、「建設業」(14.7%)となっている。

<図表3-1-2-13 震災発生当時の業種>



年齢別にみると、「農・林・漁・畜産業」は、概ね年齢が高くなるにつれて割合が高くなっている。

<図表3-1-2-14 震災発生当時の業種(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

(6) 震災発生当時の就業先

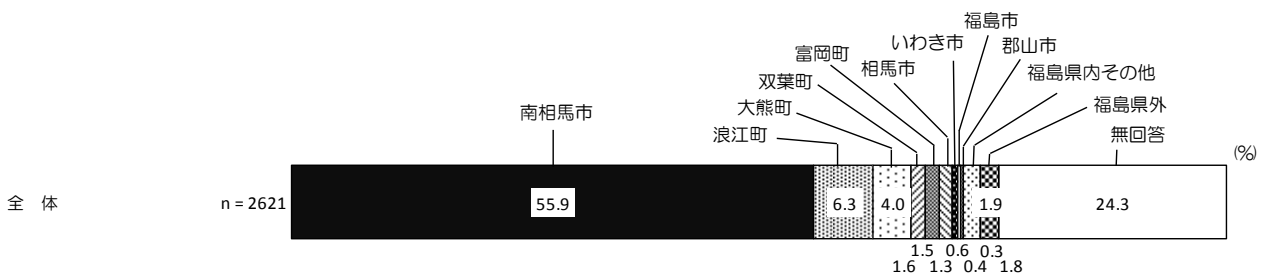
問 5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

【仕事に就いていた方(問5(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

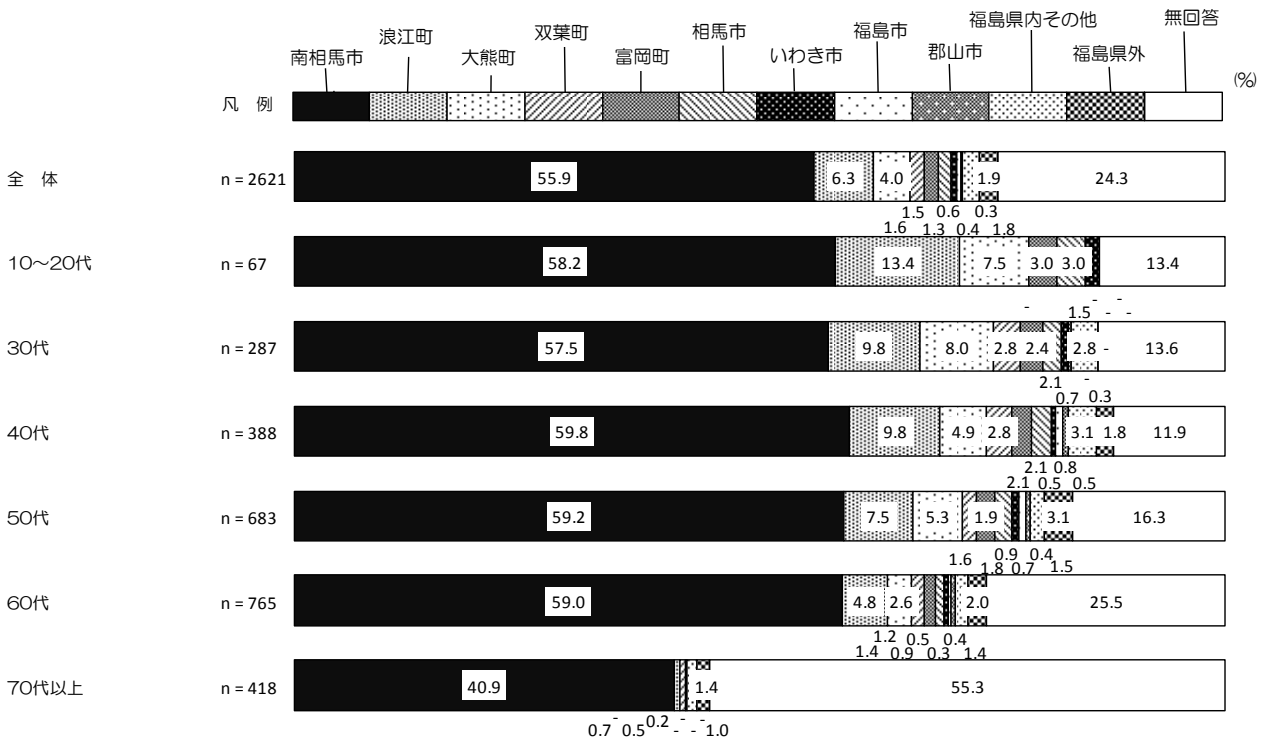
震災発生当時の就業先自治体については、「南相馬市」(55.9%)が最も多く、次いで「浪江町」(6.3%)、「大熊町」(4.0%)となっている。

<図表3-1-2-15 震災発生当時の就業先>



世帯主の年齢別にみると、「南相馬市」がいずれの年齢層でも最も多く70代を除くすべての年齢層で過半数となっている。

<図表3-1-2-16 震災発生当時の就業先(世帯主の年齢別)>



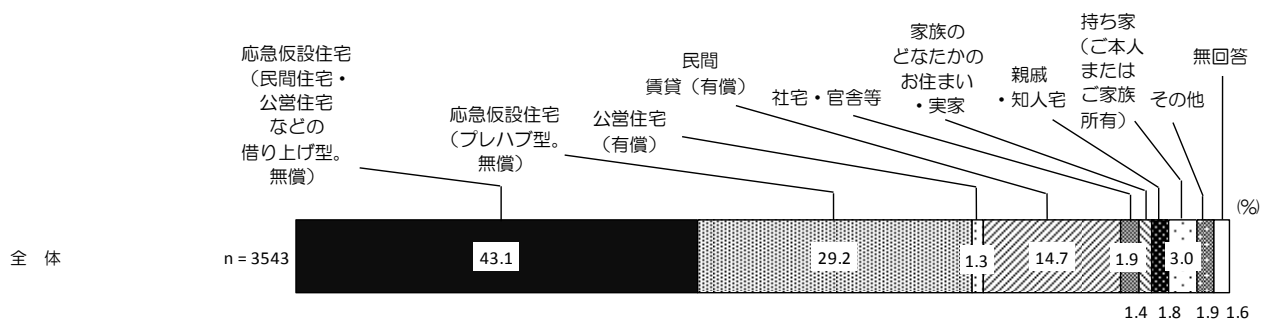
3-1-3 住居形態

(1) 現在の住居形態

問9 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態について、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」（43.1%）が最も多い。次いで「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」（29.2%）、「民間賃貸（有償）」（14.7%）となっており、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」と「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」を合わせた応急仮設住宅は現在でも7割強となっている。

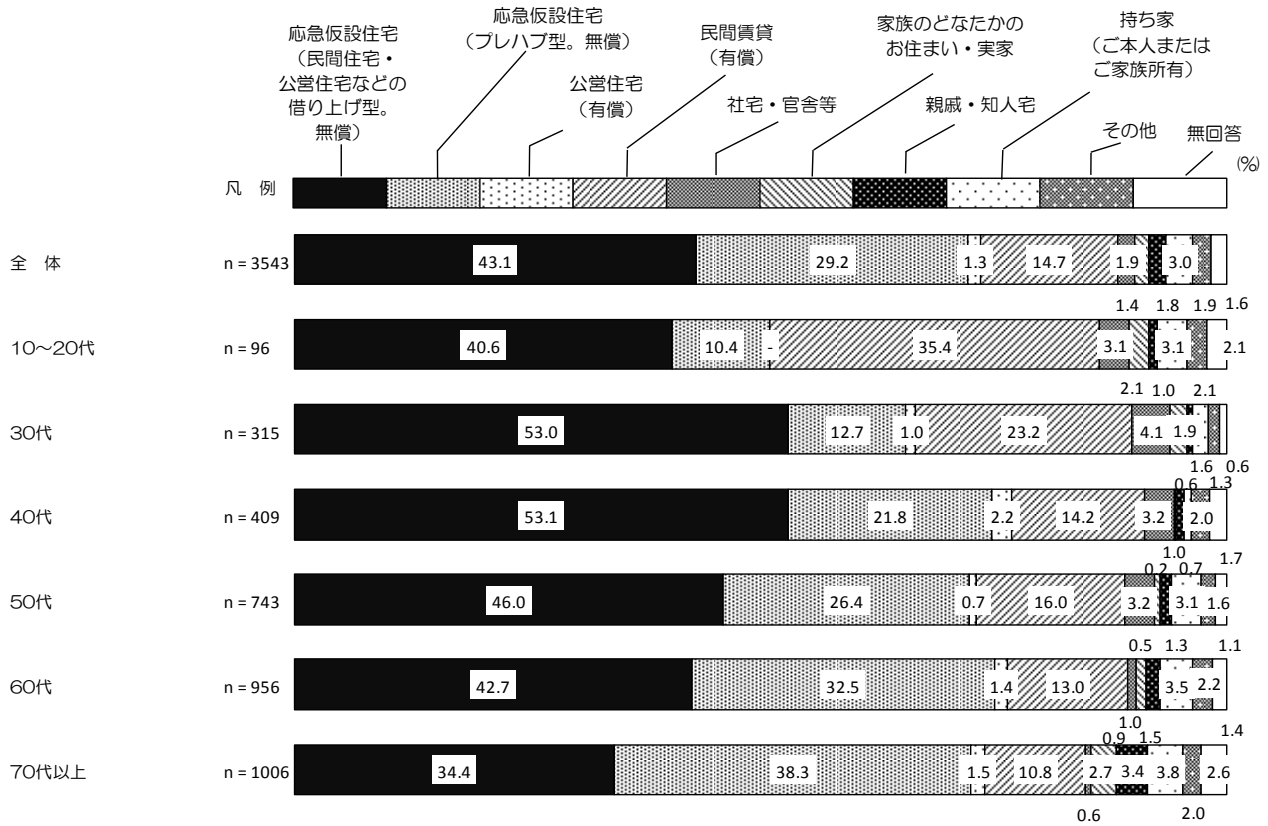
<図表3-1-3-1 現在の住居形態>



III 調査結果

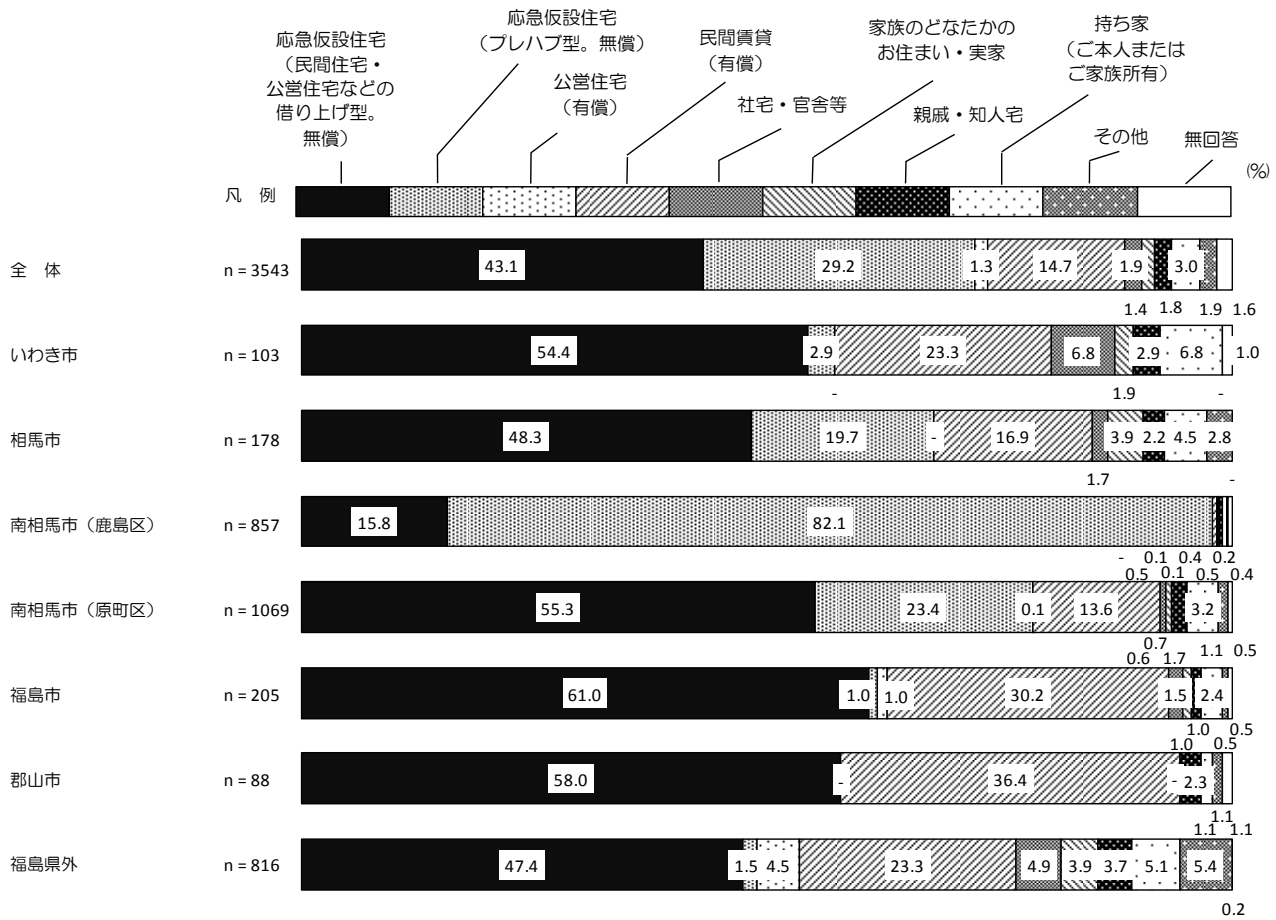
世帯主の年齢別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、年齢が高くなるにつれて割合が高くなっている。一方、「民間賃貸（有償）」は10～20代（35.4%）、30代（23.2%）で多い。

<図表3-1-3-2 現在の住居形態（世帯主の年齢別）>



主な避難先自治体別にみると、南相馬市（鹿島区）では「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」（82.1%）が8割強と多く、福島市、郡山市では「民間賃貸（有償）」が3割以上と、他に比べて割合が高くなっている。

<図表3-1-3-3 現在の住居形態（避難先自治体別）>



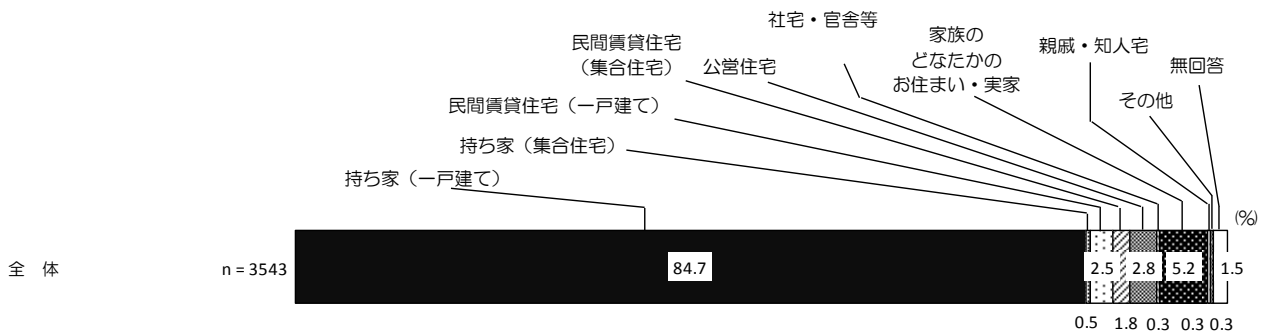
III 調査結果

(2) 震災発生当時の住居形態

問6 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

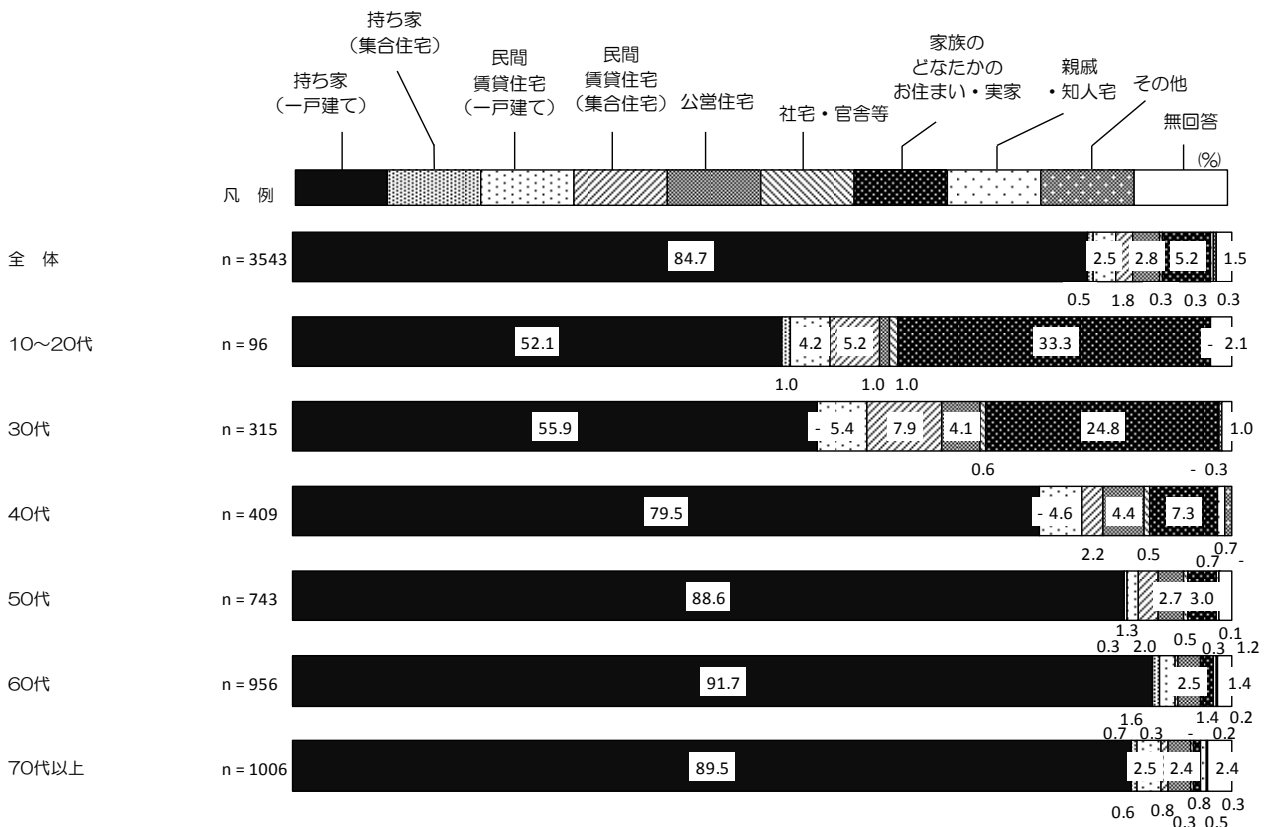
震災発生当時の住居形態について、「持ち家（一戸建て）」(84.7%) が最も多く、全体の8割以上となっている。

<図表3-1-3-4 震災発生当時の住居形態>



世帯主の年齢別にみると、「持ち家（一戸建て）」がいずれの年齢層でも最も多くなっており、50代以上では9割近くを占めている。一方、10~20代では「家族のどなたかのお住まい・実家」の割合も3割以上と、他の年齢層に比べて多くなっている。

<図表3-1-3-5 震災発生当時の住居形態（世帯主の年齢別）>



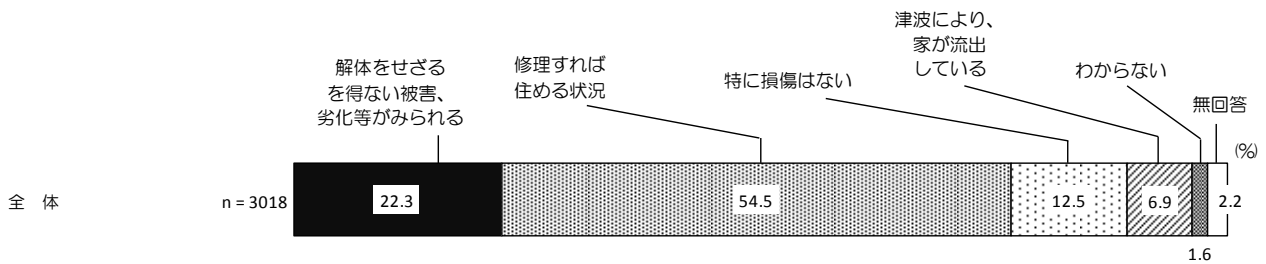
(3) 震災発生当時の住宅の状況

【問6で「1.持ち家（一戸建）」「2.持ち家（集合住宅）」と回答した方にうかがいます。】

問6-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。（〇は1つ）

震災発生当時の住宅の状況について、「修理すれば住める状況」（54.5%）が最も多く、次いで「解体せざるを得ない被害、劣化等がみられる」（22.3%）、「特に損傷はない」（12.5%）となっている。

<図表3-1-3-6 震災発生当時の住宅の状況>



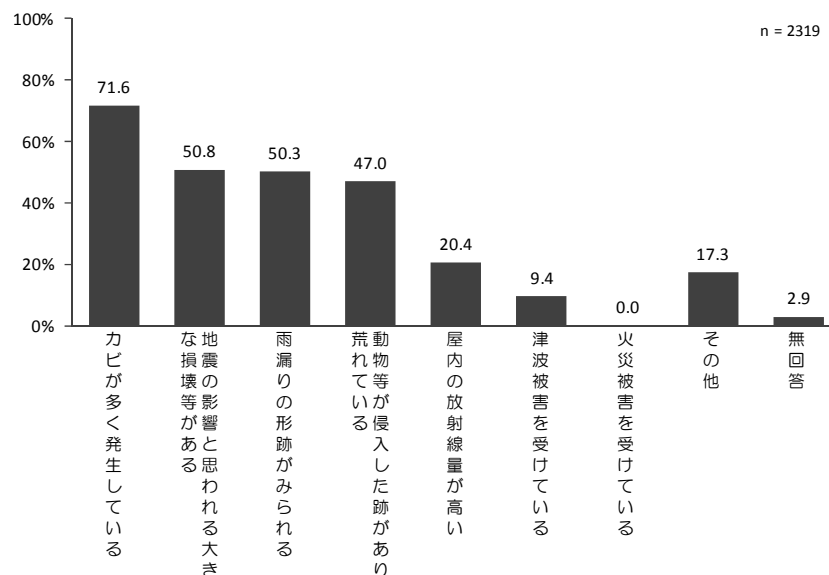
(4) 震災発生当時の住宅の具体的な被害内容

【問6-1で「1.解体せざるを得ない被害、劣化等がみられる」「2.修理すれば住める状況」と回答した方にうかがいます。】

問6-2 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような被害や劣化等がありますか。（〇はいくつでも）

震災発生当時の住宅の具体的な被害内容について、「カビが多く発生している」（71.6%）が最も多く、次いで「地震の影響と思われる大きな損壊等がある」（50.8%）、「雨漏りの形跡がみられる」（50.3%）となっている。

<図表3-1-3-7 震災発生当時の住宅の具体的な被害内容>



Ⅲ 調査結果

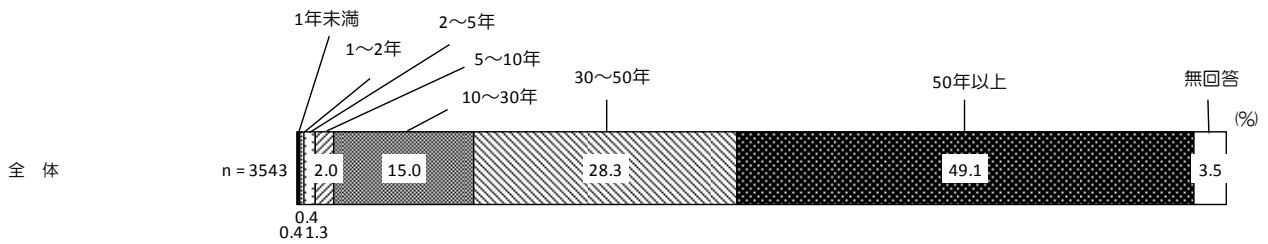
(5) 震災発生当時の市内居住年数

【すべての方にうかがいます。】

問7 ご自身の南相馬市への居住年数は何年ですか。今回の避難に至るまでの年数でお答えください。

震災発生当時の市内居住年数について、「50年以上」(49.1%)が最も多く、次いで「30～50年」(28.3%)、「10～30年」(15.0%)となっている。

<図表3-1-3-8 震災発生当時の市内居住年数>



3-2 将来の意向

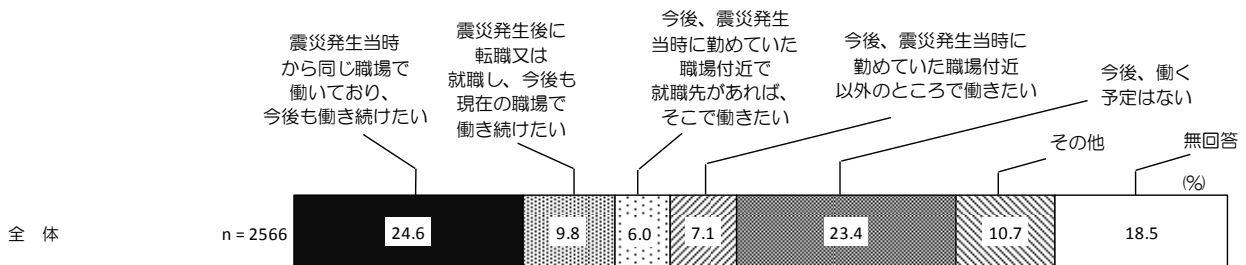
3-2-1 今後の職業についての意向

問 10 今後の職業についてどのように考えていますか。(〇は1つ)

(1) 震災時の職業が農林水産業・自営業・会社経営者以外

震災時の職業が農林水産業・自営業・会社経営者以外の方の今後の職業について、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」(24.6%)が最も多く、次いで「今後、働く予定はない」(23.4%)となっている。

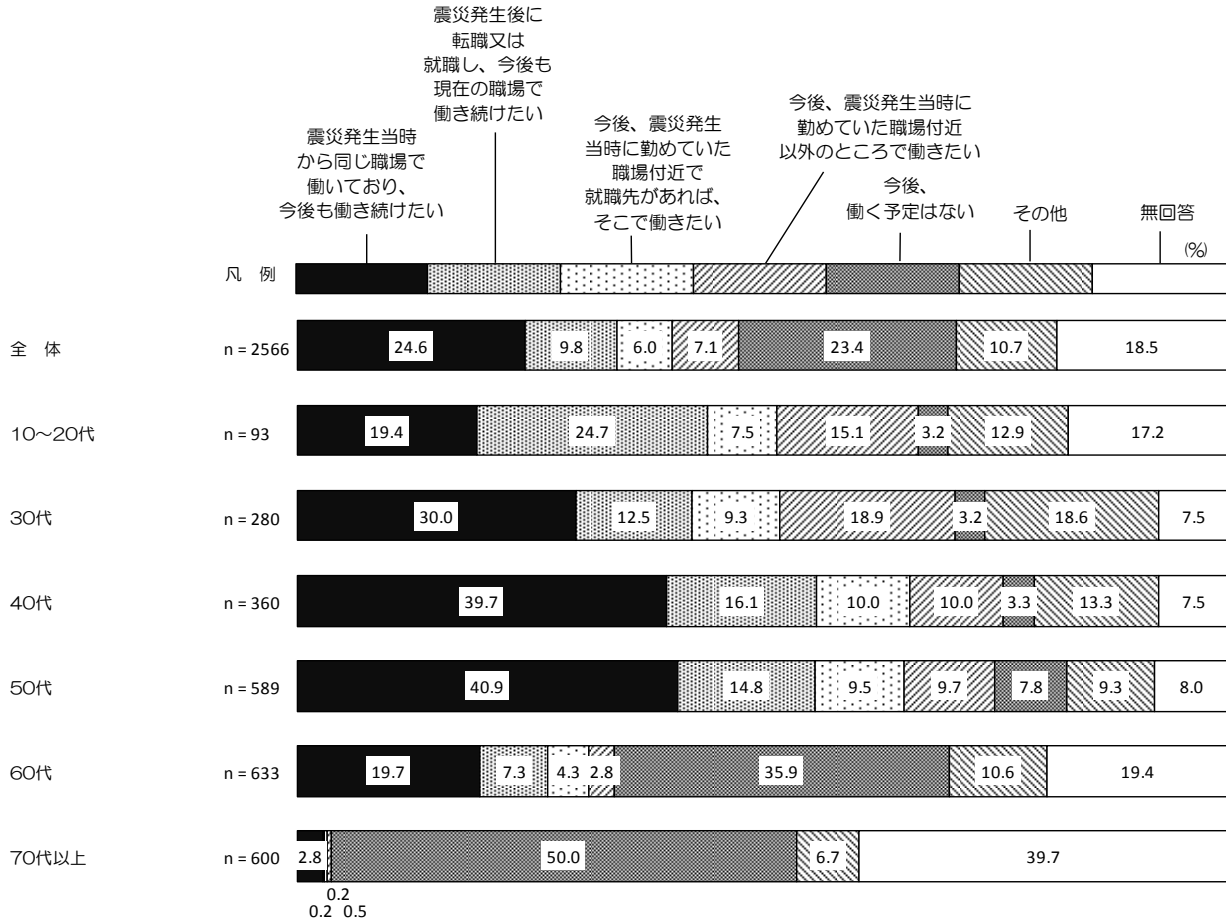
<図表3-2-1-1 今後の職業の意向(農林水産業・自営業・会社経営者以外)>



III 調査結果

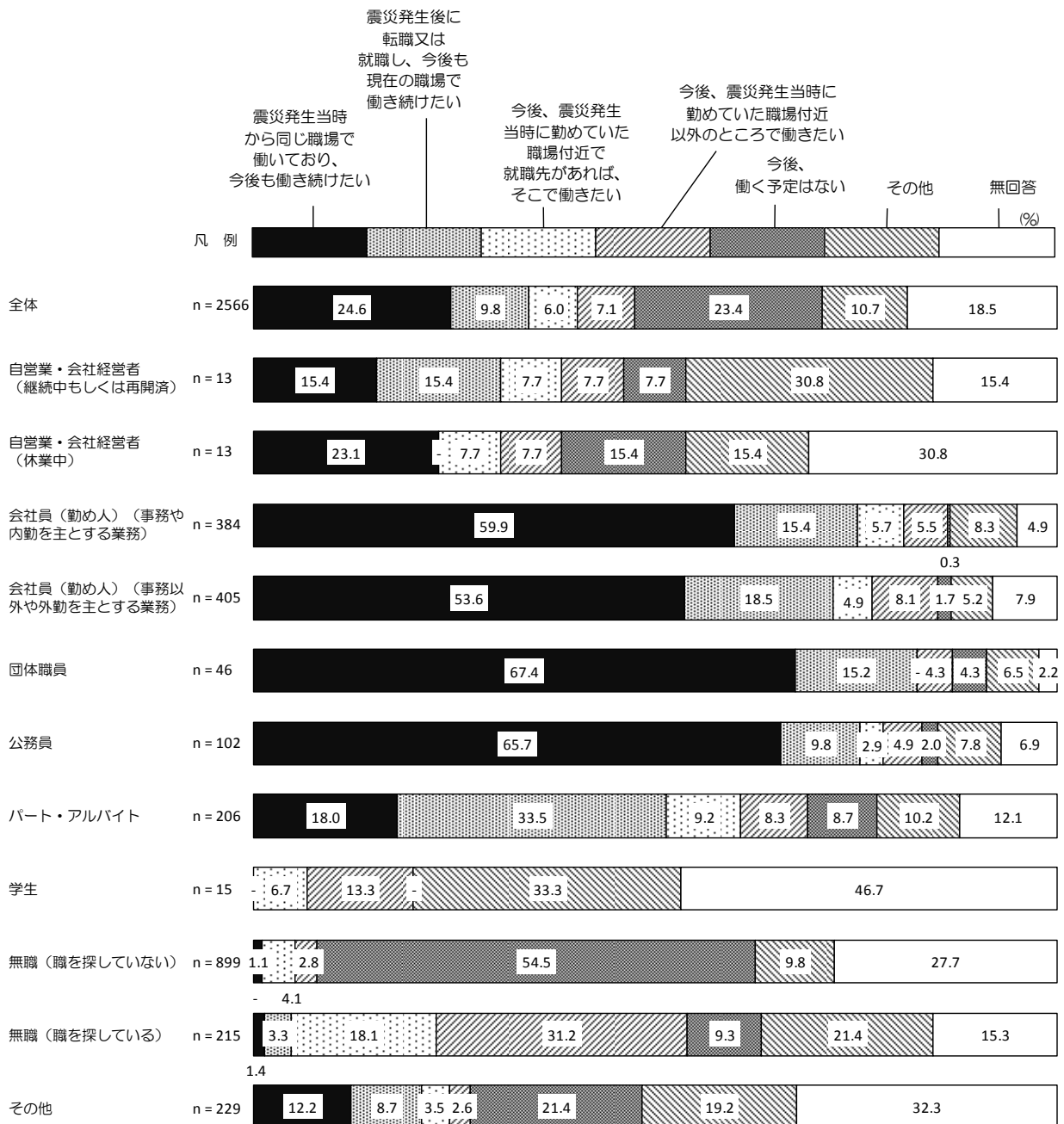
世帯主の年齢別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」は40代（39.7%）、50代（40.9%）で多く、「震災発生後に転職又は就職し、今後も現在の職場で働き続けたい」は、10～20代で24.7%と他の年齢層に比べて多くなっている。

<図表3-2-1-2 今後の職業の意向（農林水産業・自営業・会社経営者以外）（世帯主の年齢別）>



現在の職業別にみると、会社員（勤め人）、団体職員、公務員は「震災発生時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」が過半数となっている。無職（職を探している）では「今後、震災発生時に勤めていた職場付近で就職先があれば、そこで働きたい」（18.1%）の割合が他の職業に比べて高くなっている。

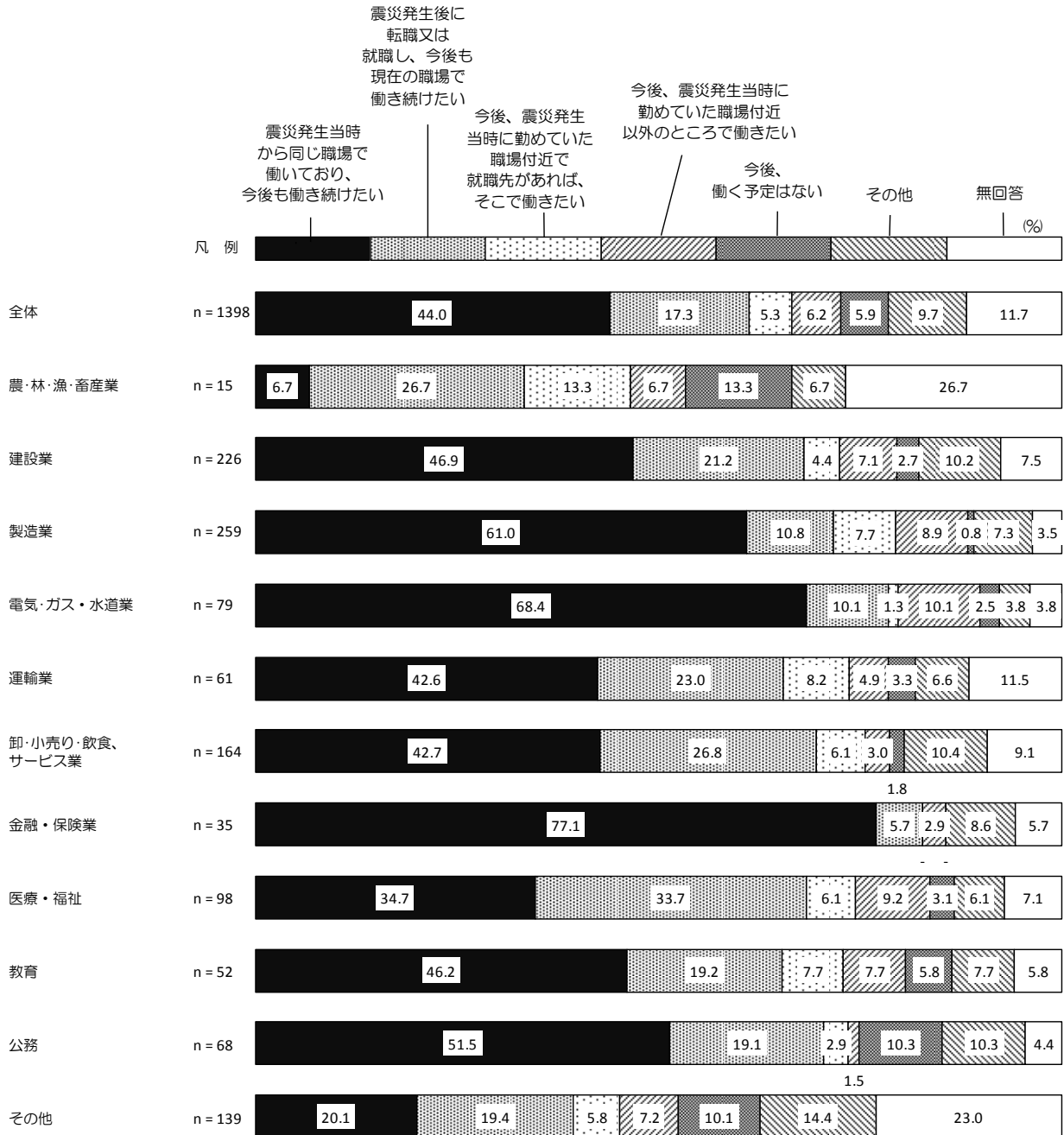
<図表3-2-1-3 今後の職業の意向（農林水産業・自営業・会社経営者以外）（現在の職業別）>



III 調査結果

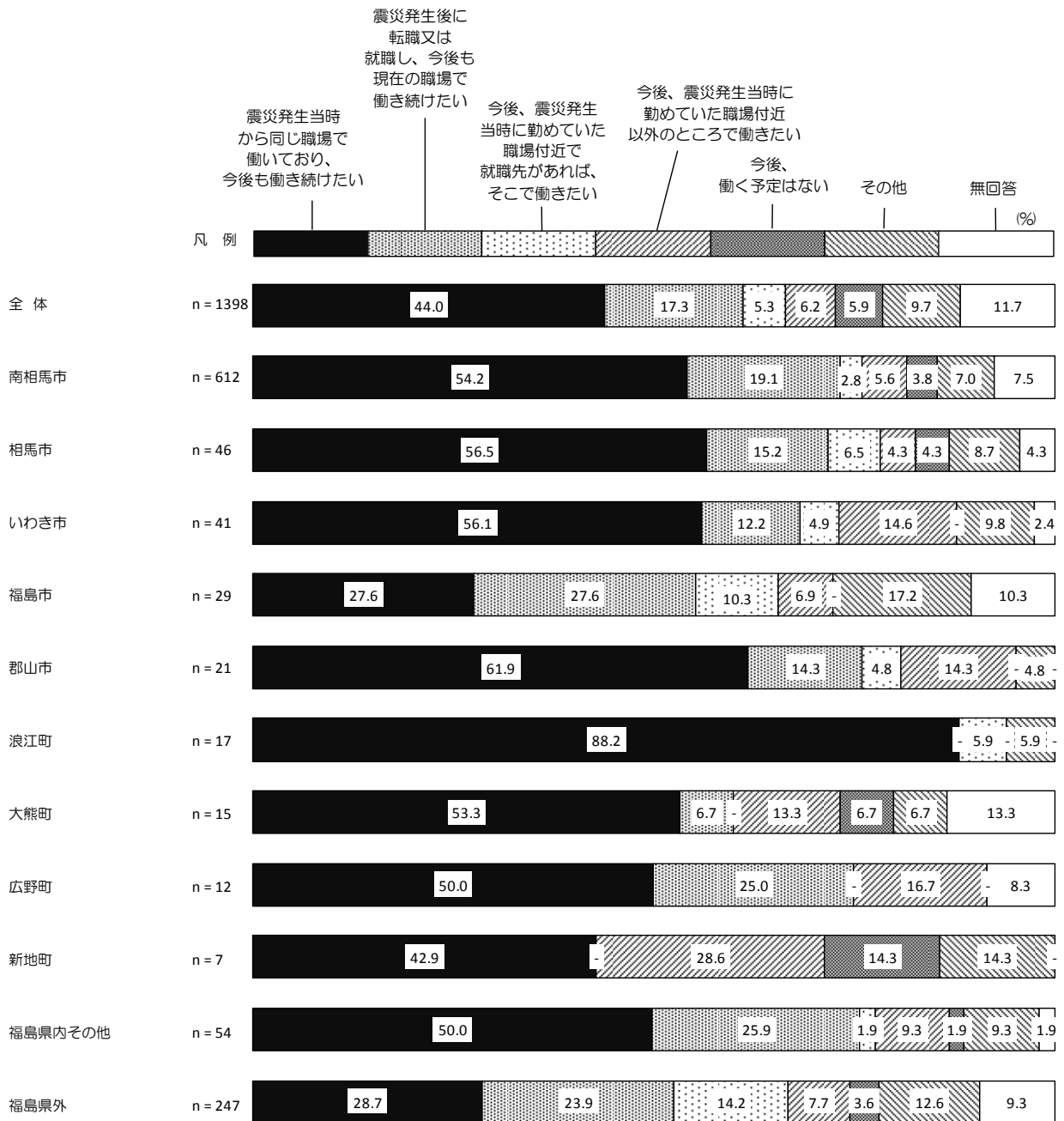
現在の業種別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」が概ねいずれの業種でも最も多くなっており、製造業（61.0%）、電気・ガス・水道業（68.4%）、金融・保険業（77.1%）で6割以上を占める。一方、農・林・漁・畜産業（26.7%）、卸・小売り・飲食、サービス業（26.8%）、医療・福祉（33.7%）では「震災発生後に転職又は就職し、今後も現在の職場で働き続けたい」の割合が他の業種に比べて多くなっている。

＜図表3-2-1-4 今後の職業の意向（農林水産業・自営業・会社経営者以外）（現在の業種別）＞



現在の就業先の所在自治体別にみると、「震災発生時から同じ職場で働いており、今後も働きたい」がいずれの就業先でも最も多くなっている。

<図表3-2-1-5 今後の職業の意向（農林水産業・自営業・会社経営者以外）（現在の就業先別）>

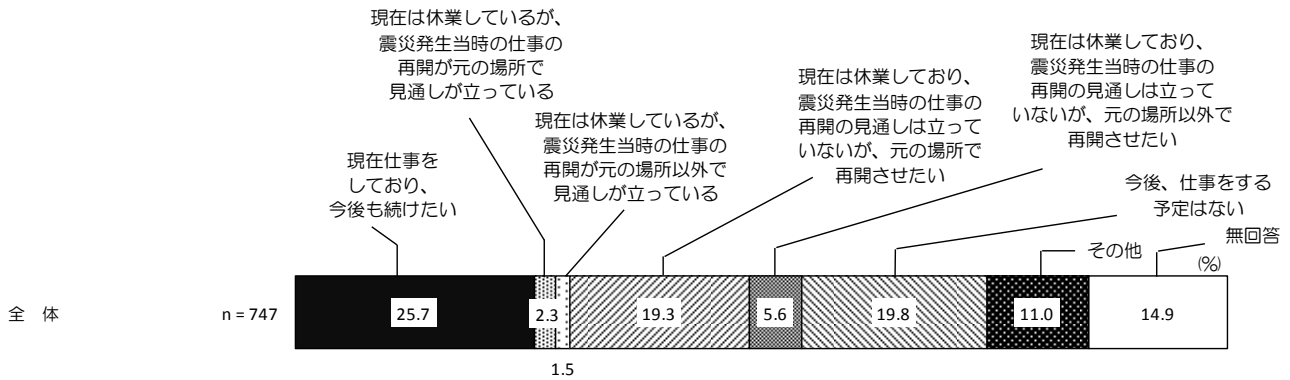


III 調査結果

(2) 震災時の職業が農林水産業・自営業・会社経営者

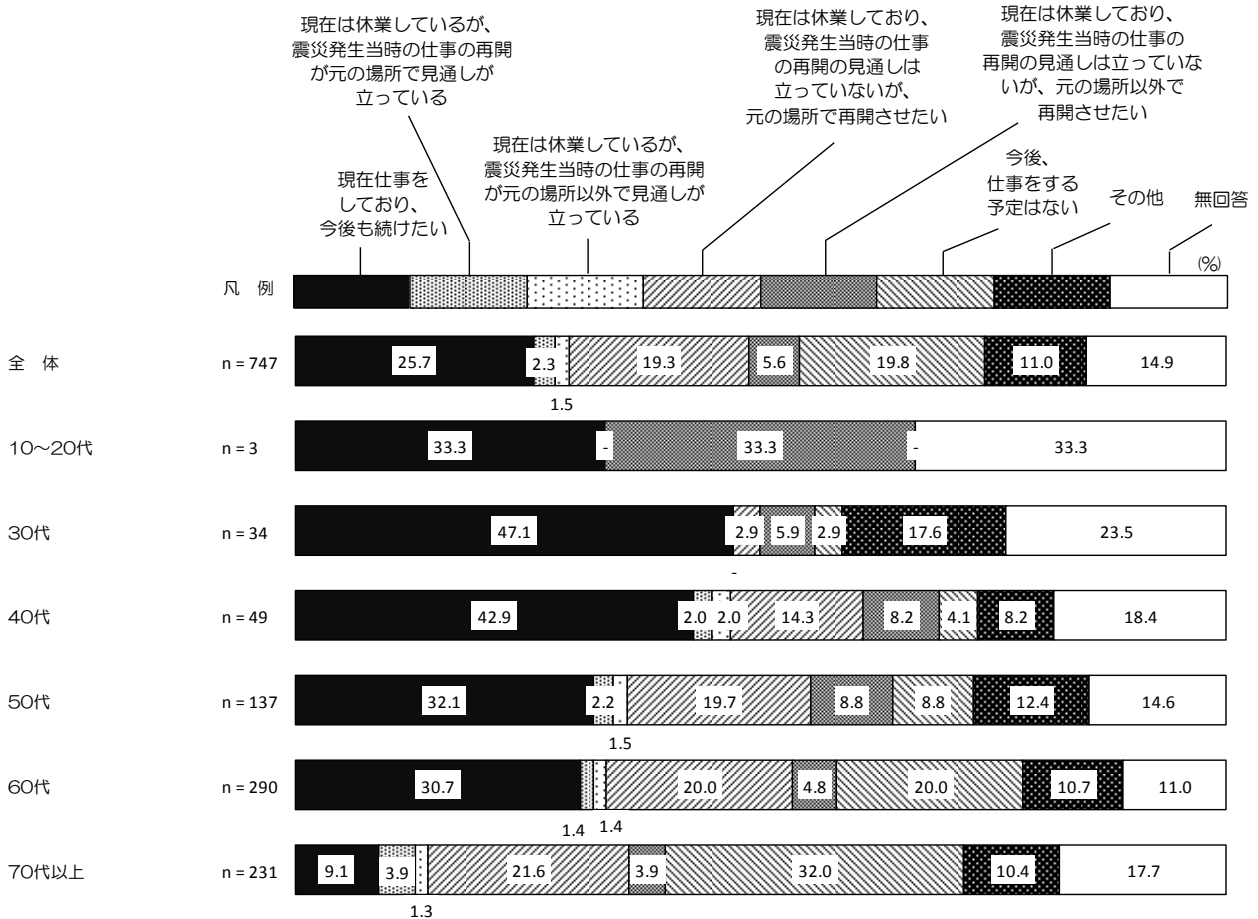
震災時の職業が農林水産業・自営業・会社経営者の方の今後の職業について、「現在仕事をしており、今後も続けたい」(25.7%)が最も多く、次いで「今後、仕事をする予定はない」(19.8%)、「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」(19.3%)となっている。

＜図表3-2-1-6 今後の職業の意向（農林水産業・自営業・会社経営者）＞



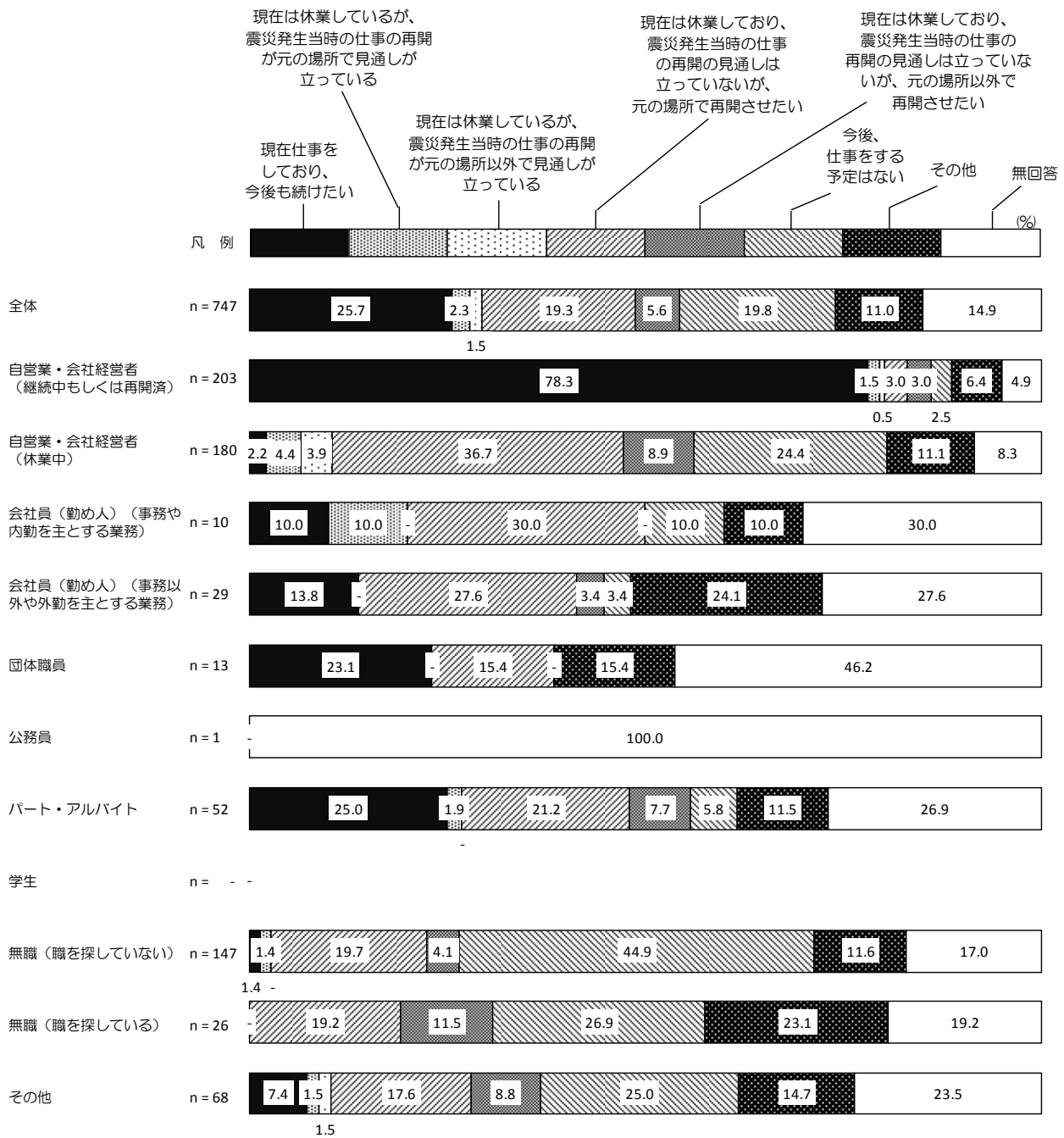
世帯主の年齢別にみると、30～40代では「現在仕事をしており、今後も続けたい」が4割以上と高く、「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」は、概ね年齢が高くなるにつれて高くなっている。

＜図表3-2-1-7 今後の職業の意向（農林水産業・自営業・会社経営者）（世帯主の年齢別）＞



現在の職業別にみると、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）の方の「現在仕事をしており、今後も続けたい」（78.3%）割合は、8割弱と高い。

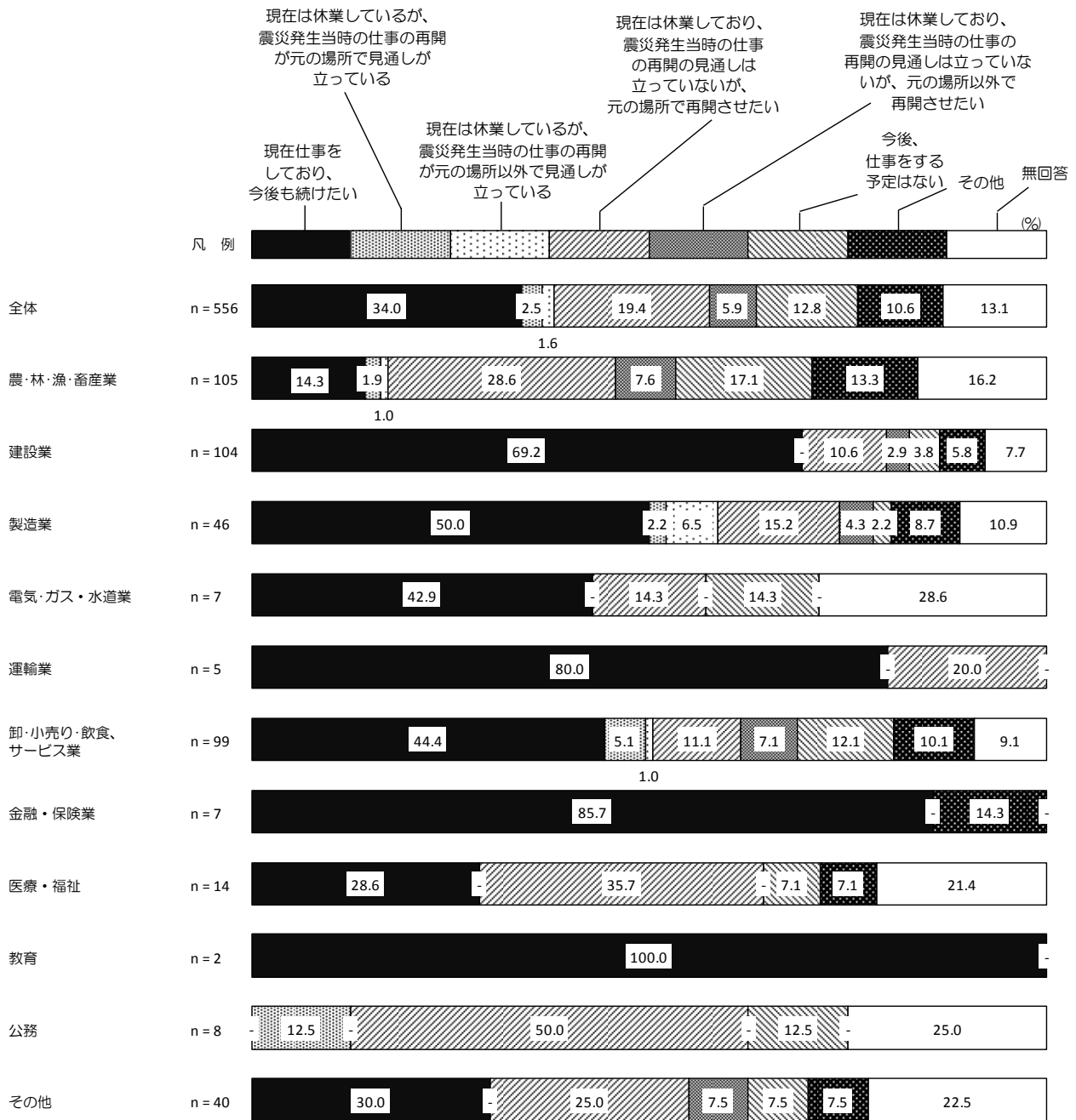
＜図表3-2-1-8 今後の職業の意向（農林水産業・自営業・会社経営者）（現在の職業別）＞



III 調査結果

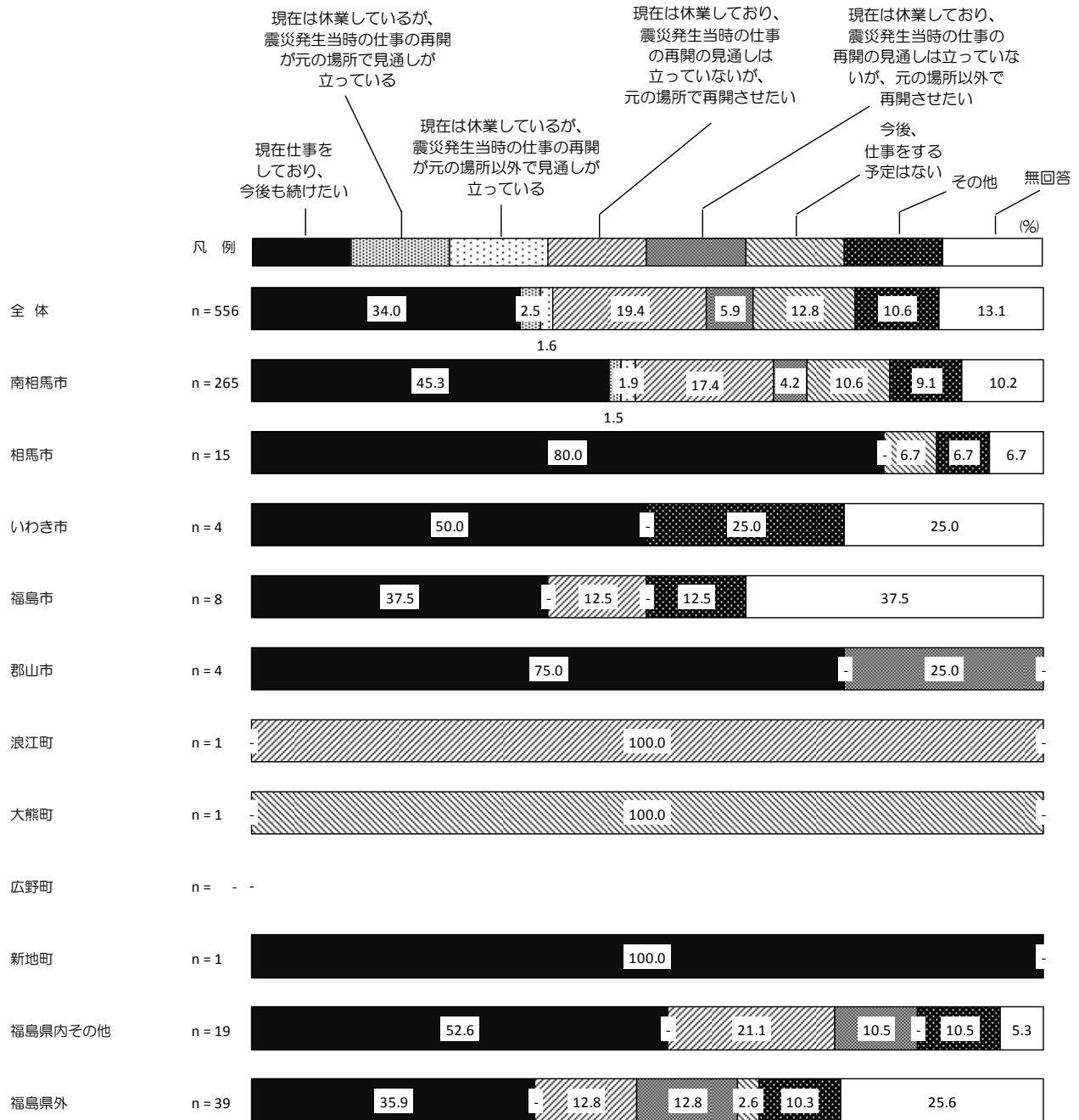
現在の業種別にみると、「現在仕事をしており、今後も続けたい」は建設業（69.2%）で7割弱と多く、農・林・漁・畜産業（28.6%）の3割弱が「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」としている。

＜図表3-2-1-9 今後の職業の意向（農林水産業・自営業・会社経営者）（現在の業種別）＞



現在の就業先の所在自治体別にみると、「現在仕事をしており、今後も続けたい」との意向は南相馬市で4割以上となっている。

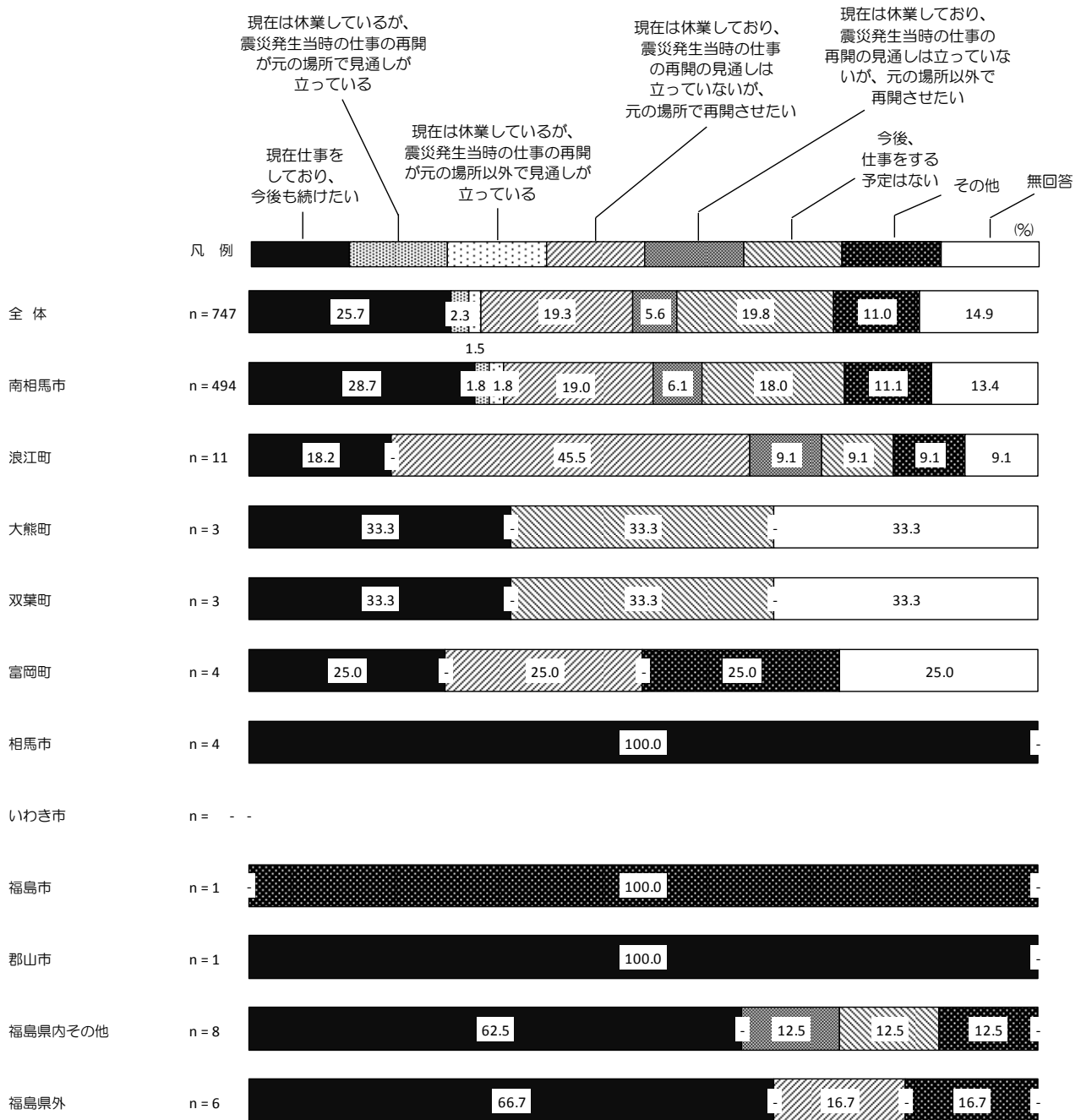
＜図表3-2-1-10 今後の職業の意向（農林水産業・自営業・会社経営者）（現在の就業先別）＞



III 調査結果

震災当時の就業先別にみると、南相馬市では、約3割が「現在仕事をしており、今後も続けたい」と回答している。

＜図表3-2-1-11 今後の職業の意向（農林水産業・自営業・会社経営者）（震災当時の就業先別）＞



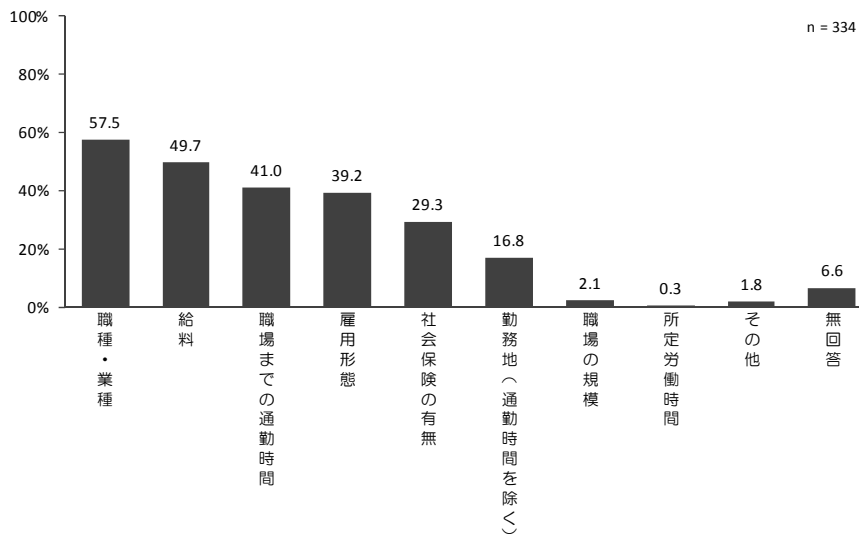
3-2-2 職場を選ぶ際に重要視すること

【問 10 で「3.今後、震災発生時に勤めていた職場付近で就職先があれば、そこで働きたい」「4.今後、震災発生時に勤めていた職場付近以外のところで働きたい」と回答した方にうかがいます。】

問 10-1 職場を選ぶ際に、重要視することは何ですか。(〇は3つまで)

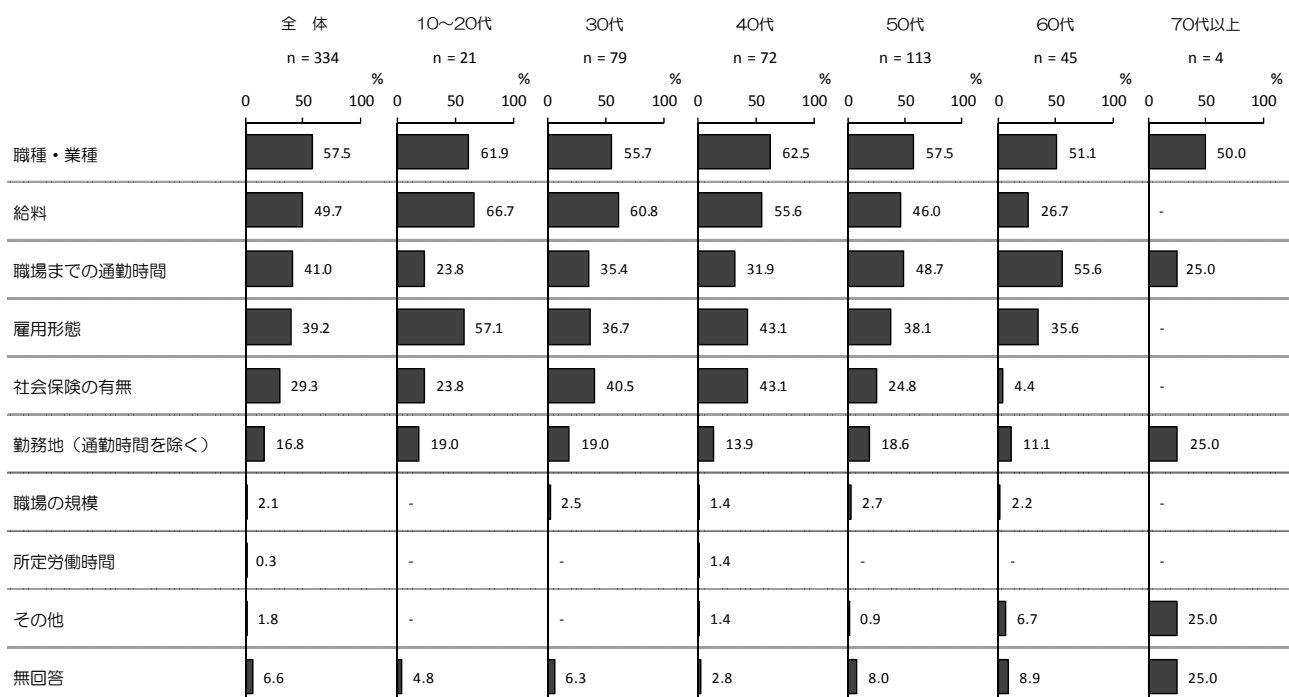
職場を選ぶ際に重要視することについて、「職種・業種」(57.5%) が最も多く、次いで「給料」(49.7%)、「職場までの通勤時間」(41.0%) となっている。

<図表3-2-2-1 職場を選ぶ際に重要視すること>



世帯主の年齢別にみると、「給料」は年齢層が下がるにつれ割合が高くなり、「社会保険の有無」は 30~40代で4割を超えている。

<図表3-2-2-2 職場を選ぶ際に重要視すること(世帯主の年齢別)>



3-2-3 南相馬市への帰還意向

(1) 南相馬市への帰還意向

問 11 旧警戒区域の避難指示が解除された後に、震災前の地域または近隣地域への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。

(現在一緒にお住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください)(〇は1つ)

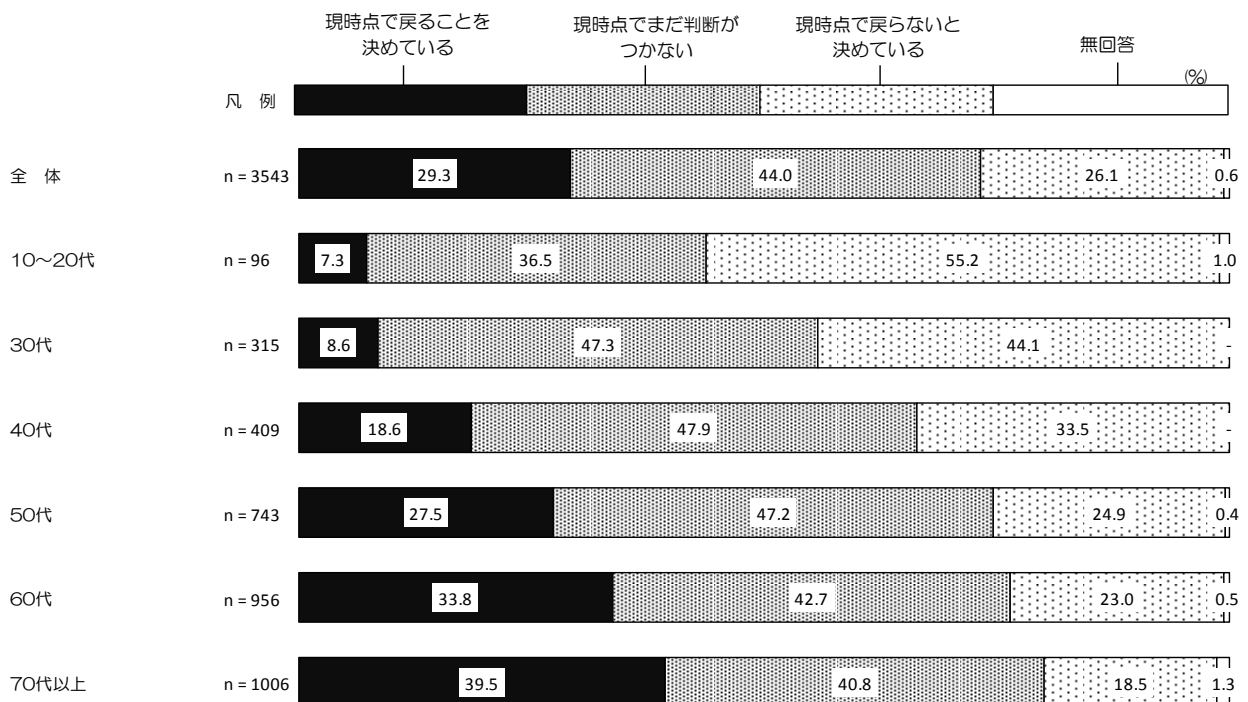
南相馬市への帰還意向について、「現時点でまだ判断がつかない」(44.0%)が最も多い。「現時点で戻ることを決めている」(29.3%)方と「現時点で戻らないと決めている」(26.1%)方はともに3割弱と拮抗している。

<図表3-2-3-1 南相馬市への帰還意向>



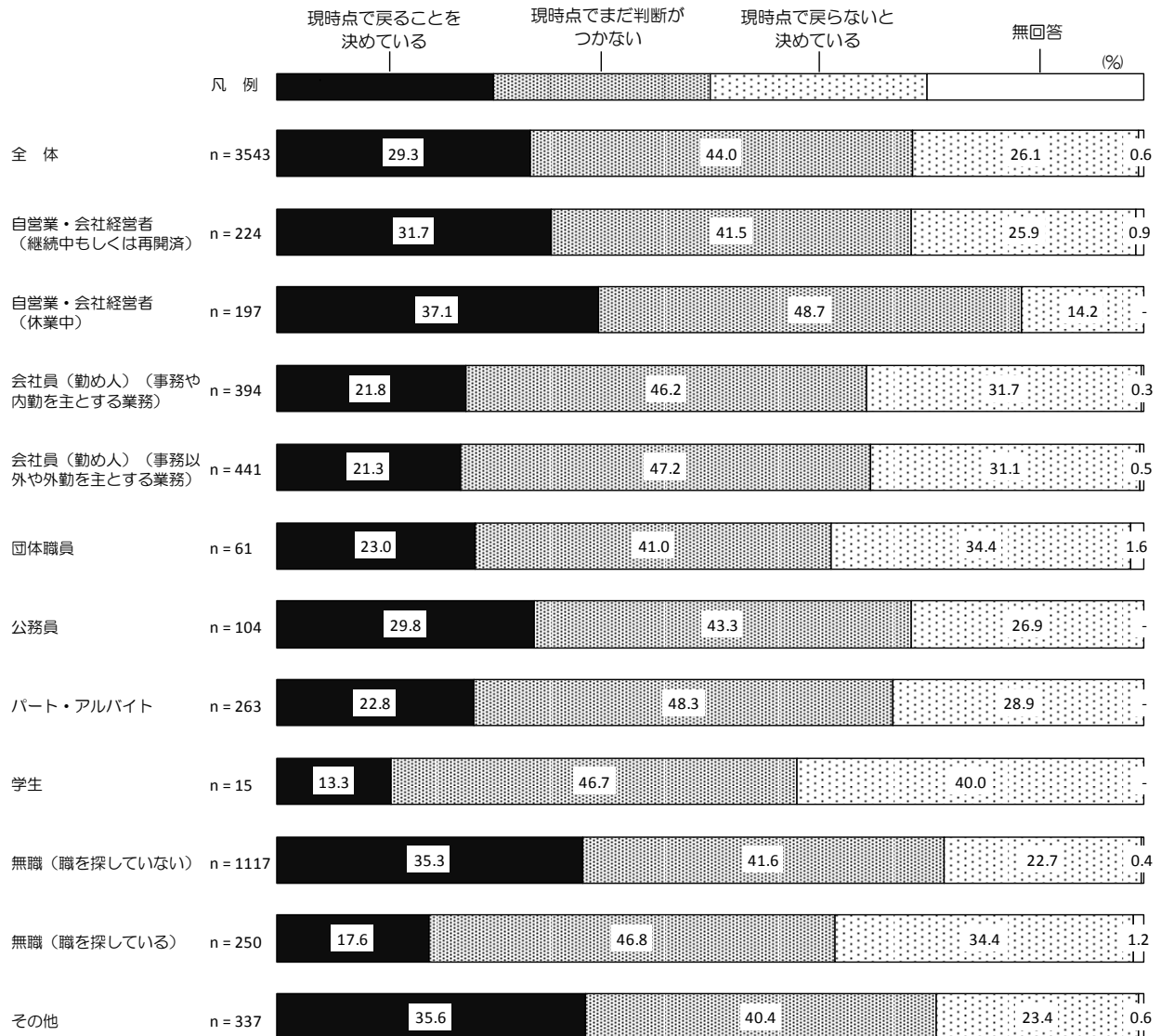
年齢別にみると、「現時点で戻ることを決めている」方は、年齢が高くなるにつれて割合が高く、70代以上では39.5%となっている。

<図表3-2-3-2 南相馬市への帰還意向(世帯主の年齢別)>



現在の職業別に見ると、「現時点で戻ることを決めている」方は、自営業・会社経営者（休業中）（37.1%）、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済み）（31.7%）、無職（職を探していない）（35.3%）で3割以上と、高くなっている。

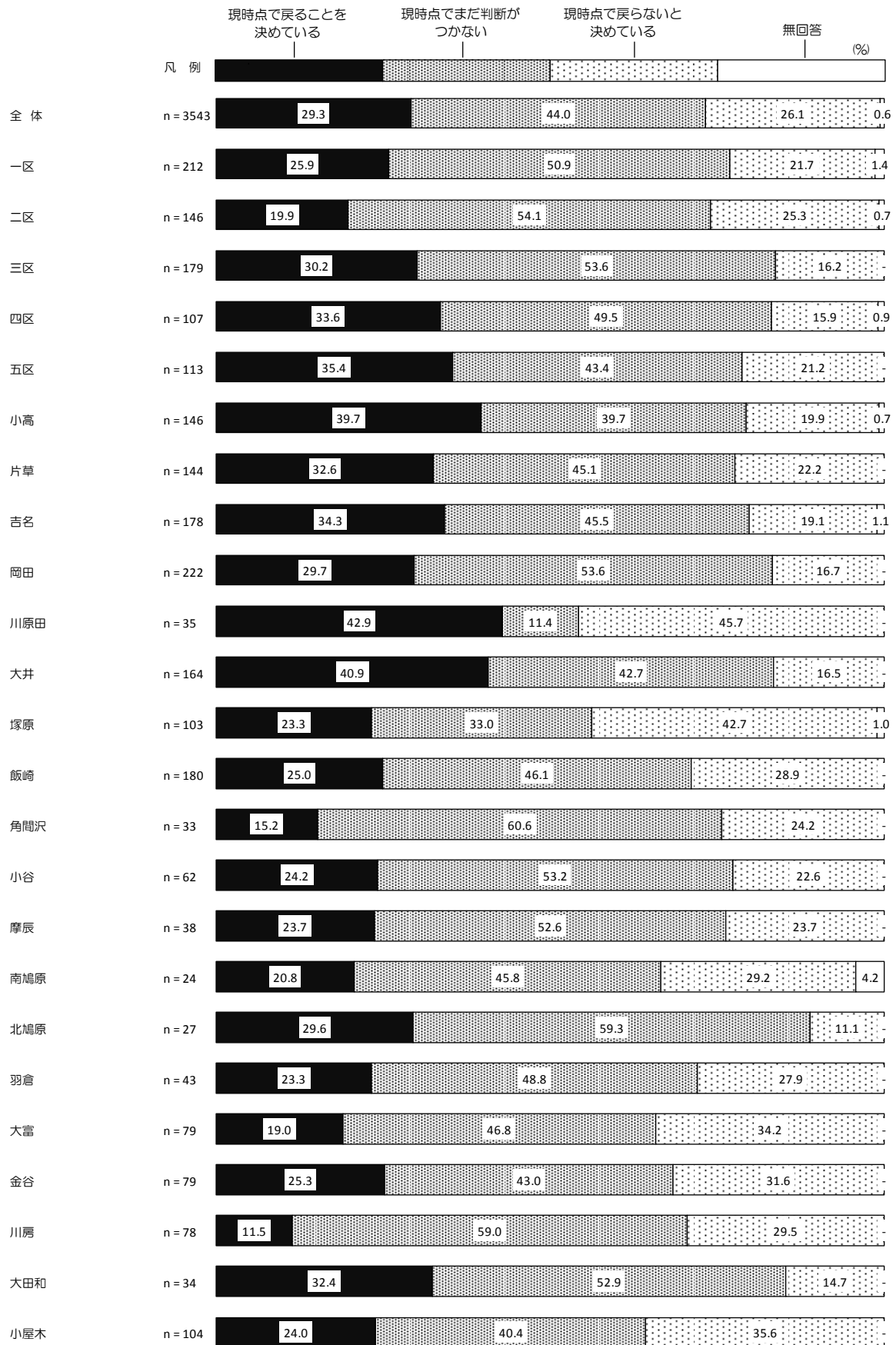
<図表3-2-3-3 南相馬市への帰還意向（現在の職業別）>

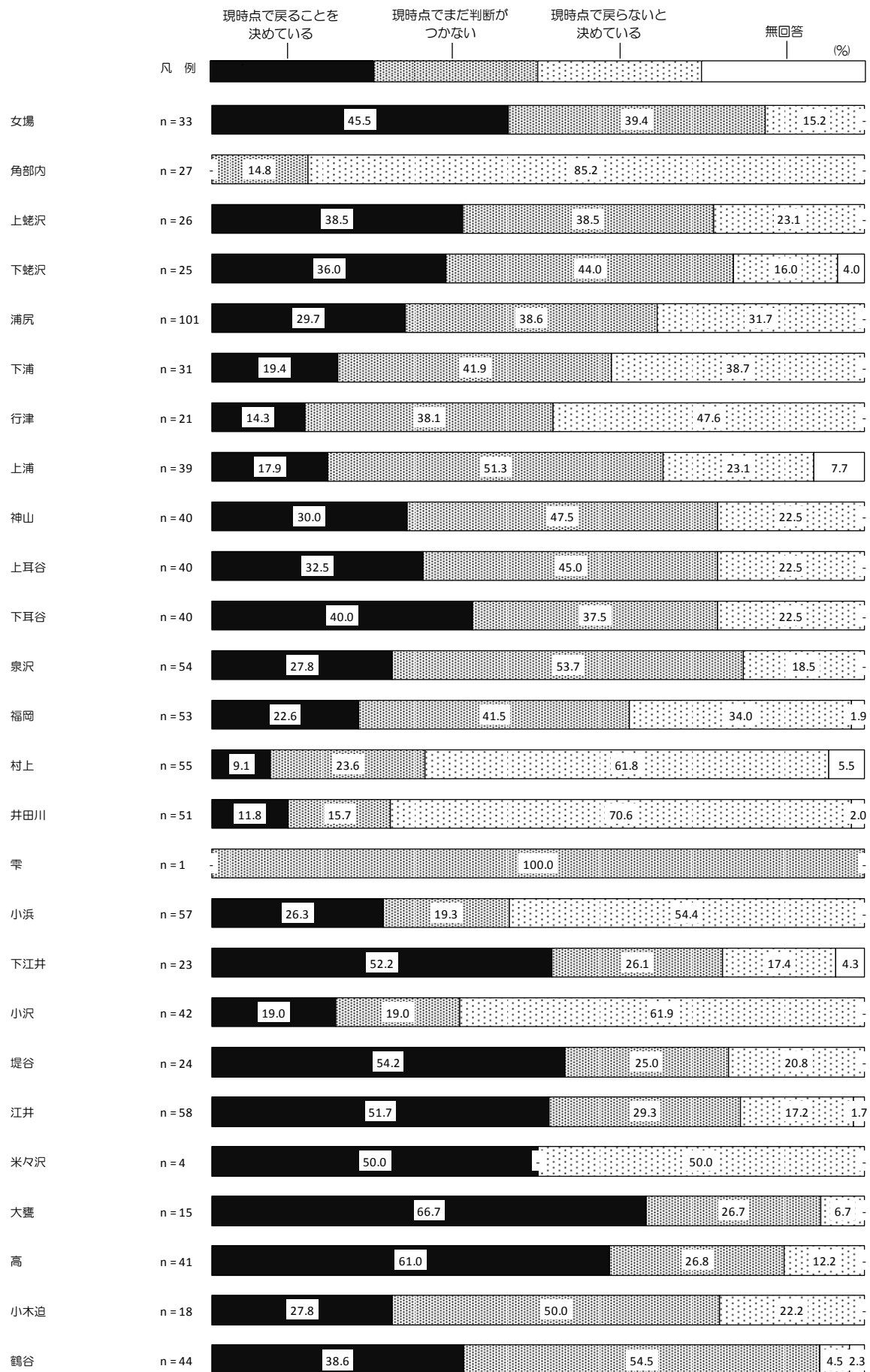


III 調査結果

震災発生当時の居住行政区別にみると、「現時点で戻ることを決めている」方は、高、江井などで過半数と、他の行政区に比べ高くなっている。

<図表3-2-3-4 南相馬市への帰還意向（居住行政区別）>

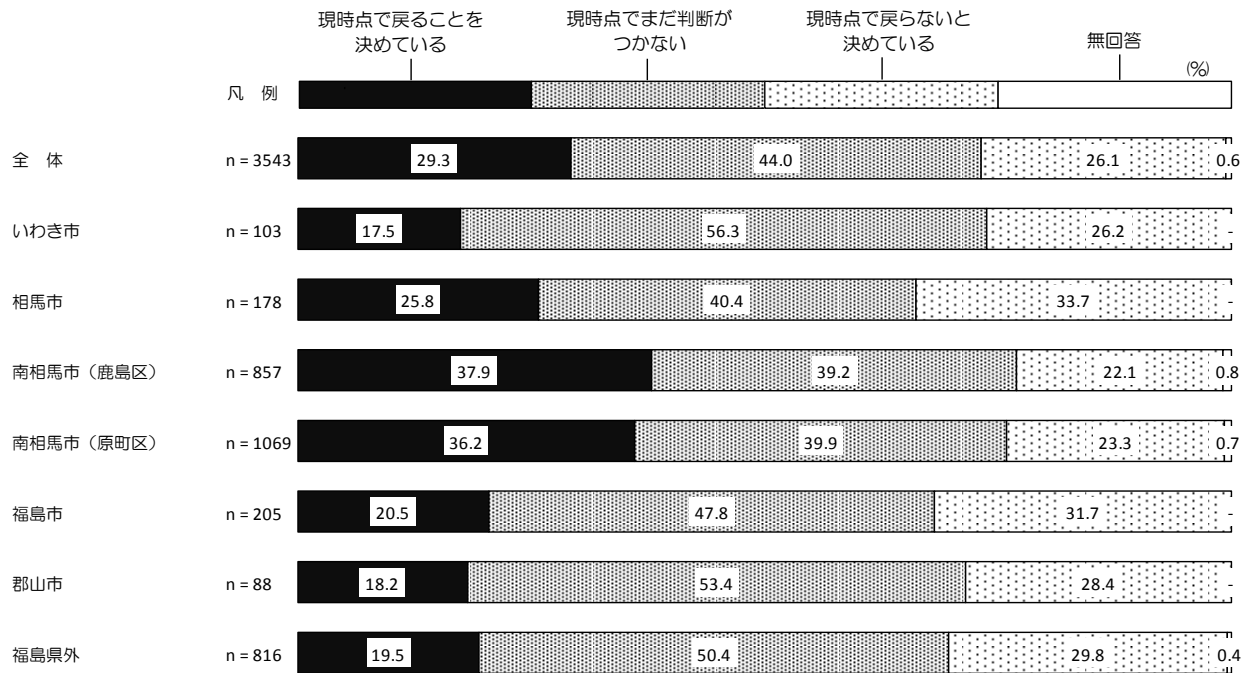




III 調査結果

主な避難先自治体別にみると、「現時点で戻ることを決めている」方は、南相馬市（鹿島区）（37.9%）、南相馬市（原町区）（36.2%）で3割以上と、他の自治体に比べて多くなっている。

<図表3-2-3-5 南相馬市への帰還意向（避難先自治体別）>



3-2-4 南相馬市への帰還を判断する上で必要と思う情報

(1) 南相馬市への帰還を判断する上で必要と思う情報

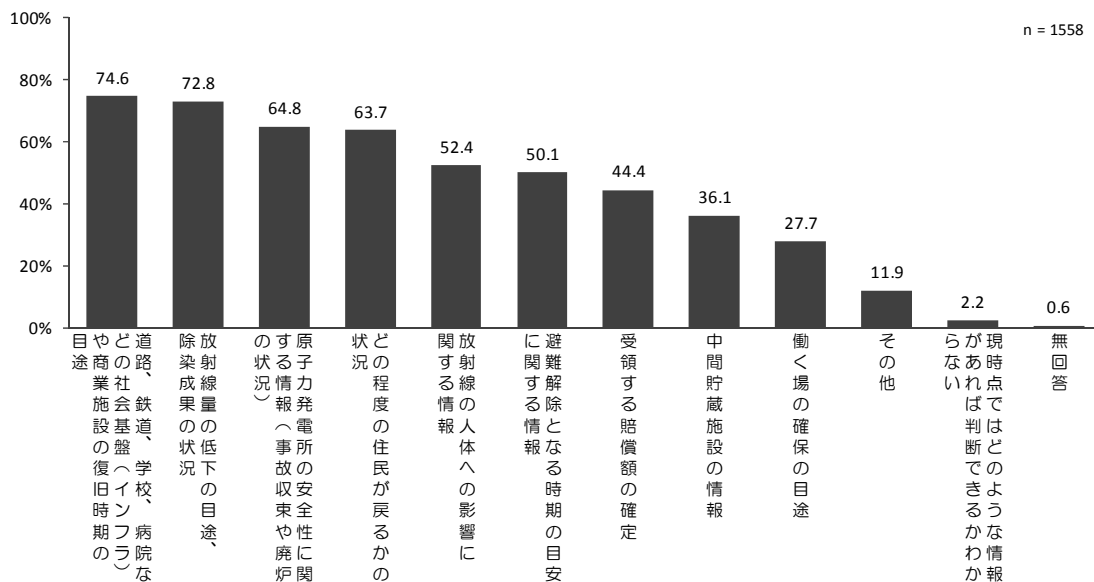
【問 11 で「2.現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 11-1 帰還を判断する上で必要と思う情報等について、あてはまるものをすべて教えてください。

(〇はいくつでも)

南相馬市への帰還を判断する上で必要と思う情報について、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）や商業施設の復旧時期の目途」（74.6%）が最も多く、次いで「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」（72.8%）、「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」（64.8%）となっている。

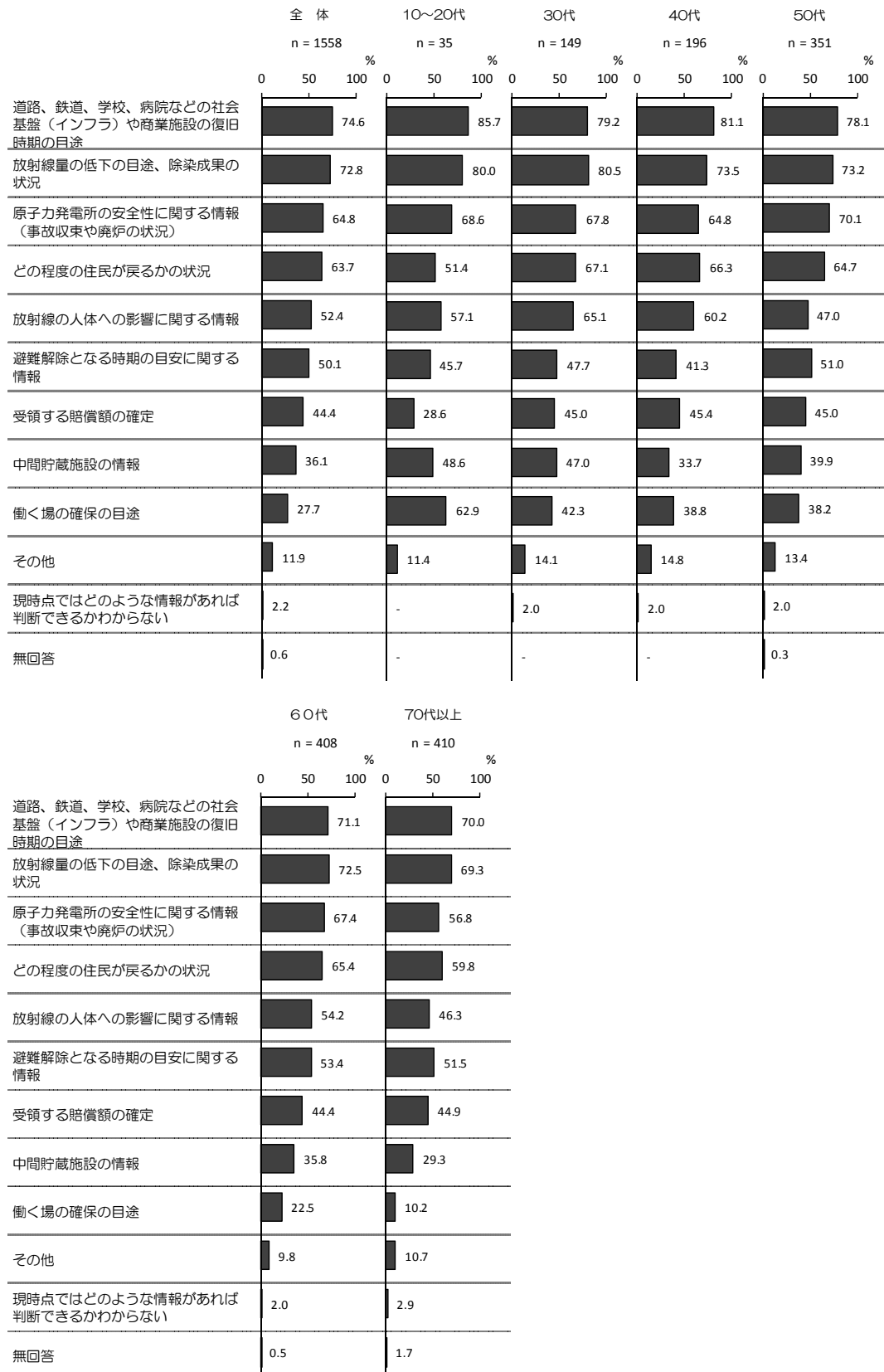
＜図表 3-2-4-1 南相馬市への帰還を判断する上で必要と思う情報＞



Ⅲ 調査結果

世帯主の年齢別にみると、10～20代では「働く場の確保の目的」、30～40代では「放射線の人体への影響に関する情報」が6割以上と、他の年齢層に比べ多くなっている。

<図表3-2-4-2 南相馬市への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯主の年齢別）>



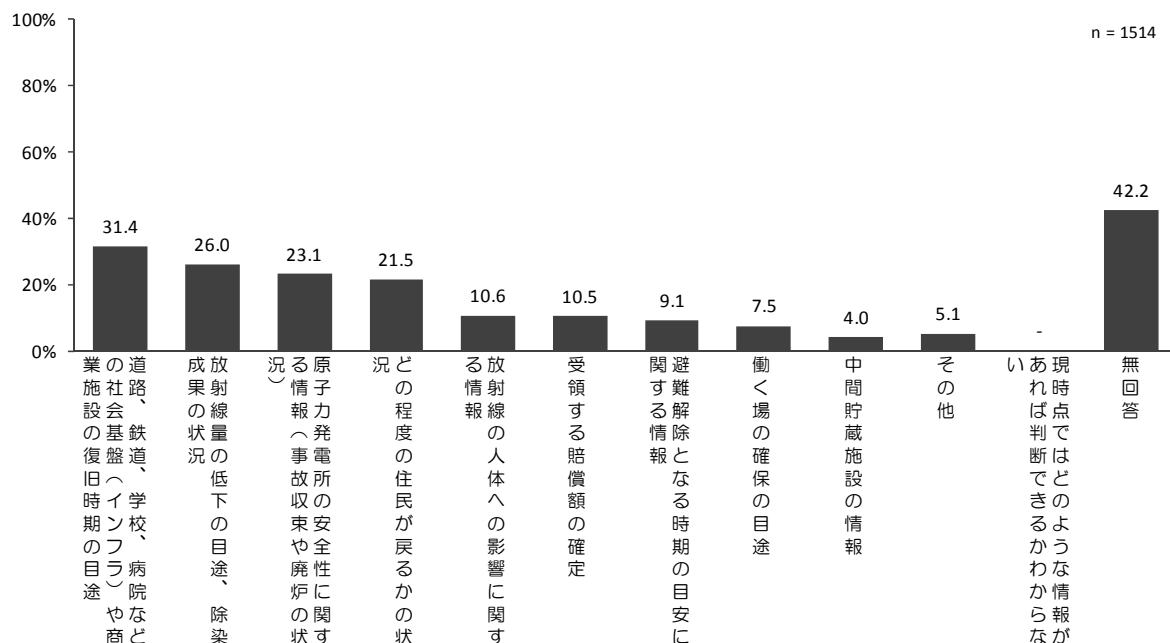
(2) 南相馬市への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの

【問 11-1 で「1」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 11-2 上記(問 11-1)で選んだ情報等のうち、重視したいものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。そして、その情報等について、どのような条件であれば戻りたいと考えますか。具体的な条件の内容をお書きください。

南相馬市への帰還を判断する上で必要と思う情報(問 11-1)のうち重視したいものについては、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)や商業施設の復旧時期の目途」が31.4%と最も多く、次いで「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」(26.0%)、「原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)」(23.1%)となっている。

<図表 3-2-4-3 南相馬市への帰還を判断する上で必要と思う情報(3つまで)>



上位項目の主な意見は以下の通り。

[道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)や商業施設の復旧時期の目途]

- スーパーや買物をする為の店がどれだけ戻ってくるのか? 水は安全なのか? (60代)
- 病院や日用品を扱う商店が開いてから。(70代以上)
- 常磐線の全面開通、病院・介護病院の開所。(60代)
- 学校と病院の再開が大前提。(40代)
- 生活用水が安全であれば(井戸水・水道水)。(30代)
- 子ども達が安全に生活ができ学校に通えるのであれば。(50代)
- JRの復旧、いわき方面への道路の通行。(10~20代)

Ⅲ 調査結果

〔放射線量の低下の目途、除染成果の状況〕

- 放射線量の偽りのない数字状況確認ができれば。(40代)
- 事故前と同じくらいの線量になったか。(30代)
- 放射線量に脅かされず安心して農作物が出来る様除染して欲しい。(60代)
- 田で米が作れるのか、米を作って販売できるのか。(50代)
- 除染が終わらなければ戻れない。(60代)
- 安全に生活できるレベルなのか。(30代)
- 自分の住んでいる地域がいつ、どの程度まで除染が完了するのか。(70代以上)
- 小さい子どもがいるので人体への影響がなくなれば。(10～20代)

〔原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)〕

- 事故に対してのデータなどがないので不安である。(60代)
- 完全な事故の収束(次に同様の事故を想定すると南相馬では子供達を守りきる自信がない)。(30代)
- 廃炉が確実になり、安全性が確保されれば考えられる。(40代)
- 原発からの放射能漏れがなくなったら。(10～20代)
- 原子力発電所から放射線が放出しなくなるのであれば。(50代)
- 廃炉になるまでは時間がかかるし、爆発や汚染水に不安がなくなれば。(50代)
- 炉内に燃料が入っているうちは常に危険なわけで、汚染水も含め情報がほしい。(50代)
- 収束宣言されれば考える。(60代)

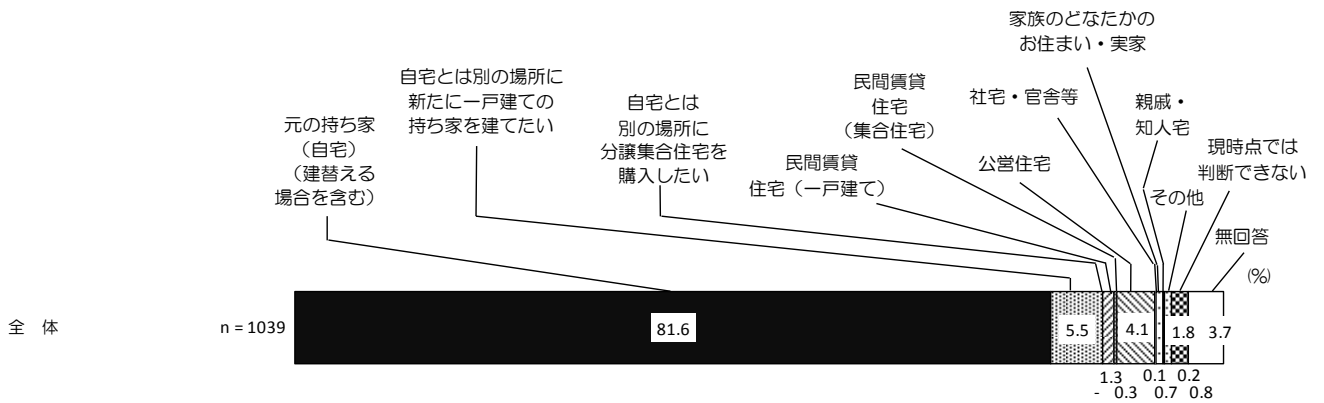
3-2-5 帰還する場合の住居形態

【問 11 で「1.現時点で戻ることを決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-3 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

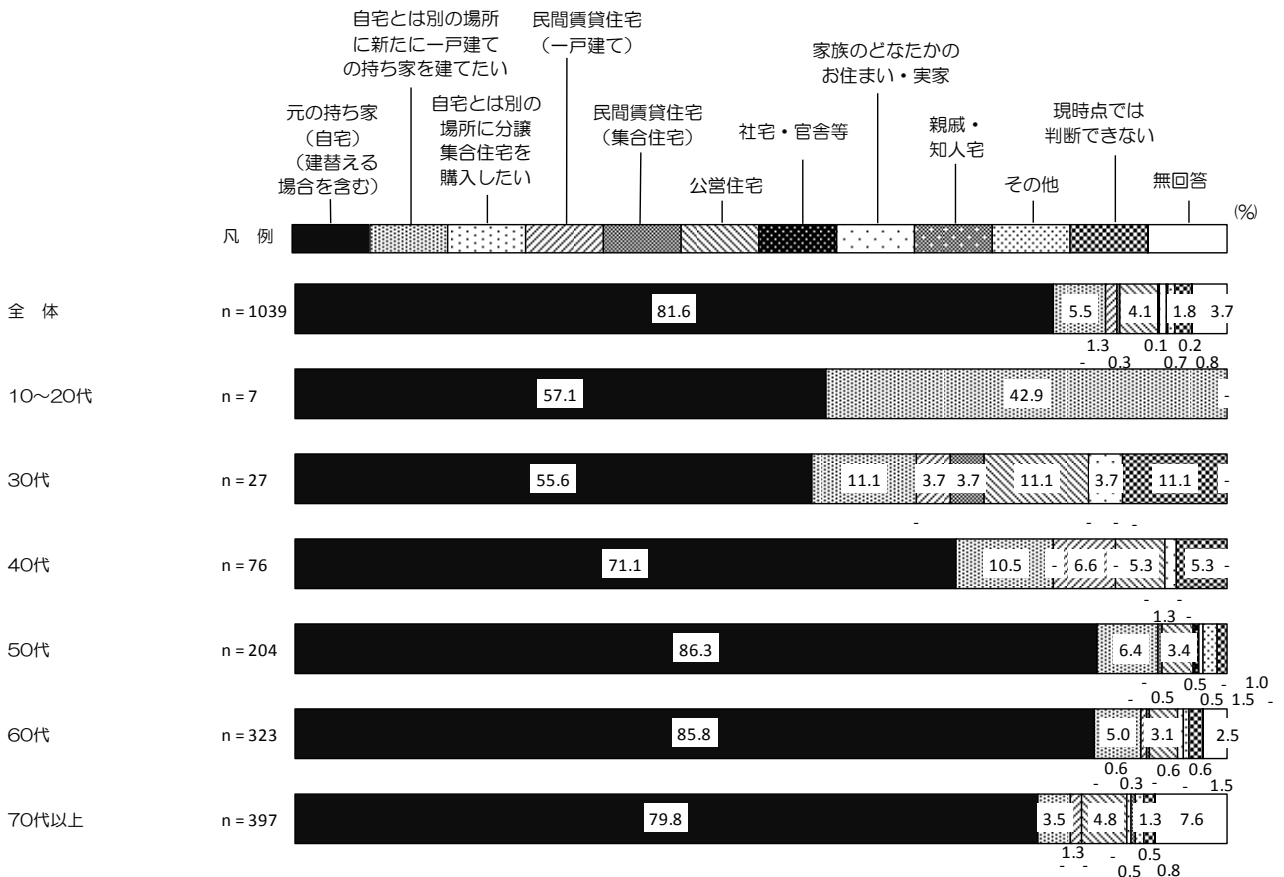
帰還する場合の住居形態について、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」(81.6%) が最も多く、全体の約 8 割を占めている。

＜図表3-2-5-1 帰還する場合の住居形態＞



世帯主の年齢別にみると、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」がいずれの年齢層でも最も多くなっており、50代、60代では8割を超える。

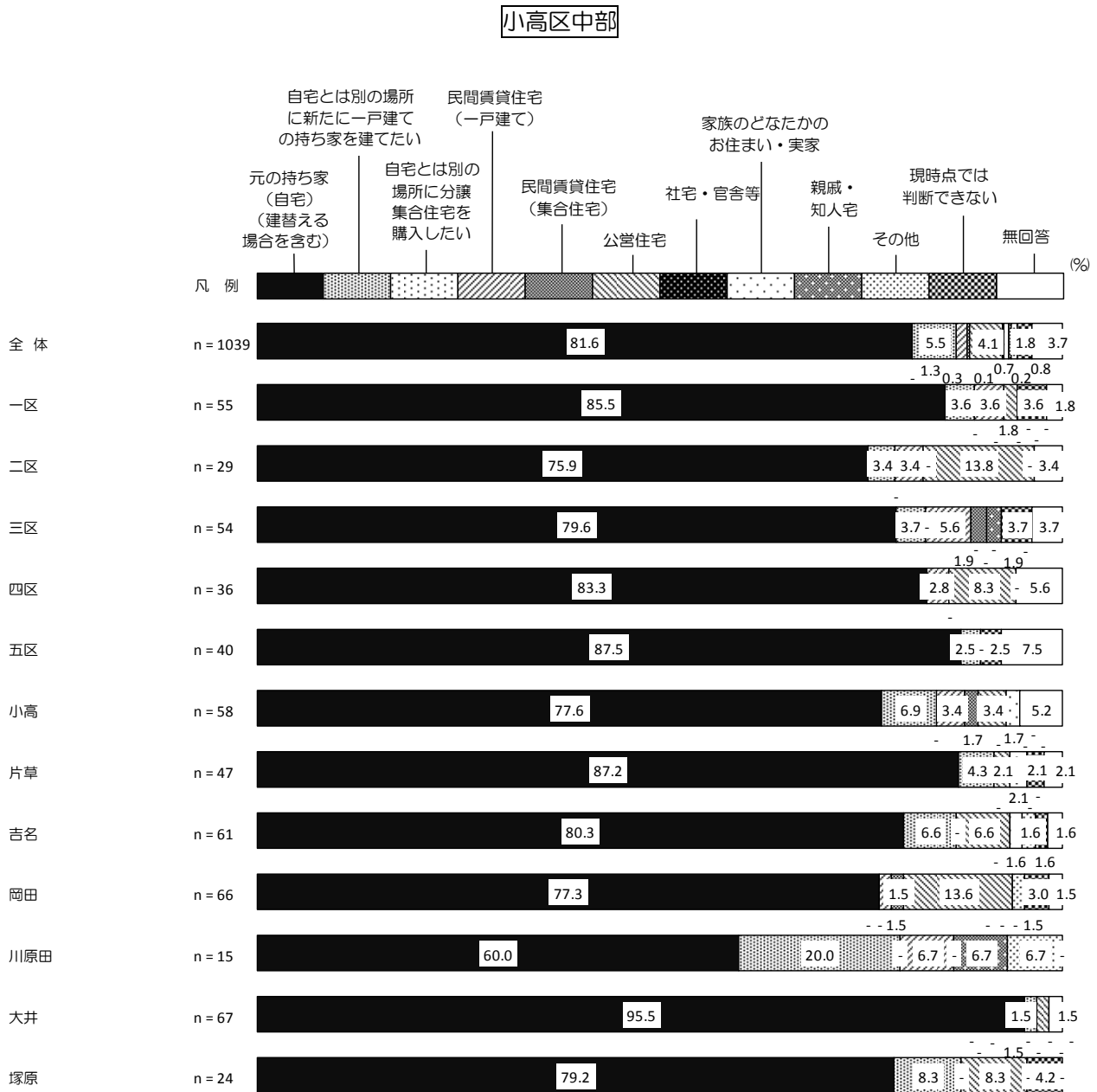
＜図表3-2-5-2 帰還する場合の住居形態（世帯主の年齢別）＞



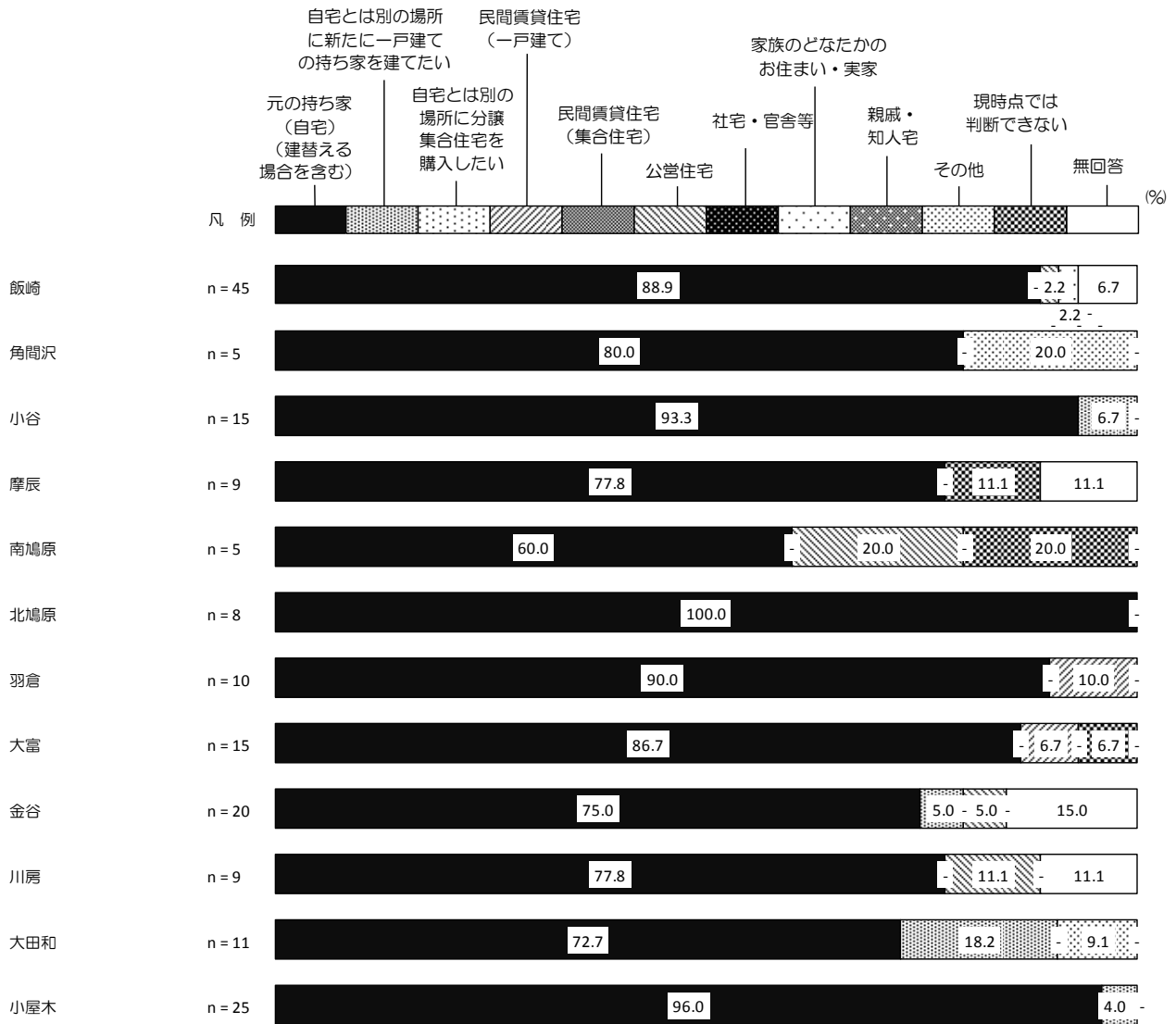
III 調査結果

震災発生時の居住行政区別では、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」が、概ねいずれの行政区でも最も多くなっている。

<図表3-2-5-3 帰還する場合の住居形態（居住行政区別）>

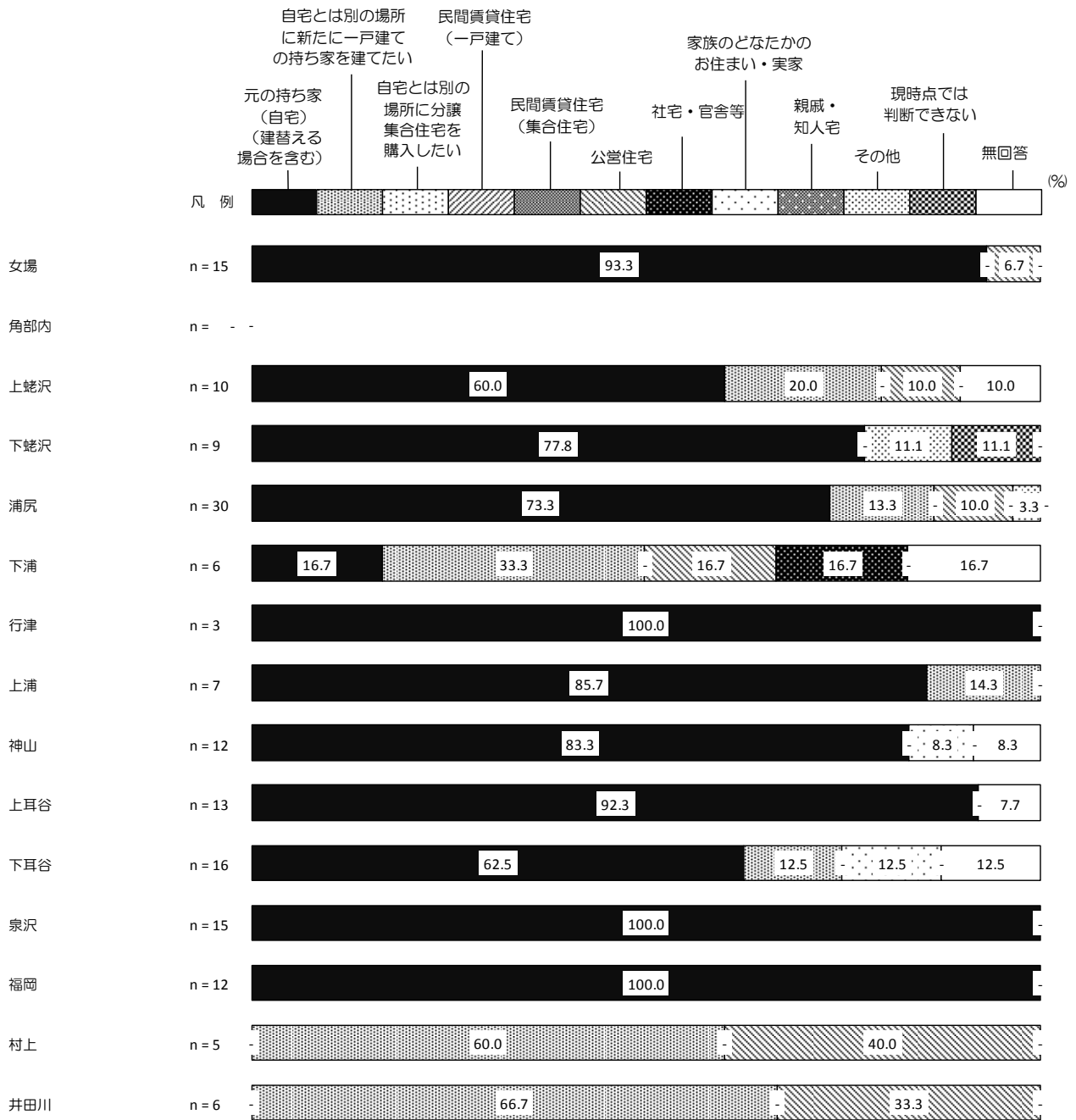


小高区西部

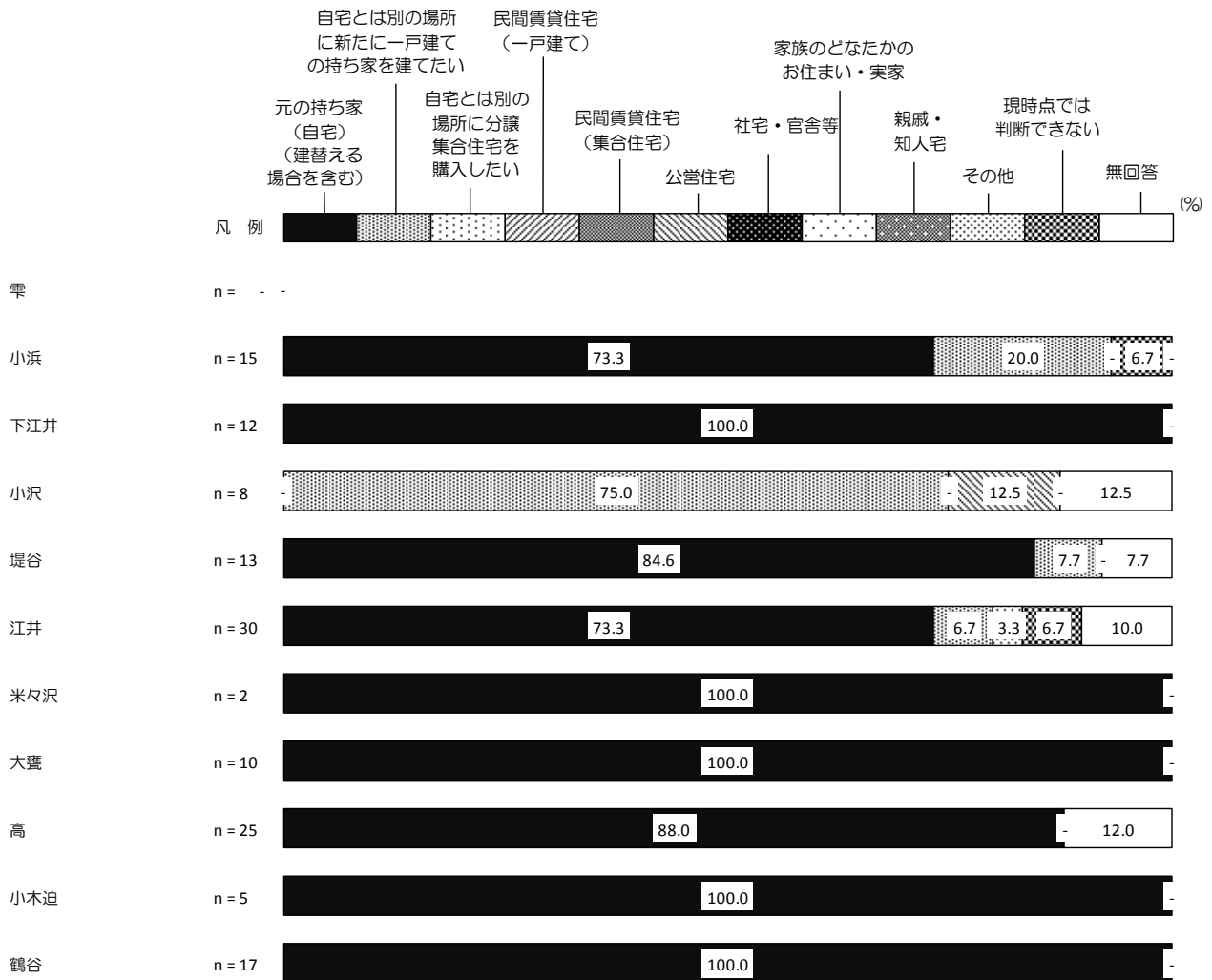


III 調査結果

小高区東部



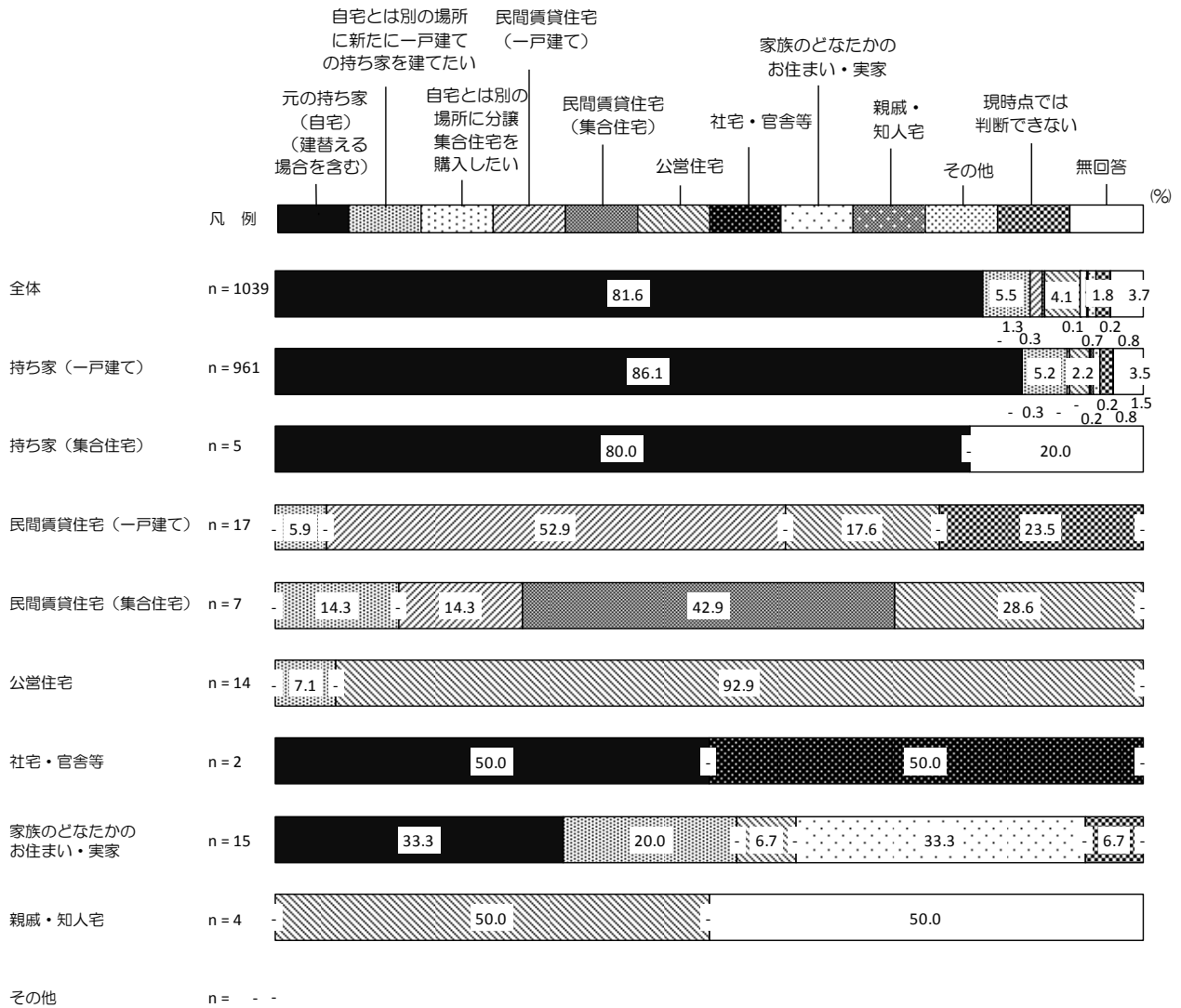
原町区



III 調査結果

震災発生時の住居形態別にみると、当時持ち家（一戸建て）だった方の9割弱が「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」を希望している。

＜図表3-2-5-4 帰還する場合の住居形態（震災発生当時の住居形態別）＞



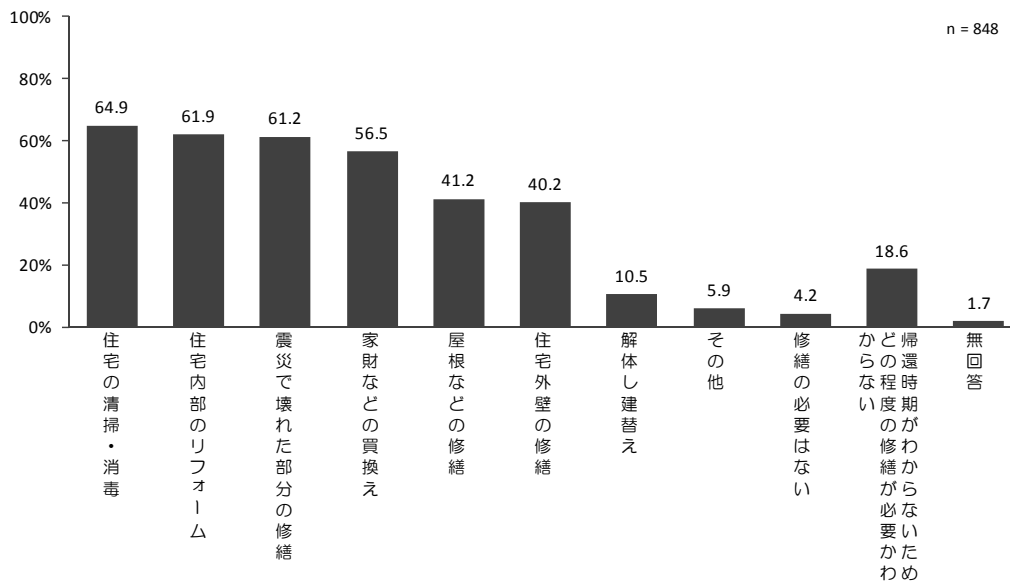
3-2-6 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕

【問 11-3 で「1.元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 11-4 元の持ち家に戻る場合、ご自宅に対してどのような修繕などが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

元の持ち家に戻る場合に必要な修繕について、「住宅の清掃・消毒」（64.9%）が最も多く、次いで「住宅内部のリフォーム」（61.9%）、「震災で壊れた部分の修繕」（61.2%）となっている。

<図表 3-2-6-1 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕>



Ⅲ 調査結果

震災発生時の居住行政区別にみると、「住宅内部のリフォーム」では小谷、「震災で壊れた部分の修繕」は、塚原、川原田、「屋根などの修繕」は塚原、金谷で他の居住行政区に比べ多くなっている。

＜図表3-2-6-2 元の持ち家に戻る場合に必要修繕（居住行政区別）＞

小高区中部・西部

	n	住宅の清掃・消毒	住宅内部のリフォーム	震災で壊れた部分の修繕	家財などの買換え	屋根などの修繕	住宅外壁の修繕	解体し建替え	その他	修繕の必要はない	帰還時期がわからないためなどの修繕が必要かわからない	無回答 (%)
全体	848	64.9	61.9	61.2	56.5	41.2	40.2	10.5	5.9	4.2	18.6	1.7
一区	47	66.0	72.3	57.4	59.6	40.4	44.7	6.4	4.3	-	25.5	2.1
二区	22	77.3	77.3	72.7	54.5	45.5	45.5	4.5	13.6	4.5	18.2	-
三区	43	76.7	67.4	60.5	48.8	34.9	41.9	9.3	11.6	2.3	20.9	2.3
四区	30	73.3	56.7	46.7	70.0	33.3	36.7	6.7	6.7	6.7	23.3	-
五区	35	77.1	77.1	60.0	68.6	37.1	54.3	8.6	11.4	2.9	17.1	-
小高	45	75.6	75.6	73.3	66.7	37.8	35.6	11.1	8.9	-	28.9	2.2
片草	41	58.5	48.8	51.2	46.3	31.7	26.8	17.1	9.8	4.9	19.5	2.4
吉名	49	63.3	46.9	57.1	51.0	32.7	26.5	14.3	2.0	6.1	12.2	4.1
岡田	51	68.6	56.9	78.4	56.9	37.3	41.2	3.9	5.9	3.9	21.6	2.0
川原田	9	22.2	66.7	66.7	77.8	44.4	55.6	11.1	-	-	-	-
大井	64	53.1	60.9	65.6	48.4	45.3	37.5	12.5	3.1	3.1	18.8	-
塚原	19	73.7	78.9	84.2	89.5	68.4	73.7	10.5	10.5	-	5.3	-
飯崎	40	72.5	70.0	50.0	70.0	50.0	42.5	17.5	5.0	2.5	15.0	-
角間沢	4	25.0	25.0	75.0	50.0	25.0	25.0	-	-	-	25.0	-
小谷	14	71.4	85.7	42.9	42.9	28.6	35.7	-	-	7.1	21.4	-
摩辰	7	71.4	57.1	57.1	57.1	42.9	42.9	14.3	-	-	42.9	-
南鳩原	3	100.0	100.0	66.7	66.7	33.3	66.7	-	-	-	-	-
北鳩原	8	50.0	50.0	37.5	37.5	25.0	12.5	25.0	-	-	50.0	-
羽倉	9	66.7	55.6	66.7	55.6	33.3	33.3	11.1	-	-	22.2	-
大富	13	53.8	61.5	46.2	30.8	30.8	61.5	15.4	-	7.7	7.7	7.7
金谷	15	73.3	66.7	60.0	66.7	60.0	53.3	6.7	6.7	-	20.0	-
川尻	7	71.4	57.1	42.9	57.1	14.3	28.6	-	-	-	14.3	14.3
大田和	8	62.5	50.0	87.5	50.0	25.0	50.0	-	-	-	12.5	-
小屋木	24	66.7	75.0	54.2	75.0	54.2	41.7	4.2	8.3	12.5	8.3	-

小高区東部・原町区

		(%)										
	n	住宅の清掃・消毒	住宅内部のリフォーム	震災で壊れた部分の修繕	家財などの買換え	屋根などの修繕	住宅外壁の修繕	解体し建替え	その他	修繕の必要はない	程度がわからないため	無回答
女場	14	42.9	42.9	42.9	35.7	57.1	7.1	14.3	14.3	14.3	7.1	14.3
角部内	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上姥沢	6	66.7	50.0	50.0	50.0	16.7	16.7	-	-	33.3	50.0	-
下姥沢	7	71.4	28.6	42.9	57.1	14.3	14.3	28.6	14.3	-	28.6	-
浦尻	22	72.7	68.2	72.7	63.6	72.7	45.5	-	4.5	-	13.6	-
下浦	1	-	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-
行津	3	66.7	33.3	66.7	66.7	-	-	-	-	-	33.3	-
上浦	6	33.3	50.0	83.3	16.7	33.3	50.0	16.7	-	-	16.7	-
神山	10	60.0	40.0	70.0	60.0	30.0	40.0	10.0	-	10.0	20.0	-
上耳谷	12	25.0	33.3	66.7	25.0	16.7	25.0	-	16.7	8.3	25.0	-
下耳谷	10	60.0	50.0	70.0	60.0	60.0	50.0	10.0	-	10.0	30.0	-
泉沢	15	60.0	53.3	33.3	66.7	40.0	40.0	20.0	-	6.7	20.0	6.7
福岡	12	75.0	66.7	75.0	58.3	58.3	75.0	25.0	-	-	-	-
村上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
井田川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
雫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小浜	11	54.5	63.6	36.4	36.4	18.2	18.2	9.1	-	18.2	9.1	9.1
下江井	12	66.7	66.7	66.7	83.3	50.0	66.7	8.3	-	8.3	16.7	-
小沢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
堤谷	11	54.5	36.4	45.5	36.4	45.5	27.3	9.1	9.1	-	18.2	9.1
江井	22	72.7	63.6	63.6	59.1	63.6	45.5	9.1	4.5	-	36.4	-
米々沢	2	50.0	-	-	50.0	-	-	50.0	-	50.0	-	-
大甕	10	60.0	70.0	70.0	50.0	40.0	30.0	40.0	-	-	-	-
高	22	54.5	72.7	72.7	63.6	50.0	50.0	18.2	-	-	9.1	-
小木迫	5	60.0	60.0	60.0	20.0	60.0	40.0	-	20.0	-	20.0	-
鶴谷	17	64.7	64.7	64.7	47.1	17.6	35.3	-	23.5	5.9	17.6	-

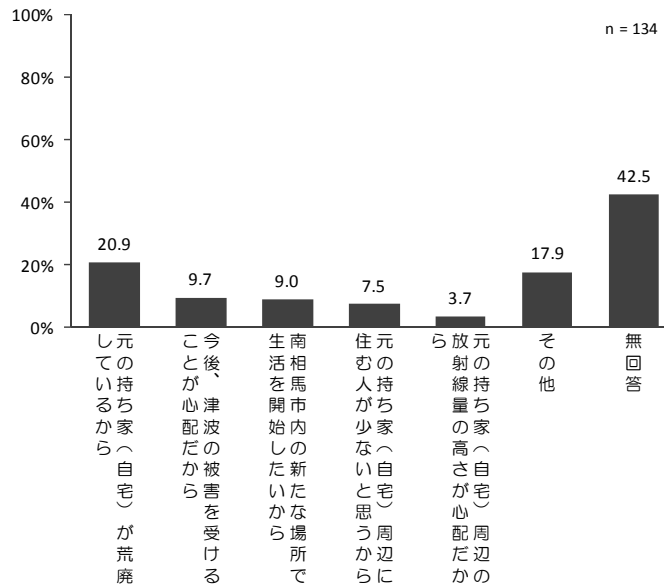
3-2-7 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問 11-3 で「2」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 11-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。

帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由について、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」（20.9%）が最も多く、次いで「今後、津波の被害を受けることが心配だから」（9.7%）、「南相馬市内の新たな場所で生活を開始したいから」（9.0%）となっている。

＜図表 3-2-7-1 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由＞



震災発生時の居住行政区別では、調査該当数が稀少のため、参考値としての掲載とする。

<図表3-2-7-2 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由（居住行政区別）>

小高区中部・西部

	n	理由							無回答
		元の持ち家（自宅）が荒廃しているから	今後、津波の被害を受けると心配だから	南相馬市内の新たな場所での生活を開始したいから	元人が少ないと思うから	元の持ち家（自宅）周辺に放射線量の高さが心配だから	元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから	その他	
全体	134	20.9	9.7	9.0	7.5	3.7	17.9	42.5	
一区	5	20.0	-	-	-	-	-	80.0	
二区	6	33.3	-	16.7	33.3	-	-	33.3	
三区	7	42.9	-	-	-	-	-	57.1	
四区	4	-	-	-	25.0	-	25.0	50.0	
五区	1	-	-	100.0	-	-	-	-	
小高	10	20.0	-	-	-	10.0	10.0	60.0	
片草	4	25.0	-	-	-	-	25.0	50.0	
吉名	10	30.0	-	20.0	10.0	-	10.0	40.0	
岡田	12	16.7	-	8.3	-	-	8.3	66.7	
川原田	6	16.7	16.7	16.7	-	-	33.3	16.7	
大井	2	-	-	-	-	-	-	100.0	
塚原	4	25.0	50.0	-	-	-	-	50.0	
飯崎	2	-	-	-	-	-	-	100.0	
角間沢	1	-	-	-	-	-	-	100.0	
小谷	1	100.0	-	-	-	-	-	-	
摩辰	-	-	-	-	-	-	-	-	
南鳩原	1	-	-	-	-	-	100.0	-	
北鳩原	-	-	-	-	-	-	-	-	
羽倉	1	-	-	-	-	-	-	100.0	
大富	1	-	-	-	-	-	-	100.0	
金谷	2	-	-	-	50.0	50.0	-	50.0	
川尻	1	-	-	-	-	-	-	100.0	
大田和	3	66.7	-	33.3	33.3	66.7	33.3	33.3	
小屋木	1	-	-	-	-	100.0	-	-	

小高区東部・原町区

	n	%							
		元の持ち家（自宅）が荒廃しているから	今後、津波の被害を受けるところが心配だから	南相馬市内の新たな場所です	元が少くないと思うから	元の持ち家（自宅）周辺に住む	射線量の高さが心配だから	元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから	その他
女場	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
角部内	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上姥沢	3	100.0	33.3	-	-	-	-	-	-
下姥沢	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
浦尻	8	-	12.5	12.5	-	-	-	50.0	25.0
下浦	4	50.0	25.0	25.0	25.0	-	-	25.0	25.0
行津	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上浦	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-
神山	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0
上耳谷	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下耳谷	4	25.0	-	-	-	-	-	25.0	50.0
泉沢	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
村上	5	20.0	20.0	-	40.0	-	-	20.0	40.0
井田川	6	16.7	16.7	33.3	-	-	-	33.3	-
雲	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小浜	3	-	66.7	-	-	-	-	-	33.3
下江井	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小沢	7	14.3	14.3	-	14.3	-	-	42.9	14.3
堤谷	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-
江井	3	-	33.3	-	-	-	-	33.3	33.3
米々沢	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大鷲	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小木迫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鶴谷	-	-	-	-	-	-	-	-	-

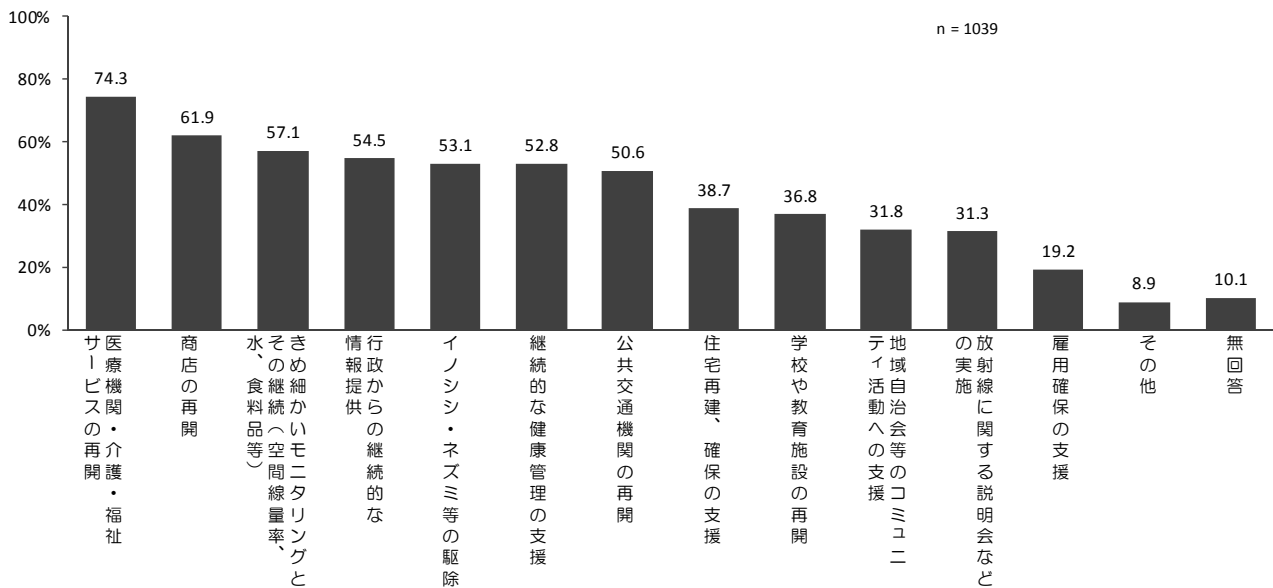
3-2-8 帰還する場合に望む支援

【問 11 で「1. 現時点で戻ることを決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-6 戻る場合に行政にどのような支援を望みますか。(〇はいくつでも)

帰還する場合に望む支援について、「医療機関・介護・福祉サービスの再開」(74.3%)が最も多く、次いで「商店の再開」(61.9%)、「きめ細かいモニタリングとその継続(空間線量率、水、食料品等)」(57.1%)となっている。

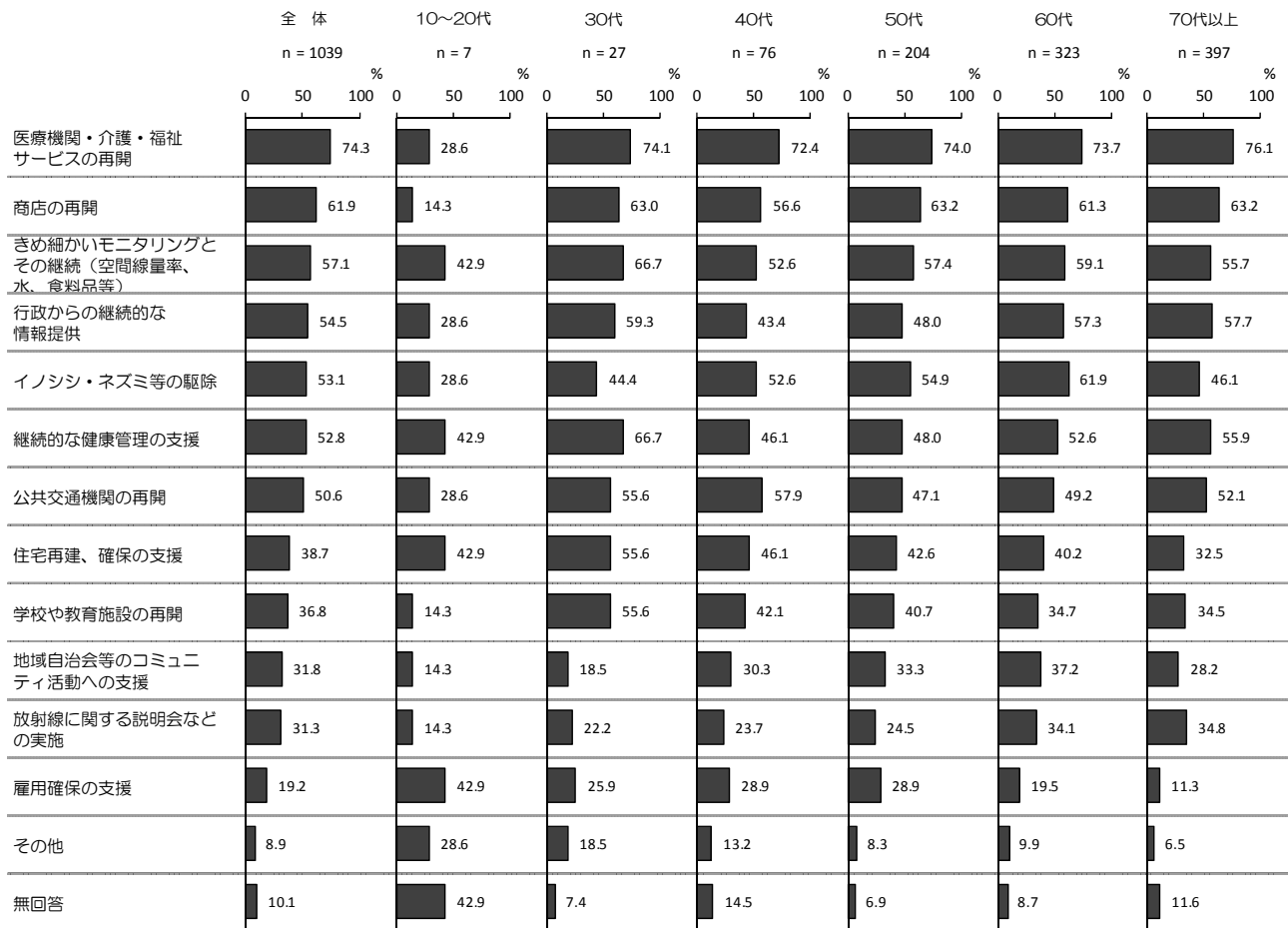
<図表3-2-8-1 帰還する場合に望む支援>



Ⅲ 調査結果

世帯主の年齢別にみると、30代では「きめ細かいモニタリングとその継続（空間線量率、水、食料品等）」（66.7%）、「継続的な健康管理の支援」（66.7%）、「住宅建設、確保の支援」（55.6%）、「学校や教育施設の再開」（55.6%）が他の年齢層に比べて多くなっている。また、「放射線に関する説明会などの実施」は60代以上で3割超と多い。

＜図表3-2-8-2 帰還する場合に望む支援（世帯主の年齢別）＞



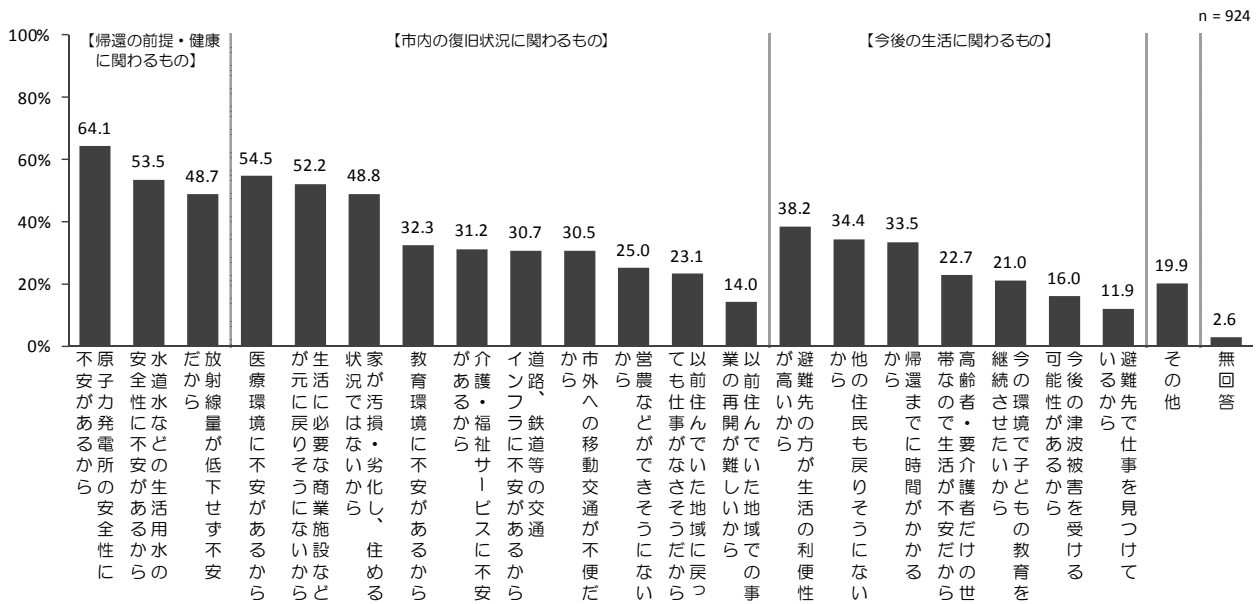
3-2-9 現時点で戻らないと決めている理由

【問 11 で「3.現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-7 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由について、「原子力発電所の安全性に不安があるから」(64.1%)が最も多く、次いで「医療環境に不安があるから」(54.5%)、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」(53.5%)など、帰還の前提・健康にかかわる理由が多くなっている。

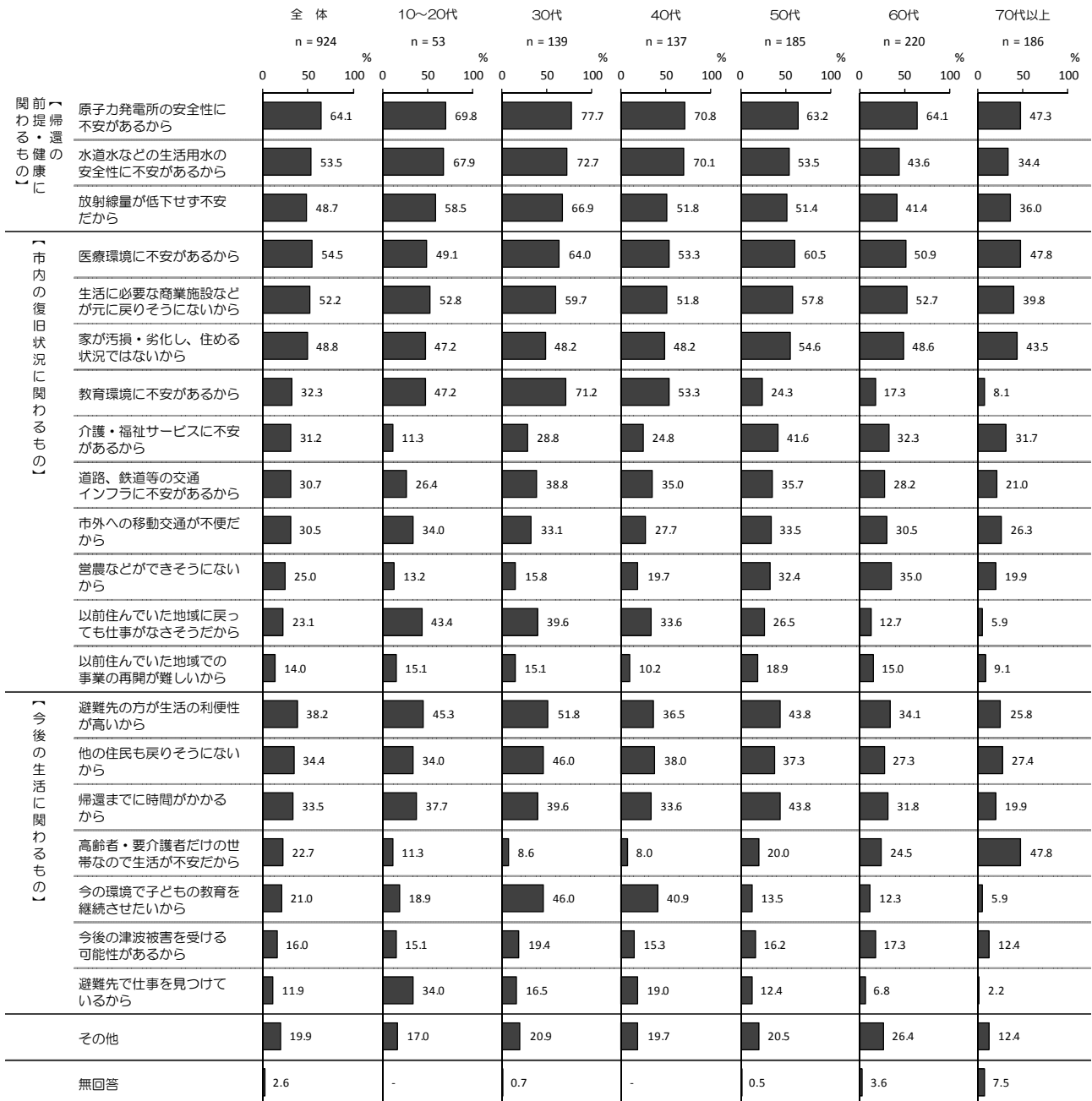
＜図表 3-2-9-1 現時点で戻らないと決めている理由＞



Ⅲ 調査結果

世帯主の年齢別にみると、帰還の前提・健康にかかわる項目では、低年齢層ほど割合が高くなっている。また、30代～40代では、「医療環境に不安があるから」「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」が多く、50代以上では「介護・福祉サービスに不安があるから」、70代以上では「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」で、他の年齢層に比べ割合が高い。

＜図表3-2-9-2 現時点で戻らないと決めている理由（世帯主の年齢別）＞



3-2-10 帰還しない場合に居住したい自治体

(1) 帰還しない場合の居住予定

【問 11 で「3.現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

(1) 現在のお住まいの自治体にそのまま居住されるご予定ですか。(〇は1つ)

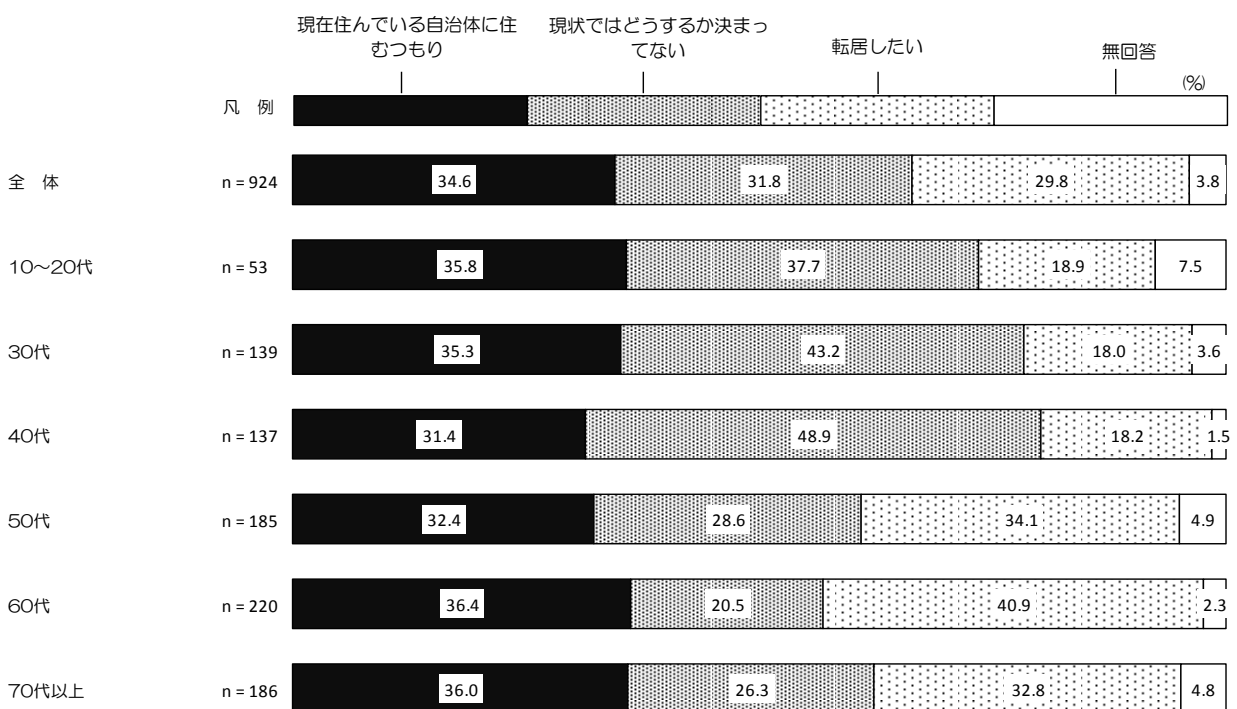
帰還しない場合に居住したい自治体について、「現在住んでいる自治体に住むつもり」「転居したい」がともに3割前後と拮抗しており、「現状ではどうするか決まってない」人も31.8%となっている。

＜図表3-2-10-1 帰還しない場合の居住予定＞



年齢別にみると、10～40代では「現状ではどうするか決まってない」割合が最も多くなっているが、60代では「転居したい」が40.9%と他の年齢層に比べ多くなっている。

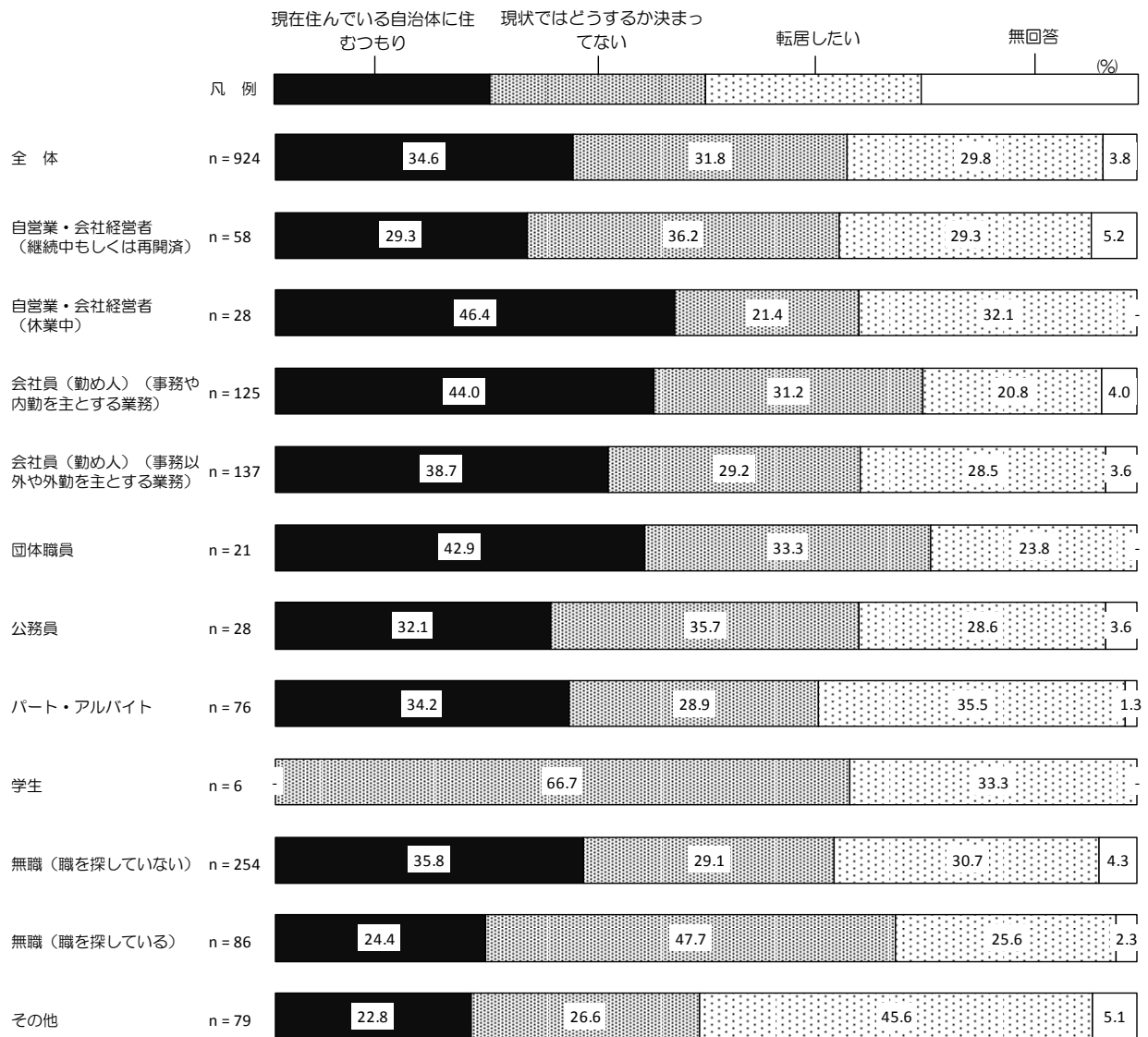
＜図表3-2-10-2 帰還しない場合の居住予定（世帯主の年齢別）＞



III 調査結果

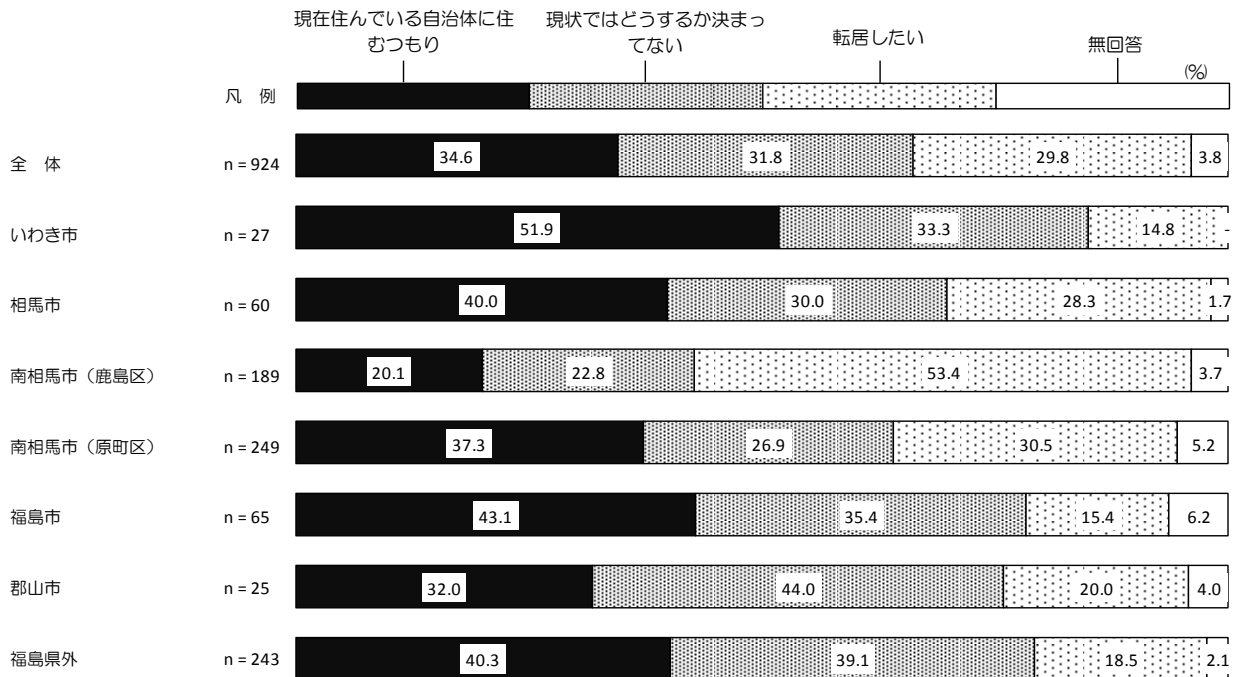
現在の職業別にみると、「現在住んでいる自治体に住むつもり」の方は、自営業・会社経営者（休業中）、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）、団体職員で4割以上と多い。

<図表3-2-10-3 帰還しない場合の居住予定（現在の職業別）>



主な避難先自治体別では、いわき市で「現在住んでいる自治体に住むつもり」が過半数となっている一方、南相馬市（鹿島区）では「転居したい」が53.4%と多い。

<図表3-2-10-4 帰還しない場合の居住予定（避難先自治体別）>



Ⅲ 調査結果

(2) 転居を希望する自治体

【問 11 で「3.現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

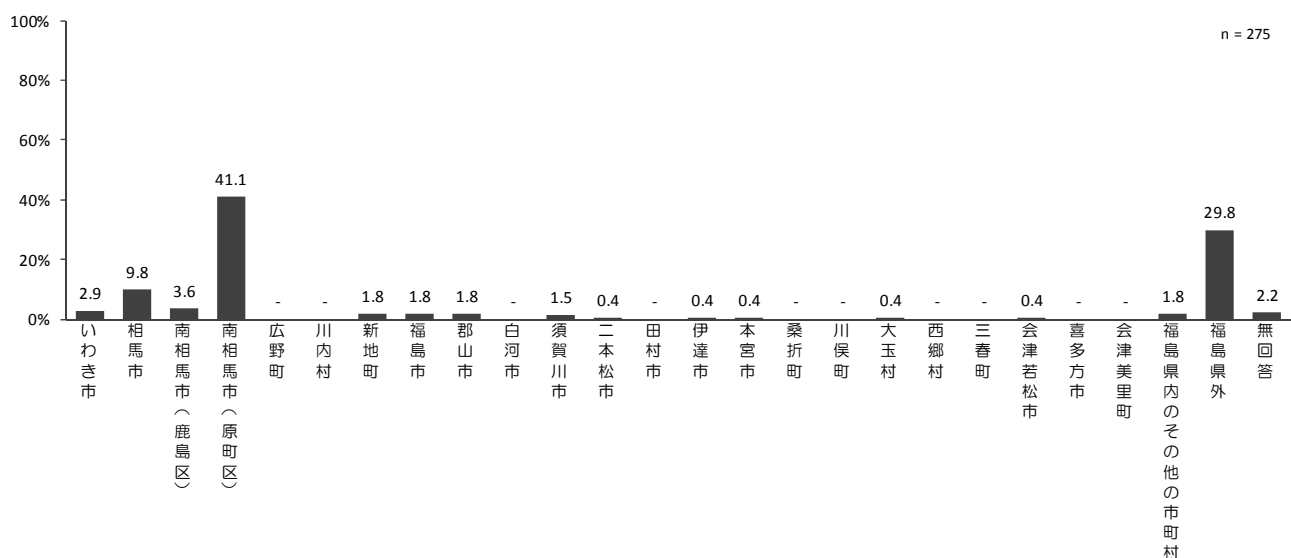
問 11-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

【問 11-8(1)で「3.転居したい」と回答した方にうかがいます。】

(2) 転居を希望される自治体を教えてください。(〇は1つ)

転居を希望する自治体について、「南相馬市(原町区)」(41.1%)が最も多く、次いで「福島県外」(29.8%)、「相馬市」(9.8%)となっている。

<図表3-2-10-5 転居を希望する自治体>



主な避難先自治体別にみると、南相馬市（鹿島区）に避難している世帯では「南相馬市（原町区）」を希望する割合が6割以上と高くなっている。

なお、参考として、帰還しない場合の居住予定（問11-8(1)）で「現在住んでいる自治体に住むつもり」とした世帯について、現在の避難先自治体（問8）の回答を合算して集計した結果が<図表3-2-10-7>下の表である。これをみると、現在いわき市に避難している世帯のうち8割弱がそのまま「いわき市」に、現在南相馬市（原町区）に避難している世帯のうち8割弱がそのまま「南相馬市（原町区）」を希望していることがわかる。

<図表3-2-10-6 転居を希望する自治体（避難先自治体別）>

	n	いわき市	相馬市	南相馬市（鹿島区）	南相馬市（原町区）	広野町	川内村	新地町	福島市	郡山市	白河市	須賀川市	二本松市	田村市	伊達市	本宮市	桑折町	川俣町	大玉村	西郷村	三春町	会津若松市	喜多方市	会津美里町	福島県内のその他の市町村	福島県外	無回答	
全体	275	2.9	9.8	3.6	41.1	-	-	1.8	1.8	1.8	-	1.5	0.4	-	0.4	0.4	-	-	0.4	-	-	0.4	-	-	-	1.8	29.8	2.2
いわき市	4	-	-	-	50.0	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相馬市	17	5.9	17.6	-	23.5	-	-	17.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35.3	-	
南相馬市（鹿島区）	101	1.0	14.9	7.9	62.4	-	-	2.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	1.0	6.9	1.0	
南相馬市（原町区）	76	2.6	11.8	1.3	51.3	-	-	-	-	-	-	1.3	-	-	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26.3	3.9	
福島市	10	10.0	-	-	-	-	-	-	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10.0	-	-	-	40.0	-	
郡山市	5	-	-	-	-	-	-	-	-	40.0	-	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	20.0	
福島県外	45	4.4	-	2.2	2.2	-	-	-	2.2	-	-	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.4	82.2	-	

<図表3-2-10-7 転居を希望する自治体（避難先自治体別）>

※問11-8(1)で「現在住んでいる自治体に住むつもり」と回答した世帯も合算した場合

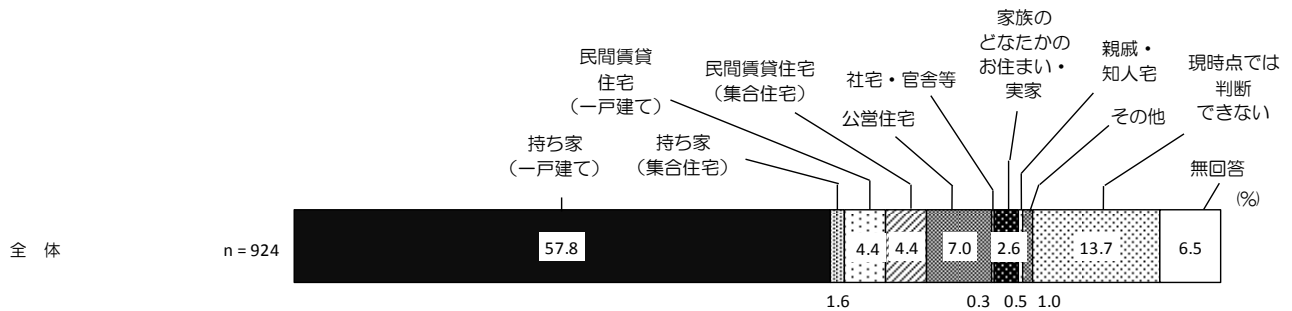
	n	いわき市	相馬市	南相馬市（鹿島区）	南相馬市（原町区）	広野町	川内村	新地町	福島市	郡山市	白河市	須賀川市	二本松市	田村市	伊達市	本宮市	桑折町	川俣町	大玉村	西郷村	三春町	会津若松市	喜多方市	会津美里町	福島県内のその他の市町村	福島県外	無回答	
全体	595	3.7	8.6	8.1	34.6	-	-	1.5	5.5	2.2	-	0.8	0.2	0.2	0.5	0.2	-	-	0.2	0.2	-	0.2	0.2	-	-	1.0	30.3	2.0
いわき市	18	77.8	-	-	11.1	-	-	-	-	5.6	-	-	-	-	-	5.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相馬市	41	2.4	65.9	-	9.8	-	-	7.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14.6	-	
南相馬市（鹿島区）	139	0.7	10.8	33.1	45.3	-	-	1.4	-	0.7	-	0.7	-	-	-	-	-	-	0.7	-	-	-	-	-	0.7	5.0	0.7	
南相馬市（原町区）	169	1.2	5.3	0.6	78.1	-	-	-	-	-	-	0.6	-	-	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.8	1.8	
福島市	38	2.6	-	-	-	-	-	-	84.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.6	-	-	-	10.5	-	
郡山市	13	-	-	-	-	-	-	-	-	76.9	-	7.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.7	7.7	
福島県外	143	1.4	-	0.7	0.7	-	-	-	0.7	-	-	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.4	94.4	-	

3-2-11 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態

【問 11 で「3.現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問 11-9 転居する場合に、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

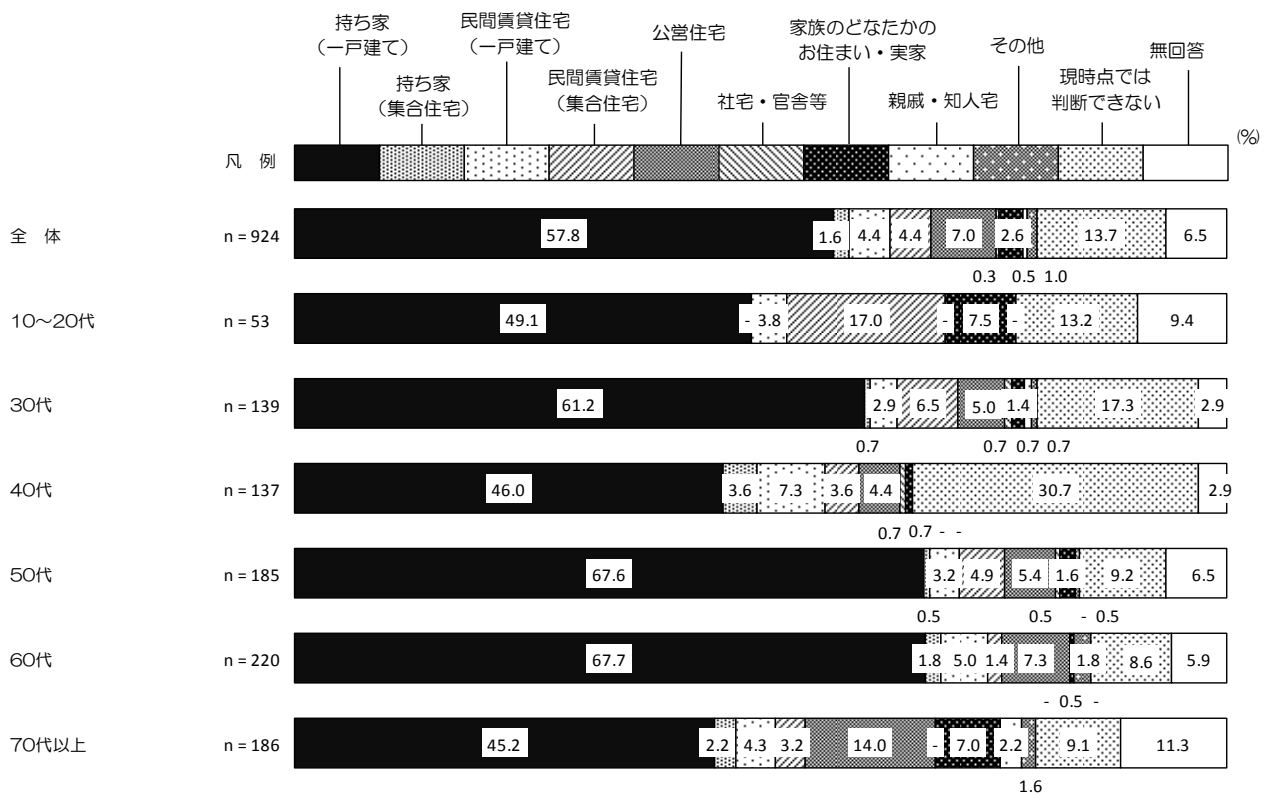
帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態について、「持ち家（一戸建て）」（57.8%）が最も多く、過半数となっている。

<図表3-2-11-1 転居する場合の住居形態>



世帯主の年齢別にみると、「持ち家（一戸建て）」がいずれの年齢層でも最も多くなっているが、10~20代では「民間賃貸住宅（集合住宅）」（17.0%）、70代以上では「公営住宅」（14.0%）の割合が他の年齢層に比べて高い。

<図表3-2-11-2 転居する場合の住居形態（世帯主の年齢別）>



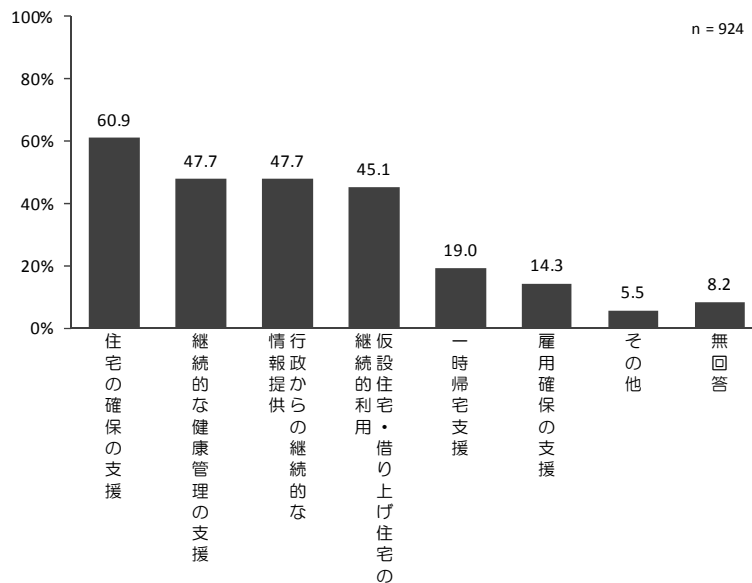
3-2-12 帰還しない場合に今後の生活において求める支援

【問 11 で「3.現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-10 震災時にお住まいの地域に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。
(〇はいくつでも)

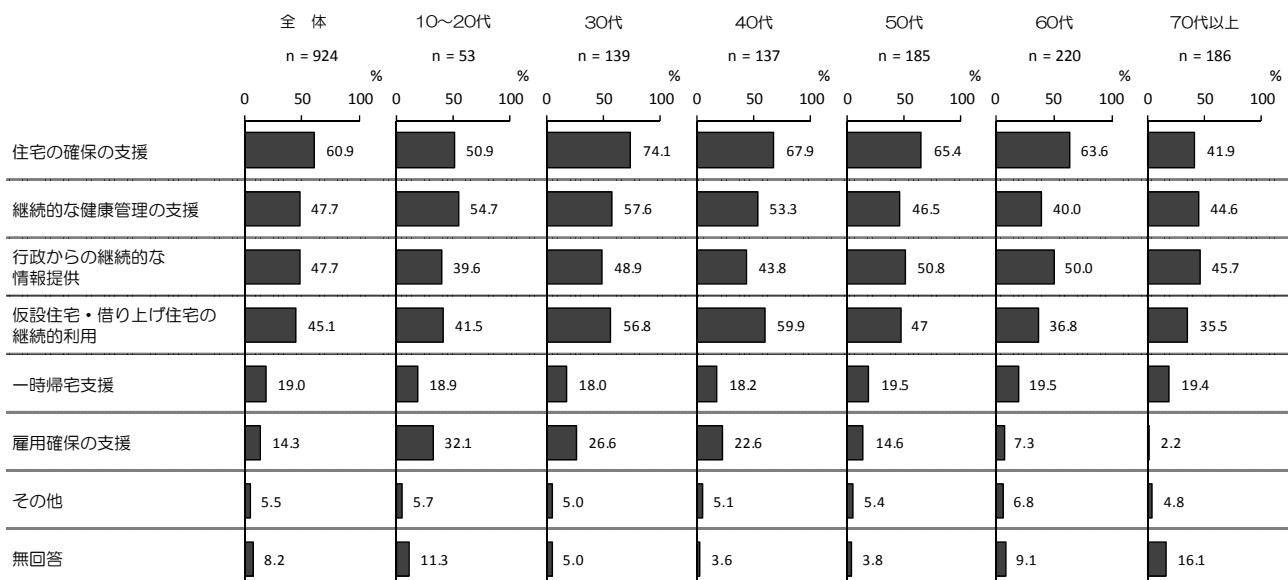
帰還しない場合に今後の生活において求める支援について、「住宅の確保の支援」(60.9%)が最も多く、次いで「継続的な健康管理の支援」(47.7%)、「行政からの継続的な情報提供」(47.7%)となっている。

<図表3-2-12-1 帰還しない場合に今後の生活において求める支援>



年齢別にみると、30代では、「住宅の確保の支援」(74.1%)が7割以上と多く、「継続的な健康管理の支援」は40代以下、「仮設住宅・借上げ住宅の継続的利用」は30~40代で過半数となっている。また、「雇用確保の支援」は10~20代で3割以上と他の年齢層に比べて多い。

<図表3-2-12-2 帰還しない場合に今後の生活において求める支援(世帯主の年齢別)>



3-2-13 小学生・中学生の同居

問 12 現在同居している家族の中に、小学生、中学生のお子さん（お孫さん）がいますか。（〇は1つ）

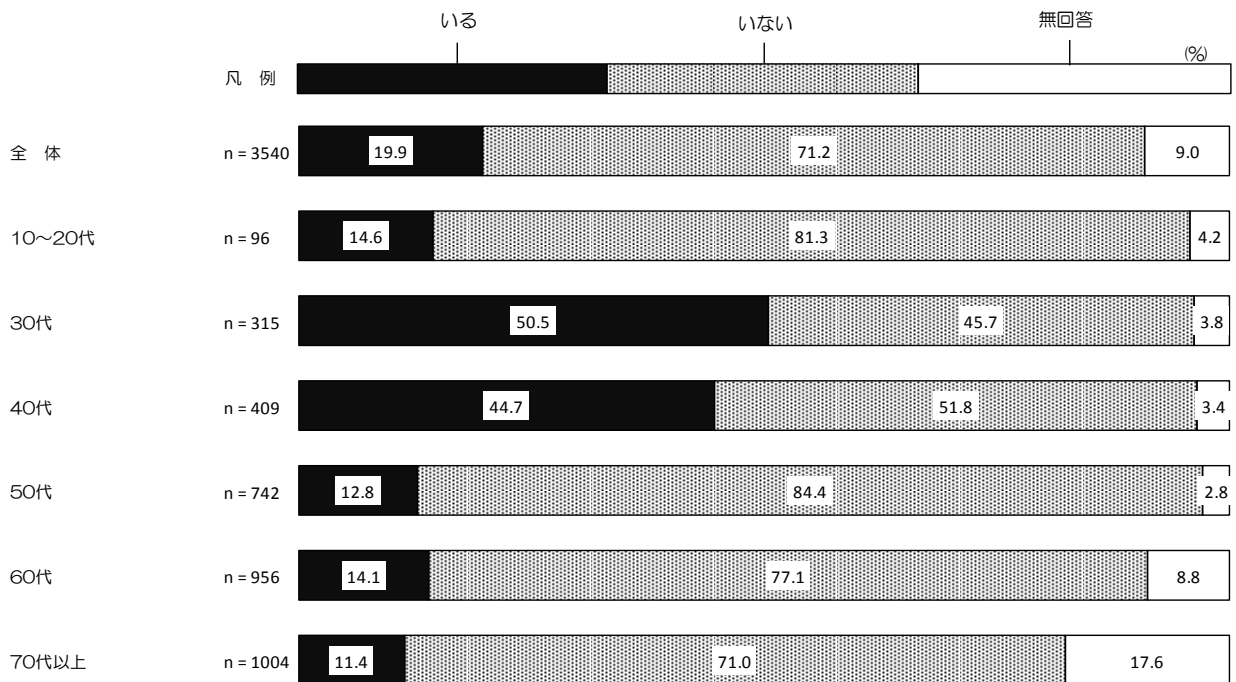
現在同居している家族の中に、小学生、中学生のお子さん（お孫さん）がいるかについては、「いない」が71.2%、「いる」人は全体の約2割となっている。

<図表3-2-13-1 小学生・中学生の同居>



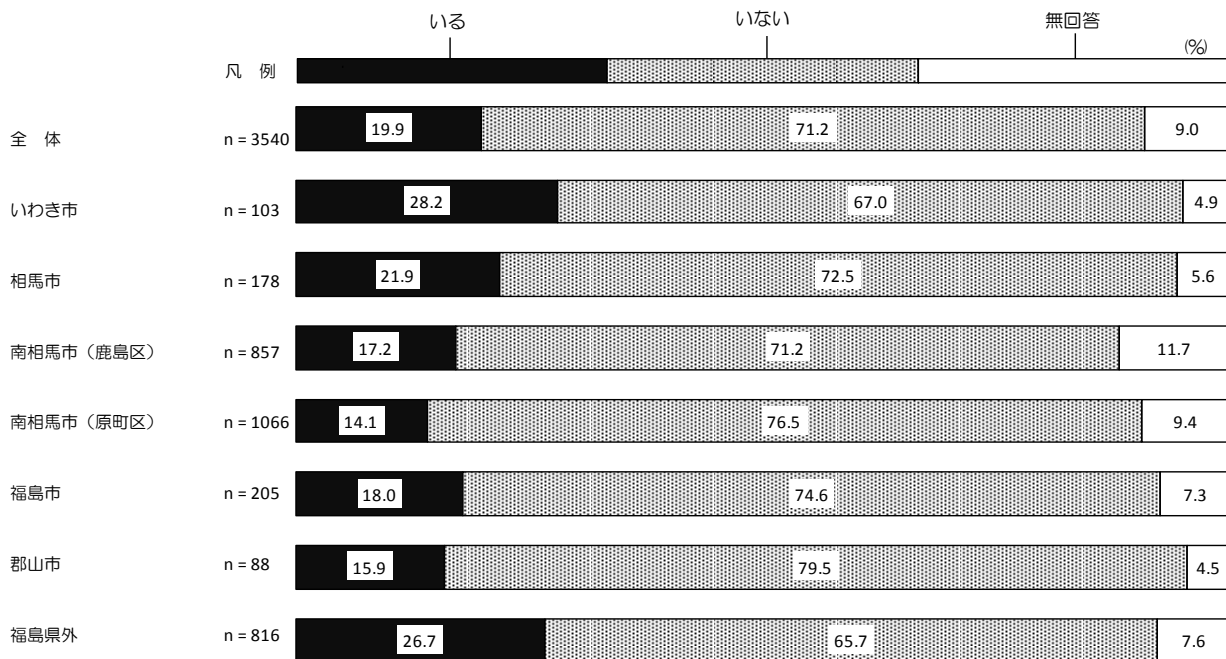
世帯主の年齢別にみると、30~40代で「いる」割合が4~5割と多い。

<図表3-2-13-2 小学生・中学生の同居（世帯主の年齢別）>



主な避難先自治体別では、避難先がいわき市、相馬市、福島県外の方は「いる」割合が2割以上と、他の自治体に比べて多くなっている。

<図表3-2-13-3 小学生・中学生の同居（避難先自治体別）>



3-2-14 小学生・中学生の通学地域の意向

【問 12 で「1.いる」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 お子さん（お孫さん）は今後、どちらの小学校、中学校に通わせたいとお考えですか。
（〇は1つ）

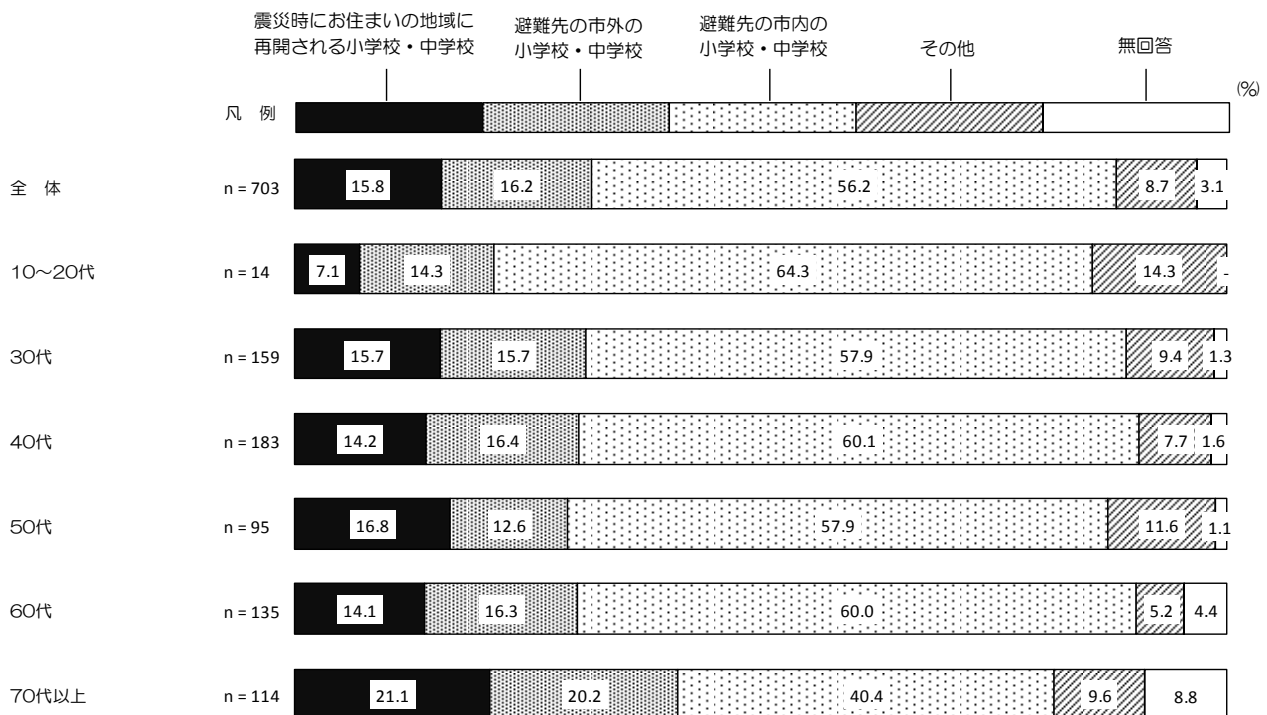
小学生・中学生の通学地域の意向については、「避難先の市内の小学校・中学校」（56.2%）が過半数を占め、「震災時にお住まいの地域に再開される小学校・中学校」を希望する方は 15.8%にとどまっている。

<図表3-2-14-1 小学生・中学生の通学地域の意向>



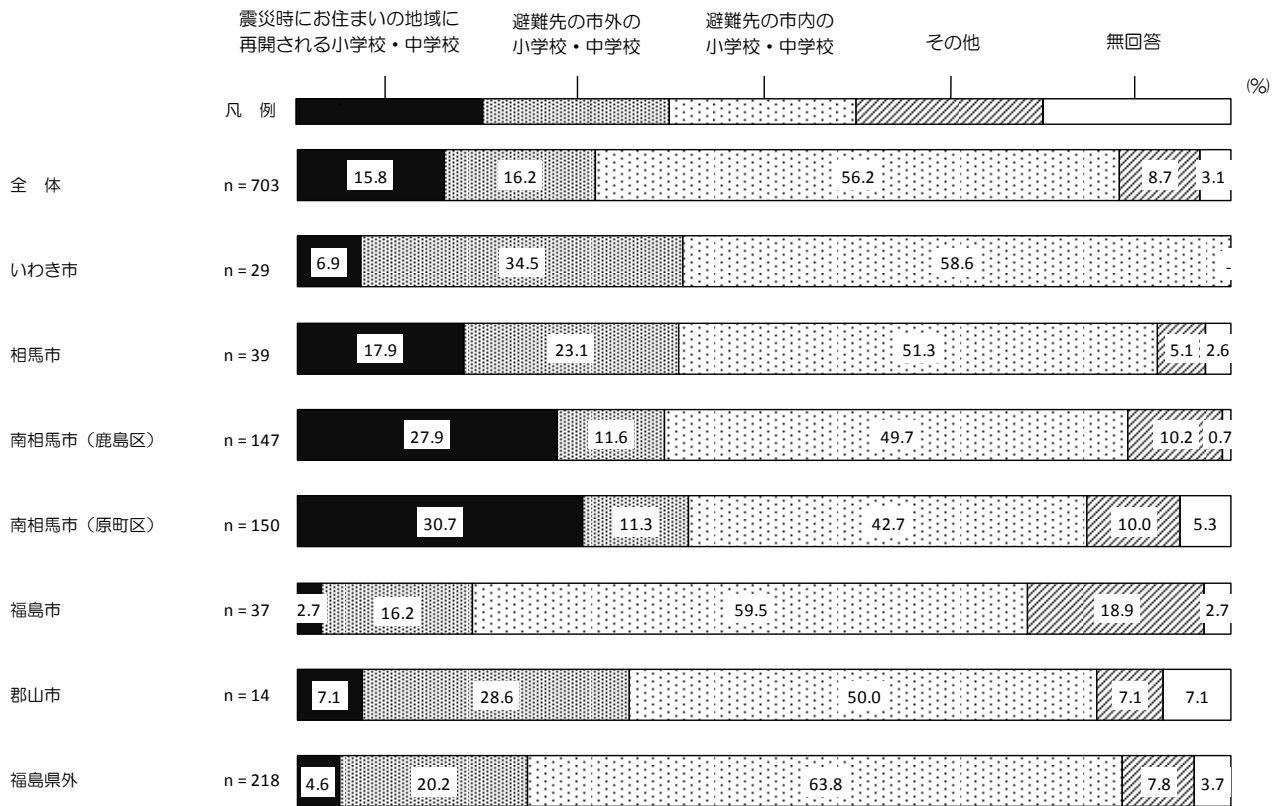
世帯主の年齢別にみると、「避難先の市内の小学校・中学校」がいずれの年齢層でも最も多くなっているが、70代以上では「震災時にお住まいの地域に再開される小学校・中学校」の割合が2割以上と他の年齢層に比べて高くなっている。

<図表3-2-14-2 小学生・中学生の通学地域の意向（世帯主の年齢別）>



主な避難先自治体別では、避難先が南相馬市の方の約3割が「震災時にお住まいの地域に再開される小学校・中学校」としており、他の自治体に比べて割合が高くなっている。

<図表3-2-14-3 小学生・中学生の通学地域の意向（避難先自治体別）>



Ⅲ 調査結果

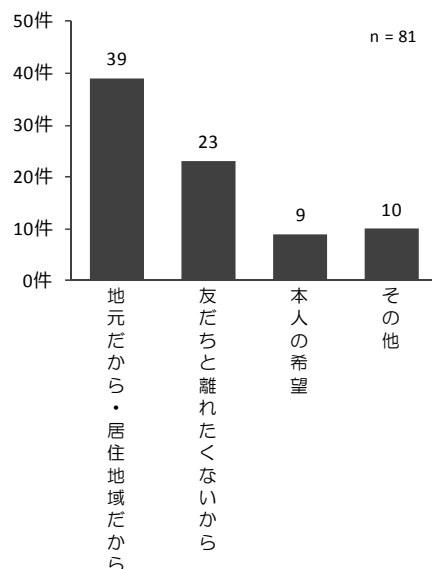
3-2-15 小学生・中学生の通学地域の意向（理由）

問 12-2 問 12-1 でそうお答えになった理由をお書きください。

（1）震災時にお住まいの地域に再開される小学校・中学校に通わせたい理由

震災時にお住まいの地域に再開される小学校・中学校に通わせたい理由については、「地元だから・居住地域だから」が39件と最も多く、次いで「友だちと離れたくないから」（23件）などとなっている。

<図表3-2-15-1 震災時にお住まいの地域に再開される小学校・中学校に通わせたい理由>



上位項目の主な意見は以下の通り。

【地元だから・居住地域だから】

- ・小高区が好きだから。（30代）
- ・やはり本来の行くべき学校へ通わせたい。（30代）
- ・居住する地域の学校に通わせたい。（30代）

【友だちと離れたくないから】

- ・知り合いや友人のいる学校に通わせたいから（子供の精神的負担を減らすため）。（30代）
- ・旧友と離れたくない。人見知りをするので他の学校は考えていない（子供の）。（40代）
- ・友達と別々になるのがいやだから。（50代）
- ・同地区の子どもたちといっしょの学校へ行かせたい。（50代）

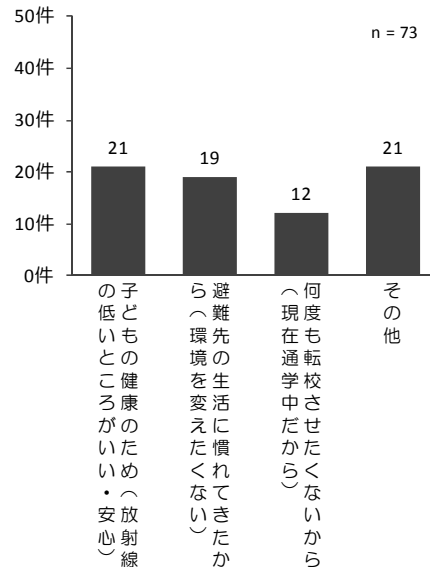
【本人の希望】

- ・子供が転校したくないと言ったから。（40代）
- ・親としては、放射能などの不安から再開される学校に通学させたくないが、子供はもう転校したくないと言うので、仕方なく。（40代）
- ・子供達の意見を尊重して。（30代）

(2) 避難先の市外の小学校・中学校に通わせたい理由

避難先の市外の小学校・中学校に通わせたい理由については、「子どもの健康のため（放射線の低いところがいい・安心）」が21件と最も多く、次いで「避難先の生活に慣れてきたから（環境を変えたくない）」（19件）、「何度も転校させたくない（現在通学中だから）」（12件）などとなっている。

<図表3-2-15-2 避難先の市外の小学校・中学校に通わせたい理由>



上位項目の主な意見は以下の通り。

【子どもの健康のため（放射線の低いところがいい・安心）】

- 放射線量をいつも気にしながら学習・遊びを制限していくのなら、のびのびできる環境で子育てをしたい。（40代）
- 子供の健康を守りたいのと、風評被害が心配。（40代）
- 子どもへの放射能の影響が怖いから。子どもがかわいそう。親として中間貯蔵施設や収束していない原発事故現場に隣接する地域に住む事は無責任だと思う。（30代）
- いくら除染しても放射線が子供には危険だから。（50代）

【避難先の生活に慣れてきたから（環境を変えたくない）】

- 避難先の学校に慣れたから。（50代）
- 避難先の学校で友達ができ、環境を変えたくないから。（30代）
- 友達でき、又学校変えると友達がいないので子供はいやだという。（70代以上）

【何度も転校させたくない（現在通学中だから）】

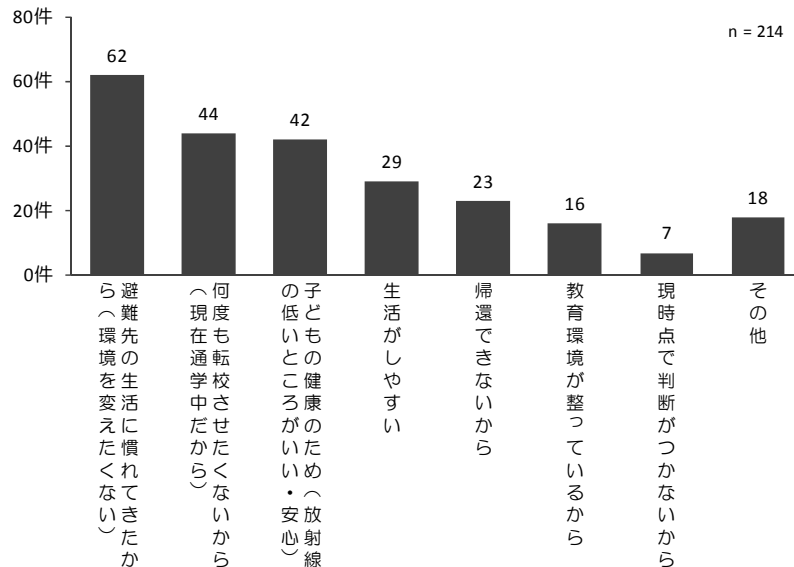
- 現在通学しているため。（40代）
- 途中で転校させるのがかわいそうだから。（30代）
- 今まで何回も転校しているのでこれ以上は避けたい。（40代）

Ⅲ 調査結果

(3) 避難先の市内の小学校・中学校に通わせたい理由

避難先の市内の小学校・中学校に通わせたい理由については、「避難先の生活に慣れてきたから（環境を変えたくない）」が62件と最も多く、次いで「何度も転校させたくないから（現在通学中だから）」（44件）、「子どもの健康のため（放射線の低いところがいい・安心）」（42件）などとなっている。

＜図表3-2-15-3 避難先の市内の小学校・中学校に通わせたい理由＞



上位項目の主な意見は以下の通り。

【避難先の生活に慣れてきたから（環境を変えたくない）】

- 学校生活に慣れ、教育環境が震災前の学校より良いから。（40代）
- 慣れた環境で、いつもの友人達と生活させたい。小高に再開はダメ！（40代）
- 小高の中学校では仮置場も近くにあるし、今現在市内仮設校舎で落ちついている為。（40代）
- 避難生活が2年半にも及び、子供たちも新たな環境になじんでいるため。（30代）

【何度も転校させたくないから（現在通学中だから）】

- 孫が避難先を変えるたび苦労している所があり、同じ所に長くいらればと思う。（60代）
- 子供を何度も転校させてストレスをあたえたくないの、きちんと安全を確認し戻れるようになるまでは転校をさせない。（40代）
- 友達ができて、又移動は可愛そう。原発事故あぶない。（70代以上）
- 子供を、次から次に転校させたくない。子供たちの生活環境、親としての仕事を考えると、当面、今の避難先で考えたい。（30代）

【子どもの健康のため（放射線の低いところがいい・安心）】

- 小高に小さい子供を住ませる気にはならない。（40代）
- 小さい孫の放射線の被曝が心配です。（60代）
- 放射線量が低く生活が便利、友人もでき2度の転校でもう転校したくないと本人が言っている。（50代）
- 震災時の小学校で勉強するには、原発との距離が近すぎる。（30代）
- 放射線に関してまだまだ安全ではないので、子どもたちにとってその環境から少しでも離れて安心して生活できるようにしたいから。また、教育環境も整っていないため。（40代）

3-2-16 将来の希望するまちづくり

問 13 将来、特に旧警戒区域においてどのようなまちづくりを望みますか。
 (それぞれあてはまる番号1つに○)

(1) 新たな産業を積極的に誘致した先進的なまち

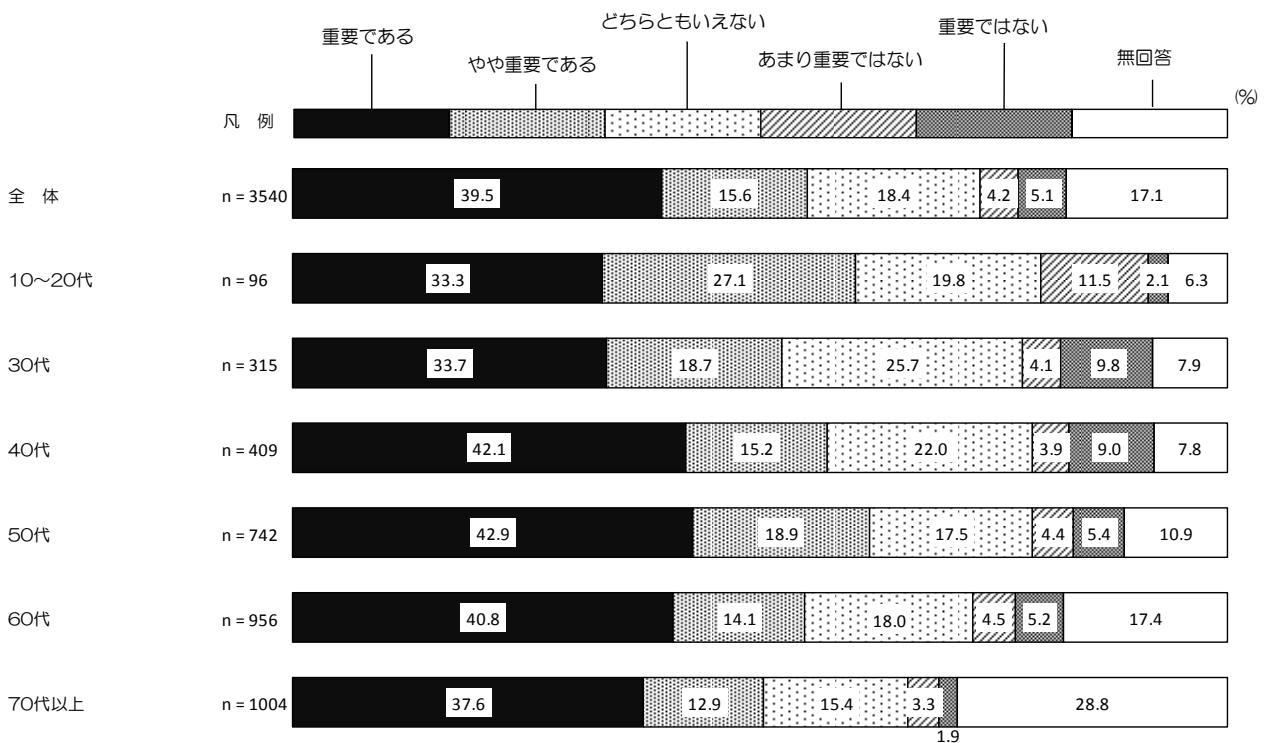
将来の希望するまちづくりにおける先進的なまちについて、「重要である」(39.5%)が最も多く、「やや重要である」(15.6%)を合わせた《重要度》は55.1%と過半数となっている。

<図表3-2-16-1 将来の希望するまちづくり(先進的なまち)>



世帯主の年齢別にみると、「重要である」との回答は、50代で最も多く、「やや重要である」を合わせた《重要度》は61.8%と高い。

<図表3-2-16-2 将来の希望するまちづくり(先進的なまち)(世帯主の年齢別)>

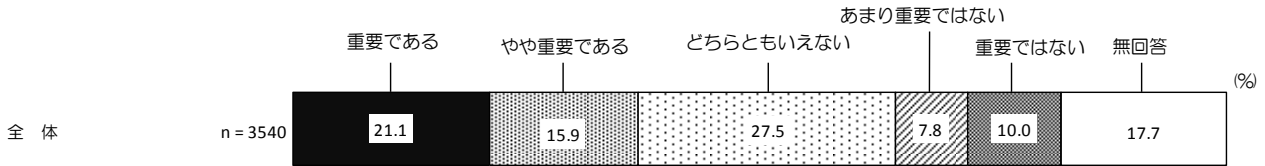


III 調査結果

(2) 農業再生を軸とした農林水産業が盛んなまち

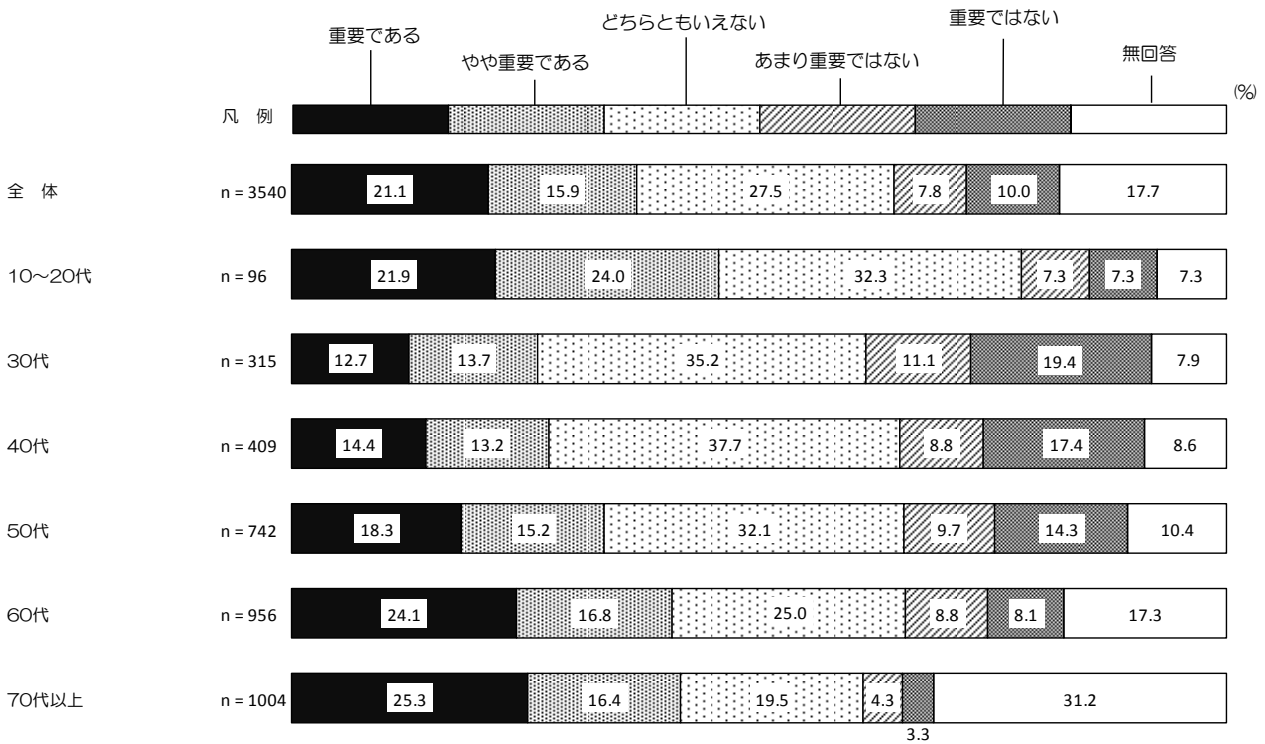
将来の希望するまちづくりにおける農林水産業が盛んなまちについて、「どちらともいえない」(27.5%)が最も多く、《重要度》は37.0%と他の項目に比べ低い。

〈図表3-2-16-3 将来の希望するまちづくり（農林水産業が盛んなまち）〉



世帯主の年齢別にみると、「重要である」割合は、概ね年齢層があがるにつれ高く、70代以上で25.3%となっている。

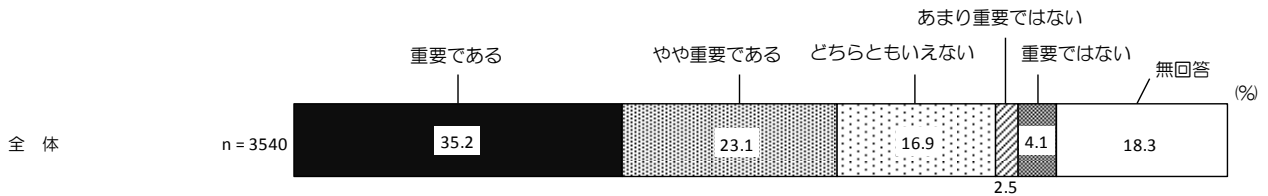
〈図表3-2-16-4 将来の希望するまちづくり（農林水産業が盛んなまち）（世帯主の年齢別）〉



(3) 工業振興により働き場所の多いまち

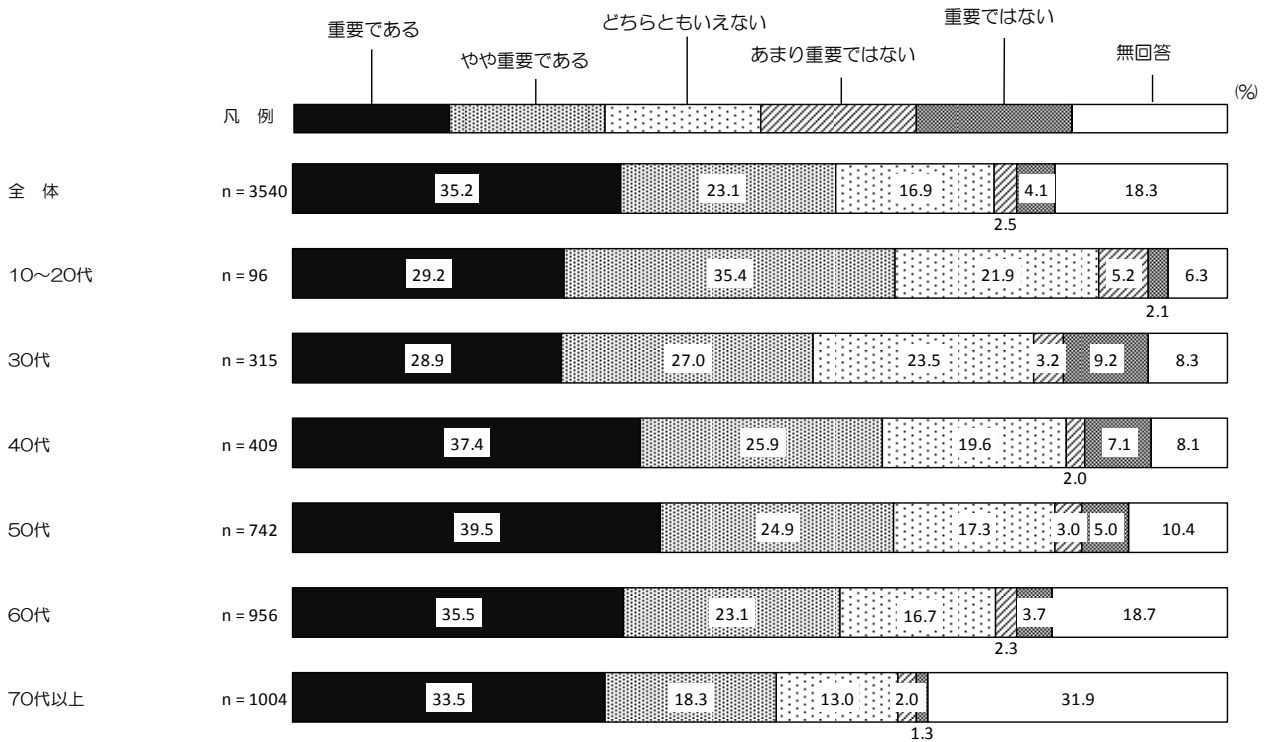
将来の希望するまちづくりにおける働き場所の多いまちについて、「重要である」(35.2%)が最も多く、「やや重要である」(23.1%)を合わせた《重要度》は58.3%と過半数となっている。

<図表3-2-16-5 将来の希望するまちづくり(働き場所の多いまち)>



世帯主の年齢別にみると、40代以上では「重要である」割合が高く3割以上となっている。

<図表3-2-16-6 将来の希望するまちづくり(働き場所の多いまち)(世帯主の年齢別)>

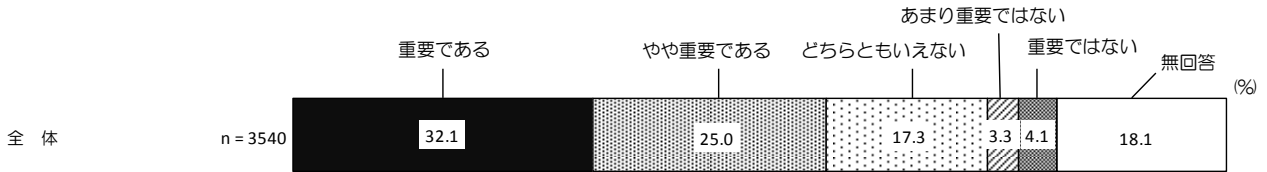


III 調査結果

(4) 商業振興による賑わいと経済活力のあるまち

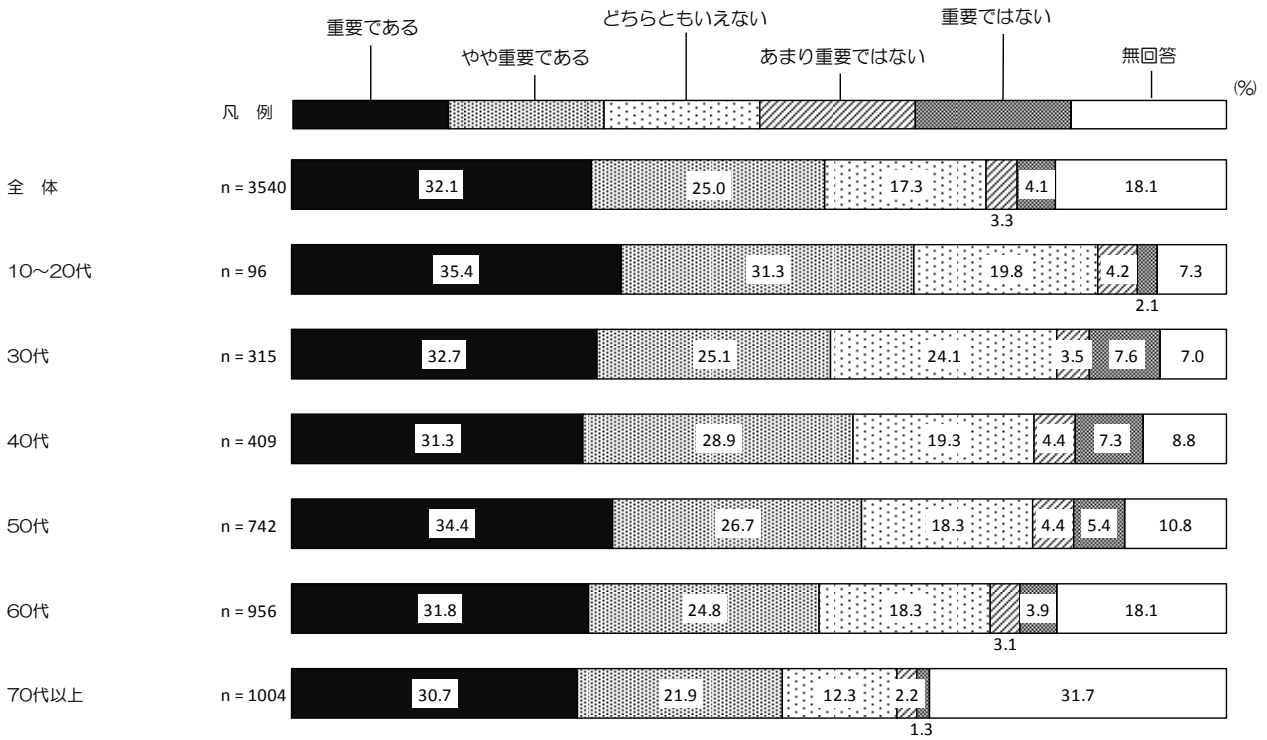
将来の希望するまちづくりにおける経済活力のあるまちについて、「重要である」(32.1%)が最も多く、「やや重要である」(25.0%)を合わせた《重要度》は57.1%と過半数となっている。

＜図表3-2-16-7 将来の希望するまちづくり（経済活力のあるまち）＞



世帯主の年齢別にみると、年齢層が低いほど《重要度》は高く、10～20代で66.7%となっている。

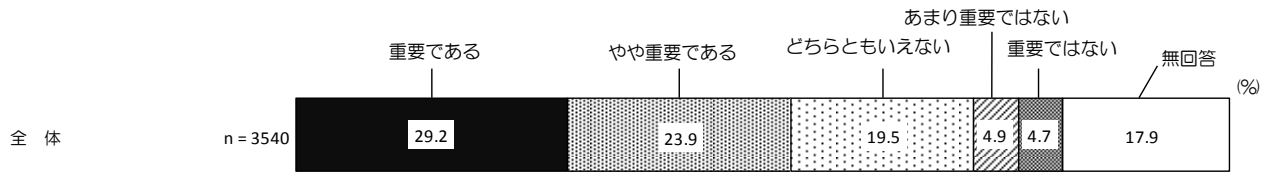
＜図表3-2-16-8 将来の希望するまちづくり（経済活力のあるまち）（世帯主の年齢別）＞



(5) 街並みの美しい景観に優れたまち

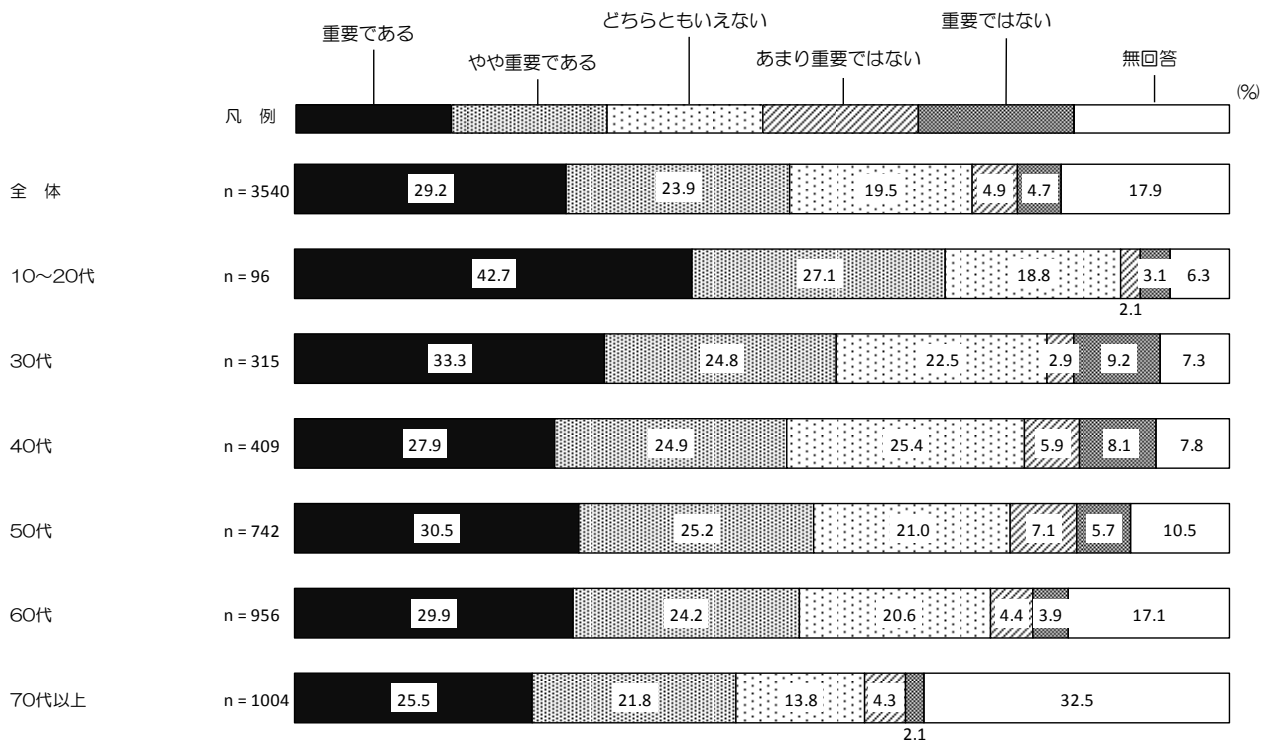
将来の希望するまちづくりにおける美しい景観に優れたまちについて、「重要である」(29.2%) が最も多く、「やや重要である」(23.9%) を合わせた《重要度》は53.1%と過半数となっている。

<図表3-2-16-9 将来の希望するまちづくり(美しい景観に優れたまち)>



世帯主の年齢別にみると、年齢層が低いほど《重要度》は高く、10~20代で69.8%と約7割を占めている。

<図表3-2-16-10 将来の希望するまちづくり(美しい景観に優れたまち)(世帯主の年齢別)>

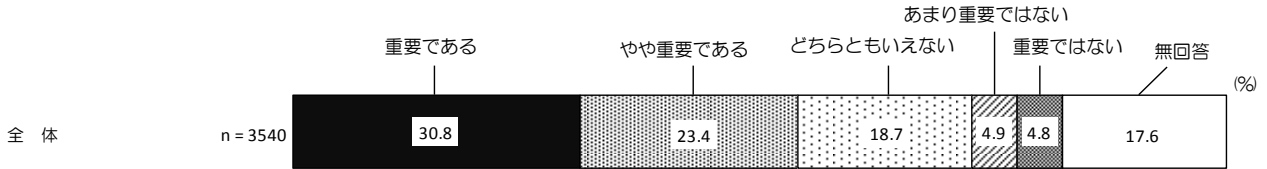


Ⅲ 調査結果

(6) 公園・河川など、緑や水に親しめるまち

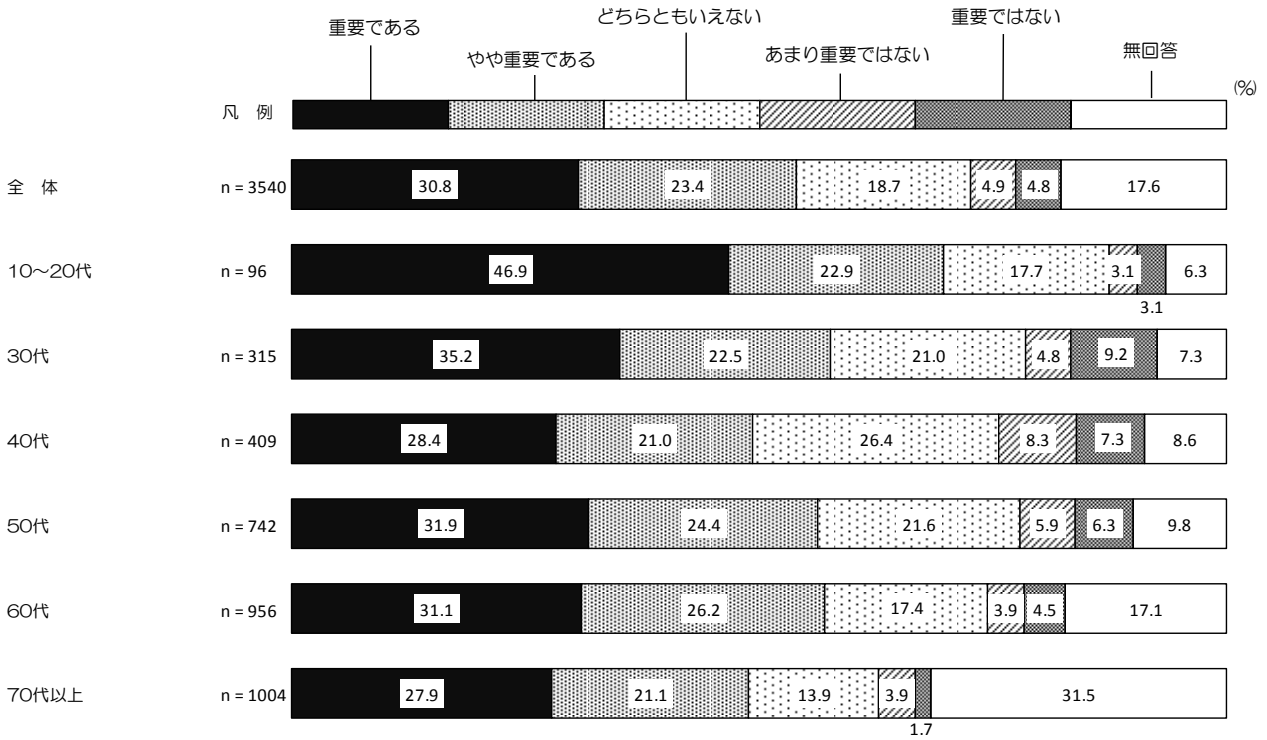
将来の希望するまちづくりにおける緑や水に親しめるまちについて、「重要である」(30.8%)が最も多く、「やや重要である」(23.4%)を合わせた《重要度》は54.2%と過半数となっている。

<図表3-2-16-11 将来の希望するまちづくり(緑や水に親しめるまち)>



世帯主の年齢別にみると、10~20代で「重要である」が46.9%と他の年齢層に比べて高くなっている。

<図表3-2-16-12 将来の希望するまちづくり(緑や水に親しめるまち)(世帯主の年齢別)>



(7) 歴史や伝統を活かした文化の薫るまち

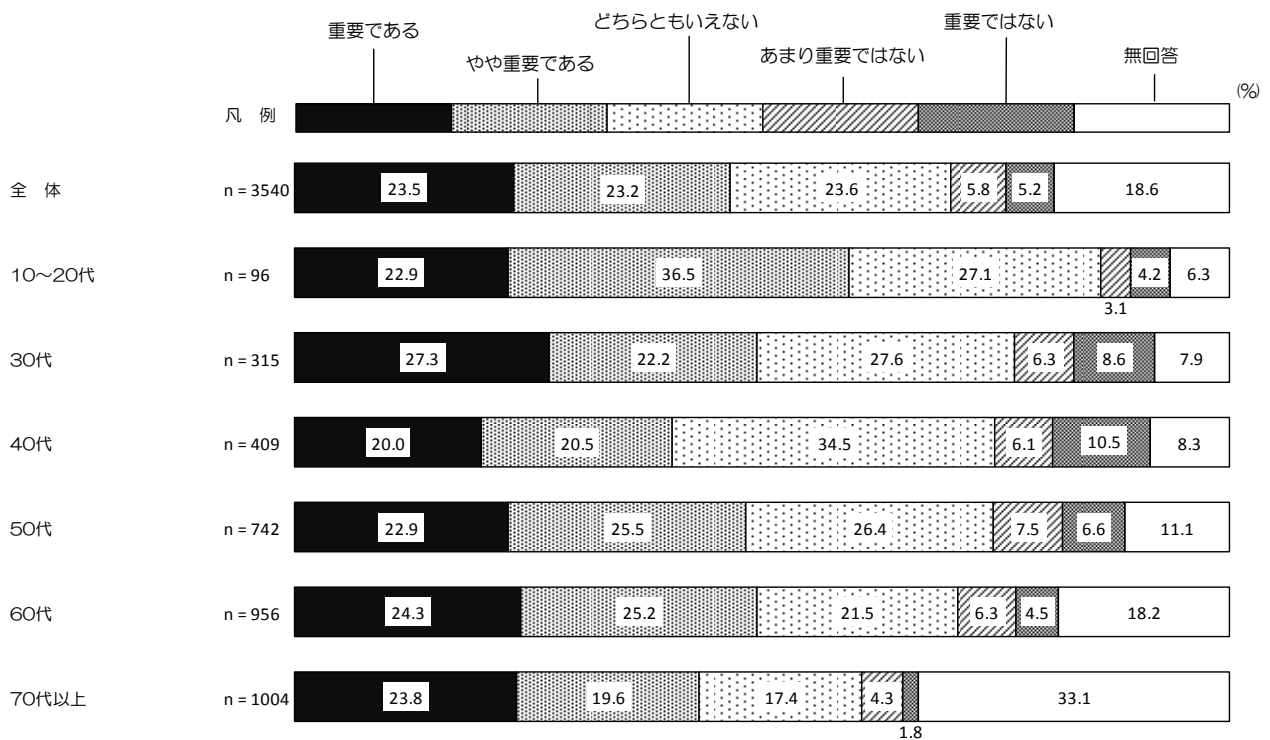
将来の希望するまちづくりにおける文化の薫るまちについて、「どちらともいえない」(23.6%)が最も多く、《重要度》は46.7%と他の項目に比べ低い。

＜図表3-2-16-13 将来の希望するまちづくり（文化の薫るまち）＞



世帯主の年齢別にみると、10～20代で「重要である」、「やや重要である」を合わせた《重要度》が59.4%と高くなっている。

＜図表3-2-16-14 将来の希望するまちづくり（文化の薫るまち）（世帯主の年齢別）＞

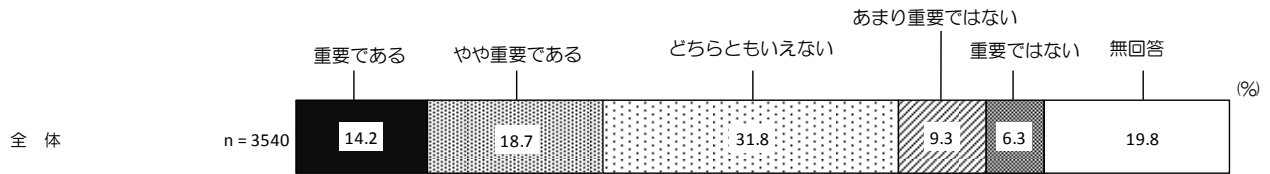


Ⅲ 調査結果

(8) 観光交流施設が充実したまち

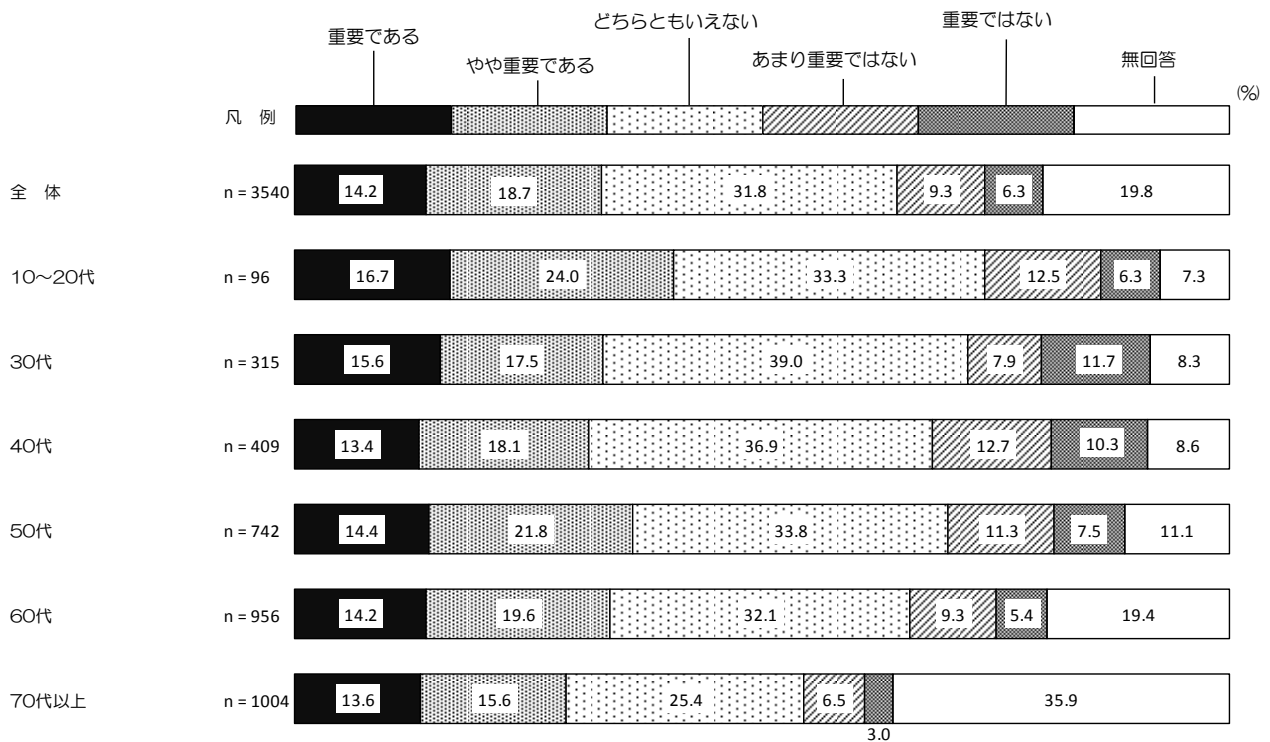
将来の希望するまちづくりにおける観光施設が充実したまちについて、「どちらともいえない」(31.8%)が最も多く、《重要度》は32.9%と他の項目に比べ低い。

＜図表3-2-16-15 将来の希望するまちづくり（観光施設が充実したまち）＞



世帯主の年齢別にみると、10～20代で「重要である」、「やや重要である」を合わせた《重要度》が40.7%とやや高くなっている。

＜図表3-2-16-16 将来の希望するまちづくり（観光施設が充実したまち）（世帯主の年齢別）＞



(9) スポーツ交流施設が充実したまち

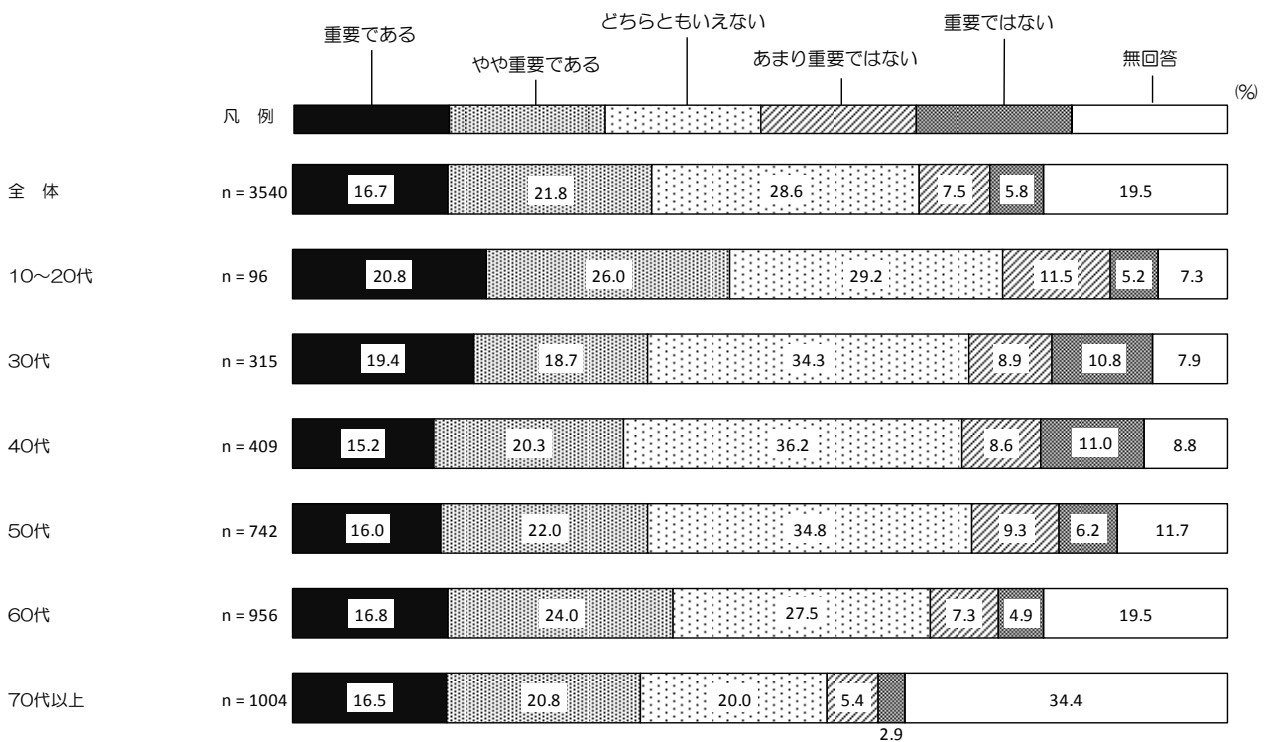
将来の希望するまちづくりにおけるスポーツ施設が充実したまちについて、「どちらともいえない」(28.6%)が最も多く、《重要度》は38.5%と他の項目に比べ低い。

＜図表3-2-16-17 将来の希望するまちづくり（スポーツ施設が充実したまち）＞



世帯主の年齢別にみると、10～20代で「重要である」、「やや重要である」を合わせた《重要度》が46.8%とやや高くなっている。

＜図表3-2-16-18 将来の希望するまちづくり（スポーツ施設が充実したまち）（世帯主の年齢別）＞

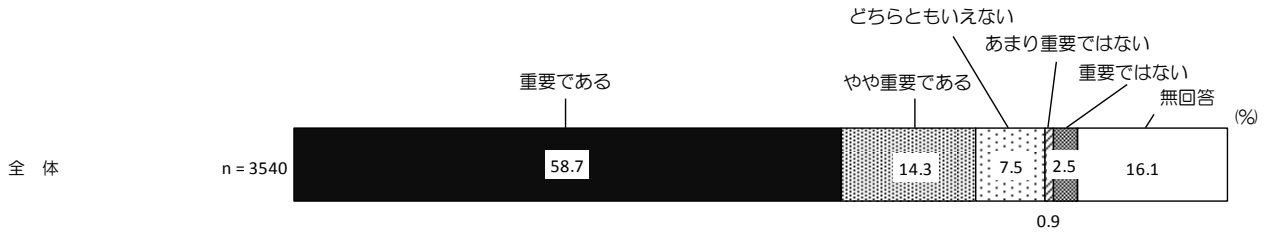


III 調査結果

(10) 地震や水害など災害に強い安全なまち

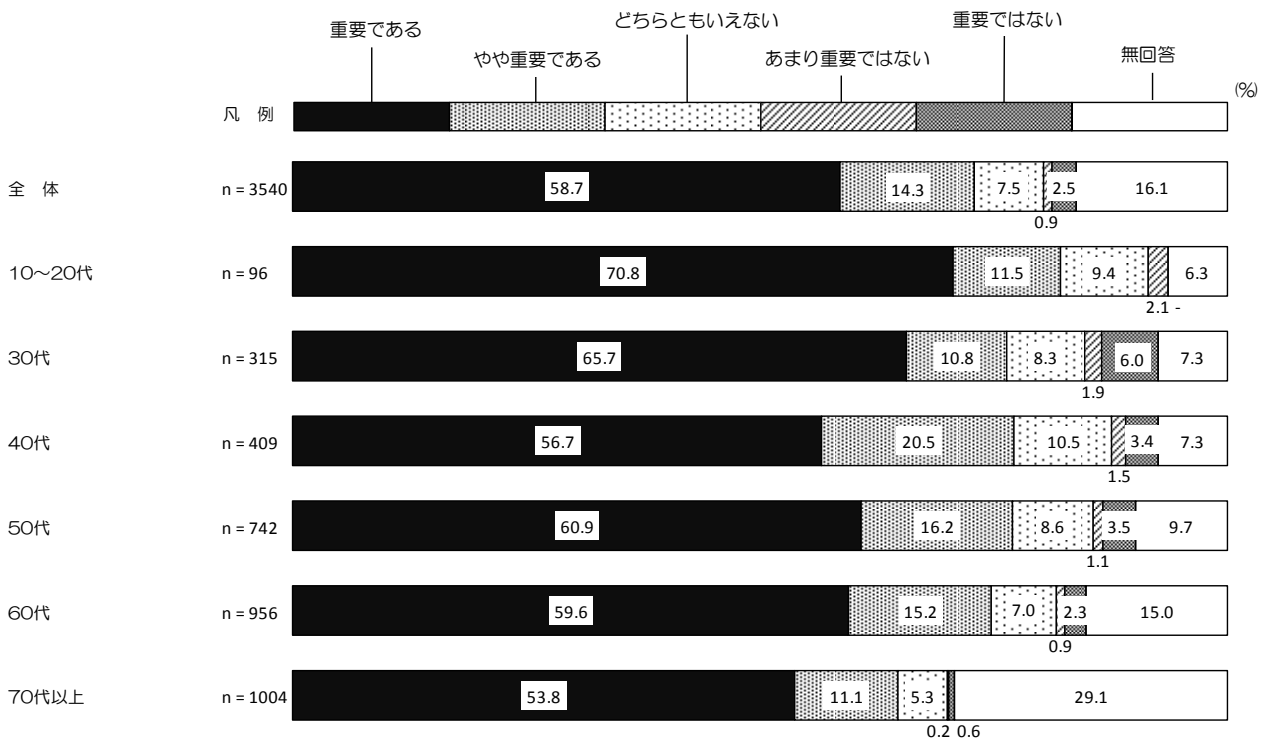
将来の希望するまちづくりにおける災害に強いまちについて、「重要である」(58.7%)が最も多く、「やや重要である」(14.3%)を合わせた《重要度》は73.0%と高い。

＜図表3-2-16-19 将来の希望するまちづくり（災害に強いまち）＞



世帯主の年齢別にみると、「重要である」との回答は、概ね年齢層が下がるほど高くなっており、10～20代では70.8%となっている。

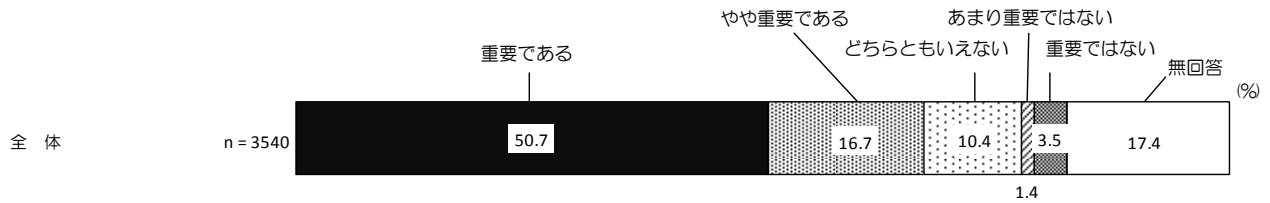
＜図表3-2-16-20 将来の希望するまちづくり（災害に強いまち）（世帯主の年齢別）＞



(11) 子どもを産み育てやすい、児童福祉が充実したまち

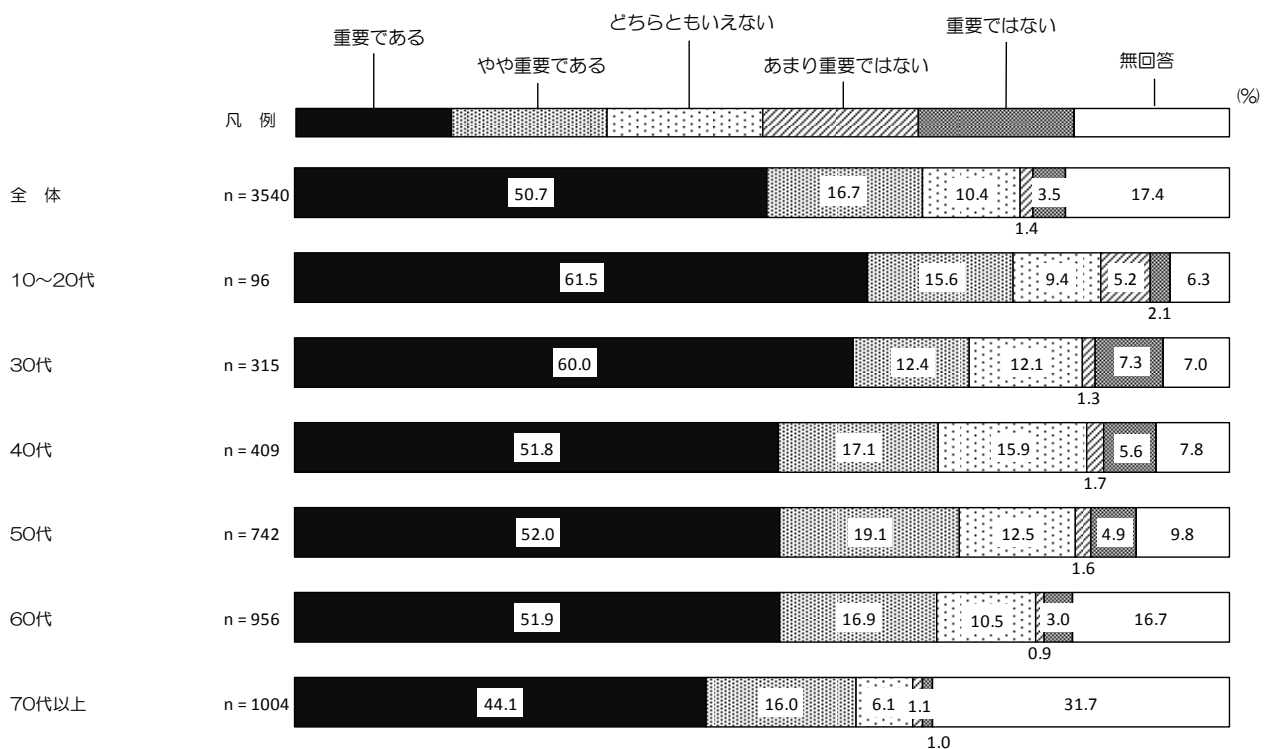
将来の希望するまちづくりにおける児童福祉が充実したまちについて、「重要である」(50.7%)が最も多く、「やや重要である」(16.7%)を合わせた《重要度》は67.4%と高い。

<図表3-2-16-21 将来の希望するまちづくり(児童福祉が充実したまち)>



世帯主の年齢別にみると、「重要である」との回答は、概ね年齢層が下がるほど高くなっており、10~20代では61.5%となっている。

<図表3-2-16-22 将来の希望するまちづくり(児童福祉が充実したまち)(世帯主の年齢別)>

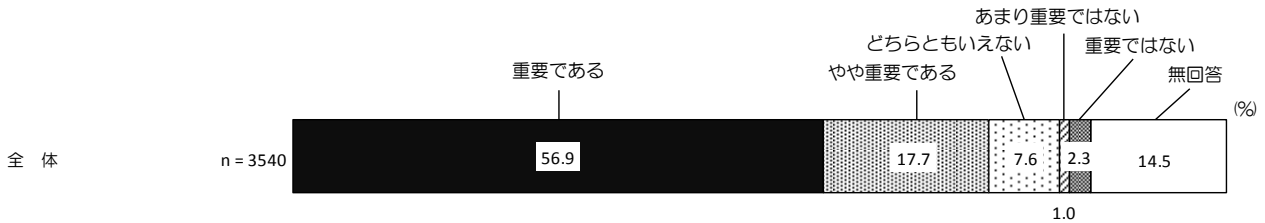


III 調査結果

(12) 高齢者や障がい者福祉が充実したまち

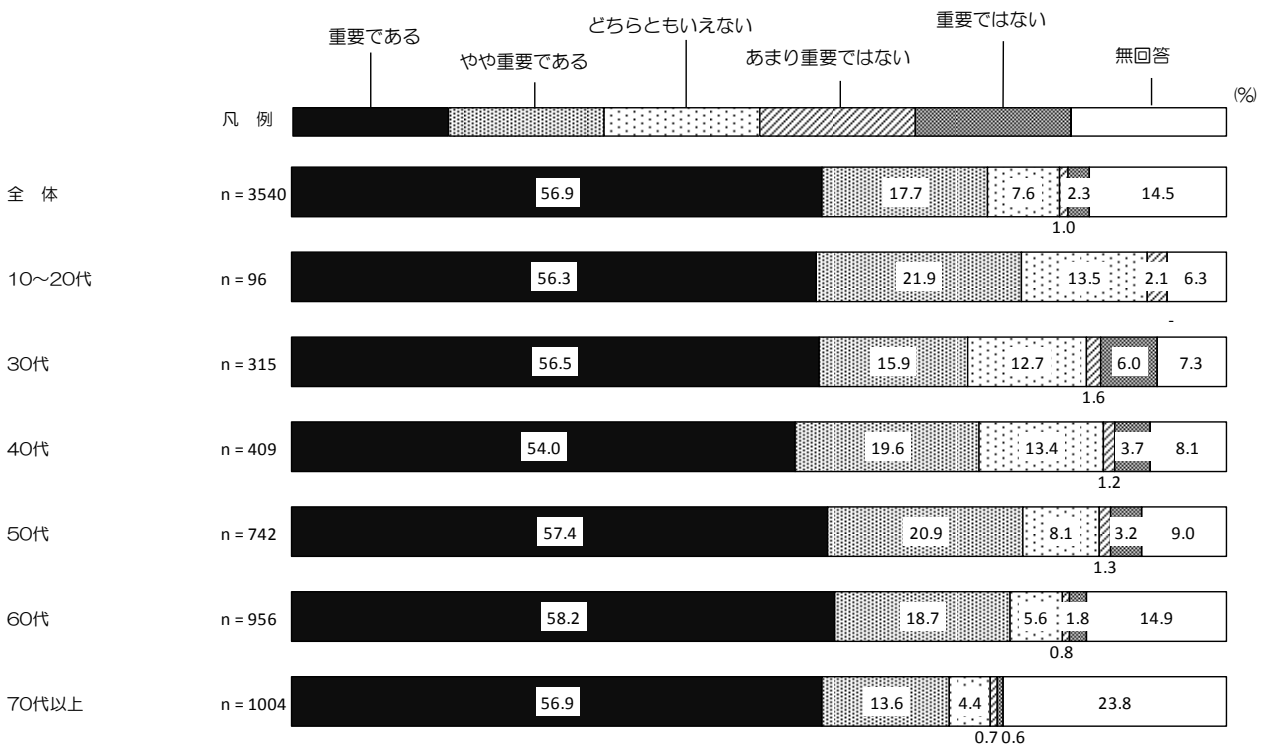
将来の希望するまちづくりにおける高齢者、障害者福祉が充実したまちについて、「重要である」(56.9%)が最も多く、「やや重要である」(17.7%)を合わせた《重要度》は74.6%と高い。

<図表3-2-16-23 将来の希望するまちづくり（高齢者、障害者福祉が充実したまち）>



世帯主の年齢別にみると、「重要である」割合がいずれの年齢層でも最も多く過半数となっている。

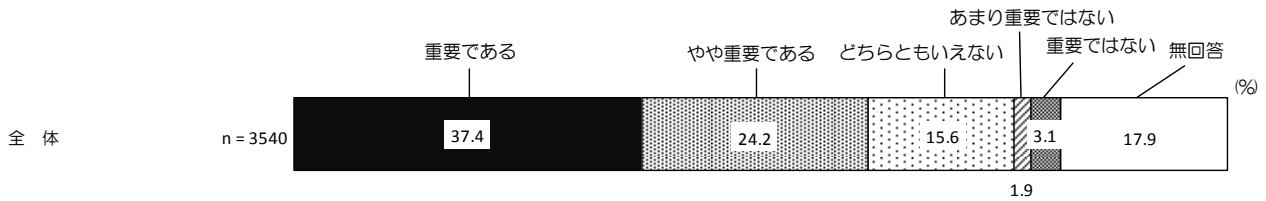
<図表3-2-16-24 将来の希望するまちづくり（高齢者、障害者福祉が充実したまち）（世帯主の年齢別）>



(13) 道路など生活環境の整った住宅中心のまち

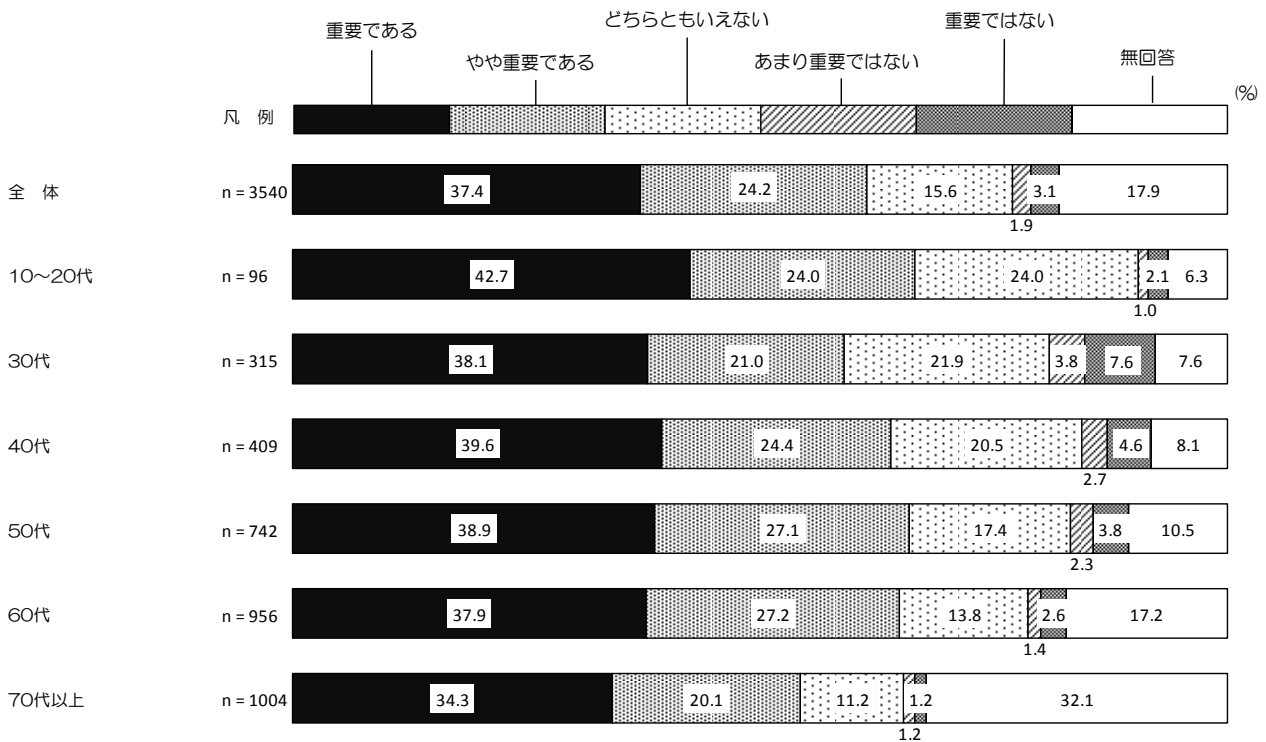
将来の希望するまちづくりにおける生活環境が整った住宅中心のまちについて、「重要である」(37.4%)が最も多く、「やや重要である」(24.2%)を合わせた《重要度》は61.6%と高い。

<図表3-2-16-25 将来の希望するまちづくり(生活環境が整った住宅中心のまち)>



世帯主の年齢別にみると、10~20代で「重要である」、「やや重要である」を合わせた《重要度》が66.7%と高くなっている。

<図表3-2-16-26 将来の希望するまちづくり(生活環境が整った住宅中心のまち)(世帯主の年齢別)>

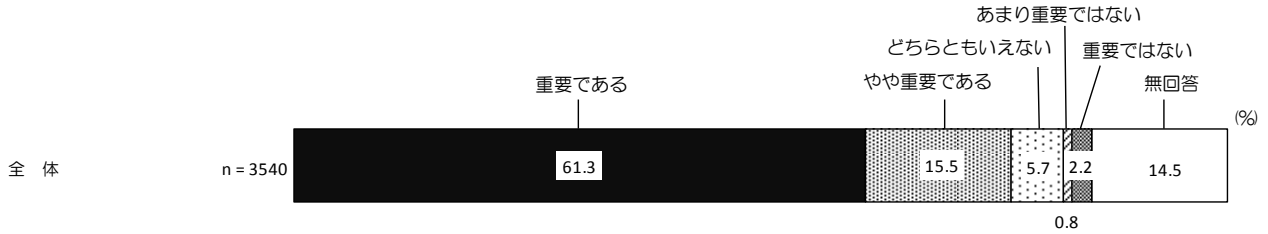


III 調査結果

(14) 医療や福祉のサービス施設が整ったまち

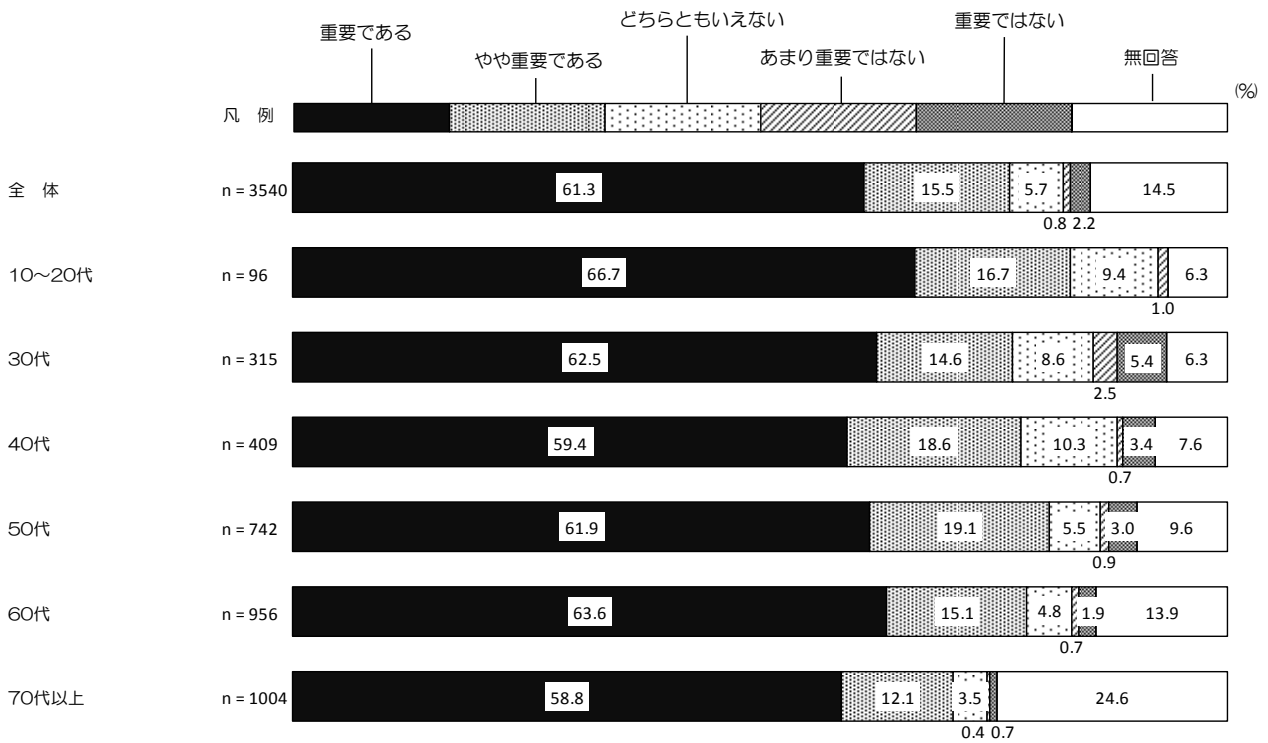
将来の希望するまちづくりにおける医療、福祉サービスが整ったまちについて、「重要である」(61.3%)が最も多く、「やや重要である」(15.5%)を合わせた《重要度》は76.8%と高い。

〈図表3-2-16-27 将来の希望するまちづくり（医療、福祉サービスが整ったまち）〉



世帯主の年齢別にみると、「重要である」割合がいずれの年齢層でも最も多く過半数となっている。

〈図表3-2-16-28 将来の希望するまちづくり（医療、福祉サービスが整ったまち）（世帯主の年齢別）〉



(15) 学校・研究機関等、教育環境が充実したまち

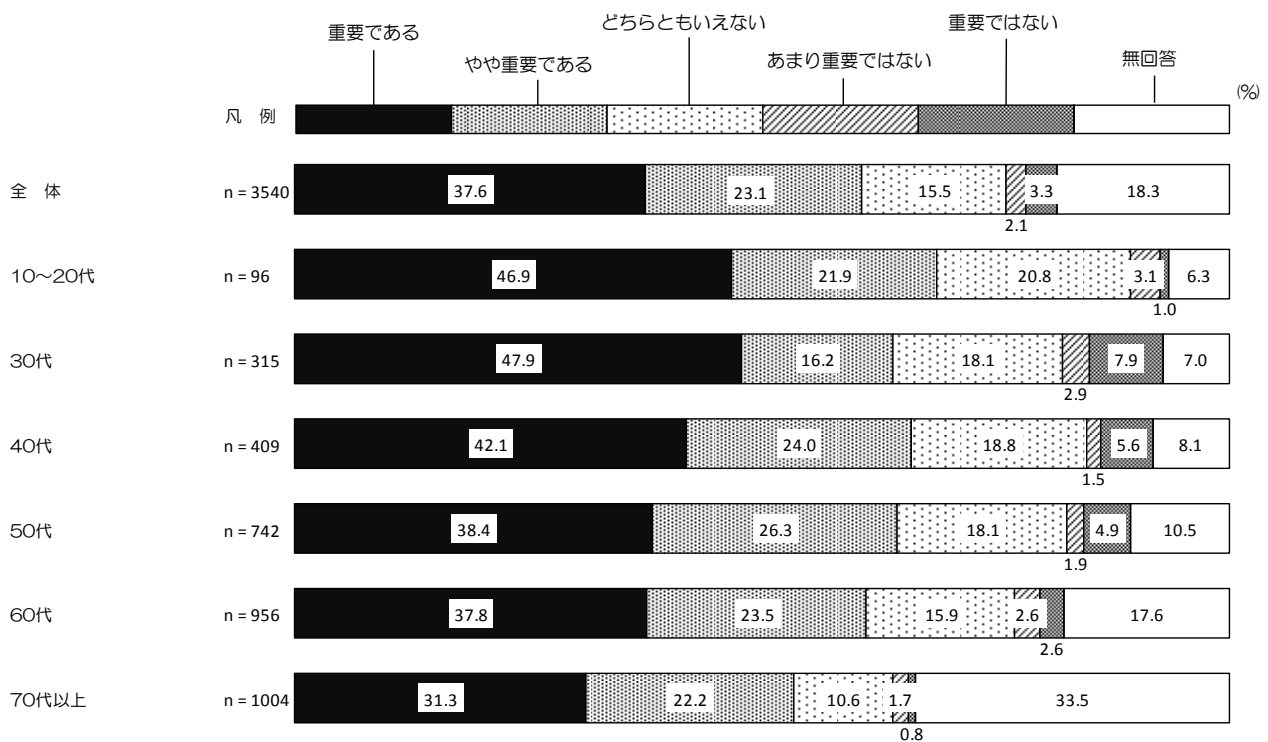
将来の希望するまちづくりにおける教育環境が充実したまちについて、「重要である」(37.6%) が最も多く、「やや重要である」(23.1%) を合わせた《重要度》は 60.7% と高い。

<図表3-2-16-29 将来の希望するまちづくり（教育環境が充実したまち）>



世帯主の年齢別にみると、「重要である」との回答は、概ね年齢層が下がるほど高くなっており、10～20代では 68.8% となっている。

<図表3-2-16-30 将来の希望するまちづくり（教育環境が充実したまち）（世帯主の年齢別）>

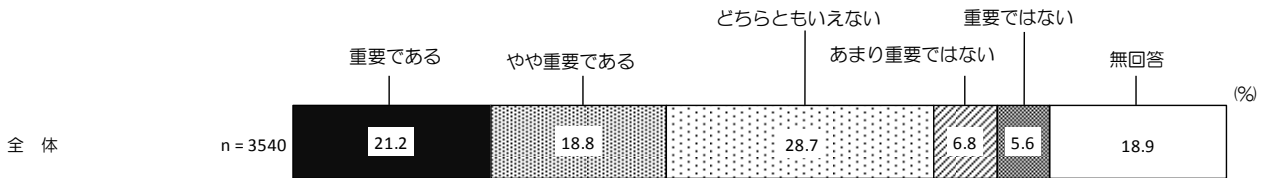


III 調査結果

(16) 国の施設など、行政機能が集約したまち

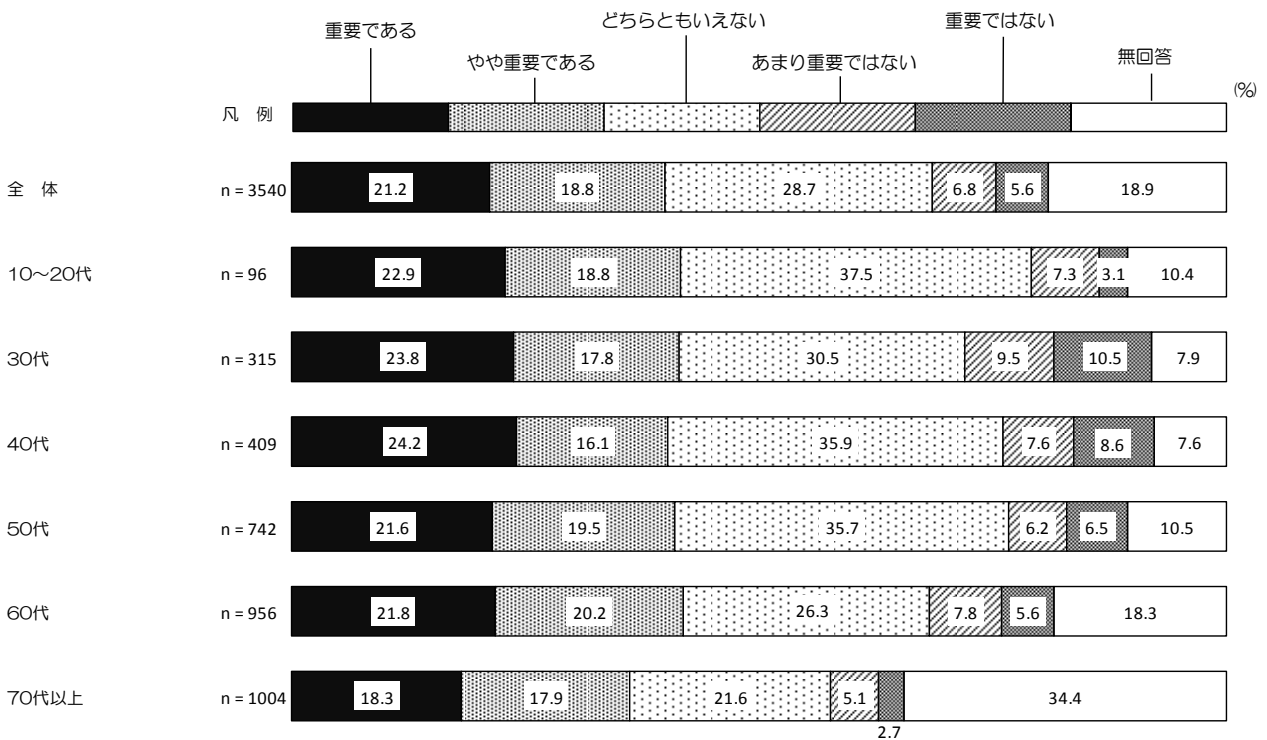
将来の希望するまちづくりにおける行政機能が集約したまちについて、「どちらともいえない」(28.7%)が最も多く、《重要度》は40.0%と他の項目に比べ低い。

＜図表3-2-16-31 将来の希望するまちづくり（行政機能が集約したまち）＞



世帯主の年齢別にみると、「重要である」、「やや重要である」を合わせた《重要度》はいずれの年齢層でも、4割前後と低くなっている。

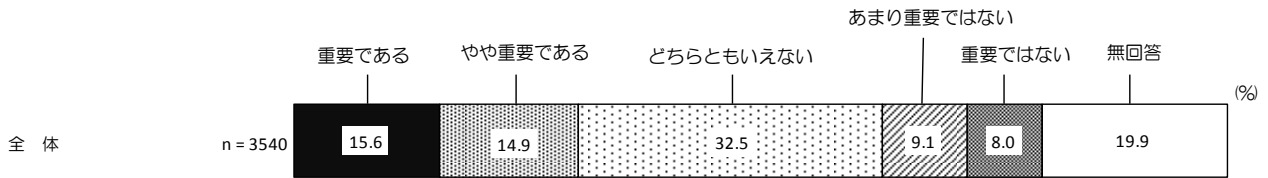
＜図表3-2-16-32 将来の希望するまちづくり（行政機能が集約したまち）（世帯主の年齢別）＞



(17) 都市機能を移転した新たなまち

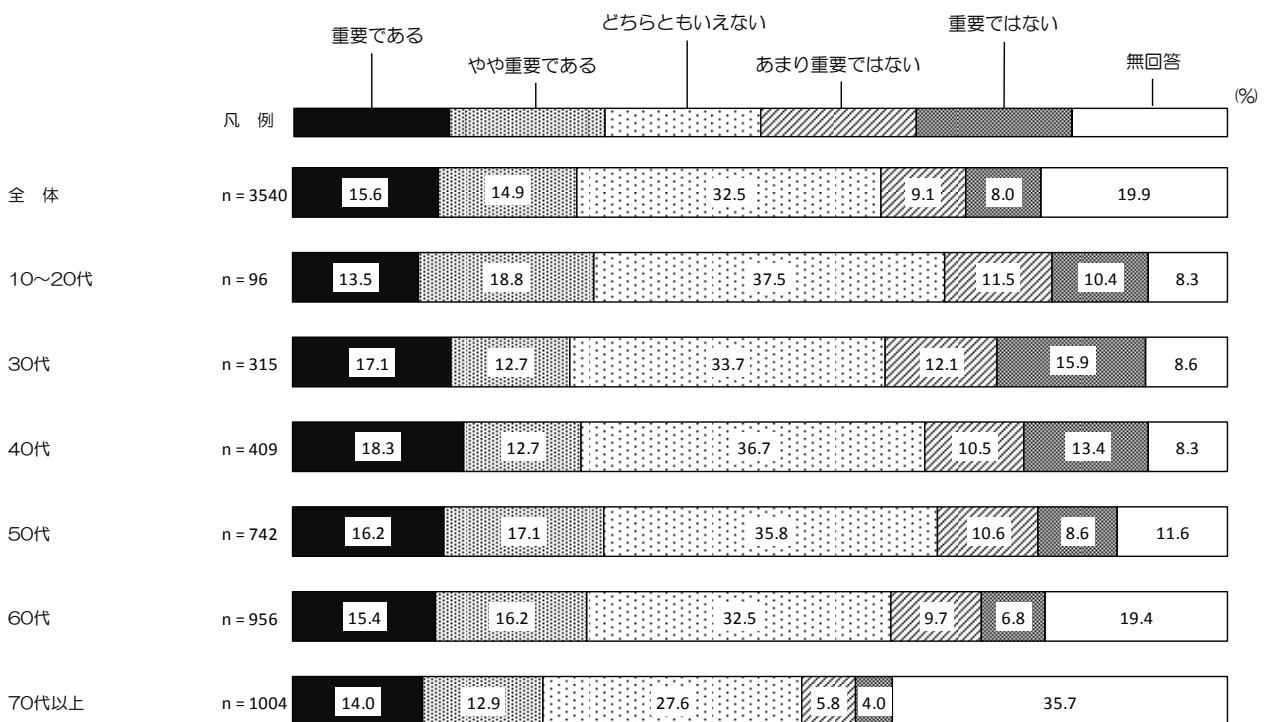
将来の希望するまちづくりにおける都市機能を移転した新たなまちについて、「どちらともいえない」(32.5%)が最も多く、《重要度》は30.5%と他の項目に比べ低い。

〈図表3-2-16-33 将来の希望するまちづくり（都市機能を移転した新たなまち）〉



世帯主の年齢別にみると、「重要である」、「やや重要である」を合わせた《重要度》はいずれの年齢層でも、2~3割前後と低くなっている。

〈図表3-2-16-34 将来の希望するまちづくり（都市機能を移転した新たなまち）（世帯主の年齢別）〉

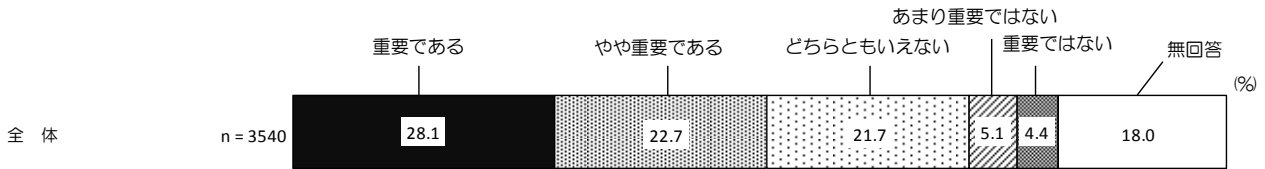


III 調査結果

(18) まちの機能が歩いて行ける範囲にまとまっているまち

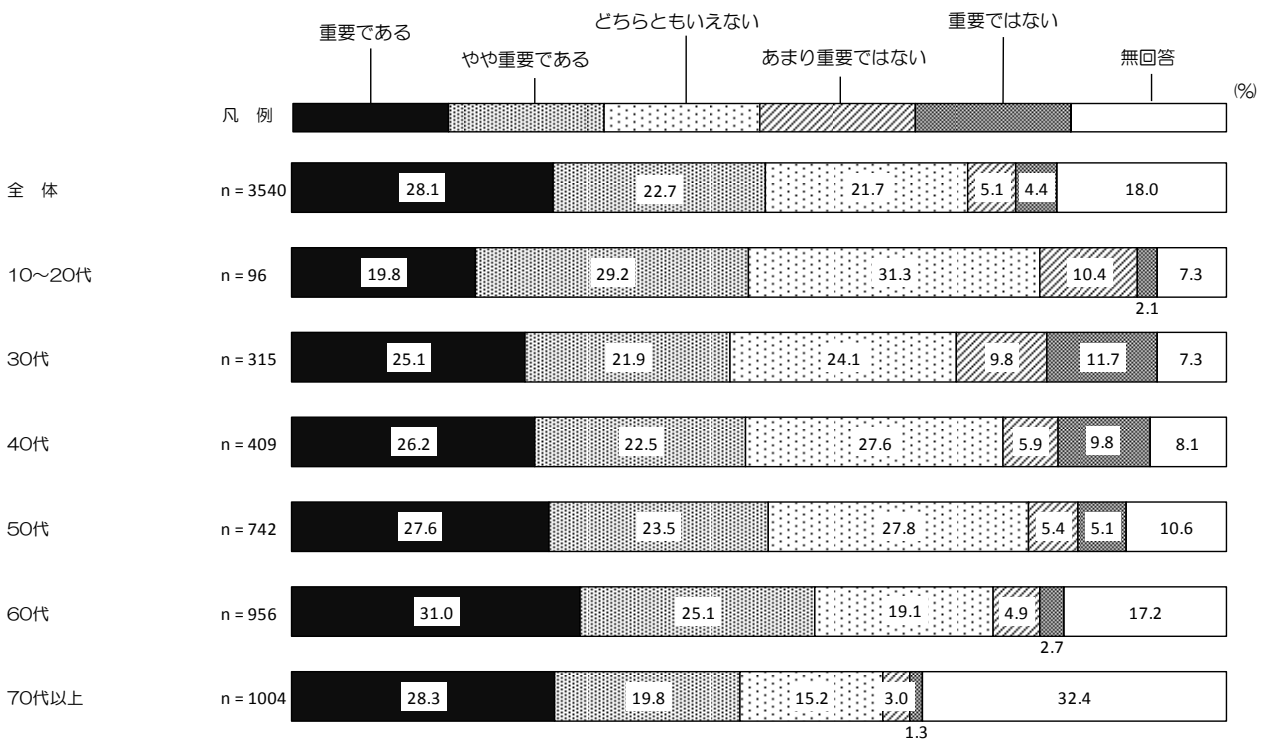
将来の希望するまちづくりにおけるまちの機能がまとまっているまちについて、「重要である」(28.1%)が最も多く、「やや重要である」(22.7%)を合わせた《重要度》は50.8%と過半数となっている。

<図表3-2-16-35 将来の希望するまちづくり(まちの機能がまとまっているまち)>



世帯主の年齢別にみると、「重要である」、「やや重要である」を合わせた《重要度》は60代で56.1%と高く、過半数となっている。

<図表3-2-16-36 将来の希望するまちづくり(まちの機能がまとまっているまち)(世帯主の年齢別)>



(19) 再生可能エネルギー（太陽光発電等）による環境共生のまち

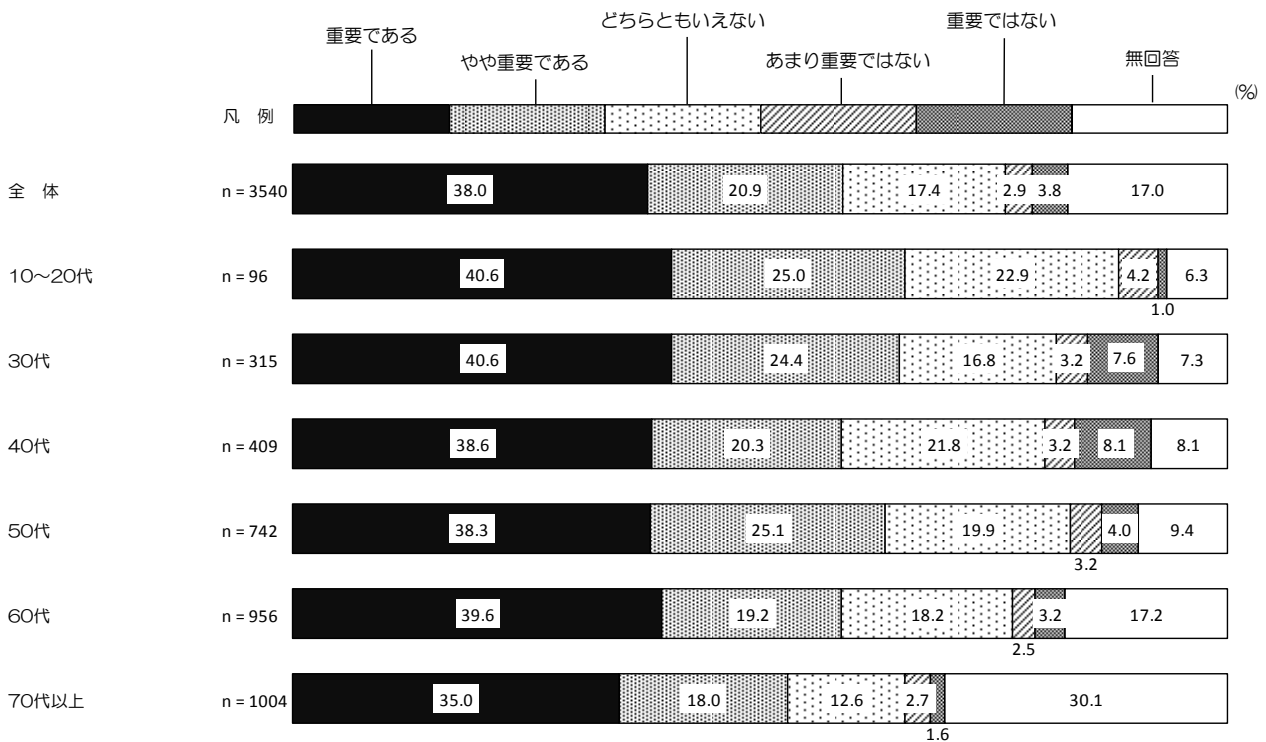
将来の希望するまちづくりにおける環境共生のまちについて、「重要である」（38.0%）が最も多く、「やや重要である」（20.9%）を合わせた《重要度》は58.9%と過半数となっている。

＜図表3-2-16-37 将来の希望するまちづくり（環境共生のまち）＞



世帯主の年齢別にみると、「重要である」、「やや重要である」を合わせた《重要度》はいずれの年齢層でも高く、過半数となっている。

＜図表3-2-16-38 将来の希望するまちづくり（環境共生のまち）（世帯主の年齢別）＞



3-3 全世帯員の意向

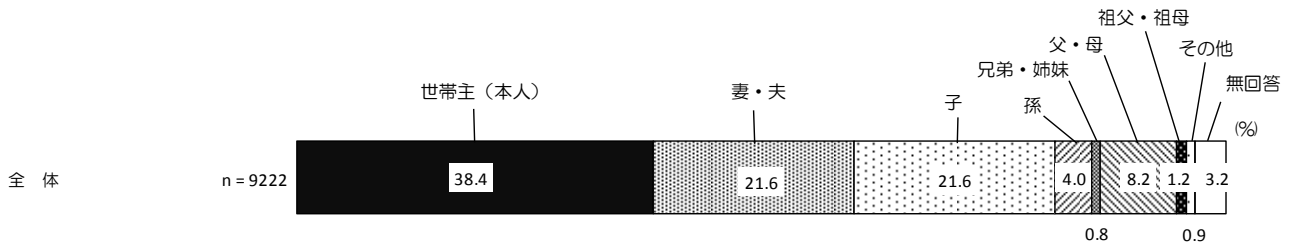
3-3-1 続柄

問 14 下表では、現在のあなたの世帯（お住まい）に同居している方全員についておたずねします。
（続柄）

帰還意向に関する各項目について、世帯の全員を対象に調査を行った。

回答者の世帯構成としては、「世帯主」（38.4%）が最も多く、以下「妻・夫」（21.6%）、「子」（21.6%）となっている。

<図表3-3-1-1 続柄（世帯構成）>



3-3-2 性別

問 14 下表では、現在のあなたの世帯（お住まい）に同居している方全員についておたずねします。
（性別）

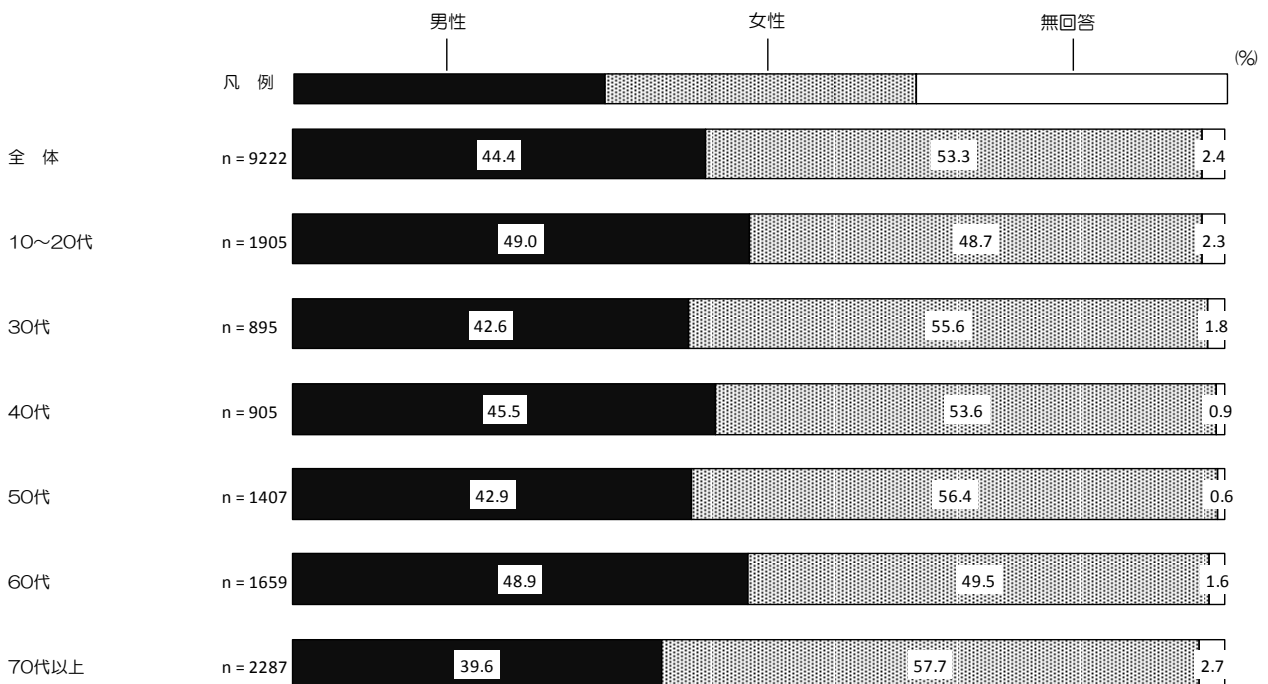
全世帯員の性別は、男性が44.4%、女性が53.3%となっている。

<図表3-3-2-1 世帯全員の性別>



年齢別にみると、概ね、いずれの年齢層でも女性の割合が男性を上回っている。

<図表3-3-2-2 世帯全員の性別（世帯全員の年齢別）>



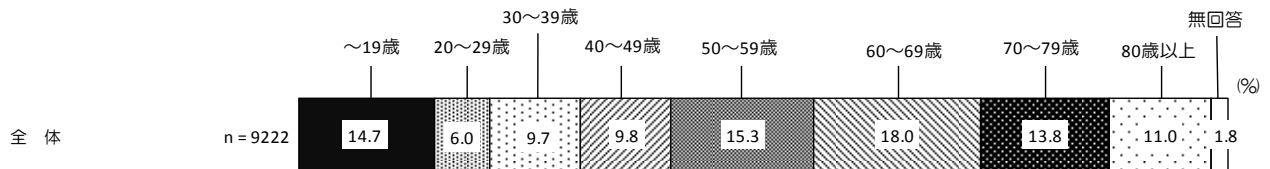
III 調査結果

3-3-3 年齢

問 14 下表では、現在のあなたの世帯（お住まい）に同居している方全員についておたずねします。
（年齢）

全世帯員の年齢は、「60～69歳」が18.0%と最も多く、60歳以上の高齢者が全体の約4割を占める。

<図表3-3-3-1 世帯全員の年齢>

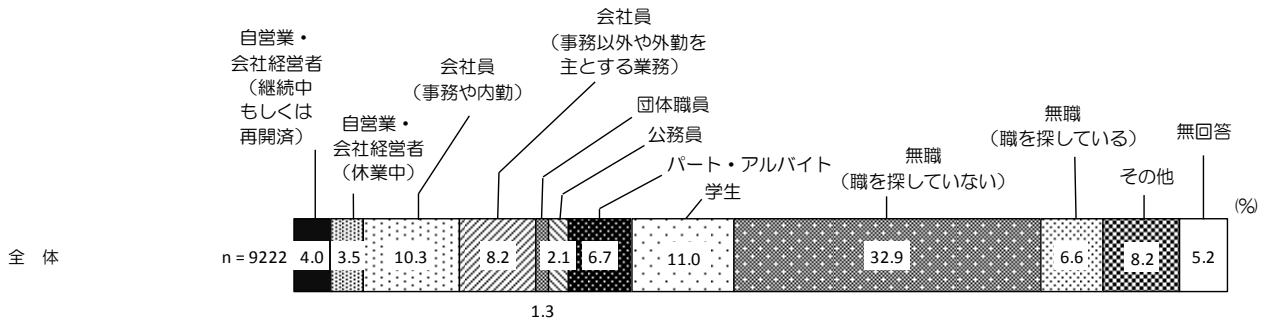


3-3-4 職業

問 14 下表では、現在のあなたの世帯（お住まい）に同居している方全員についておたずねします。
（表2 職業）

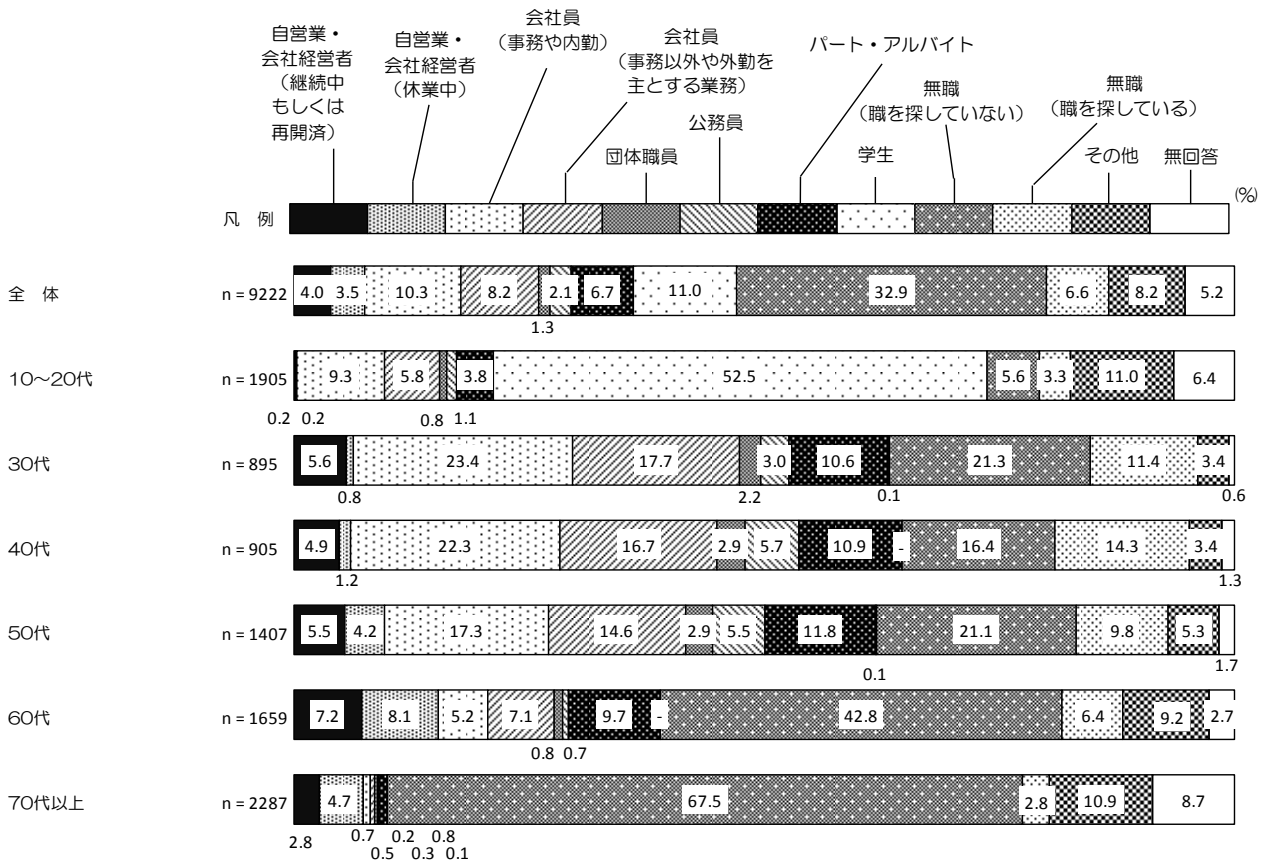
全世帯員の職業は、「無職（職を探していない）」が32.9%と最も多い。

＜図表3-3-4-1 世帯全員の現在の職業＞



年齢別にみると、会社員（事務や内勤）は30～50代で2割前後と、他の年齢層に比べて多い。

＜図表3-3-4-2 世帯全員の現在の職業（世帯全員の年齢別）＞



III 調査結果

3-3-5 帰還意向

問 14 下表では、現在のあなたの世帯（お住まい）に同居している方全員についておたずねします。
（表3 帰還意向）

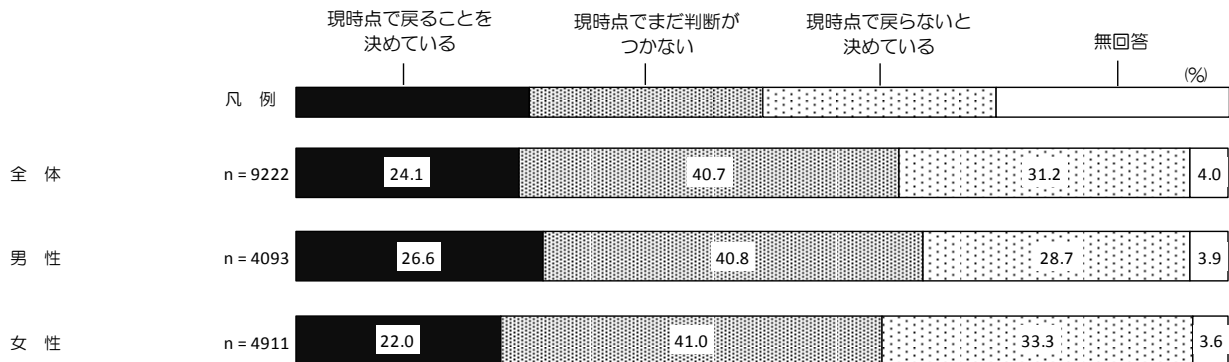
世帯全員の南相馬市への帰還意向について、「現時点でまだ判断がつかない」が40.7%と4割を占める。
「現時点で戻らないと決めている」人は31.2%となっており、「現時点で戻ることを決めている」人（24.1%）を約7ポイント上回っている。

<図表3-3-5-1 世帯全員の南相馬市への帰還意向>



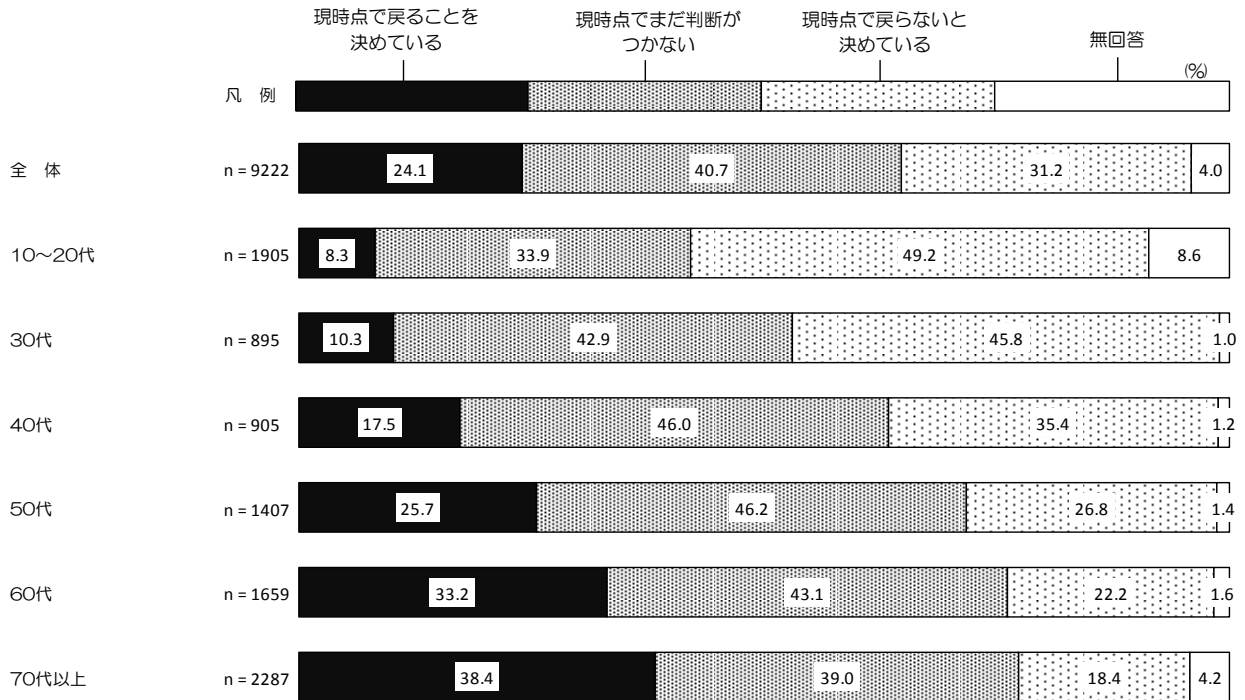
性別にみると、「現時点で戻ることを決めている」方は男性（26.6%）が女性（22.0%）をやや上回っている。

<図表3-3-5-2 世帯全員の南相馬市への帰還意向（世帯全員の性別）>



年齢別にみると、「現時点で戻ることを決めている」割合は、年齢が高くなるに従って高くなっており、70代以上では38.4%と最も多い。これに対し、「現時点で戻らないと決めている」との回答は年齢層が下がるほど多く、10～20代では約半数を占めている。

<図表3-3-5-3 世帯全員の南相馬市への帰還意向（世帯全員の年齢別）>



III 調査結果

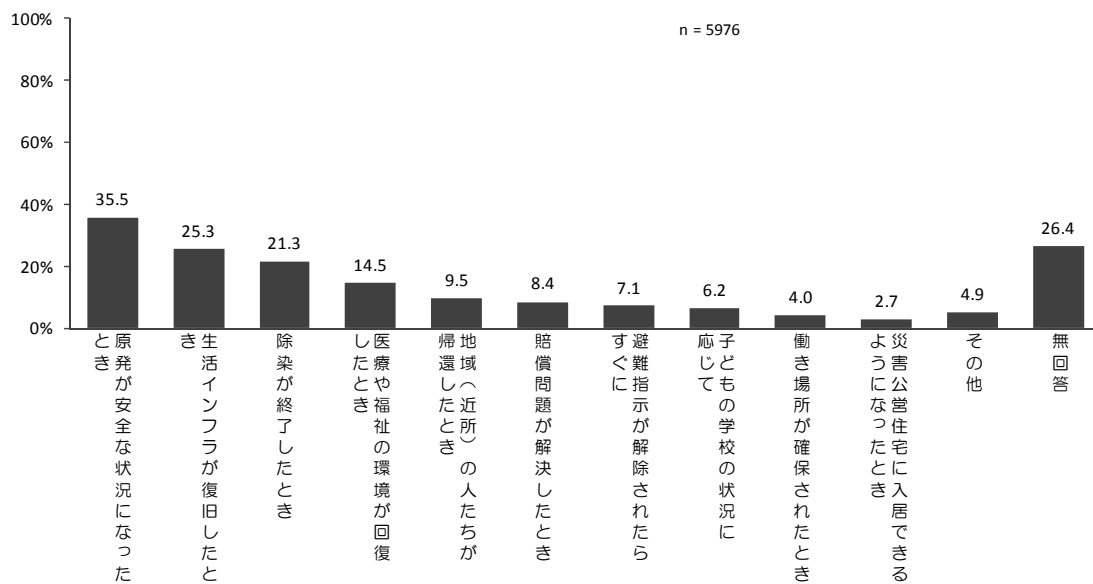
3-3-6 帰還時期

問 14 下表では、現在のあなたの世帯（お住まい）に同居している方全員についておたずねします。

（表 4 帰還時期 表 3 で 1 または 2 を選んだ方のみ回答）

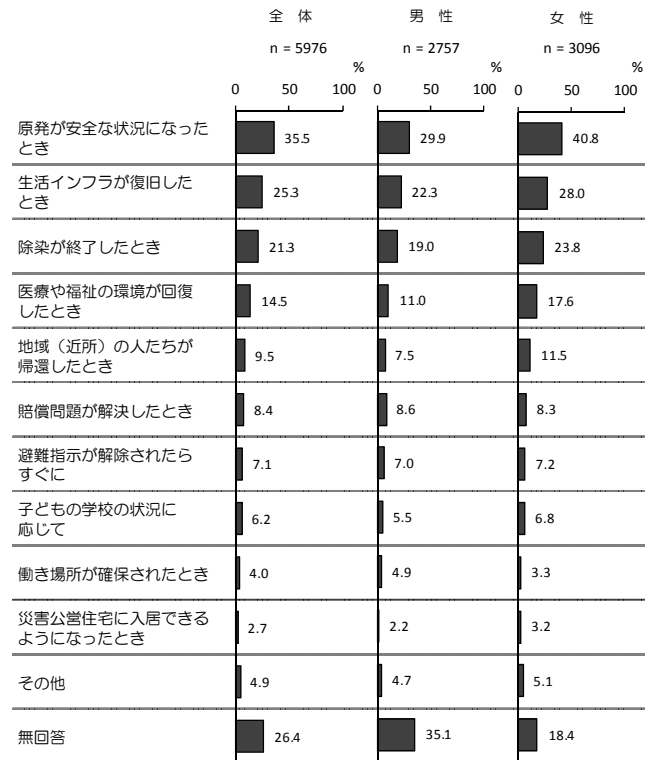
南相馬市への帰還時期について、「原発が安全な状況になったとき」（35.5%）が最も多く、次いで「生活インフラが復旧したとき」（25.3%）、「除染が終了したとき」（21.3%）となっている。

<図表 3-3-6-1 南相馬市への帰還時期>



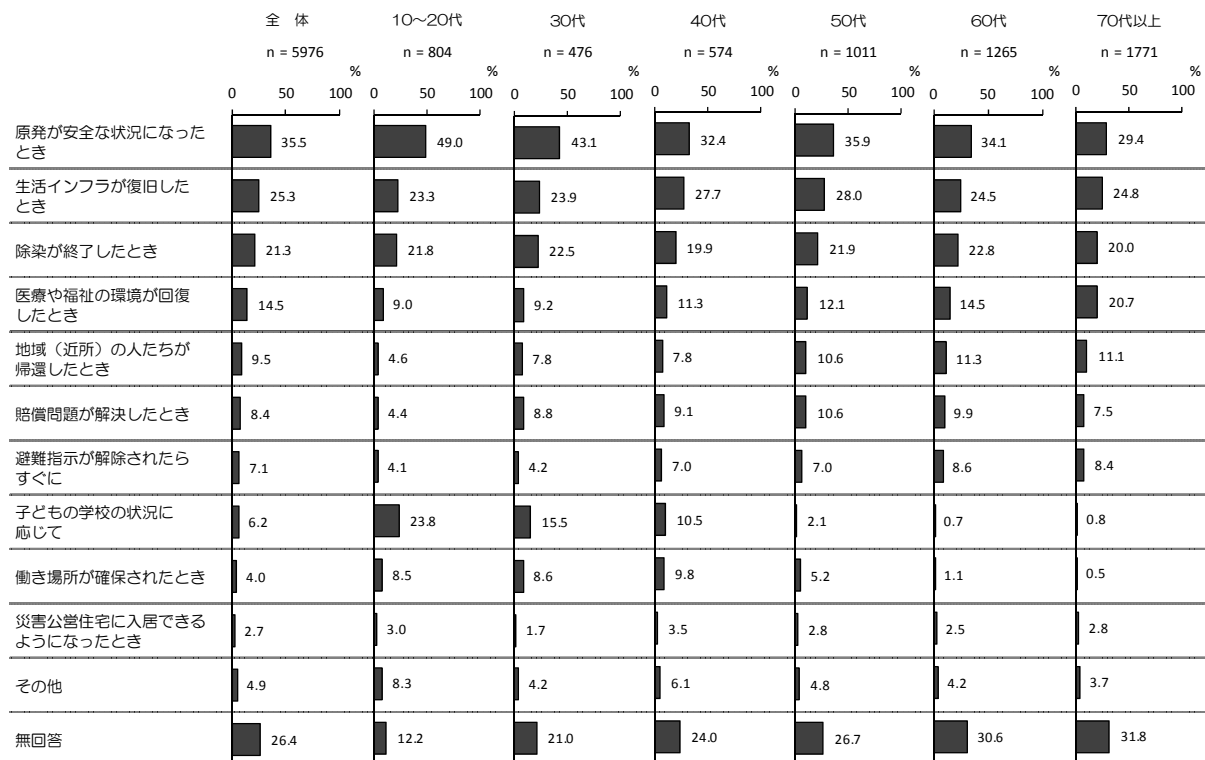
性別にみると、「原発が安全な状況になったとき」は男性（29.9％）に比べ、女性（40.8％）の割合が高くなっている。

<図表3-3-6-2 南相馬市への帰還時期（世帯全員の性別）>



年齢別にみると、「原発が安全な状況になったとき」は10～30代で4割以上と高く、「子どもの学校の状況に応じて」では10～20代（23.8％）で、他の年齢層に比べて高くなっている。

<図表3-3-6-3 南相馬市への帰還時期（世帯全員の年齢別）>

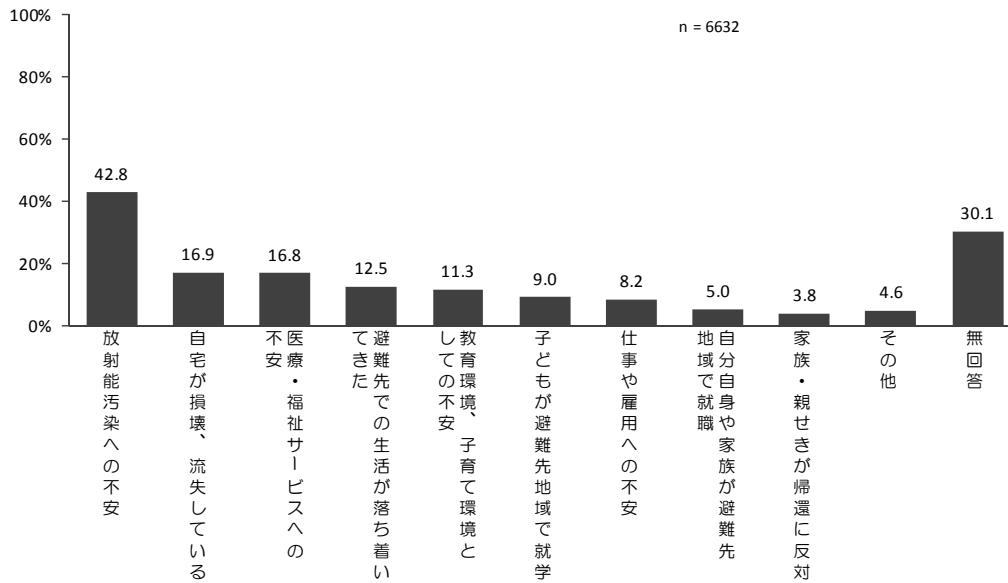


3-3-7 帰還を決められない理由

問 14 下表では、現在のあなたの世帯（お住まい）に同居している方全員についておたずねします。
 （表5 帰還を決められない理由 表3で2または3を選んだ方のみ回答）

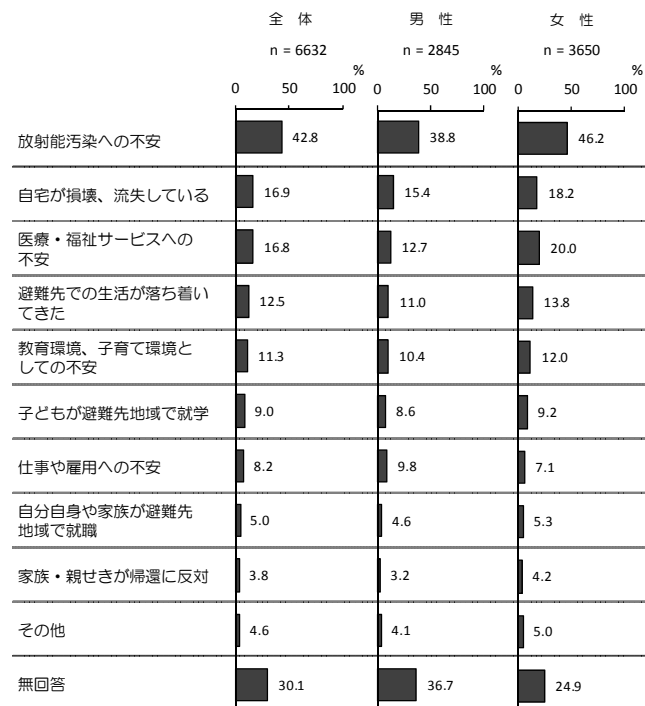
帰還を決められない理由について、「放射能汚染への不安」（42.8%）が最も多く、次いで「自宅が損壊、流失している」（16.9%）、「医療・福祉サービスへの不安」（16.8%）となっている。

<図表3-3-7-1 帰還を決められない理由>



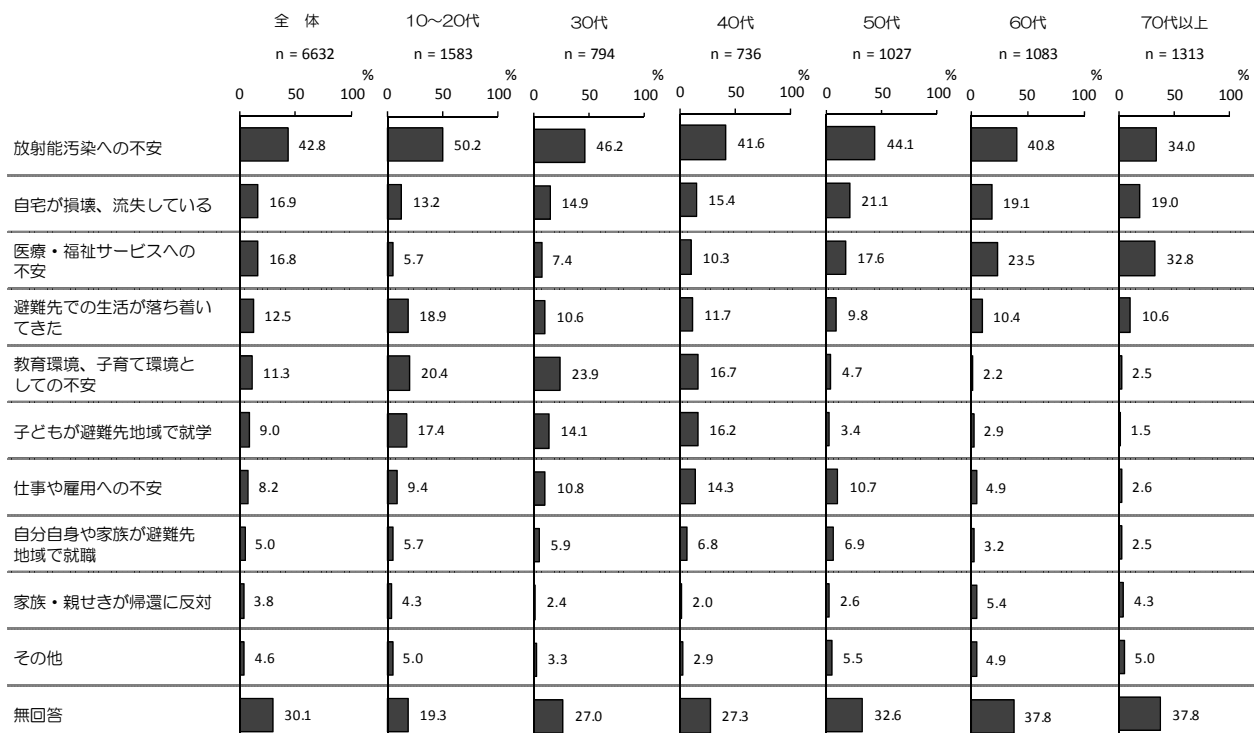
性別にみると、「放射能汚染への不安」は男性（38.8％）に比べ、女性（46.2％）の割合が高くなっている。

<図表3-3-7-2 帰還を決められない理由（世帯全員の性別）>



年齢別にみると、「放射能汚染への不安」がいずれの年齢層でも最も多くなっているが、70代以上では「医療・福祉サービスへの不安」（32.8％）、10～30代では「教育環境、子育て環境としての不安」の割合が他の年齢層に比べて多くなっている。

<図表3-3-7-3 帰還を決められない理由（世帯全員の年齢別）>



3-4 意見・要望

問 15 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、1,822 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

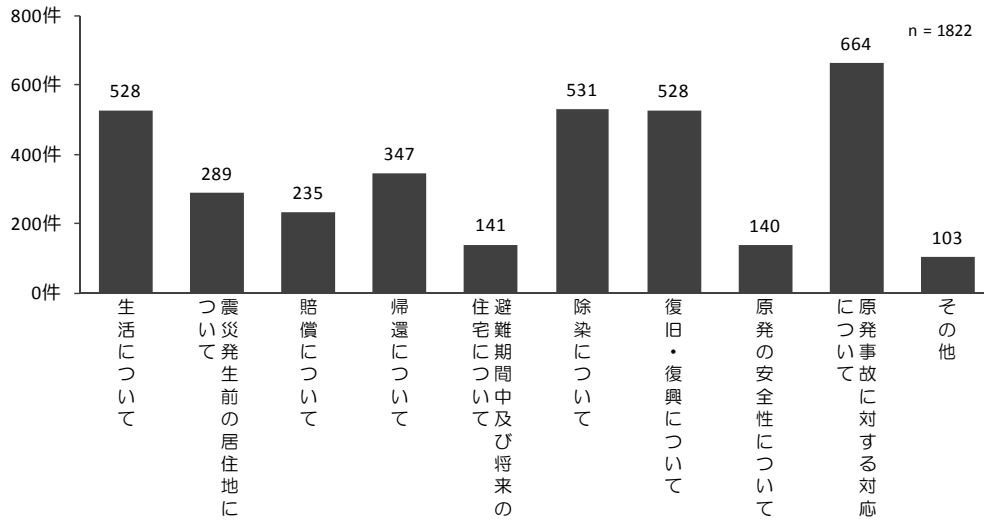
<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることについてのあきらめ ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・その他現在の生活の不安について ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・その他将来の生活の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュール明確化について ・中間貯蔵施設について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興スケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について ・その他所有する住まい・土地に対する賠償について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・その他廃炉作業について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅入居が可能かどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。
 「原発事故に対する対応について」が664件と最も多く、次いで「除染について」が531件、「生活について」、「復旧・復興について」がともに528件などとなっている。

<図表3-4-1 意見に係る記入内容の分類結果>

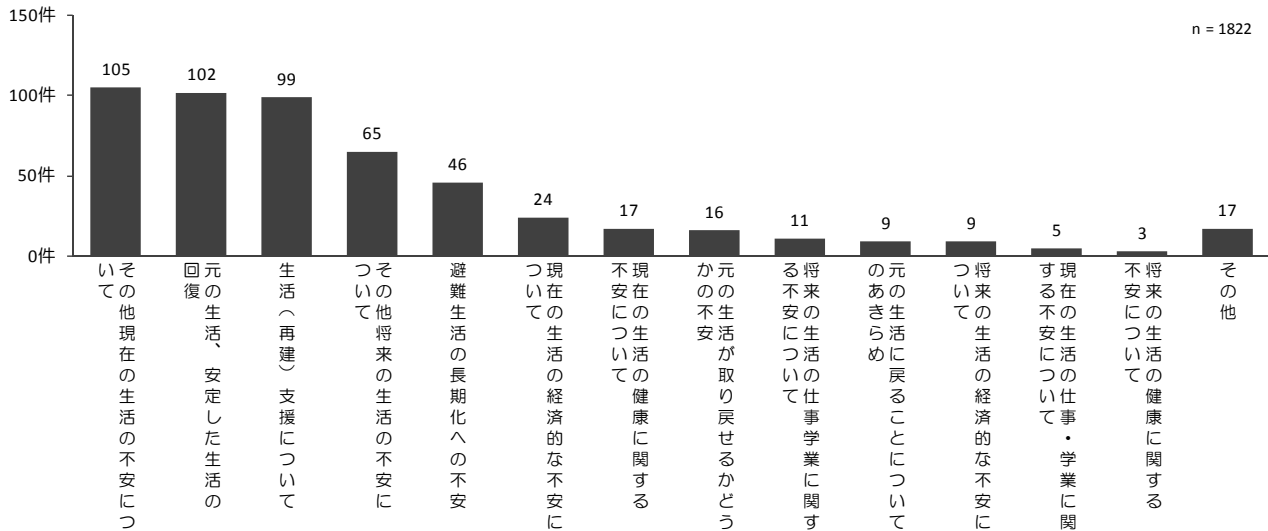


Ⅲ 調査結果

(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「その他現在の生活の不安について」が105件と最も多く、次いで「元の生活、安定した生活の回復」が102件、「生活（再建）支援について」が99件などとなっている。

<図表3-4-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【その他現在の生活の不安について】

- 仮設にいますが部屋が狭いため、2人の孫がストレスがたまり心配です。これからどういうふうに住んでいったらいいのか不安な毎日です。（50代）
- 二人共高齢となり、誠に不自由になっていますが、戻るにしても、肉親も近くに住んでいなく、介護を受けるにも思う様にならなくなっています。私達も家や土地も少しではあるが、次の子供達に託すしかないと思います。私達二人で老人の施設にでもと思いますが、除染が終ったとしても、家の中が家具や柱・戸・畳等全部廃棄をしないと住む事が出来ないと思うし家の中も洗ってもらいたいと思っています。（70代以上）
- たまに南相馬市の自宅に行きますが、庭は草がはえて家の中はカビがはえたり、台所やトイレ洗面所は使える状態ではありません。子供は小学生から中学生に来年なります。元の学校に戻りたい気持ちはありますが、学校も元の場所で再開するかは、分かりません。避難していると元の学校の情報は何もなく、分からないことばかりです。（30代）

【元の生活、安定した生活の回復】

- 東京電力の安全性を深く望みます。家族の皆、笑って生活が早く出来る様に、一緒に老人も若い人達も生活出来るようになる日をよろしくお願いします。（50代）
- 避難しているというよりは、生活している場所へ変化しています。のびのびとした場所で子育てをしたいと思い、今は家族がばらばらに過ごしている状況です。連日、原発のニュースを聞くと、安心して戻れる状況とは思えません。住んでいない自宅も日に日に傷んできている状況です。1日でも早く以前のように安心して暮らせるよう、早期に対応してもらいたいと思います。（40代）
- 原子力発電所を1日も早く震災前の状態に戻して下さい。生活基盤、全てを元に戻して下さい。家も元に戻して下さい。（70代以上）

【生活（再建）支援について】

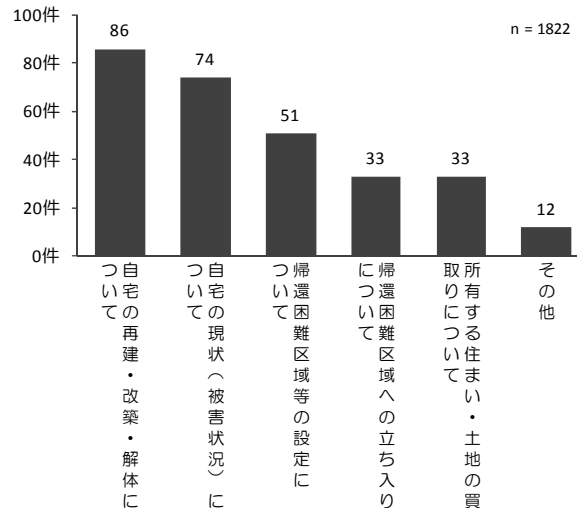
- 基本は帰りたいと思っているが、何割の人々がもどるのか。町としての機能は出来るのか、集落として成り立つのか、総合的な十分な対策が必要と思う。除染をしっかりと行い、安全安心出来る線量とすること。家が住める状況ではないので、解体・修繕・改築・リフォーム・新築等に補助・支援する制度を作ってほしい。(60代)
- 帰還が長引けば長引く程、心身両面の不安は大きくなります。一日も早いインフラ復旧を望みます。県外避難者は何かと、情報も細やかでなく、支援面も薄いと感じられます。全国各地にいる避難者を支援する事は大変かと思いますが、少しでも不安を取り除ける様よろしくお願いします。(60代)
- 現在は自営業だが仕事はあるが、人員不足でなかなか進展出来なく困っている。やはり雇用の面で確保が厳しいので支援策を講じて頂きたい。(40代)

Ⅲ 調査結果

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「自宅の再建・改築・解体について」が86件と最も多く、次いで「自宅の現状（被害状況）について」が74件、「帰還困難区域等の設定について」が51件などとなっている。

＜図表3-4-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【自宅の再建・改築・解体について】

- 住宅を修理する時は、国、自治体等で援助していただきたい。放射能を、きれいに除染して安心して生活できる様に望みます。生活を保障していただきたい。(50代)
- 現在は鹿島区の仮設住宅に住んでいます。できれば、原町区に新に土地を買い一戸建てを建てたいと考えております。しかし、土地の確保も難しく、私が申し込んでいる集団移転地は、工事が始まる気配がありません。(10～20代)
- 家が住める状況ではないので、解体・修繕・改築・リフォーム・新築等に補助・支援する制度を作ってほしい。(60代)

【自宅の現状（被害状況）について】

- 除染がすみ避難解除になっても、戻る家がすぐ生活できる状態ではありません。ねずみやハクビシン等の動物の入りこみ、カビ、虫などさまざま。畳やカーテンも埃まみれ…どこから片だけいいのかわからない。とてもここでの生活は無理…リフォームも考えたが莫大な金額となり、建て替えた方が良く考えている。(50代)
- 家が地震で液状化で地盤下がり、コンクリも割れ、間の所はぐちゃぐちゃに壊れ、庭には亀裂も入り家も後に傾いている。(70代以上)
- 帰宅するたびにがっかりです。家の中はねずみの糞状態、押入れの中の布団、毛布類、衣類は使える状態ではありません。糞、尿のくささとカビくささ。たまったもんでありません。内装はだめになっていくばかり、庭は草木が伸び放題、浄化槽も使っていないので交換する必要があるのだろうか、雨どいには土がたまりつまっています。人が住まない家の傷み具合は悪くなっています。今後、住むことになる時には、どれだけの費用がかかるのか、不安しかありません。(50代)

【帰還困難区域等の設定について】

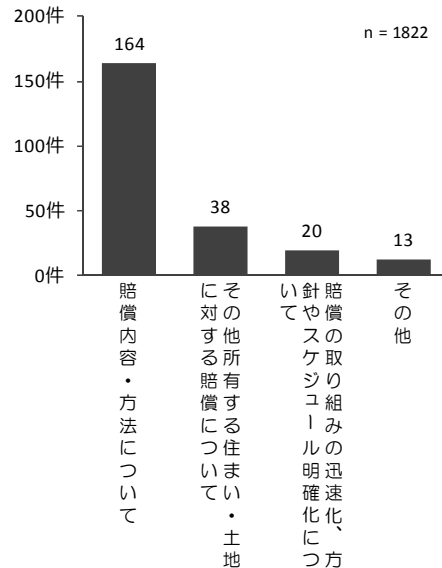
- 原発事故が終息していない事実を最大限に加味し、見切り発進的な解除（避難指示）は避けていただきたい。賠償問題も解決していない中で解除に至れば、広野町、川内村の二の舞になるのは必至。そうなれば小高区民の反感は買うことになり、若者は戻らず、年配だらけの町になると思う。焦ってほしくない。（10～20代）
- 国では警戒区域の見直しをしたりしていますが、20km圏内を解除するというのは、明らかにおかしいと思います。甘く見過ぎています。今までにない事態なのに、最悪を想定して考えれば、20km圏内は解除すべきではないです。（30代）
- 今後除染を始めるのだろうが、完全に元の値になるまで施行するのだろうか？それがハッキリしないと恐くて戻れないと思う。それと井戸を飲水として利用しているのだが、安心できる施策とかは？中途半端に解除をしても「安心感」を持ってなければ帰るに帰れないのでは…「不信感」が少しでもあれば離れてしまうのではないだろうか？（50代）

Ⅲ 調査結果

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が164件と最も多く、次いで「その他所有する住まい・土地に対する賠償について」が38件、「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について」が20件などとなっている。

<図表3-4-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[賠償内容・方法について]

- 自立するにも損害賠償が決まらないと、これからの生活設計が前に進まない。(60代)
- 賠償を早期にして住民に判断して頂き、移転先を決めてもらう。そうすれば自治体もいろいろな面で良くなると思う。(60代)
- 戻らない人の住宅については満額補償すべき。それに賠償スピードを上げてもらいたい。(60代)
- 警戒区域で賠償に差があるのが問題。南相馬市はまとまりがなさすぎるので困る。小高区も町を作りなおすべき。(30代)
- 帰宅困難区域の人は、5年間分の多額の賠償金で土地をみつけ、家を建築している話を聞きます。しかし、我々小高の住民の賠償金は3ヵ月ずつの小分けで、少額の賠償金です。市長が浪江町の町長みたいに事故後5年間は帰還しないと発表してもらわないと、多額の賠償金が手元に入りません。3ヵ月分の少額の賠償金では新しい土地と家は購入できません。来年には消費税が上がるというのに、このままでは土地も家の材料費もみんな値上がりして負担が大変になります。(50代)
- 住宅再建に伴う補助。原子力被害の土地・農地・建物への適切な賠償（賠償額が安すぎる）。(30代)

[その他所有する住まい・土地に対する賠償について]

- 20Km 圏内は国で買収するべきではないのでしょうか？将来、子供が安心して住めるとは思えません。もっと国は考えるべきでは？不安でいっぱいです。どうしたら良いかどうすべきか、まったくわかりません。(40代)
- 1Fがまだ落ち着いてなく、未だ放射能が出ている状態での除染は意味があるのか？と疑問に思っています。除染にお金をかけるより、国で汚染された土地を買い取り被災者への仮設住宅ではなく土地や家の提供などにあてた方が良いと思います。実際、これから家を立てようと考えている人達はお金のやりくりや、土地探しなどで大変な思いをしています。国や自治体も、私達や市のために力を尽くしていただいているのは分かりますが、そちらの方にも力を入れていただきたいと思っております。(10~20代)

- 物財賠償について。耐用年数が過ぎたとか年数がたったから価値がなくなった、とは今回は違う。自から売りに出した訳ではない、一般的な不動産取引価格とは別なのではないか。再構築できる賠償にすべきである。(60代)

[賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について]

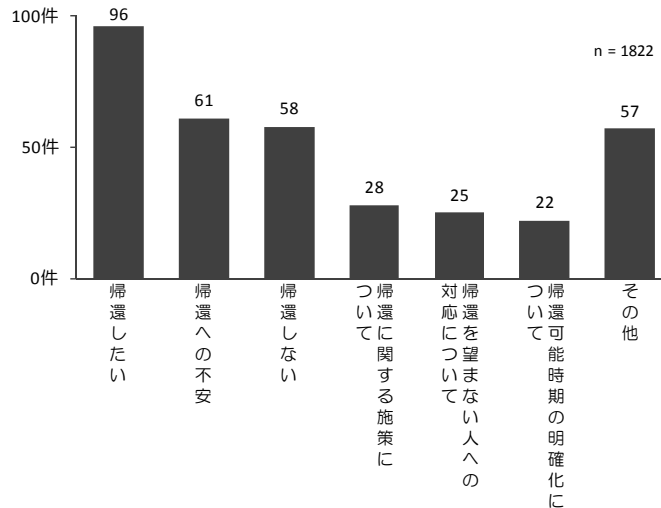
- 除染終了時期と避難解除の時期を1日も早く示してもらいたい。それが避難者の大きな光となるだろう。損害賠償の内容を小出しにしないで、全体を早く示してほしい。自分は何円賠償してもらえるかを知らないと将来の生活設計ができない。廃棄物の仮置場候補地の所有者と漁協の方々は、もっと東電や国に協力的に、そして建設的な考えで一緒に立ち直るように動き、また発言してもらいたい。(50代)
- 今までの普通の生活にもどりたいです。私達は国策(放射能)だからと言われて、こんな不便な生活をおしつけられるのか、全国から見れば一部の住民で片づけられる。まったく情けない。損害賠償、どんどん進めて安定した生活出来る事を願います。(70代以上)

III 調査結果

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還したい」が96件と最も多く、次いで「帰還への不安」が61件、「帰還しない」が58件などとなっている。

<図表3-4-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還したい】

- 早く除染等、進めて安心して帰宅できるよう、急いで欲しい。(70代以上)
- 復興対策が遅いように思えてなりません。何としても早期帰宅ができるように国に対して望みます。(70代以上)
- 1日でも早く家に帰りたい。この仮設住宅(4半)での生活は健康を維持するのが精いっぱいです。この部屋に入ると「めまい」の症状がひどくなり、我慢もしきれない毎日です。庭のある我家に早く帰りたいですお願いします。(70代以上)

【帰還への不安】

- 家の除染が終了しても、山も田も畑もある所で風が吹けば風とともに土が舞い、畑もまた放射能が高くなる所で子供を育てるのは良いか？子供が結婚する時にまた…と考えると、戻って良いのかと考えます。(40代)
- 私たちは戻ることを決めていきます。しかし現在戻ることには不安しか感じる事ができません。家のこともそうですが、教育の状況も心配です。このような状態が続けば、南相馬市に戻る人は少なくなると思います。子どもたちの将来が見えるようなまちづくりをお願いします。(30代)
- 原発は今どうなっているのですか？汚染水もれいつからどれ位流出したのですか？海は大丈夫でしょうか？本当にもどれる日がくるのですか？除染が終わったからと言われても、解除された地域でも又もとにもどっていると聞きます。本当にだいじょうぶですか心配です。(60代)

【帰還しない】

- 除染も遅れ、線量が一時的に下がっても場所によっては何度も除染をしないと行けない所や原発もまだまだ問題が多く、原発近くへは行きたくない。娘が3人で、私の考えとしては将来が不安であり、地元に残ったところで精神的ストレスも大きく、後悔しているところもある。自宅は修繕するところが多く、結局いろんなところにムダ金を投入せざる得なくなる！元の生活には戻らないことは確か…。生かされた私たちが頑張らないといけなくも分かっているが、原発が今のままでは先々も不安が大きく、自宅へはいくら住めても戻る気にはならないです！！(40代)

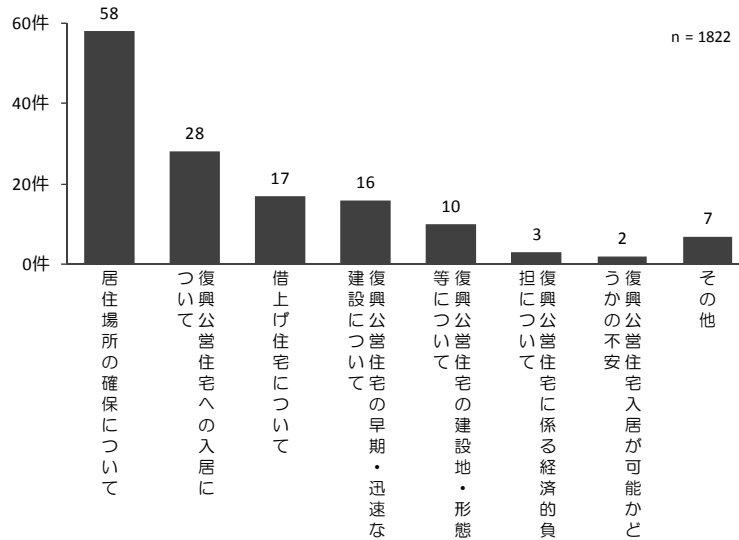
- 帰還しない一番大きな理由は、除染や復興に対する不安ではなく、収束していない原発への不安が最も大きいからです。なので、除染、復興ができたとしても、毎日生活する中で「いつ、3.11が繰り返されるかわからない」と考えてしまいます。少しでも離れた所への転居を決めました。低線量被ばくがどのような健康被害を招くかは、私たちが生きて死んで初めて判ると思っています。なので何十年か後に発病した時に、被ばくに関係があるかないか、うやむやにされそうです。その辺りをきちんと法律化できないでしょうか。(50代)
- 私自身は戻らないと決めています。自分の故郷が放射能で汚染されたまま、震災の爪跡が残ったままという現状が続いており、とても悲しいです。このままでは、本当に人が住めなくなった小高区になるのでは…と不安に思います。もっとスピード感のある復旧・復興を望みます。そうじゃないと戻りたいと思う人はどんどん減っていくと思います。以前のような自然が綺麗で、みんなが安心・安全に暮らせる小高区にしてください。(10～20代)

Ⅲ 調査結果

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が58件と最も多く、次いで「復興公営住宅への入居について」が28件、「借上げ住宅について」が17件などとなっている。

＜図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- 2年以上も経っているのに、除染も始まらず、今までと違う生活環境で生活させられている。ストレスで病気になったり、帰還できる前に死んでしまう。小高地区も20km圏内なので、帰還できないのなら早く決断してもらって居住区を早く確保したい。(60代)
- 現在は鹿島区の仮設住宅に住んでいます。できれば、原町区に新に土地を買い一戸建てを建てたいと考えております。しかし、土地の確保も難しく、私が申し込んでいる集団移転地は、工事が始まる気配がありません。仮設を一日でも早く出て、新しい生活を始めたいのに周りの環境がついてきていません。土地の値段も上がってきています。いつまでも仮設にはいられない。しかし、周辺の環境は整わない。一体どうしたら新しい生活をスタートすることができるのでしょうか。(10～20代)
- 帰還ありきの方針は全く理解できない。自分の意見として全く収束していない原発の問題があるのに、なぜ帰還せねばいけないのか。もし帰還させておいて、再び原発にトラブルが発生したら、いったいだれが責任を取るのか。それならば、県内、県外の各自治体に国が声をかけ、移住の受け入れ先を確保してほしい。特に子供だけでも、県外に集団疎開させてほしい。市や県・国は将来の子供達の未来を真剣になって考えていないと思う。早期帰還など現状では正気のさたとは思えません。(30代)

【復興公営住宅への入居について】

- 希望者が全員、災害公営住宅に入居ができるようにしてもらいたい。(50代)
- 災害公営住宅にはいりたいが、津波と地震、帰還困難区域と居住制限が優先みたいで、どうしていいかわからない。高齢の父母をかかえているので介護をしているが、バリアフリーの福祉住宅を建設してもらいたい。20km圏内は同等に災害復興住宅にはいれるようにしてもらいたい。(50代)
- 復興住宅に申し込めるのは住宅の無くなってしまった世帯や損壊した世帯ですよね。家は無事でも戻れない人もいます。そういった人達も復興住宅に申し込める様にしてほしいです。(30代)

【借上げ住宅について】

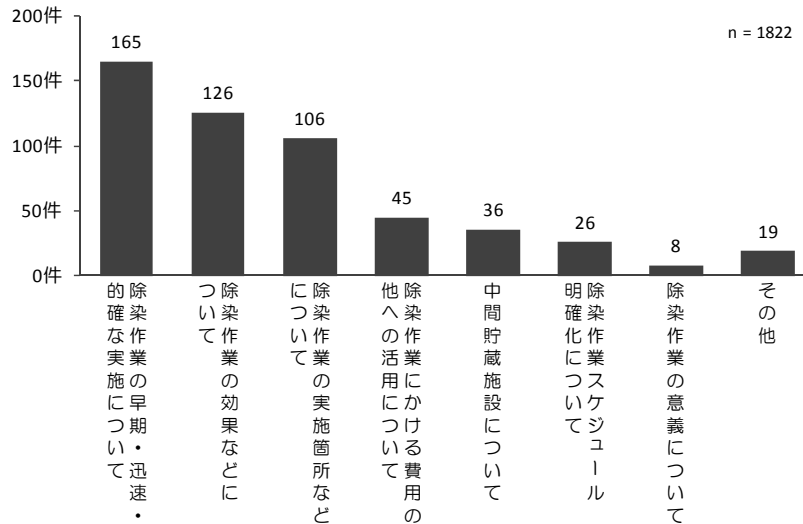
- 27 年以後の借り上げがなくなるのはとても困る。3.11 以後、給与も大幅減少したため、生活が苦しくなるので借り上げは継続して下さい。(40 代)
- 現在、大東建託のアパートを借り上げているが、来年3月末で打ち切りとのこと。出来れば借上げ期間を延長して欲しい。震災後、収入が減り、勤務地も遠くなった事、慣れない土地で生活が不安定なこと。(30 代)
- 家族がバラバラになっているので借り上げ住宅に移動したいが、よっぽどの事がない限り認められないと言われた。病気になれば移動できるらしいのはおかしい。家に戻れないから仕事を変えたり住居を変えて居場所を探してきただけで、もう移動できないのはおかしいと思う。ただ家族一緒に暮らしたいだけなのにどうにかしてほしい。ペットも居るのでペット可の賃貸物件がない、又ペット可物件は賃貸料が高い。1人1人に直接会って謝ってもらいたい。どんな辛い思いをしているのかわかってもらいたい。(40 代)

Ⅲ 調査結果

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が165件と最も多く、次いで「除染作業の効果などについて」が126件、「除染作業の実施箇所などについて」が106件などとなっている。

<図表3-4-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 早く除染を進めてほしい。(70代以上)
- 線量の高い、低いに関係なく、除染は国、自治体が責任を持ってやって欲しい(旧警戒区域は絶対)。小さい子供がいる家庭は、除染が第1条件です仮設での不自由な生活を、もっと理解して欲しい。(30代)
- ゴミ処理、除染、インフラの整備等急いでほしい。(70代以上)

【除染作業の効果などについて】

- 除染が進まないし、除染しても年間1ミリシーベルトの基準まで下げる国の方針がないので国に対しては諦めている。家屋の一部損壊で、室内の線量が高いのに復興は役割を果たしていない。環境省は家の外側の除染のみ。家の中の除染はしない。(60代)
- 除染したところで以前のような町にはならないと思っています。今、もどって生活している人達にしても、できれば安心な安全な場所があれば、そこで生活したいと思っている方々がいるはずだと思います。でも、それができないから今いる場所で生活している。除染にかかるお金を避難している人、避難できないでいる人達に、移住にするために新たに生活再建のために使った方が良くと思います。とにかく、考えること、やっていることに不信感になるばかりです。信用できるよう、もっと考えて下さい。(40代)
- 除染の効果もないのに形だけの無駄なお金の使い方、原点に返って考慮していただきたい。外堀だけの考え方、行政側も机上の計画だけでなく、原地を見て、国県・市町村、もう一度考え方を勉強していただきたいです。線量の数字も同じ市町村でも一番低い場所での数字しか発表していない…疑問です。(60代)

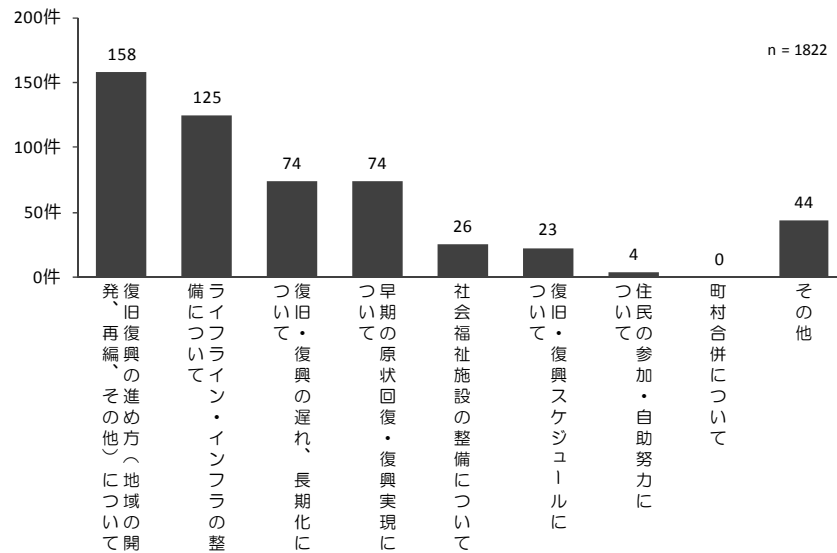
【除染作業の実施箇所などについて】

- 家屋だけの除染だけで、放射能汚染がおさまるのは間違っている。周囲に森林は多いし、土や水も汚染されたまま。目に見えない汚染にもっと注意を払ってほしい。(30代)
- 除染作業は大手ゼネコンではなく、地元住民が主体となって取り組む必要がある。(40代)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について」が158件と最も多く、次いで「ライフライン・インフラの整備について」が125件、「復旧・復興の遅れ、長期化について」、「早期の原状回復・復興実現について」がともに74件などとなっている。

<図表3-4-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- ・ 国は原発事故の対応に責任がなすすぎる。元に戻れないなら別の住居を用意すべきなのに、曖昧にして終らそうとしている。また、家族は全員が揃って家族です。バラバラでの生活をいつまで放置しておくのか、国はもっと本気で復興に力を入れて欲しい。(60代)
- ・ 小高区は南相馬市からも双葉郡からも取り残されている。復旧はされても復興は難しい事である。旧20km圏内は自治体単位ではなく、ひとつになり対策していく方が良い。双葉郡の復興がなければ、小高は生かされない。高齢者は戻りたいと思っているが、青年などはほとんどは戻らないと結論を出している。そういう声は全然表に出されない。(40代)
- ・ 南相馬市は一見通常の生活に戻りつつあると思うが、他の地域に行ってみると商店の活気や医療機関の状況など、このまま住んでいけるのか？と不安に思うことがある。教育、医療、安定して働く場など他の地域や震災前より格段によくならないと若い世代が戻って来ないのではないかと。中高年も楽しめる場が少なくなり困るという話を聞く。パークゴルフ場の早期設置や総合スポーツジムなど、体を動かせる施設を市で作ってほしい。(40代)

【ライフライン・インフラの整備について】

- ・ インフラ（特に上・下水道）の早期復旧。それによって各家、事業所等の復旧工事が出来る。運送業の早期の再開。それにより事業所等の動きが活発になる。町として基幹になる産業を見当する。地方行政を巻き込んだ育成が必要。それによって、雇用と、子供に帰還が可能になる。(60代)
- ・ インフラ、交通網を整備して、復興の加速してもらいたい。(50代)
- ・ インフラの整備も以前のような仮設的な工事ではなく都市部の様に道路を一部つつでも全面的にストップして後々のメンテナンスもしやすいように根本的に新しくしてほしい。夕方街中へ入るのに6号線から立橋を通ったりするが橋の街灯が1つもついていないのでせめて立橋の灯は一晩中つけてほしい。(70代以上)

Ⅲ 調査結果

[復旧・復興の遅れ、長期化について]

- 震災より2年半を迎えようとしている。区域、原発の問題もあるだろうが、復興の時間が長すぎる。こうも遅いと、帰りがたがっている人々も帰りづらくなるのが現状。少しずつ復興も進んでいる様だが、もっと、被災者の事を考えて頂きたい。(30代)
- 帰還意向とか時期とかアンケートに出っていますが、東電の原発事故の現状を見ていると、終息など程遠いのではないのでしょうか。瓦礫、除染、インフラ整備まだようやく始まろうとした段階です。スピードアップが必要です。帰還問題は家が残っていても年配の方の一部が帰還する方がいるようですが、若い世代が帰還して来れる様な施策が必要である。(60代)
- 早期帰還への復興。地域住民が一層の強い絆と連携、協働による地域づくりで安心、安全の生活、環境戻って良かったと言われる南相馬市になってほしい。地域住民が離散し地域コミュニティーを支えてきた自治組織の活動休止、地域の絆が途絶えている現在、震災・原発事故前の自然の美しい故郷に戻れるような復興がすみやかに行ってほしい。(70代以上)

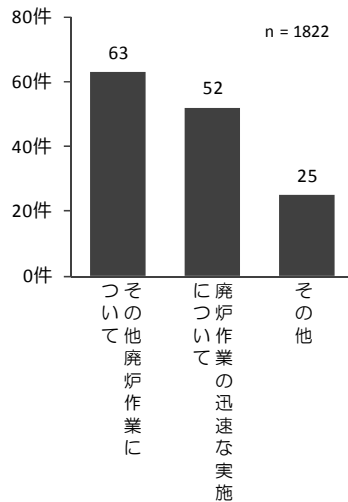
[早期の原状回復・復興実現について]

- 避難前小高区でしたが、除染、早急に(家屋雨漏り、半壊状態ですので)復興していただきたいと思えます。色々これから課題はあると思いますが、大変でしょうが、頑張ってくださいと思います。(50代)
- 安心して暮らせる環境づくりを早急に進めてほしい。震災前にはもどれないと思うが、震災前に近い生活状況になるよう国策として推進してほしい。(50代)
- 1日も早く小高区の自宅に戻り商売を再開したいと考えています。しかし、小高区民が安心して帰宅出来、生活できる環境の整備がなされていません。国も地方自治体も、南相馬市全体よりも小高区民の事を第1に考え復興に目を向けて下さい。(60代)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「その他廃炉作業について」が63件と最も多く、次いで「廃炉作業の迅速な実施について」が52件などとなっている。

<図表3-4-9 原発の安全性についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【その他廃炉作業について】

- 事故収束・廃炉等に関するの直しい情報を知りたい。除染しても一時的なもので、あまり効果でてないとの見聞きしますが。広報誌などで復興にむけて苦勞してるのは見たり聞いたりしてますが、余り進み方がはかばかしくないようで…どうなるのか。(70代以上)
- 福島県内の原発を全機廃炉にし、放射能の危険の無い地域にしてほしい。子供たちが安心して暮せる地域にしてほしい(子供は未来だ)。(70代以上)
- 福島第1、第2原発の廃炉がきまらないかぎり安心して生活ができません。地震の耐震について大きなものがこないとはわかりません。その余震で再び津波で再び第1、第2から放射能が出れば福島は終わりです。(60代)

【廃炉作業の迅速な実施について】

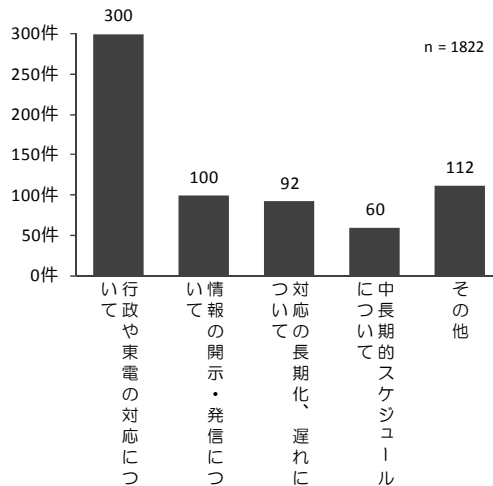
- 若い世代が帰還出来るよう原発の収束安定が大切。毎日のように原発のトラブルがニュースで流れると不安で不安でしょうがないです。トラブル続きだと若い世代は益々帰還する気持ちは薄れます。除染はしっかりとやっていただきたいです。復旧復興を加速してほしい。(60代)
- 被災者が自立して、その一人一人が活発に働き、動いていくことが町や自治体の復興につながると思う。その為には不安をなくす必要がある。安定した廃炉作業と完璧な除染をお願いします。(10~20代)
- 東京電力福島原発事故処理は今後国が対応すると表明しました。期待をしています。一日も早い収束を願っております。自治体でも原発事故処理の進捗状況とその効果を厳しく監視して頂きたいと思ひます。(70代以上)

Ⅲ 調査結果

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が300件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が100件、「対応の長期化、遅れについて」が92件となっている。

＜図表3-4-10 原発事故に対する対応についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 国、東電は、全ての避難者が十分な生活再建ができる支援を行なう責任と義務を確実に実行しなければならない。組織を作る事ではなく、復興するにはどうするのか被災者の考えも十分に聞く必要がある。(60代)
- 市は国にまかせっきりだと思います。国も市も村も全部が全て協力すれば大きな復旧の力となると思うが、線引きしてる様では復興はまだ先の先です。市のトップがイニシアチブを取って、国と協力して南相馬市から出ていった人々が戻ってこれる様な町を作ってほしいです。(50代)
- はっきりした結果も出ていないのに、日に日に原発の東電の会社自体への不信感…避難している人々の苦勞…もう忘れられているような気がいたします。除染の効果もないのに形だけの無駄なお金の使い方、原点に戻って考慮していただきたい。外堀だけの考え方、行政側も机上の計画だけでなく、原地を見て、国・市町村、もう一度考え方を勉強していただきたいです。(60代)

【情報の開示・発信について】

- 南相馬市民なのに、小高区は「国」主導の復旧となっているため、南相馬市から切り離された感が強く、市からの情報が少ない。まして、国からの情報は皆無に等しい。市から小高区民への情報を多く発信して頂きたい。(60代)
- 国、自治体、住民の一部で良いから情報を共有すべき。不必要な個人情報の流出。県、自治体そして国の行政の共有。現在の第一原子力発電所で発生したトラブルの正確な情報の説明。(60代)
- 避難をしている方への情報が遅い。除染の信頼性。復興の前に本当に安全なのかの確認。(30代)

【対応の長期化、遅れについて】

- 国や自治体の方々は日々復興、復旧に努力していただいていると思うのですが、中々自分たちにとっては何の変化もない2年を過ごしてしまっています。新しく家を建て直して生活したいと思っても、福島で建てたばかりだったために先が見えず、いつ終わかわからない借り上げ住宅での生活です。一般企業を責めてばかりいないで、国もなんとかしてくれないものかと思ってしまいます。未来を考えた支援をもう少し考えていただけたら。(30代)

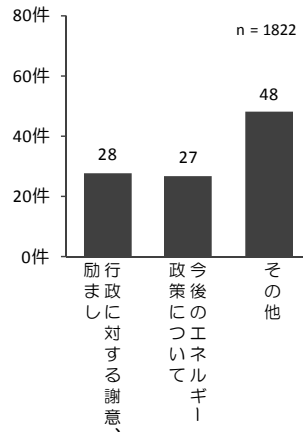
- 行政（国、県、市）などの原発に対する取組むスピードが遅い。時間の経過と共に不安が増すばかりだ。廃露に40年もかかると云っているが、その間に何が起るか、心配だ。除染を早期に完了させて、住民が安心して暮らせるよう関係者は取組みを強化してほしい。（70代以上）
- 2年6ヶ月何も進まない。家はカビだらけ、家のまわりは草や木が生い茂っています。除染しても、1回くらいでは住めません。国会議員、東電の役員さん、1年～2年でも家族で住んでみて下さい。（60代）

Ⅲ 調査結果

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が28件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が27件となっている。

＜図表3-4-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- 職員の方々毎日御苦労様です。私の様な老人には今は何も出来ません。以前に震災にあわれた神戸とか新潟県等見学したいと思ってもとうてい叶えません。こうなった以上一番は子供の教育（小さい時からの家庭教育）からやり直ししなければならないと思います。全国から本当に立派な教育者を浜通りに向けて頂きたい。といつも思っております。そして立派な小高区を作ってください。（70代以上）
- 放射能汚染が現在住んでいる場所と同以下の地域は、住める場合は避難指示を解除してもらいたい。又解除出来る場合少なくとも6ヶ月前にその旨を示してもらいたい。行政もなんでも早目に指示する様お願いします。災害から3年目ですので行政ももっと頑張って行動して下さい。（70代以上）
- 最近は我家に行き片づけ等をして家の修理と頑張っております。家の中を見る近所を見て精神的につかれて帰ります。でも我が故郷に帰ることに気持がホッとします。復興についての心遣いに感謝しております。若い世代が戻れるようにと願っております。（70代以上）

【今後のエネルギー政策について】

- 原発事故に対する処理は人間の能力の限界を越えていると考える。しかし不可能な中でも最大限の力、知恵を働かせ対応すべきである。それが原発を推進してきた我々大人の責任であり、負の遺産を子ども達へ残してはならない。廃炉への作業、原発依存から再生エネルギーへの転換へ目標を明確にし国、自治体は取り組むべきである。（70代以上）
- 福島復興は、元に戻すことが復興ではないと思います。エネルギー問題には、積極的に取り組んでもらい、住民が安心して暮らせる地域を浜通りに限らず県内に作ってもらいたいです。（30代）
- 反原発をアピールし、新エネルギーを活かした産業振興とまちづくりを国内外に発信してほしい。（50代）

IV 參考資料

4-1 使用調査票

南相馬市住民意向調査

(旧警戒区域に住所のある方対象)

復興庁
福島県
南相馬市

記入上の注意

● 調査をお願いする方

ご回答は、**現在の世帯の代表者の方**にお願いいたします。
 なお、調査票については、震災前に同じ世帯であっても、現在、別々に避難されている場合は、**それぞれの世帯ごと**に送付いたしますので、それぞれご回答ください。

● ご回答方法

- ・ご回答は、選択肢の中からあてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
- ・質問によって「1つだけ」「3つまで」のように、回答できる数を指定している質問があります。質問文の案内に従ってご回答ください。
- ・ご回答は、平成25年8月現在の状況をご記入ください。
- ・「その他」に○をされた場合は、()内に具体的な内容もご記入ください。
- ・の中に具体的な内容の記入をお願いしている質問は、具体的な内容(地名、数など)をご記入ください。

※ご回答は無記名でお願いします。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**9月6日(金)まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください(切手は不要です)。

【お問い合わせ先】

調査の趣旨、記入方法について

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-966-451

[設置期間：8月26日(月)～9月13日(金)10時～17時]
土・日・祝を除く

南相馬市に関することについて

南相馬市
コールセンター

〒975-8686 福島県南相馬市原町区本町2丁目27番地

電話：0244-24-1100

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問1 あなたの性別(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

【すべての方にうかがいます。】

問2 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問3 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 ⇒問4へ |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) ⇒問4へ |
| 4. 会社員(勤め人)(事務以外や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) ⇒問4へ |
| 5. 団体職員 | 11. その他 (具体的に) |
| 6. 公務員 | |

【仕事に就いている方(問3(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 (具体的に) |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | |

【仕事に就いている方(問3(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問4 震災発生当時にお住まいだった居住地を、以下から教えてください。(○は1つ)

小高区中部	1. 一区	2. 二区	3. 三区	4. 四区	5. 五区
	6. 小高	7. 片草	8. 吉名	9. 岡田	10. 川原田
	11. 大井	12. 塚原			
小高区西部	13. 飯崎	14. 角間沢	15. 小谷	16. 摩辰	17. 南鳩原
	18. 北鳩原	19. 羽倉	20. 大富	21. 金谷	22. 川房
	23. 大田和	24. 小屋木			
小高区東部	25. 女場	26. 角部内	27. 上蛭沢	28. 下蛭沢	29. 浦尻
	30. 下浦	31. 行津	32. 上浦	33. 神山	34. 上耳谷
	35. 下耳谷	36. 泉沢	37. 福岡	38. 村上	39. 井田川
原町区	40. 雫	41. 小浜	42. 下江井	43. 小沢	44. 堤谷
	45. 江井	46. 米々沢	47. 大甕	48. 高	49. 小木迫
	50. 鶴谷				

【すべての方にうかがいます。】

問5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。

当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

1. 自営業・会社経営者	7. 学生 ⇒問6へ
2. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務)	8. 無職(職を探していなかった) ⇒問6へ
3. 会社員(勤め人)(事務以外や外勤を主とする業務)	9. 無職(職を探していた) ⇒問6へ
4. 団体職員	10. その他 (具体的に)
5. 公務員	
6. パート・アルバイト	

【仕事に就いていた方(問5(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

1. 農・林・漁・畜産業	7. 金融・保険業
2. 建設業	8. 医療・福祉
3. 製造業	9. 教育
4. 電気・ガス・水道業	10. 公務
5. 運輸業	11. その他 (具体的に)
6. 卸・小売り・飲食、サービス業	

【仕事に就いていた方(問5(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

IV 参考資料

【すべての方にかがいます。】

問 6 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建て) | 6. 社宅・官舎等 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建て) | 8. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 9. その他〔具体的に |
| 5. 公営住宅 | 〕 |

▼【問 6 で「1. 持ち家(一戸建て)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にかがいます。】

問 6-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(○は1つ)

- | |
|--------------------------|
| 1. 解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる |
| 2. 修理すれば住める状況 |
| 3. 特に損傷はない ⇒問7へ |
| 4. 津波により、家が流出している ⇒問7へ |
| 5. わからない ⇒問7へ |

【問 6-1 で「1. 解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」「2. 修理すれば住める状況」と回答した方にかがいます。】

問 6-2 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような被害や劣化等がありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 地震の影響と思われる大きな損壊等がある | 6. カビが多く発生している |
| 2. 津波被害を受けている | 7. 屋内の放射線量が高い |
| 3. 火災被害を受けている | 8. その他〔具体的に |
| 4. 動物等が侵入した跡があり荒れている | 〕 |
| 5. 雨漏りの形跡がみられる | |

【すべての方にかがいます。】

問 7 ご自身の南相馬市への居住年数は何年ですか。今回の避難に至るまでの年数でお答えください。

年

避難状況について教えてください。

【すべての方にかがいます。】

問 8 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市(鹿島区)
4. 南相馬市(原町区)
5. 新地町

【 中 通 り 】

6. 福島市
7. 郡山市
8. 白河市
9. 須賀川市
10. 二本松市
11. 田村市
12. 伊達市
13. 本宮市
14. 桑折町
15. 川俣町
16. 大玉村
17. 西郷村
18. 三春町

【 会 津 】

19. 会津若松市
20. 喜多方市
21. 会津美里町

22. 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)

→ (市・町・村)

23. 福島県外(具体的にご記入ください。)

→ (都・道・府・県) (市・町・村・区)

【すべての方にかがいます。】

問 9 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償) | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償) | 7. 親戚・知人宅 |
| 3. 公営住宅(1.は除く。有償) | 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) |
| 4. 民間賃貸(有償) | 9. その他 (具体的に |
| 5. 社宅・官舎等 |) |

将来に関するご意向についてお聞かせください。

【すべての方にかがいます。】

問 10 今後の職業についてどのように考えていますか。(○は1つ)

【震災時の職業が農林水産業・自営業・会社経営者以外の方は、下記にご回答ください。】	【震災時の職業が農林水産業・自営業・会社経営者の方は、下記にご回答ください。】
<p>1. 震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい</p> <p>2. 震災発生後に転職又は就職し、今後も現在の職場で働き続けたい</p> <p>3. 今後、震災発生当時に勤めていた<u>職場付近</u>で就職先があれば、そこで働きたい</p> <p>4. 今後、震災発生当時に勤めていた<u>職場付近以外</u>のところで働きたい → 希望地があれば、具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 30px; margin: 5px 0;"></div> (都・道・府・県)	

【問 10 で「3. 今後、震災発生当時に勤めていた職場付近で就職先があれば、そこで働きたい」「4. 今後、震災発生当時に勤めていた職場付近以外のところで働きたい」と回答した方にかがいます。】

問 10-1 職場を選ぶ際に、重要視することは何ですか。(○は3つまで)

<p>1. 職場までの通勤時間</p> <p>2. 勤務地(通勤時間を除く)</p> <p>3. 職種・業種</p> <p>4. 給料</p> <p>5. 職場の規模</p>	<p>6. 雇用形態</p> <p>7. 社会保険の有無</p> <p>8. 所定労働時間</p> <p>9. その他 (具体的に)</p>
---	---

【すべての方にかがいます。】

問 11 旧警戒区域の避難指示が解除された後に、震災前の地域または近隣地域への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。(現在一緒にお住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください)(○は1つ)

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. 現時点で戻ることを決めている
⇒問 11-3 へ | 2. 現時点でまだ判断がつかない
⇒問 11-1 へ | 3. 現時点で戻らないと決めている
⇒問 11-7 へ |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|

【問 11 で「2. 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にかがいます。】

問 11-1 帰還を判断する上で必要と思う情報等について、あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

1. 避難解除となる時期の目安に関する情報
2. 道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)や商業施設の復旧時期の目途
3. どの程度の住民が戻るかの状況
4. 放射線量の低下の目途、除染成果の状況
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)
7. 放射線の人体への影響に関する情報
8. 働く場の確保の目途
9. 受領する賠償額の確定
10. その他(具体的に)
11. 現時点ではどのような情報があれば判断できるかわからない ⇒問 12 へ

【問 11-1 で「1」から「10」と回答した方にかがいます。】

問 11-2 上記(問 11-1)で選んだ情報等のうち、重視したいものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。

そして、その情報等について、どのような条件であれば戻りたいと考えますか。
具体的な条件の内容をお書きください。

選択肢番号	具 体 的 な 内 容
(例) 2	元の人口の半分でも戻ってくるのであれば

⇒ 問 12 へ

【問 11 で「1. 現時点で戻ることを決めている」と回答した方にかがいます。】

問 11-3 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む) | 7. 社宅・官舎等 |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい | 8. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい | 9. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(一戸建て) | 10. その他(具体的に) |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 11. 現時点では判断できない |
| 6. 公営住宅 | |

「1.元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)」を選んだ方 ⇒ 次ページ 問 11-4 へ

「2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい」から
「10.その他」を選んだ方 ⇒ 次ページ 問 11-5 へ

「11.現時点では判断できない」を選んだ方 ⇒ 次ページ 問 11-6 へ

IV 参考資料

【問 11-3 で「1. 元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 11-4 元の持ち家に戻る場合、ご自宅に対してどのような修繕などが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

- | | |
|----------------|----------------------------------|
| 1. 震災で壊れた部分の修繕 | 7. 解体し建て替え |
| 2. 住宅外壁の修繕 | 8. その他（具体的に） |
| 3. 屋根などの修繕 | |
| 4. 住宅内部のリフォーム | 9. 修繕の必要はない |
| 5. 家財などの買い換え | 10. 帰還時期がわからないためどの程度の修繕が必要かわからない |
| 6. 住宅の清掃・消毒 | |

→ 問 11-6 へ

【問 11-3 で「2」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 11-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1. 元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから | 5. 元の持ち家（自宅）が荒廃しているから |
| 2. 元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから | 6. その他（具体的に） |
| 3. 南相馬市内の新たな場所で生活を開始したいから | |
| 4. 今後、津波の被害を受けることが心配だから | |

【問 11 で「1. 現時点で戻ることを決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-6 戻る場合に行政にどのような支援を望みますか。（○はいくつでも）

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| 1. 住宅再建、確保の支援 | 9. 放射線に関する説明会などの実施 |
| 2. 継続的な健康管理の支援 | 10. きめ細かいモニタリングとその継続（空間線量率、水、食料品等） |
| 3. 雇用確保の支援 | 11. 地域自治会等のコミュニティ活動への支援 |
| 4. 行政からの継続的な情報提供 | 12. イノシシ・ネズミ等の駆除 |
| 5. 商店の再開 | 13. その他 具体的に |
| 6. 公共交通機関の再開 | |
| 7. 医療機関・介護・福祉サービスの再開 | |
| 8. 学校や教育施設の再開 | |

→ 問 12 へ

【問 11 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-7 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。（○はいくつでも）

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 【帰還の前提・健康に関わるもの】 | 【今後の生活に関わるもの】 |
| 1. 放射線量が低下せず不安だから | 14. 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから |
| 2. 原子力発電所の安全性に不安があるから | 15. 他の住民も戻りそうにないから |
| 3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから | 16. 今後の津波被害を受ける可能性があるから |
| 【市内の復旧状況に関わるもの】 | 17. 帰還までに時間がかかるから |
| 4. 以前住んでいた地域に戻っても仕事がなさそうだから | 18. 避難先で仕事を見つけているから |
| 5. 以前住んでいた地域での事業の再開が難しいから | 19. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから |
| 6. 営農などができそうにないから | 20. 避難先の方が生活の利便性が高いから |
| 7. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから | 21. その他（具体的に） |
| 8. 市外への移動交通が不便だから | |
| 9. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから | |
| 10. 医療環境に不安があるから | |
| 11. 介護・福祉サービスに不安があるから | |
| 12. 教育環境に不安があるから | |
| 13. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから | |

【問 11 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

(1) 現在のお住まいの自治体にそのまま居住されるご予定ですか。(○は1つ)

1. 現在住んでいる自治体に住むつもり	}	⇒問 11-9 へ
2. 現状ではどうするか決まってない		
3. 転居したい		

【問 11-8(1) で「3. 転居したい」と回答した方にうかがいます。】

(2) 転居を希望される自治体を教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <p>1. いわき市</p> <p>2. 相馬市</p> <p>3. 南相馬市(鹿島区)</p> <p>4. 南相馬市(原町区)</p> <p>5. 広野町</p> <p>6. 川内村</p> <p>7. 新地町</p>	<p>【 会 津 】</p> <p>21. 会津若松市</p> <p>22. 喜多方市</p> <p>23. 会津美里町</p> <p>24. 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)</p> <p>→ <input type="text"/> (市・町・村)</p>
<p>【 中 通 り 】</p> <p>8. 福島市</p> <p>9. 郡山市</p> <p>10. 白河市</p> <p>11. 須賀川市</p> <p>12. 二本松市</p> <p>13. 田村市</p> <p>14. 伊達市</p> <p>15. 本宮市</p> <p>16. 桑折町</p> <p>17. 川俣町</p> <p>18. 大玉村</p> <p>19. 西郷村</p> <p>20. 三春町</p>	<p>25. 福島県外(具体的にご記入ください。)</p> <p>→ <input type="text"/> (都・道・府・県) <input type="text"/> (市・町・村・区)</p>

【問 11 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-9 転居する場合に、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建て)	
2. 持ち家(集合住宅)	
3. 民間賃貸住宅(一戸建て)	
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)	
5. 公営住宅	
6. 社宅・官舎等	
7. 家族のどなたかのお住まい・実家	
8. 親戚・知人宅	
9. その他(具体的に)
10. 現時点では判断できない	

IV 参考資料

【問 11 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-10 震災時にお住まいの地域に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。
(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 住宅の確保の支援 | 5. 行政からの継続的な情報提供 |
| 2. 継続的な健康管理の支援 | 6. 一時帰宅支援 |
| 3. 雇用確保の支援 | 7. その他(具体的に |
| 4. 仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 12 現在同居している家族の中に、小学生、中学生のお子さん(お孫さん)がいますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. いる ⇒問 12-1 へ | 2. いない ⇒問 13 へ |
|-----------------|----------------|

【問 12 で「1. いる」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 お子さん(お孫さん)は今後、どちらの小学校、中学校に通わせたいとお考えですか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------------------------|-------------------|
| 1. 震災時にお住まいの地域に再開される
小学校・中学校 | 3. 避難先の市内の小学校・中学校 |
| 2. 避難先の市外の小学校・中学校 | 4. その他 { } |

問 12-2 問 12-1 でそうお答えになった理由をお書きください。

--

【すべての方にうかがいます。】

問 13 将来、特に旧警戒区域においてどのようなまちづくりを望みますか。

(それぞれあてはまる番号 1 つに〇)

	重要である	やや重要である	いやいや でもない	どちらとも いえない	重要ではない あまり	重要ではない
① 新たな産業を積極的に誘致した先進的なまち	1	2	3	4	5	
② 農業再生を軸とした農林水産業が盛んなまち	1	2	3	4	5	
③ 工業振興により働き場所の多いまち	1	2	3	4	5	
④ 商業振興による賑わいと経済活力のあるまち	1	2	3	4	5	
⑤ 街並みの美しい景観に優れたまち	1	2	3	4	5	
⑥ 公園・河川など、緑や水に親しめるまち	1	2	3	4	5	
⑦ 歴史や伝統を活かした文化の薫るまち	1	2	3	4	5	
⑧ 観光交流施設が充実したまち	1	2	3	4	5	
⑨ スポーツ交流施設が充実したまち	1	2	3	4	5	
⑩ 地震や水害など災害に強い安全なまち	1	2	3	4	5	
⑪ 子どもを産み育てやすい、児童福祉が充実したまち	1	2	3	4	5	
⑫ 高齢者や障がい者福祉が充実したまち	1	2	3	4	5	
⑬ 道路など生活環境の整った住宅中心のまち	1	2	3	4	5	
⑭ 医療や福祉のサービス施設が整ったまち	1	2	3	4	5	
⑮ 学校・研究機関等、教育環境が充実したまち	1	2	3	4	5	
⑯ 国の施設など、行政機能が集約したまち	1	2	3	4	5	
⑰ 都市機能を移転した新たなまち	1	2	3	4	5	
⑱ まちの機能が歩いて行ける範囲にまとまっているまち	1	2	3	4	5	
⑲ 再生可能エネルギー(太陽光発電等)による環境共生のまち	1	2	3	4	5	

【すべての方にうかがいます。】

問 14 下表では、現在のあなたの世帯(お住まい)に同居している方全員についておたずねします。

※下記、記入例を参考にしてお答えください。

	世帯主との続柄	性別	年齢	職業	帰還意向	帰還時期	帰還を決められない理由
	表1から選んで1つ記入してください	番号を○で囲んで下さい	平成25年8月現在の年齢を記入してください	表2から選んで1つ記入してください	表3から選んで1つ記入してください	表4から選んで2つまで記入してください	表5から選んで2つまで記入してください
記入例	[2]	1. 男 2. 女	満 [30] 歳	[3]	[2]	[1] [3]	[2] [9]
1人目	[]	1. 男 2. 女	満 歳	[]	[]	[] []	[] []
2人目	[]	1. 男 2. 女	満 歳	[]	[]	[] []	[] []
3人目	[]	1. 男 2. 女	満 歳	[]	[]	[] []	[] []
4人目	[]	1. 男 2. 女	満 歳	[]	[]	[] []	[] []
5人目	[]	1. 男 2. 女	満 歳	[]	[]	[] []	[] []
6人目	[]	1. 男 2. 女	満 歳	[]	[]	[] []	[] []
7人目	[]	1. 男 2. 女	満 歳	[]	[]	[] []	[] []

表1 現在の世帯主との続柄

1. 世帯主(本人)	5. 兄弟・姉妹
2. 妻・夫	6. 父・母
3. 子	7. 祖父・祖母
4. 孫	8. その他

表2 職業の分類

1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済)	6. 公務員
2. 自営業・会社経営者(休業中)	7. パート・アルバイト
3. 会社員(事務や内勤)	8. 学生
4. 会社員(事務以外や外勤を主とする業務)	9. 無職(職を探していない)
5. 団体職員	10. 無職(職を探している)
	11. その他

表3 帰還意向

1. 現時点で戻ることを決めている
2. 現時点でまだ判断がつかない
3. 現時点で戻らないと決めている

表4 帰還時期
表3で1または2を選んだ方のみ回答

1. 生活インフラが復旧したとき	7. 賠償問題が解決したとき
2. 除染が終了したとき	8. 災害公営住宅に入居できるようになったとき
3. 原発が安全な状況になったとき	9. 避難指示が解除されたらすぐに
4. 医療や福祉の環境が回復したとき	10. 地域(近所)の人たちが帰還したとき
5. 子どもの学校の状況に応じて(例:小、中学校入学など)	11. その他 []
6. 働き場が確保されたとき	

表5 帰還を決められない理由
表3で2または3を選んだ方のみ回答

1. 自宅が損壊、流失している	6. 自分自身や家族が避難先地域で就職
2. 放射能汚染への不安	7. 子どもが避難先地域で就学
3. 仕事や雇用への不安	8. 家族・親せきが帰還に反対
4. 教育環境、子育て環境としての不安	9. 避難先での生活が落ち着いてきた
5. 医療・福祉サービスへの不安	10. その他()

IV 参考資料

【すべての方にうかがいます。】

問 15 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送信用封筒にご記入済みの調査票を入れて、
9月6日（金）までに郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。

**南相馬市 住民意向調査
報告書**

**平成26年3月
復興庁**

調査機関：株式会社サーベイリサーチセンター